The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国語中級読本 : 20世紀の中国政治20講
Author(s)	田中, 仁
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/76698
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中国語中級読本

－20世紀の中国政治20講－

田　中　　仁

大阪外国語大学

2000

世界を学ぶオリジナル語学教材開発プロジェクト

中国語中級読本

－20世紀の中国政治20講－

田　中　　仁

大阪外国語大学

2000

Osaka University of Foreign Studies World Language Series

Chinese Reader for Intermediate Learners:

20 Documents of Chinese Politics in the 20th Century

TANAKA Hitoshi

Osaka University of Foreign Studies

2000

はじめに

本書は，中国語の基礎学習と中国地域研究，とりわけ中国近現代政治史・現代中国政治研究と架橋することを目的として，20 世紀の中国政治を方向づけた 20 のテキストを題材にして中国語を学びつつ，中国近現代政治史・現代中国政治研究に関する基礎事項を習得することをめざしている。

各課は，課文の内容を紹介する前文，課文，語釈，課文のピンイン表記，訳文および解説から構成されている。

語釈・訳文によって課文の内容を理解した学習者は，まず第一に，課文とピンイン表記を対照して双方向的にマスターすること——課文をピンインに直すこと，ピンインを漢字に直すこと——に十分な時間をかけるのが効果的である（255 頁の「小テスト」参照）。それぞれの訳文には出所を掲げておいたが，それらはいずれも，わが国の中国地域研究が蓄積してきた貴重な知的資産である（中国で翻訳された **1,3,5** を除く）。訳文そのものを吟味すべきであることはいうまでもないが，◈のかたちで訳文に付したコメントは，その際どのような点に留意すべきかを考える上で参考になろう。語釈についても同様である。語釈部分で「日中・中日辞書引き System,Version2.」（小学館の日中・中日辞典にもとづく Chinese Writer の添付ソフト）以外の補充事項の出所は，個々の用語を調べる際に，どのような資料を用いることができるかについてのヒントを示している。積極的に活用いただければと思う。

課文として採用したのは，それぞれのテキストの一部分にすぎない（253·254 頁の「課文とテキストとの対応関係」参照）。果たして採用した箇所が適切かどうか？，そしてテキストそのものが妥当なもので

あるかどうか？―― 20 世紀中国政治を方向づけるもっと重要な文献があるのではないか？――，これらについて具体的に考えて見ることが，とりもなおさず中国近現代政治史・現代中国政治研究への第一歩となるであろう。

田　中　　仁

2000 年 1 月 10 日

目　次

1　鄧小平、最後の決断 1992　1

◇邓小平《在武昌、深圳、珠海、上海等地的谈话要点》(《邓小平文选》)

2　天安門事件 1989　8

◇《社论:必须旗帜鲜明地反对动乱》(《人民日报》)

3　香港返還問題の妥結 1984　16

◇《中华人民共和国政府和大不列颠及北爱尔兰联合王国政府关于香港问题的联合声明》(《人民日报》)

4　中華人民共和国憲法 1982　27

◇《中华人民共和国宪法》(《人民日报》)

5　毛沢東評価の確定 1981　38

◇《关于建国以来党的若干历史问题的决议》(《解放军报》)

6　「改革・開放」時代へ 1978　50

◇《中国共产党第十一届中央委员会第三次全体会议公报》(《人民日报》)

7　日中関係の正常化 1972　63

◇《中华人民共和国政府日本国政府联合声明》(《人民日报》)

8　「動乱」の時代 1966　76

◇《中国共产党中央委员会关于无产阶级文化大革命的决定》(《人民日报》)

9　共産主義のユートピア 1958　91

◇《关于人民公社若干问题的决议》(《人民日报》)

10　農村の変革 1950　106

◇《中华人民共和国土地改革法》(《建国以来重要文献选编》)

11 中華人民共和国の成立 1949 116

◇《中国人民政治协商会议共同纲领》(《建国以来重要文献选编》)

12 蒋介石と毛沢東の握手 1945 129

◇《政府與中共代表會談紀要》(《中華民國重要史料初編—對日抗戰時期》)

13 中国革命論の確立 1940 146

◇毛澤東《新民主主義論》(《解放》)

14 日中全面戦争と対日抗戦 1938 163

◇《中國國民黨抗戰建國綱領》(《中華民國重要史料初編—對日抗戰時期》)

15 抗日民族統一戦線の提起 1935 175

◇《中国苏维埃政府、中国共产党中央为抗日救国告全体同胞书》(《中共中央文件选集》)

16 南京国民政府の成立 1928 189

◇《訓政綱領》(《革命文献》)
◇《中華民國國民政府組織法》(《革命文獻》)

17 「国民政府」による国家建設 1924 201

◇《国民政府建国大纲》(《孙中山全集》)

18 伝統的秩序への挑戦 1915 212

◇陳獨秀《敬告青年》(《青年雑誌》)

19 中華民国の成立 1912 225

◇《中華民國臨時約法》(《中國近代史資料叢刊・辛亥革命》)

20 「革命」の構想 1905 236

◇《军政府宣言》(《孙中山全集》)

参考(⇨2)課文とテキストとの対応関係 *251*/参考(⇨12)繁体字と簡体字 *253*/参考(⇨13)小テスト *255*/参考(⇨18)標点と符号について *256*/20世紀中国のあゆみ *257*/索引 *260*

1992

1　鄧小平、最後の決断

天安門事件(⇨2)で欧米から経済制裁を受けた中国は孤立し，ソ連・東欧の社会主義が崩壊して中国内部では一時保守派が優位に立った。市場経済や民主化をやるとソ連・東欧と同じ運命をたどる，と懼れたのである。だが鄧小平は反対に，改革開放を続け国民に豊かさを約束する以外にこの危機は乗り切れないと考えた。1992年の旧正月，改革開放が進んでいる上海や広州，経済特区の深圳などをまわった彼は，行くさきざきで開放と市場化を進めるよう檄を飛ばした。このときの彼の言説は「南巡談話」にまとめられて中央文書となったが，その一節はつぎのようにいう。「計画が多いか少ないかは，社会主義と資本主義の本質的な違いじゃない。計画経済イコール社会主義じゃないし，資本主義にだって計画はある。逆に，市場経済イコール資本主義じゃない。社会主義にだって市場はある。社会主義の本質は，最終的にみんなが豊かになることじゃないのか」。要するに，社会主義でも市場経済オーケーとなり，こうして「社会主義の市場経済」論が出てくる。

1992年秋の14回党大会（10月12～18日）は，「社会主義の市場経済」論で経済の脱社会主義を正当化したこと，革命世代がリーダーシップから完全に退き「第3世代」の指導体制に移ったことで特筆される。ポスト鄧小平体制の

出発である。政治報告で江沢民総書記は，社会主義の市場経済体制の確立のために経済改革の加速を提起したが，対外開放の拡大に加えて，いままで避けてきた国有企業の経営メカニズムの転換を訴えた。（毛里和子『現代中国を読む』山川出版社，1999年，22-24頁）

计划多一点还是市场多一点，不是社会主义与资本主义的本质区别。计划经济不等于社会主义，资本主义也有计划；市场经济不等于资本主义，社会主义也有市场。计划和市场都是经济手段。社会主义的本质，是解放生产力，发展生产力，消灭剥削，消除两极分化，最终达到共同富裕。就是要对大家讲这个道理。证券、股市，这些东西究竟好不好，有没有危险，是不是资本主义独有的东西，社会主义能不能用？允许看，但要坚决地试。看对了，搞一两年对了，放开；错了，纠正，关了就是了。关，也可以快关，也可以慢关，也可以留一点尾巴。怕什么，坚持这种态度就不要紧，就不会犯大错误。总之，社会主义要赢得与资本主义相比较的

优势，就必须大胆吸收和借鉴人类社会创造的一切文明成果，吸收和借鉴当今世界各国包括资本主义发达国家的一切反映现代社会化生产规律的先进经营方式、管理方法。

◇ http://www.peopledaily.co.jp→资料，邓小平文选。
◆《在武昌、深圳、珠海、上海等地的谈话要点》(1992.1.18-2.21，《邓小平文选》第3卷，人民出版社，1993年)。
◆《中共中央综合性文集》(《中国革命史档案文献光盘库》A-1)。
◆《中国共产党文献资料库》。

*◇は課文として採用したテキストの出所を示す。テキストに関する参考事項を◆で示す。

〔两极分化〕両極分解。近代化の過程で社会が富裕層と貧困層に分解すること。

gǔshì【股市】株式市場。▼“股票市场”の略。

〔看〕(…と)思う。(…と)考える。(…と)判断する。¶我～应该这么办／ぼくはこうすべきだと思う。¶你～这个办法好不好／きみはこのやり方をどう思う？(『現代中国語辞典』)

wěiba【尾巴】(1)(動物の)尾,しっぽ。『量』条,根。▼人についても比喩として用いる。(2)物事の未解決の部分。¶彻底 chèdǐ 解决问题,不要留～／問題を徹底的に解決し,完全に処理しなければならない。

yíngdé【赢得】勝ち取る。博する。¶～独立／独立を勝ち取る。

〔相〕動詞の前につけ一方が他方に働きかける動作を表す。¶我不～信／わたしは信じない。(『中日大辞典』)

jièjiàn【借鉴】参考にする。手本とする。¶西洋诗的格律 gélǜ 可以供我们～,但是不能生搬硬套 shēng bān yìng tào ／西洋詩の格式はわれわれの参考にはなるが,そのままわれわれの詩に適用し

てはならない。

bìxū【必須】〔副詞〕必ず…しなければならない。▼ ˙一定要˙ ˙非……不可˙ に同じ。

※「gǔshì【股市】株式市場。▼“股票市场”の略。」のかたちで表記しているものはすべて「日中・中日辞書引き System.Version2.00 ©KODENSHA」（小学館の日中・中日辞典にもとづく Chinese Writer の添付ソフト）を用いて作成した。
※『現代中国語辞典』：香坂順一編著，光生館，1982 年。
※『中日大辞典』：増訂第 2 版，愛知大学中日大辞典編纂処編，大修館書店，1989 年。

*　*　*

Jìhuà duō yìdiǎn háishi shìchǎng duō yìdiǎn, búshi shèhuì zhǔyì yǔ zīběn zhǔyì de běnzhì qūbié. Jìhuà jīngjì bù děngyú shèhuì zhǔyì, zīběn zhǔyì yě yǒu jìhuà; shìchǎng jīngjì bù děngyú zīběn zhǔyì, shèhuì zhǔyì yě yǒu shìchǎng. Jìhuà hé shìchǎng dōu shì jīngjì shǒuduàn. Shèhuì zhǔyì de běnzhì, shì jiěfàng shēngchǎnlì, fāzhǎn shēngchǎnlì, xiāomiè bō-xuē, xiāochú liǎngjí fēnhuà, zuìzhōng dádào gòngtóng fùyù. Jiùshì yào duì dàjiā jiǎng zhège dàolǐ. Zhèng-quàn、gǔshì, zhèxiē dōngxi jiūjìng hǎo bù hǎo, yǒu méiyǒu wēixiǎn, shì búshì zīběn zhǔyì dú yǒu de dōngxi, shèhuì zhǔyì néng bùnéng yòng? Yǔnxǔ kàn, dàn yào jiānjué de shì. Kàn duì le, gǎo yī-liǎng nián duì le, fàng kāi, cuò le, jiūzhèng, guān le jiùshì le. Guān, yě kěyǐ kuài guān, yě kěyǐ màn guān, yě kěyǐ liú yìdiǎn wěiba. Pà shénme, jiānchí zhè zhǒng tàidu jiù bú yàojǐn, jiù bú huì fàn dà cuòwù. Zǒng zhī, shèhuì zhǔyì yào yíngdé yǔ zīběn zhǔyì xiāng bǐjiào de yōushì, jiù bìxū dàdǎn xīshōu hé jièjiàn rénlèi shèhuì

chuàngzào de yíqiè wénmíng chéngguǒ, xīshōu hé jiè-jiàn dāngjīn shìjiè gè guó bāokuò zīběn zhǔyì fādá guójiā de yíqiè fǎnyìng xiàndài shèhuìhuà shēngchǎn guīlǜ de xiānjìn jīngyíng fāngshì、guǎnlǐ fāngfǎ.

*　　*　　*

計画が多いか，それとも市場が多いかは，社会主義と資本主義の本質的区別ではない。計画経済イコール社会主義ではなく，資本主義にも計画はある。市場経済イコール資本主義ではなく，社会主義にも市場がある。**計画と市場はともに経済手段である***。社会主義の本質は，生産力を解放し，発展させ，搾取をなくし，両極分化をなくし，最終的には共に豊かになることである。ほかでもなく，みなにこの道理を語らなければならない。証券，株式市場，これらのものははたしていいのかどうか，危険があるのかどうか，資本主義にしかないものなのかどうか，社会主義が使えるのかどうか。**それなりの見方を保留してもよいが**，断固実験すべきだ。正しいと見定めたら 1～2 年やってみて，正しかったら自由化し，誤っていたら，是正し，やめればよい。やめるにしても，すぐやめてもよいし，ゆっくりやめてもよい。また尻尾を残しておいてもよい。なにも恐れることはない。このような態度を堅持すれば大丈夫だ。大きな誤りを犯すはずがない。要するに，社会主義が資本主義に比べて相対的に優勢になるためには，人類社会の創造したあらゆる文明の成果を大胆に吸収し，参考にし，資本主義先進国を含めた現代の世界各国の，現代の社会的生産の法則を反映した，すべての先進的な経営方式と管理方法を吸収し，参考にしなければならない。　　*ゴチックは編者（以下同じ）。

◇『北京週報』第 32 巻第 6-7 号，1994 年 2 月 8 日，11-12 頁。

◆「計画と市場はともに経済手段である」⇨計画経済の存在を前提にして，市場メカニズムの導入もまた取りうるひとつの選択肢であるとして，それを「経済手段」と表現している。
◆「それなりの見方を保留してもよいが（允許看）」⇨前段の「証券，株式市場，これらのものははたしていいのかどうか，危険があるのかどうか，資本主義にしかないものなのかどうか，社会主義が使えるのかどうか」を受けて，それらについて各自が「判断することを許す」。

【鄧小平】
1904.8.22～97.2.19　青年期のパリ勤工倹学中は周恩来と親交が厚く，帰国後 20 年代末から 30 年代はじめは農村根拠地建設に従事し，毛沢東派の 1 人と見なされた。抗日戦争，国共内戦で軍事戦略家としての能力も遺憾なく発揮し，第 2 野戦軍を率いる指導者となった。建国後まもなく中央に抜擢され，毛沢東，周恩来の下で党・国務院の中心的な実務をこなすようになった。文革期には“第 2 の中国のフルシチョフ”と見なされ失脚したが，73 年復活，周の右腕として経済などの再建に努めたが周の死後の 76 年に再び失脚。76 年に毛が死ぬと約 1 年を経た 77 年に再度復活し，やがて党の総路線を近代化建設に転換し，経済の大胆な市場化を重視して中国の経済力，総合国力の向上に努める。政治改革も試みるが天安門事件の民主化弾圧に見られるように“党指導の堅持”は譲れぬ一線であった。総じて毛沢東時代に続く鄧小平時代と言える一時代をリードし，“改革・開放の総設計師”と呼ばれた。…（『岩波現代中国事典』）

【中国共産党文献資料庫】について
中共中央党校出版社・中央文献出版社，1998 年。国家新聞出版署音像管理司の批准によって発行されたCDロム(2枚)。内容は，1)中央檔案館編輯・中央文献研究室審定『建国前中共中央文献選（1921-1949 年)』2733 篇；2)中共中央文献研究室編輯『建国以来重要文献選（1949-1965 年)』1232 篇；3) 中共中央文献研究室編輯・審定『十一屆三中全会以来重要文献選(1978-1998 年)』619 篇。

【北京周報】について

外国語で中国の時事ニュースを伝える週刊紙。1958 年 3 月周恩来総理の提議によりまず英文版が創刊され，63 年日，仏，独，スペイン語の版が出版された。北京週報社が編集出版し，中国国際図書貿易総公司を通じて，世界 150 余カ国に航空輸送し販売している。重要文献が全文掲載されることも多く，資料価値は高い。（『岩波現代中国事典』）

【岩波現代中国事典】について

天児慧・石原享一・朱建栄・辻康吾・菱田雅晴・村田雄二郎編，岩波書店，1999 年。1949 年の中華人民共和国の成立から建国 50 周年の 1999 年までの 50 年間の歴史を主たる対象とし，1)政治・経済はもとより重要と思われる文化・社会に関する事項や人物，2)この 50 年に密接にかかわる 49 年以前の重要な事項と人物，3)台湾・香港・華僑華人・民族に関連する項目など 4300 余項目を収録する（序）。巻末に「和文索引」「中国語索引」「英語索引」を付す。このほか現代中国に関する日本語の事典には，竹内実・矢吹晋編『中国情報用語事典：1999-2000 年版』（蒼蒼社，1999 年），藤堂明保・辻康吾・曽紹徳・堀内克明編『最新中国情報辞典』（小学館，1985 年）などがある。

2　天安門事件

1989年6月4日未明，天安門広場を埋めていた群衆に解放軍が発砲し，「36人の学生を含む200人余が死亡，軍人以外で3000人余りが負傷した」（陳希同北京市長の報告）。当時，ソ連党書記長ゴルバチョフが中ソ関係正常化のために北京訪問中で，1000人以上の外国人記者が北京に集中，全世界が鎮圧にいたるプロセスをテレビ中継で目撃することになった。「世界を震撼させた20日間」だった。

民主化デモの直接のきっかけは4月15日の胡耀邦前総書記の死だった。胡自身改革に意欲をもち86年の学生運動に同情的だったために「辞任」させられており，いわば民主化のシンボルになっていた。「ごく少数の者が民主の旗を掲げて民主と法制を破壊した。……これは計画的陰謀であり，動乱である。中国共産党の指導と社会主義制度を根本から否定するものだ」という4月26日付『人民日報』の社説——鄧小平の指示で出された——が事態をエスカレートさせた。当局の対応に怒った一部学生がハンガーストに突入，ついに5月19日建国後はじめて北京に戒厳令が出た。

このときの運動の中身はさまざまである。経済混乱や価格改革にともなう20%を超えるインフレへの庶民の不満，高級幹部の目に余る不正（役人ブローカー。「官倒」）への怒りなどが爆発し，1986年にいったん止められた民主化要求が再生した。しかも89年はちょうど五四運動70周年にあ

たっていた。

当時学生たちが一党体制の転覆や政権の交代を求めたわけではないのに，**「動乱」社説**，戒厳令，武力鎮圧へと当局の対応がエスカレートしたのはなぜだろうか。鄧小平世代のトップ・リーダーたちの目には民主化デモが20年前の紅衛兵や造反派の再来と映ったにちがいない。また権力にたてつく者は断固鎮圧するという「治める者」の意志を示したかったのかも知れない。「みせしめ」である。厳家其ら改革派党員エリートが考えた「体制内の改革」は所詮無理だったのである。

天安門事件は共和国40年の歴史を血で染めたが，同じような民主化運動が党や国家，レジームの崩壊にいきついた東欧・ソ連のプロセスと比べれば，天安門広場の悲劇の上に共産党支配体制が維持されているという冷厳な事実は否定できない。（毛里和子『現代中国を読む』20-22頁）

在追悼大会后，极少数别有用心的人继续利用青年学生悼念胡耀邦同志的心情，制造种种谣言，蛊惑人心，利用大小字报污蔑、谩骂、攻击党和国家领导人；公然违反宪法，鼓动反对共产党的领导和社会主义制度；在一部分高等学校中成立非法组织，向学生会“夺权”，有的甚至抢占学校广播室；在有的高等学校中鼓动学生罢课、教师罢教，甚

至强行阻止同学上课；盗用工人组织的名义，散发反动传单；并且四处串联，企图制造更大的事端。

这些事实表明，极少数人不是在进行悼念胡耀邦同志的活动，不是为了在中国推进社会主义民主政治的进程，也不是有些不满发发牢骚。他们打着民主的旗号破坏民主法制，其目的是要搞散人心，搞乱全国，破坏安定团结的政治局面。这是一场有计划的阴谋，是一次动乱，其实质是要从根本上否定中国共产党的领导，否定社会主义制度。这是摆在全党和全国各族人民面前的一场严重的政治斗争。

◇《社论:必须旗帜鲜明地反对动乱》(《人民日报》1989.4.26)。
◆《中共中央综合性文集》(《中国革命史档案文献光盘库》A-1)。
◆《中国共产党文献资料库》。

biéyǒuyòngxīn【别有用心】〈成〉ほかにたくらむところがある。下心がある。¶这是～的曲解qūjiě／これはたくらみあっての曲解だ。

gǔhuò【蛊惑】蠱惑[こわく](する)。惑わす。毒する。▼“鼓惑”とも書く。¶～人心／人心を惑わす。

mànmà【谩骂】侮りののしる。¶～造谣 zàoyáo ／悪口を言い,デマを飛ばす。

〔夺权〕権力を奪取する。¶无产阶级同资产阶级间～和反～的斗争，是生死存亡的斗争／無産階級と資産階級との奪権と反奪権の闘争は，生死存亡の闘争である。（『中日大辞典』）

chuànlián【串联】【串连】順繰りにつながりをつける。¶革命大～／革命経験大交流。▼文革初期に紅衛兵が自由に各地を旅行して交流したときよく用いられた。

shìduān【事端】〈書〉事故。紛糾。¶制造 zhìzào ～／ごたごたを起こす。

láosāo【牢骚】不平。不満。愚痴。¶满腹 mǎnfù ～／不平たらたら。¶他从来不发～／あの人はいままで愚痴をこぼしたことがない。

gǎo【搞】（＝做 zuò，干 gàn）やる。する。つくる。従事する。手に入れる。¶～出乱子来／事故を起こす。災いを招く。たいへんな事をしでかす。

sàn【散】散る。散らす。『発音』 sàn は動詞用法。 sǎn と読むと「ばらばらの，半端な」という意味の形容詞用法になる。

〔十年动乱〕专指“文革”十年造成的动乱，因而成为“文革”的代名词，又称“十年浩劫”。（李谷城『中国大陸政治術語』中文大学出版社、1992年）

bǎi【摆】並べる。きちんと置く。¶把问题～在桌面上来／問題を会議の場に持ち出す。

*　*　*

Zài zhuīdào dàhuì hòu, jí shǎoshù biéyǒuyòngxīn de rén jìxù lìyòng qīngnián xuésheng dàoniàn Hú Yàobāng tóngzhì de xīnqíng, zhìzào zhǒngzhǒng yáoyán, gǔhuò rénxīn, lìyòng dàxiǎo zìbào wūmiè、mànmà、gōngjī dǎng hé guójiā lǐngdǎo rén, gōngrán wéifǎn xiànfǎ, gǔdòng fǎnduì gòngchǎndǎng de lǐngdǎo hé shèhuì zhǔyì zhìdù, zài yí bùfen gāodèng xuéxiào zhōng chénglì fēifǎ zǔzhī, xiàng xuéshēnghuì “duóquán”, yǒu de shèn-

zhì qiǎngzhàn xuéxiào guǎngbōshì; zài yǒude gāoděng xuéxiào zhōng gǔdòng xuésheng bàkè、jiàoshī bàjiào, shènzhì qiángxíng zǔzhǐ tóngxué shàngkè; dàoyòng gōngrén zǔzhī de míngyì, sànfā fǎndòng chuándān; bìng-qiě sìchù chuànlián, qǐtú zhìzào gèng dà de shìduān.

Zhèxiē shìshí biǎomíng, jí shǎoshù rén bú shì zài jìnxíng dàoniàn Hú Yàobāng tóngzhì de huódòng, bú shì wèile zài Zhōngguó tuījìn shèhuì zhǔyì mínzhǔ zhèng-zhì de jìnchéng, yě bú shì yǒuxiē bùmǎn fāfa láosāo. Tāmen dǎzhe mínzhǔ de qíhào pòhuài mínzhǔ fǎzhì, qí mùdì shì yào gǎo sàn rénxīn, gǎo luàn quánguó, pòhuài āndìng tuánjié de zhèngzhì júmiàn. Zhè shì yì cháng yǒu jìhuà de yīnmóu, shì yí cì dòngluàn, qí shízhì shì yào cóng gēnběn shàng fǒudìng Zhōngguó Gòngchǎn-dǎng de lǐngdǎo, fǒudìng shèhuì zhǔyì zhìdù. Zhè shì bǎi zài quán dǎng hé quán guó gè zú rénmín miànqián de yì cháng yánzhòng de zhèngzhì dòuzhēng.

*　　*　　*

追悼大会終了後，下心をもったごく少数の者が，学生たちの胡耀邦同志追悼の気持ちをひきつづき利用し，さまざまなデマを飛ばして人心をまどわし，大字報や小字報〔大小の壁新聞〕を利用して党と国家の指導者を中傷，罵倒，攻撃し，公然と憲法に違反し，共産党の指導と社会主義制度反対を煽動し，**一部の大学で不法組織を結成し，〔合法的な〕学生会の「権力奪取」に向かい，**はなはだしきは大学の放送室を不法占拠したり，若干の大学では学生と教師に授業ボイコットを煽動し，はては級友が授業に出るのを強行に阻止したり，労働者組織の名義を盗用して反動的なビ

ラをまいたり，また方々へ出かけて活動し，より大きな事件を引き起こそうとした。

これらの事実が実証しているように，ごく少数の者は，胡耀邦同志追悼活動を進めるのではなく，中国で社会主義民主政治を推進するためではなく，また，なんらかの不満をぶちまけたわけでもない。彼らは民主の旗を掲げて民主と法制を破壊したのであり，その狙いは人心をバラバラにし，全国を混乱させ，安定・団結の政治的局面を破壊するにある。これは計画的な陰謀であり，動乱である。その実質は，中国共産党の指導と社会主義制度を根本から否定することにある。これは全党と全国各民族人民の前で行われた重大な政治闘争である。

◇矢吹晋編訳『チャイナ・クライシス重要文献』第 1 巻，蒼蒼社，1989 年，134 頁。

◆「一部の大学で不法組織を結成し，〔合法的な〕学生会の“権力奪取”に向かい」⇨「一部の大学で不法組織を結成して学生会から“奪権”し」。「向」は動詞「向かう，傾く」ではなく，「動作の向かう方向・対象を示す介詞」。

【胡耀邦】

文革後は鄧小平派の重要な幹部として真理検証問題，文革で失脚させられた幹部の復活問題などで積極的に活動し，鄧小平の指導権樹立のために努力し，鄧小平の後継者としての地位を確立した。だが，86 年夏から始まったブルジョア自由化反対のキャンペーンで党内のいわゆる保守派から集中攻撃を受け，それが頂点に達した 87 年 1 月の中共中央政治局拡大会議で総書記からの辞任を自ら要請し，辞任が認められた。ただ，辞任の原因については現在でも解明されない疑問がある。例えば最大の理由はブルジョア自由化の氾濫を放置したというものだが，胡耀邦の解任以降も改革派の勢力は一層拡大し，89 年の趙紫陽解任にまで発展している。また，胡耀

邦が徒党を組んだというのも罪状の一つだが，胡耀邦辞任当時にその関連で解任あるいは左遷させられた者は，当時中共中央宣伝部長であった朱厚沢一人に留まっており，しかも朱厚沢は中国農村発展研究センターの副主任という，昇任ではないが降格というのも難しいポストに就いている。結局，胡耀邦の総書記辞任は当時党内で大合唱となっていたブルジョア自由化反対のためだが，彼の辞任によってこの自由化反対の大キャンペーンは急速に終息し，「ブルジョア自由化」のより一層の「氾濫」を促進するという結果を招来した。88年には中央政治局委員に再選されたが，一部で噂された政協全国委員会主席就任もなく，実際の担当を持たない形式的な政治局委員として存在したようである。だが，中国共産党で最大の勢力を誇る共青団グループの統帥として，また総書記辞任によって逆に一層高めた一般民衆の支持をバックに，胡耀邦の動向は内外の注目を集めた。しかし，89年4月心筋梗塞のため帰らぬ人となった。（三菱総合研究所編『チャイナ・クライシス WHO'S WHO 』蒼蒼社，1989年，126-127頁；「胡耀邦」の項目は123-127頁）

【人民日報】について

中国共産党中央委員会機関紙。1948年6月15日に中共華北局機関紙として創刊，49年8月，党中央委員会機関紙に昇格した。全中国の報道機関の頂点に立ち，報道内容は直接党・政府の政策・方針を反映し，中国を知るうえでも最も有力なな新聞であるが，反面，党中央の権力を握る勢力や首脳の考え方に左右される傾向が強い。発行部数は79年に619万部に達したが，以後減少し96年のそれは207万6000部である。85年7月から海外の華僑・華人，外国人読者のため「海外版」を創刊した。（『岩波現代中国事典』）

【チャイナ・クライシス重要文献】について

全3巻，蒼蒼社，1989年8-12月。「経済改革のもたらした経済危機が政治的危機，体制的危機に発展した中国について，その動態を分析するために可能なかぎりの資料を収集し，編集・邦訳した」（凡例）。構成は，I 胡耀邦総書記失脚の場合（3，文献数で以下同じ），II 政治犯釈放要求の攻防（11），III 胡耀邦追悼民主化騒動（20），IV「動乱」か「愛国民主運動」か（16），V 平行線の「対

話」(11), VI ハンガー・ストライキの衝撃(18), VII 鄧小平体制の動揺(34), VIII 戒厳令布告とその破綻(31), IX 趙紫陽断罪 vs 李鵬解任(25), X 鄧小平の巻き返し(16), XI 危機迫る天安門広場(22), XII 嵐の前の「中間総括」(8), XIII 天安門事件—人民の軍隊による人民の虐殺(12), XIV 天安門事件—反革命暴乱平定(12), XV 事後報復の嵐(24), XVI 民主化「動乱」始末(7)。

1984

3　香港返還問題の妥結

香港の返還問題が浮上したのは，1970 年代末である。中国大陸では文革の混乱が終息し，鄧小平の指導のもとに「4つの近代化」政策が始動した時期であった(⇨**6**)。経済発展を最優先課題とした中国は平和な国際環境の創出を試みる。祖国統一戦線に関しても，中国はその基本方針を「武力解放」路線から「平和統一」路線へと転換させる。一方，香港では新界租借条約の期限切れ（1997 年）が意識されはじめた。1997 年以降の香港の将来について，中英間でなんらかの取り決めがなされなければ，香港の将来の政治的不透明さが増大して，外貨の流出を招くことは必至であった。

このような状況下，サッチャー英首相の訪中（1982 年 9 月）をもって，中英両国は香港の将来をめぐる交渉のテーブルについた。中英交渉はイギリスにとって有利な交渉ではなかったが，イギリスは香港への執着を見せた。交渉開始時に，イギリスは香港形成の 3 条約の有効性を主張し，83 年に入っても主権と統治権を分離したマカオ方式の実施を主張した。84 年 4 月のハウ英外相の訪中をもって，イギリスはマカオ方式を断念した。この時点で，香港全域の主権・統治権の一括返還は確定した。サッチャーの回想録にはイギリスの香港への執着と，中国の香港回収の意思が語られている。

しかし，中国は強引に中英交渉を進めていったわけではな

い。鄧小平発言に見られるように，中国は両地の社会的差異を認識していた。同時に，中国は香港の経済的成功を積極的に評価し，自身の近代化に貢献させることを希望した。これらを踏まえて，中国が香港回収方式として提起したのは，「1 国家 2 制度」方式であった。同方式は文字通り，1 つの国（中華人民共和国）のなかに社会主義制度と資本主義制度という 2 つの制度を機能させていくという試みである。同方式は元来，台湾の祖国統合方式として想起されたものであるが，その適用は香港とマカオが先になった。両地区は特別行政区時代を経て，中華人民共和国との直接統合へと至るのである。

中英両国は「1国家2制度」方式による香港返還に同意し，1984年12月に中英共同声明と付属文書に調印した。すなわち，中国は97年7月1日をもって香港の主権を回復すること，香港はその後の50年間を「特別行政区」として，外交と防衛を除く高度の自治権を享受し，現行の資本主義制度を維持すること，が公式に合意されたのである。なお，同声明は返還までの過渡期に関しての中英の合意事項を付記している。同声明によれば，香港政庁は毎年の売却面積の制限が設けられたものの，基本的には従来と同様に土地売買を行なうことができる。また，香港の英属領公民パスポート所持者は，返還後も類似のパスポートを海外渡航時に使用できる。

しかし，香港住民は歓呼の声で香港の中国返還の決定を迎えたわけではない。中国の人治（個人の権威が法律に優先する）の伝統に対する香港住民の不安は大きい。「1 国家 2 制度」方式は，中国中央政府の意向と香港特別行政区政府の意向が相違した場合，どちらが優先されるかという微妙

な問題を含む。香港住民の多くは中国からの移民もしくはその子孫であり，新中国成立後の社会主義化や文化大革命で，自身もしくは親戚が苦い経験を味わった者が多い。一般に，住民の間では中国の一党独裁体制に対する不信感は根強い。一方，中国側には「1国家2制度」を経済制度と政治制度に分離して処理しようとする姿勢が見られた。このため，香港住民が「1国家2制度」の成否を憂慮する声は小さくない。（若林正丈・谷垣真理子・田中恭子編『原典中国現代史』第7巻（台湾・香港・華僑華人）岩波書店，1995年，199-201頁）

中华人民共和国政府和大不列颠及北爱尔兰联合王国政府满意地回顾了近年来两国政府和两国人民之间的友好关系，一致认为通过协商妥善地解决历史上遗留下来的香港问题，有助于维持香港的繁荣与稳定，并有助于两国关系在新的基础上进一步巩固和发展，为此，经过两国政府代表团的会谈，同意声明如下：

一、中华人民共和国政府声明：收回香港地区（包括香港岛、九龙和“新界”，以下称香港）是全中国人民的共同愿望，中华

人民共和国政府决定于一九九七年七月一日对香港恢复行使主权。

二、联合王国政府声明：联合王国政府于一九九七年七月一日将香港交还给中华人民共和国。

三、中华人民共和国政府声明，中华人民共和国对香港的基本方针政策如下：

（一）为了维护国家的统一和领土完整，并考虑到香港的历史和现实情况，中华人民共和国决定在对香港恢复行使主权时，根据中华人民共和国宪法第三十一条的规定，设立香港特别行政区。

（二）香港特别行政区直辖于中华人民共和国中央人民政府。除外交和国防事务属中央人民政府管理外，香港特别行政区享有高度的自治权。

（三）香港特别行政区享有行政管理权、立法权、独立的司法权和终审权。现行的法律基本不变。

（四）香港特别行政区政府由当地人组成。行政长官在当地通过选举或协商产生，由中央人民政府任命。…

（五）香港的现行社会、经济制度不变；生活方式不变。…

（七）香港特别行政区将保持国际金融中心的地位，

继续开放外汇、黄金、证券、期货等市场，资金进出自由。港币继续流通，自由兑换。

（十二）关于中华人民共和国对香港的上述基本方针政策和本联合声明附件一对上述基本方针政策的具体说明，中华人民共和国全国人民代表大会将以中华人民共和国香港特别行政区基本法规定之，并在五十年内不变。

◇《中华人民共和国政府和大不列颠及北爱尔兰联合王国政府关于香港问题的联合声明（草签文本）》（《人民日报》1984.9.27）。

◆《新华月报》（《中国革命史档案文献光盘库》B-50）。

◆《中国共产党文献资料库》。

yǒuzhùyú【有助于】…に役立つ。…に有益である。¶这次访问～增进我们两国人民的相互理解／今回の訪問はわれわれ両国人民の相互理解を促進するのに役立つ。

shōu//huí【收回】取り戻す。取り返す。回収する。¶～贷款 dàikuǎn／貸し金を回収する。

huīfù【恢复】回復させる。取り戻す。¶～失地／失った領地を回復する。失地回復。

jiāohuán【交还】返す。返還する。¶借去资料 zīliào 者请速 sù ～／資料を借り出した人は速やかに返却願います。

wánzhěng【完整】すっかり整っている。欠けたところがない。無傷である。完備している。¶保卫祖国的领土～／祖国の領土保全を守る。

〔宪法第三十一条〕国家在必要时得设立特别行政区。在特别行政区内实行的制度按照具体情况由全国人民代表大会以法律规定。

qīhuò【期货】〈経〉先物[さきもの]。¶～交易／先物取引。¶～合同／先物契約。

〔附件一〕第1付属文書。「共同声明」のほかに、第1付属文書「中華人民共和国政府の香港に対する基本方針、政策についての具体的説明」、第2付属文書「中英合同連絡小委員会について」、第3付属文書「土地契約について」、および「イギリス側覚書」と「中国側覚書」が取り交わされた。

*　*　*

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ hé Dàbúliè·diān jí Běi'ài'ěrlán Liánhé Wángguó Zhèngfǔ mǎnyì de huígù le jìnnián lái liǎng guó zhèngfǔ hé liǎng guó rénmín zhījiān de yǒuhǎo guānxi, yízhì rènwéi tōng·guò xiéshāng tuǒshàn de jiějué lìshǐ shàng yíliú xià lái de Xiānggǎng Wèntí, yǒuzhùyú wéichí Xiānggǎng de

fánróng yǔ wěndìng, bìng yǒuzhùyú liǎng guó guānxi zài xīn de jīchǔ shàng jìn yí bù gǒnggù hé fāzhǎn, wèi cǐ, jīngguo liǎng guó zhèngfǔ dàibiǎotuán de huì-tán, tóngyì shēngmíng rúxià:

1. Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ shēng-míng: shōuhuí Xiānggǎng Dìqū (bāokuò Xiānggǎngdǎo、Jiǔlóng hé "Xīnjiè", yǐxià chēng Xiānggǎng) shì quán Zhōngguó rénmín de gòngtóng yuànwàng, Zhōnghuá Rén-mín Gònghéguó Zhèngfǔ juédìng yú yījiǔjiǔqī nián qī yuè yī rì duì Xiānggǎng huīfù xíngshǐ zhǔquán.

2. Liánhé Wángguó Zhèngfǔ shēngmíng: Liánhé Wángguó Zhèngfǔ yú yījiǔjiǔqī nián qī yuè yī rì jiāng Xiānggǎng jiāohuán gěi Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó.

3. Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ shēngmíng, Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó duì Xiānggǎng de jīběn fāngzhēn zhèngcè rúxià:

(1) Wèile wéihù guójiā de tǒngyī hé lǐngtǔ wánzhěng, bìng kǎolǜ dào Xiānggǎng de lìshǐ hé xiàn-shí qíngkuàng, Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó juédìng zài duì Xiānggǎng huīfù xíngshǐ zhǔquán shí, gēnjù Zhōng-huá Rénmín Gònghéguó Xiànfǎ dì-sānshíyī tiáo de guī-dìng, shèlì Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū.

(2) Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū zhíxiá yú Zhōng-huá Rénmín Gònghéguó Zhōngyāng Rénmín Zhèngfǔ. Chú wàijiāo hé guófáng shìwù shǔ Zhōngyāng Rénmín Zhèng-fǔ guǎnlǐ wài, Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū xiǎngyǒu gāodù de zìzhìquán.

(3) Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū xiǎngyǒu xíng-zhèng guǎnlǐquán、lìfǎquán、dúlì de sīfǎquán hé zhōngshěnquán. Xiànxíng de fǎlǜ jīběn bú biàn.

(4) Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū Zhèngfǔ yóu dāngdì rén zǔchéng. Xíngzhèng Zhǎngguān zài dāngdì tōngguò xuǎnjǔ huò xiéshāng chǎnshēng, yóu Zhōngyāng Rénmín Zhèngfǔ rènmìng. …

(5) Xiānggǎng de xiànxíng shèhuì、jīngjì zhìdù bú biàn; shēnghuó fāngshì bú biàn. …

(7) Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū jiāng bǎochí guójì jīnróng zhōngxīn de dìwèi, jìxù kāifàng wàihuì、huángjīn、zhèngquàn、qīhuò děng shìchǎng, zījīn jìnchū zìyóu. Gǎngbì jìxù liútōng, zìyóu duìhuàn.

(12) Guānyú Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó duì Xiānggǎng de shàngshù jīběn fāngzhēn zhèngcè hé běn Liánhé Shēngmíng Fùjiàn-Yī duì shàngshù jīběn fāngzhēn zhèngcè de jùtǐ shuōmíng, Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Quánguó Rénmín Dàibiǎo Dàhuì jiāng yǐ Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Xiānggǎng Tèbié Xíngzhèngqū Jīběnfǎ guīdìng zhī, bìng zài wǔshí nián nèi bú biàn.

*　*　*

中華人民共和国政府とグレートブリテン・北アイルランド連合王国政府は満足の意をもって近年の両国政府と両国人民の友好関係を振り返るとともに，歴史的に残された香港問題を協議を通じて妥当に解決することが香港の繁栄と安定の維持に役立ち，新たな基礎に立つ両国関係のいっそうの強化，発展に役立つと見る点で見解の一致を見た。そのため，両国政府代表団は会談をへて，次のように声明することに同意した。

1，中華人民共和国政府は，香港地区（香港島，九竜，「新界」を含む。以下香港と称する）の祖国への復帰が全中国人民の共通

の願いであり，中華人民共和国政府が 1997 年 7 月 1 日から香港に対し主権行使を回復することを決定したことを声明する。

2，連合王国政府は，連合王国政府が 1997 年 7 月 1 日に，香港を中華人民共和国に返還することを声明する。

3，中華人民共和国政府は，中華人民共和国が香港に対し次のような基本的な方針，政策をとることを声明する。

(1) 国家の統一と領土保全を擁護するため，また香港の歴史と現状を考慮して，中華人民共和国は，香港に対し主権行使を回復するにあたり，中華人民共和国憲法第 31 条の規定にもとづき，香港特別行政区を設けることを決定した。

(2) 香港特別行政区は中華人民共和国中央人民政府の直轄下に置かれる。外交と国防が中央人民政府の管理に属するほか，香港特別行政区は高度の自治権を享有する。

(3) 香港特別行政区は行政管理権，立法権，独立した司法権と終審権を享有する。現行の法律は基本的には変わらない。

(4) 香港特別行政区政府は現地人によって構成される。行政長官は現地で選挙または協議を通じて選出され，中央人民政府が任命する。…

(5) 香港の現行の社会・経済制度は変わらず，生活様式は変わらない。…

(7) 香港特別行政区は国際金融センターの地位を保持し，ひきつづき外国為替，金，証券，先物取引に市場を開放する。資金の流入，流出は自由である。香港ドルはひきつづき流通し，自由に他の通貨と交換することができる。

(12) 中華人民共和国の香港に対する前記の基本的な方針，政策および本共同声明の第 1 付属文書の前記基本方針，政策に対する具体的説明については，中華人民共和国全国人民代表大会が中

華人民共和国香港特別行政区基本法において規定するとともに，50 年間は同規定を変えない。

◇『北京周報』第 22 巻第 41 号，1984 年 10 月（別冊付録，文献 6）。

【香港】

広東南部のイギリス直轄植民地。ラングーン，シンガポール，上海，揚子江とを連結する往年のアジア・中国支配の重要拠点。中国の南北各地間・対欧米・対南洋貿易の中継港。1834 年初代首席貿易監督官ネーピア卿 W・J・Napier がこの島の占拠を本国政府に進言したことがあるが，アヘン戦争により 41 年に占領され，同年の川鼻仮条約，42 年（道光 22）の南京条約で割譲され，60 年（咸豊 10）北京条約で対岸の九竜半島の南端部が割譲，98 年（光緒 24）九竜半島の深圳河以南部分と付近の湾，島嶼，海面が 99 ヵ年租借された（新界）。占領直後から 62 年（同治元）ころにかけて都市建設が進み，戦後はアヘン貿易とアメリカ・オーストラリアの苦力貿易により莫大な富がつまれ，後年の有名な諸財閥を成立させた。65 年（同 4）には海運・造船業の投資がはじまり，66 年（同 5）には財閥の出資で香港上海（匯豊）銀行が創立され，華商間には買弁資本が成長した。アヘンの取引のほかに綿製品の額の激増がいちじるしく，苦力貿易は 75 年（光緒元）までに消滅した。スエズ運河の開通（1869）と汽船・電信の発達，揚子江流域の開放と上海の急激な発展は，香港の中継貿易に打撃を与え太平洋戦争の期間は日本に占領され，戦後は冷戦による貿易制限をうけている。ただ，革命・内乱に際して，中国政治家の亡命先，資本の逃避先となり，国際政治の中継点・接触点として特殊な地位にある。（京大東洋史辞典編纂会編『新編東洋史辞典』東京創元社 1980 年）

【原典中国現代史】について

全 8 巻+別巻（『中国研究ハンドブック』）。岩波書店，1994 年 5 月・1996 年 7 月。「『原典中国現代史』は，読者が原典資料に即して現代中国の歩みをたどることができるように，第 1 巻『政治』上，第 2 巻『政治』下，第 3 巻『経済』，第 4 巻『社会』，第 5 巻『思想・文学』，第 6 巻『外交』，第 7 巻『台湾・香港・華僑華人』，第 8 巻『日中関係』の各巻に分けて，それぞ

れ最も基本的な資料の最も重要と思われる箇所を選んで，それらが発表された背景や意義に関する解説とともに紹介したものである」（凡例）。第 7 巻第 2 部「香港」（谷垣真理子）の構成は，「全体解説」，Ⅰ前史―英領植民地の形成（6，文献数で以下同じ），Ⅱ冷戦構造下の香港（5+7），Ⅲ香港返還問題（7+4），Ⅳ香港の将来―「中国化」か「国際化」か（8）。

【新華月報】について

内政・外交にわたる重要な文献・資料を集めた月刊誌．1949 年 11 月北京で創刊。党と政府の重要文献はもちろん，指導者の講話と文章，中央の有力新聞・雑誌の社説，調査報告や経験の総括なども掲載されるため参考価値が高い。（『岩波現代中国事典』）

【中国革命史檔案文献光盤庫】について

中国共産党史と中華人民共和国史に関する 1919 年以降の重要文献を収録する中央檔案館・北京超星公司編製の CD ロム。1996 年。内容は下記の通り。**中共中央綜合性文集**(A1) ⇨**1,2,5,6,9,10,11,15**；中共党史史料(A2)；**中共中央文件選集**(A3) ⇨**15**；**中共会議、組織、紀検、宣伝、統戦等工作文集**(A4) ⇨**4**；**中華人民共和国法令、法規、法律匯編**(A5-7) ⇨**4,10,11**；中華人民共和国軍事、外交、群集団体、文化工作文集(A8)；中華人民共和国教育、衛生、知識分子工作文集(A9)；中華人民共和国国民経済計画、規画、管理工作文集(A10-11)；**新青年**(B1) ⇨**18**；共産党(B1)；毎週評論(B2)；少年中国(B2)；嚮導(B3)；政治生活(B3)；先駆(B3)；中国青年(B3)；中国工人(B3)；政治週報(B3)；工人之路(B4)；中国学生(B4)；中国農民(B4)；農民運動(B4)；戦士(B5)；人民週刊(B5)；紅旗(B5)；紅旗日報(B5)；紅旗週報(B5)；実話(B5)；闘争(B5)；布爾塞維克(B6)；紅色中華(B6)；生活(B7-8)；国際評論(B9)；中国工人(B9)；救国時報(B9)；群衆(B10a)；共産党人(B10b)；**解放**(B11) ⇨**13**；新中華報(B11)；八路軍軍政雑誌(B12)；中国青年(B12)；中国工人(B12)；**中国文化**(B12) ⇨**13**；**新華社電訊稿**(B13) ⇨**11**；新華社広播稿(B13)；**新華社新聞稿**(B14-29) ⇨**10**；**新華月報**(B30-35,42-54) ⇨**3,4,5,6,7,10**；**新華半月刊**(B36-41)⇨**9**；**紅旗**(B55-57) ⇨**5,6,7,8**；求是(B58)；中共党史研究(B59a)；文献和研究(B59a)；党的文献(B59b)；中国共産党史與中華人民共和国史(D1)。

1982

4　中華人民共和国憲法

中華人民共和国は 1949 年に建国されたが(⇨**11**)，最初の憲法が制定されたのは 54 年になってのことである。建国直後の 5 年間は人民政治協商会議共同綱領が，臨時憲法の役割を果たした。その後，憲法は 75 年，78 年，82 年の 3 回，全面改正された。

54 年憲法は，戦後に成立した東欧の社会主義諸国と同じく，社会主義建設を目指す過渡期の国家として，中国みずからを人民民主主義国家と位置づけた。しかし内容的には，36 年にソ連で制定されたいわゆるスターリン憲法をモデルとしており，多くの点で社会主義の原則が採用されていた。中国は 56 年に所有制の社会主義的改造を完了して社会主義に移行したが，58 年の大躍進政策以降次第にソ連型社会主義建設路線から離脱し，60 年には中ソ対立が決定的となった。そのため，憲法の規定は実情に合わなくなったにもかかわらず，改正作業が行なわれなかったため，空文化したまま放置された。憲法がそのように軽視された背景には，文化大革命へ至る過程で“人治”が強化されたことに合わせて，“法治”をブルジョア社会の産物とみなす思想が主流を占めたことがある。

75 年憲法は文革末期に，4 人組の影響下で誕生し，文革憲法とも呼ばれた。54 年憲法の諸原則を否定し，文革の成果を誇示する内容であったため，文革の終結後，短期間の

うちに改正された。78 年憲法は 75 年憲法を否定し，54 年憲法の諸原則に立ち戻る内容となったが，文革の影響から完全には脱け出していなかった。中国が文革を完全に清算する立場を確立したのは 78 年末の中国共産党 11 期 3 中全会であり，こののちただちに憲法の改正作業が始められた。

したがって，**82年憲法は文革の影響を完全に払拭した内容を持つとされ，54年憲法を継受し，発展させた憲法と位置づけられている。だが同時に，80年代になってからは，計画経済から市場経済へという経済改革が急速に進展したため，これに合わせた修正が必要となり，すでに88，93，99年の3回にわたって部分的な改正が行なわれている。**加えて，振り返ってみると，文革の影響から完全には脱し切れていないという批判もあり，全面的な改正が必要だという議論も次第に強まっている。(『岩波現代中国事典』)

序言

中国是世界上历史最悠久的国家之一。中国各族人民共同创造了光辉灿烂的文化，具有光荣的革命传统。

一八四〇年以后，封建的中国逐渐变成半殖民地、半封建的国家。中国人民为国家独立、民族解放和民主自由进行了前仆后继的英勇奋斗。

二十世纪，中国发生了翻天覆地的伟大历史变革。

一九一一年孙中山先生领导的辛亥革命，废除了封建帝制，创立了中华民国。但是，中国人民反对帝国主义和封建主义的历史任务还没有完成。

一九四九年，以毛泽东主席为领袖的中国共产党领导中国各族人民，在经历了长期的艰难曲折的武装斗争和其他形式的斗争以后，终于推翻了帝国主义、封建主义和官僚资本主义的统治，取得了新民主主义革命的伟大胜利，建立了中华人民共和国。从此，中国人民掌握了国家的权力，成为国家的主人。

中华人民共和国成立以后，我国社会逐步实现了由新民主主义到社会主义的过渡。生产资料私有制的社会主义改造已经完成，人剥削人的制度已经消灭，社会主义制度已经确立。工人阶级领导的、以工农联盟为基础的人民民主专政，实质上即无产阶级专政，得到巩固和发展。中国人民和中国人民解放军战胜了帝国主义、霸权主义的侵略、破坏和武装挑衅，维护了国家的独立和安全，增强了国防。经济建设取得了重大的成就，独立的、比较完整的社会主义工业体系已经基本形成，农业生产显著提高。教育、科学、文化等事业有了很大的发展，社会主义思想教育取得了明显的成效。广大人民的生活有

了较大的改善。

中国新民主主义革命的胜利和社会主义事业的成就，都是中国共产党领导中国各族人民，在马克思列宁主义、毛泽东思想的指引下，坚持真理，修正错误，战胜许多艰难险阻而取得的。今后国家的根本任务是集中力量进行社会主义现代化建设。中国各族人民将继续在中国共产党领导下，在马克思列宁主义、毛泽东思想指引下，坚持人民民主专政，坚持社会主义道路，不断完善社会主义的各项制度，发展社会主义民主，健全社会主义法制，自力更生，艰苦奋斗，逐步实现工业、农业、国防和科学技术的现代化，把我国建设成为高度文明、高度民主的社会主义国家。

在我国，剥削阶级作为阶级已经消灭，但是阶级斗争还将在一定范围内长期存在。中国人民对敌视和破坏我国社会主义制度的国内外的敌对势力和敌对分子，必须进行斗争。

台湾是中华人民共和国的神圣领土的一部分。完成统

一祖国的大业是包括台湾同胞在内的全中国人民的神圣职责。

社会主义的建设事业必须依靠工人、农民和知识分子，团结一切可以团结的力量。在长期的革命和建设过程中，已经结成由中国共产党领导的，有各民主党派和各人民团体参加的，包括全体社会主义劳动者、拥护社会主义的爱国者和拥护祖国统一的爱国者的广泛的爱国统一战线，这个统一战线将继续巩固和发展。中国人民政治协商会议是有广泛代表性的统一战线组织，过去发挥了重要的历史作用，今后在国家政治生活、社会生活和对外友好活动中，在进行社会主义现代化建设、维护国家的统一和团结的斗争中，将进一步发挥它的重要作用。

中华人民共和国是全国各族人民共同缔造的统一的多民族国家。平等、团结、互助的社会主义民族关系已经确立，并将继续加强。在维护民族团结的斗争中，要反对大民族主义，主要是大汉族主义，也要反对地方民族主义。国家尽一切努力，促进全国各民族的共同繁荣。

中国革命和建设的成就是同世界人民的支持分不开的。中国的前途是同世界的前途紧密地联系在一起的。中国坚持独立自主的对外政策，坚持互相尊重主权和领土完整、互不侵犯、互不干涉内政、平等互利、和平共处的五项原则，发展同各国的外交关系和经济、文化的交流；坚持反对帝国主义、霸权主义、殖民主义，加强同世界各国人民的团结，支持被压迫民族和发展中国家争取和维护民族独立、发展民族经济的正义斗争，为维护世界和平和促进人类进步事业而努力。

本宪法以法律的形式确认了中国各族人民奋斗的成

果，规定了国家的根本制度和根本任务，是国家的根本法，具有最高的法律效力。全国各族人民、一切国家机关和武装力量、各政党和各社会团体、各企业事业组织，都必须以宪法为根本的活动准则，并且负有维护宪法尊严、保证宪法实施的职责。

◇《中华人民共和国宪法（一九八二年十二月四日中华人民共和国第五届全国人民代表大会第五次会议通过）》（《人民日报》1982.12.05）。
◆《中共会议、组织、纪检、宣传、统战等工作文集》（《中国革命史档案文献光盘库》A-4），《中华人民共和国法令、法规、法律汇编(一)》(A-5)《中华人民共和国法令、法规、法律汇编(三)》(A-7)，《新华日报》(B-49)。
◆《中国共产党文献资料库》。

〔新民主主义革命总路线〕中国共产党在民主革命时期所规定的总路线。这条总路线的内容是：无产阶级领导的，人民大众的，反对帝国主义、封建主义和官僚资本主义的革命。它根据当时中国的半殖民地半封建的社会性质，确定革命的对象是帝国主义、封建主义和官僚资本主义；革命的动力是无产阶级、农民阶级和各种类别的小资产阶级；而在一定时期和一定程度上还有民族资产阶级参加；革命的性质是资产阶级民主革命。这个革命只能由和必须由无产阶级（通过中国共产党）领导，才能取得民主革命的彻底胜利，并由民主革命胜利地转变社会主义革命。(『辞海・歴史分冊(中国現代史)』) ⇨**13**

guòdù【过渡】過渡的である。移行する。¶～时期／過渡期。¶由手工业生产～到大工业生产／手工業生産から大規模工業生産へ移行する。

shēngchǎn zīliào【生产资料】〈経〉生産手段。

〔社会主义改造〕生産手段の私的所有を廃止し，公有制への転換を図って展開された政策。中国は人民共和国成立の初期には新民主主義を掲げ，資本主義を性急になくすべきではないとした。しかし，

内外の政治情勢は急速に変化し,生産手段の公有化が一挙に進められ,国民経済の社会主義的改造は 1956 年には基本的に完了したと宣言された。こうした過度に急速な経済構造の変化は,きわめて中央集権化した経済管理体制をもたらし,経済の合理的な運営を妨げることになった。…社会主義的改造は,農業の集団化,資本主義的工商業の“公私合営”化,手工業の協同経営化の“3 大改造”として進められた。…(『岩波現代中国事典』)

bōxuē【剥削】搾取(する)。搾り取る。

lǐngdǎo【领导】(1) 指導(する)。(2) 指導者。 ※『比較』领导:指导 :hǐdǎo (1) “领导”は率いることに重点があり,“指导”は教え導くことに重点がある。(2) “领导”は大きく全面的に責任を負う事柄について用いることが多く,“指导”は大きく全面的なことにも,具体的で小さなことにも用いられる。(3) “领导”は名詞として「指導者」を意味し,“他是我们的领导”と言えるが,“指导”は名詞として指導者の意味はなく,“热心的”とか“周密的”とかの修飾を受けるだけである。

〔領導と指導〕中国語では通常、「領導」は「指導」にくらべて強制力をともなうものとされている。(毛里和子『現代中国を読む』39頁)

:huān:hèng【专政】〈政〉独裁。独裁政治。¶无产阶级 jiējí ～/プロレタリア独裁。

〔霸权主义〕1970·80 年代に米ソ,とりわけ後者の対外膨張的傾向を批判するのに用いられた語。…75 年憲法には反覇権が明記されており,当時の中国外交にとっては反覇権は原則にかかわる問題であった。72 年日中共同声明発表,(⇨7) 78 年日中平和友好条約締結時にも,反覇権条項を盛り込むか否かで交渉が難航した。(『岩波現代中国事典』)

tiǎoxìn【挑衅】挑発(する)。因縁をつける。けんかを売る。戦争をしかける。¶战争～/戦争挑発。¶提出～性问题/挑発的な問題を出す。

xiǎnzǔ【险阻】険阻である。険しい。¶不畏 wèi 艰难 jiānnán ～／困難と危険を恐れない。

〔自力更生〕中国社会主義を特徴づける経済建設スローガン。もと抗日戦争の中で芽生えたもので,毛沢東が英米の対中援助ルートであるビルマ·昆明ルートに関し“自力更正を主としつつ,外国援助を利用する”という方針を提唱したことに由来する。建国後,中ソ対立が顕在化した1960年代以降,経済建設の主要方針として“自力更正”が強調されるようになった。国家の独立と主権の尊厳を求めて,資金,技術,資源などを外国に依存しないというもの。…(『岩波現代中国事典』)

〔四个现代化〕国民経済の工業,農業,国防,科学技術の4分野の近代化。1954年9月の第1期全国人民代表大会第1回会議で周恩来が農業,工業,交通運輸,国防の近代化を述べたのが最初である。…4つの近代化が国の最重要課題として提起されるようになったのは,77年の中国共産党第11回党大会以降のことであり,鄧小平は翌79年12月に,3段階よる近代化構想を打ち出した。(⇨**6**) …(『岩波現代中国事典』)

*　　*　　*

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó chénglì yǐhòu, wǒ guó shèhuì zhúbù shíxiàn le yóu Xīn-Mínzhǔzhǔyì dào shèhuì zhǔyì de guòdù. Shēngchǎn zīliào sīyǒuzhì de shèhuì zhǔyì gǎizào yǐjing wánchéng, rén bōxuē rén de zhìdù yǐjing xiāomiè, shèhuì zhǔyì zhìdù yǐjing quèlì. Gōngrén jiējí lǐngdǎo de、yǐ gōng-nóng lián-méng wéi jīchǔ de rénmín mínzhǔ zhuānzhèng, shízhì shang jí wúchǎn jiējí zhuānzhèng, dédào gǒnggù hé fāzhǎn. Zhōngguó rénmín hé Zhōngguó Rénmín Jiěfàng-jūn zhànshèng le dìguó zhǔyì、bàquán zhǔyì de qīnlüè、

pòhuài hé wǔzhuāng tiǎoxìn, wéihù le guójiā de dúlì hé ānquán, zēngqiáng le guófáng. Jīngjì jiànshè qǔdé le zhòngdà de chéngjiù, dúlì de、bǐjiào wánzhěng de shèhuì zhǔyì gōngyè tǐxì yǐjing jīběn xíngchéng, nóngyè shēngchǎn xiǎnzhù tígāo. Jiàoyù、kēxué、wénhuà děng shìyè yǒu le hěn dà de fāzhǎn, shèhuì zhǔyì sī·xiǎng jiàoyù qǔdé le míngxiǎn de chéngxiào. Guǎngdà rénmín de shēnghuó yǒu le jiào dà de gǎishàn.

Zhōngguó Xīn·Mínzhǔzhǔyì Gémìng de shènglì hé shèhuì zhǔyì shìyè de chéngjiù, dōu shì Zhōngguó Gòngchǎndǎng lǐngdǎo Zhōngguó gè zú rénmín, zài Mǎkèsī·Liéníng Zhǔyì、Máo Zédōng Sīxiǎng de zhǐyǐn xià, jiānchí zhēnlǐ, xiūzhèng cuòwù, zhànshèng xǔduō jiānnán xiǎnzǔ ér qǔdé de. Jīnhòu guójiā de gēnběn rènwu shì jízhōng lìliang jìnxíng shèhuì zhǔyì xiàndàihuà jiànshè. Zhōngguó gè zú rénmín jiāng jìxù zài Zhōngguó Gòngchǎndǎng lǐngdǎo xià, zài Mǎkèsī·Liéníng Zhǔyì、Máo Zédōng Sīxiǎng zhǐyǐn xià, jiānchí rénmín mínzhǔ zhuānzhèng, jiānchí shèhuì zhǔyì dàolù, búduàn wánshàn shèhuì zhǔyì de gè xiàng zhìdù, fāzhǎn shèhuì zhǔyì mínzhǔ, jiànquán shèhuì zhǔyì fǎzhì, zìlì gēngshēng, jiānkǔ fèndòu, zhúbù shíxiàn gōngyè、nóngyè、guófáng hé kēxué jìshù de xiàndàihuà, bǎ wǒ guó jiànshè chéngwéi gāodù wénmíng、gāodù mínzhǔ de shèhuì zhǔyì guójiā.

* * *

中華人民共和国の成立以後，わが国の社会は新民主主義から社会主義への移行を次第に実現した。生産手段の私有制に対する，

社会主義改造は既に完成し，**人が人を搾取する制度**は消滅し，社会主義制度が確立した。労働者階級の主宰する，労農同盟を基礎とした人民民主主義独裁，すなわち実質上の無産階級独裁は，強固になり，発展した。中国の人民および中国人民解放軍は，帝国主義と覇権主義の侵略，破壊および武力挑発に打ち勝ち，国家の独立と安全を維持・保護し，国防を強化した。経済建設は大きな成果をおさめ，独立的および比較的完成した社会主義の工業体系は既に基本的に成立し，農業生産も顕著に高まった。教育，科学，文化などの事業は大きな発展をとげ，社会主義の思想教育は，顕著な成果をおさめた。広範な人民の生活は，かなり改善された。

中国の新民主主義革命の勝利と社会主義事業の成果は，すべて，**中国共産党に主宰された中国の各民族の人民が**，マルクス・レーニン主義，毛沢東思想の指示・導引の下に，真理を堅持し，錯誤を是正し，多くの困難と障害に打ち勝って獲得したものである。**わが国はいま社会主義の初期段階にある。**国家の基本的任務は，全力をあげて社会主義現代化の建設を進めることである。中国の各民族の人民は，引続き中国共産党の主宰の下に，マルクス・レーニン主義，毛沢東思想の導きで，人民民主独裁を堅持し，社会主義の道を堅持し，**改革開放を堅持し**，社会主義の諸制度を絶えず改善し，社会主義の民主を発展させ，社会主義法制を健全化し，自力更生と刻苦奮闘で工業，農業，国防および科学技術の現代化を次第に実現し，わが国を**富強・民主・文明をそなえた**社会主義国家に築き上げるであろう。

◇樋口陽一・吉田善明編『解説・世界憲法集』第3版，三省堂，1994年，263頁（ポール・チェン訳）。

◆「**中国共産党に主宰された中国の各民族の人民が，**」（意訳）⇨

「中国共産党が中国の各民族の人民を指導し，彼らが，」（兼語文）

◆「わが国はいま社会主義の初期段階にある。」⇨【憲法改正の内容】を参照（「今後の」）

◆「改革開放を堅持し，」⇨【憲法改正の内容】を参照

◆「富強・民主・文明をそなえた」⇨「高度の文明と高度の民主をそなえた」

【人剥削人的制度】

「人が人を搾取する制度」とは階級社会のこと（制度は「社会制度」）。マルクス主義において，人類社会の発展を原始共産制社会→階級社会と捉え，階級社会は 1)古代奴隷社会，2)中世封建社会，3)近代資本主義社会の順に展開すると理解する。そして階級社会における基本的性質を支配階級による被支配階級に対する搾取とする観点（奴隷主と奴隷，領主と農奴，ブルジョアジーとプロレタリアート）から，プロレタリア階級（とその前衛たる共産党）による権力の奪取（社会主義革命）が構想された。

【憲法改正の内容】

①88 年改正：87 年の第 13 回党大会で，中国の社会主義が初級段階にあるという認識が示され，商品経済が容認されたことを受けて，88 年の 7 期全国人民代表大会第 1 回会議で 2 つの条文（土地所有権の譲渡；私営経済の公認）が改正された。②93 年改正：経済改革の進展に対応して，第 13 回党大会では社会主義の経済システムが計画経済から商品経済へと転換したが，92 年の第 14 回党大会ではさらに市場経済へと移行することになった。これに合わせて憲法の序文の一部と 7 つの条文が改正された。序文では，80 年代の改革を反映させて，中国が社会主義の初級段階にあること，中国の特色を持つ社会主義建設を進めること，そのために改革と開放の政策を維持することなどが追加された。③99 年改正：99 年の改正点のうち，大半の内容は 92 年の党大会で提示されたものであり，特に目新しい問題は含まれていないが改革・開放の一層の進展を確認したものといえよう。〔序文の修正〕社会主義の初級段階が長期に及ぶことが明らかにされ，社会主義市場経済を発展させる方針が序文にも追加された。また，中国共産党の指導が，マルクス・レーニン主義，毛沢東思想に加えて，鄧小平理論にも基づくと規定された。（『岩波現代中国事典』267 頁）

1981

5　毛沢東評価の確定

80年2月，中共の11期5中全会は，劉少奇の名誉回復と，汪東興・呉徳・陳錫聯・紀登奎ら「新4人組」の中央政治局員の解任を決議し，胡耀邦を総書記に選出したが，同時に75年の憲法以来うたわれてきた「4大自由」すなわち，大鳴・大放（おおいに意見をだし，大いに討論を交す）と大字報（壁新聞）・大弁論の権利を憲法から削除することが決められた。同年8月，華国鋒は第5期第3回全人代でついに総理の職を辞し，その職を鄧小平派の趙紫陽に譲った。いまや「内濠」を埋められた華に，軍と旧修正派は四人組および林彪派の公開裁判を迫った。12月からはじまった審理において，いまは亡き毛沢東主席に忠実であったことを誇りに毅然としていた江青や張春橋，改俊の情著しい姚文元と王洪文など，その態度に差はあったものの，いずれも毛の「忠臣」であった彼ら4人組と，「毛沢東暗殺」を企てたとされる「逆臣」・林彪の徒党とが1つの法廷において一括して裁かれたのである。

いまや敗者となった華国鋒は，81年6月，彼の名義で召集する最後の中共中央委員総会，11期6中全会を開いた。6中全会は，鄧小平が下書きをした「建国以来の党の若干の歴史的問題についての決議」を満場一致で採択した。同決議は，公式文献においてははじめて「大躍進」以来の毛沢東の指導に生じた「誤り」を指摘し，10年間の「文化大革

命」を「指導者がまちがってひきおこし，それが反革命集団に利用されて，党と国家と各民族人民に大きな災難をもたらした内乱である」と総括した。「決議」は，他方で，毛の功績は，「過ちをはるかにしのいでいる」と指摘し，「毛沢東思想」は依然「わが党の貴重な精神的財産である」と述べていたが，「毛沢東の個人崇拝の行なわれていた時代」という意味に限定するなら，「毛沢東の時代」はたしかにこの6中全会をもって完全に終焉に達したということができる。かくて，この動乱に満ちた一時代の野辺送りをすませた華国鋒は，党主席の座をいまや鄧小平の片腕たる胡耀邦に空け渡して，歴史の舞台から立ち去ったのである。

中共はかつて45年4月の6期7中全会において「若干の歴史的問題についての決議」を発表している。それは，直後の7全大会で公式に確立された「毛沢東路線」の観点に立ち，20年代の国民革命より40年代の整風運動までの党史・革命史を総括したものであり，新中国成立より「文革」期までのあいだに書かれた党史・革命史・現代史の類いが規準とした，叙述上の典拠をなすものであった。以来，星霜をへること37年，党史に関する2度目の決議がなされた。(今井駿ほか『中国現代史』山川出版社，1984年，386-388頁)

（19）一九六六年五月至一九七六年十月的“文化大革命”，使党、国家和人民遭到建国以来最严重的挫折和损失。这场“文化大革命”是毛泽东同志发动和领导的。…

（22）对于“文化大革命”这一全局性的、长时间的左倾严重错误，毛泽东同志负有主要责任。但是，毛泽东同志的错误终究是一个伟大的无产阶级革命家所犯的错误。毛泽东同志是经常注意要克服我们党内和国家生活中存在着的缺点的，但他晚年对许多问题不仅没有能够加以正确的分析，而且在“文化大革命”中混淆了是非和敌我。他在犯严重错误的时候，还多次要求全党认真学习马克思、恩格斯、列宁的著作，还始终认为自己的理论和实践是马克思主义的，是为巩固无产阶级专政所必需的，这是他的悲剧所在。他在全局上一直坚持“文化大革命”的错误，但也制止和纠正过一些具体错误，保护过一些党的领导干部和党外著名人士，使一些负责干部 重新回到重要的领导岗位。他领导了粉碎林彪反革命集团的斗争，对江青、张春桥等人也进行过重要的批评和揭露，不让他们夺取最高领导权的野心得逞。这些

都对后来我们党顺利地粉碎“四人帮”起了重要作用。…

◇《关于建国以来党的若干历史问題的决议（一九八一年六月二十七日中国共产党第十一届中央委员会第六次全体会议一致通过）》（《解放军报》1981.7.1）。
◆《中共中央综合性文集》（《中国革命史档案文献光盘库》A-1），《新华月报》(B-49)，《红旗》(B-57)。
◆《中国共产党文献资料库》。

〔毛泽东〕1893-1976 中国の政治家。中国共産党を指導して中華人民共和国を樹立し，その最高指導者となった。湖南省湘潭の人。1921年，党結成大会に参加，国共合作下で農民運動講習所を主宰した。28年，井崗山で朱徳とともに紅軍を創設し，31年に中華ソヴェト共和国政府主席となった。長征では紅軍を陝西省北部へ導いた。日中戦争期に「矛盾論」「持久戦論」「新民主主義論」を執筆し，中国革命論を体系化した。党内における毛の指導権は40年代前半の整風運動によって確立したが，党の公式的理論体系として51年から『毛沢東選集』が公刊された。50年代末以降，中国型社会主義を推進，66年には文化大革命を発動した。彼は，農民革命方式を編み出しそれを革命論に体系化することによって，アヘン戦争以来の列強への従属から中国を解放したが，その一方で晩年の試みは中国社会に膨大な損失を与えた（『角川世界史辞典』稿）。

〔发动〕「発動」は，「大衆を発動する」，「農民を発動する」という形で使われ，『毛沢東選集』では，「立ち上がらせる」と訳している。「発動」は，政治的に覚醒させる，政治化させる，政治的信念を転換させる，といった意味で使われ，具体的には，中共に対する積極的支持の信念をもたせること，中共革命にコミットさせることを意味する。したがって，いったん発動された大衆は，継続的に中共の指導に従い，中共が望む行動をとるのであり，大衆発動

は，その地域における中共の権力基盤強化に不可欠なのである。このため，発動は中共革命のキーワードともいうべき，重要な概念であるが，簡潔な日本語には置き換えにくいことばである(田中恭子『土地と革命—中国の農村革命』名古屋大学出版会，1996年，24-25頁)。

〔斗争〕大衆発動は，闘争を通じておこなわれることが多いが，その「闘争」も，日本語のこの語が意味するものとはかなりちがう。それは，たんなる抽象的な概念ではなく，中共革命推進の独特の方法，手法である。すなわち「闘争」とは，中共にとって好ましくない少数者を「闘争対象」とし，これを「闘争会」あるいは「闘争大会」に引き出して，多数の参加者が告発・糾弾（闘争）することをいう。暴力が用いられることもある。「闘争」方式は，階級闘争の具体化と考えられ，妥協の余地ないし必要のない対象（階級敵）に適用される。闘争の基本的な目的は，闘争対象の打倒であるが，参加者の発動や政治意識の向上も重要な目的のひとつである（田中恭子『土地と革命』25頁)。

zuǒqīng【左傾】(1) 左傾した。左翼の。革命的な。(2)「左」翼的（な)。政治的活動において急進的・妄動的であること。¶～机会主义／左翼日和見主義。▼真の左翼ではないというニュアンスを表すため，普通“ ”をつけて表記することが多い。¶“左”倾教条主义者／「左」翼教条主義者。

zhōngjiū【终究】〔副詞〕結局のところ。最後には。ひっきょう。しょせん。¶失足青年经过耐心教育，～会走上自新的道路／過ちを犯した若者も辛抱強く教育してやれば，最後には新しい道を歩んでいくだろう。

hùnxiáo【混淆】入り混じる。¶颠倒 diāndǎo 是非，～黑白／是非を転倒し，黒白を混同する。

suǒzài【所在】ありか。…のあるところ。…のよってくるところ。¶他一看病人，就知道病因 bìngyīn ～／彼は病人を見ただけで，病因がどこにあるか分かる。

〔干部〕日本語の「幹部」は，「組織の主要な構成員，中核となる構成員」という意味であるが，中共用語としての「幹部」は，中共政権における一定の裁量権をもつ公務員を指す。元来は，cadreの訳語として使われたので，その意味では，日本語の「幹部」に近い。現在の中国では，「お役人」といった意味で使われている。40 年代には，中共地区において，政権機構のどこかの部分で，一定の裁量権をもつ職についている者を「幹部」とよんだ。管理職といってもよいが，革命遂行政権であるから，日本の管理職のイメージとは，かなりギャップがある。なお，軍の場合には，「幹部」とは将校のことである（田中恭子『土地と革命』24 頁）。

gǎngwèi【岗位】（1）兵士や巡査の受け持ちの位置。¶战士们握紧 wǒjin 了枪，站在自己的～上／戦士たちは銃を握りしめて自分の守備位置についている。（2）持ち場・職場・部署など。¶走上新的～／新しいポストにつく。

〔林彪〕（1908·71）元中国共産党中央副主席・国防相・元帥。湖北省黄岡県出身。17 歳で黄埔軍官学校に入学，戦略家としての素養をみがいた。長征に第 1 軍団長として参加，抗日戦では日本の精鋭板垣師団 21 旅団を撃破，「常勝将軍」の異名をとった。その後，第 4 野戦軍司令官として国民党との戦争に数々の武勲をたて，新中国成立後，副首相，国防委副主席に就任。58 年の 8 期 5 中全会で中共中央副主席に昇任。文革では赤い「毛主席語録」をふって，毛沢東の神格化につとめ，69 年 4 月の第 9 回党大会採択の党規約で「親密な戦友」として毛沢東の後継者に指名された。しかし 2 年後の 71 年 9 月，毛沢東暗殺に失敗，飛行機で逃亡中，妻の葉群，息子の林立果とともにモンゴルで墜死した。➲中国側発表の「林彪事件」には多くのなぞがあり，陳伯達が失脚した廬山事件の黒幕であったことを毛沢東に知られて暗殺を図った，などと話題になっている。英: Lin Biao; Lin Piao（『最新中国情報辞典』）

pīpíng【批评】（1）批判(する)。批評(する)。（2）相手の欠点や誤りを

指摘して意見をする。しかる。叱責。批判。 ※日本語の「批評」とはニュアンスが異なり,非難する意味合いが強い。名詞用法のときは pīping と発音することが多い。

jiēlù【揭露】あばき出す。明るみに出す。さらけ出す。指摘する。¶～矛盾／矛盾をあばき出す。¶～问题的实质／問題の本質を指摘する。

dé//chéng【得逞】〈貶〉思いどおりになる。目的を達する。¶他们的阴谋没能～／彼らの陰謀は目的を達せられなかった。

*　*　*

(19) Yījiǔliùliù nián wǔ yuè zhì yījiǔqīliù nián shí yuè de "Wénhuà Dàgémìng", shǐ dǎng、guójiā hé rénmín zāodào jiànguó yǐlái zuì yánzhòng de cuòzhé hé sǔnshī. Zhè cháng "Wénhuà Dàgémìng" shì Máo Zédōng tóngzhì fādòng hé lǐngdǎo de. …

(22) Duìyú "Wénhuà Dàgémìng" zhè yī quánjú xìng de、cháng shíjiān de zuǒqīng yánzhòng cuòwù, Máo Zédōng tóngzhì fù yǒu zhǔyào zérèn. Dànshì, Máo Zédōng tóng-zhì de cuòwù zhōngjiū shì yí ge wěidà de wúchǎn jiējí gémìngjiā suǒ fàn de cuòwù. Máo Zédōng tóngzhì shì jīngcháng zhùyì yào kèfú wǒmen dǎng nèi hé guójiā shēnghuó zhōng cúnzài zhe de quēdiǎn de, dàn tā wǎn-nián duì xǔduō wèntí bùjǐn méiyǒu nénggòu jiāyǐ zhèngquè de fēnxī, érqiě zài "Wénhuà Dàgémìng" zhōng hùnxiáo le shìfēi hé díwǒ. Tā zài fàn yánzhòng cuòwù de shíhou, hái duō cì yāoqiú quán dǎng rènzhēn xuéxí Mǎkèsī、Ēngēsī、Lièníng de zhùzuò, hái shǐzhōng rèn-wéi zìjǐ de lǐlùn hé shíjiàn shì Mǎkèsī zhǔyì de, shì wèi gǒnggù wúchǎn jiējí zhuānzhèng suǒ bìxū de, zhè

shì tā de bēijù suǒzài. Tā zài quánjú shàng yìzhí jiānchí "Wénhuà Dàgémìng" de cuòwù, dàn yě zhìzhǐ hé jiūzhèng guò yìxiē jùtǐ cuòwù, bǎohù guò yìxiē dǎng de lǐngdǎo gànbù hé dǎng wài zhùmíng rénshì, shǐ yìxiē fùzé gànbù chóngxīn huí dào zhòngyào de lǐngdǎo gǎngwèi. Tā lǐngdǎo le fěnsuì Lín Biāo fǎn gémìng jítuán de dòuzhēng, duì Jiāng Qīng、Zhāng Chūnqiáo děng rén yě jìnxíng guò zhòngyào de pīpíng hé jiēlù, bú ràng tāmen duóqǔ zuìgāo lǐngdǎoquán de yěxīn déchěng. Zhèxiē dōu duì hòulái wǒmen dǎng shùnlì de fěnsuì "Sìrénbāng" qǐ le zhòngyào zuòyòng.

*　　*　　*

(19) 1966年5月から1976年10月にいたる**「文化大革命」によって，党と国家と人民は建国いらい最大の挫折と損失をこうむった。**この「文化大革命」は毛沢東同志が起こし，指導したもので〔ある〕。…

(22)「文化大革命」というこの全局的な，長期にわたる左よりの重大な誤りについては，毛沢東同志に主な責任がある。しかし，毛沢東同志の誤りは，究極的には偉大なプロレタリア革命家の犯した誤りであった。毛沢東同志は，わが党内と国家活動に存在する欠点の克服に日頃から意をそそいでいたが，晩年には多くの問題を正しく分析することができなくなったはかりか，「文化大革命」では是非を混同し，敵味方を混同するようになった。**毛沢東同志は重大な誤りを犯しながらも**，全党がマルクス，エンゲルス，レーニンの著作を真剣に学ぶことをしばしば要求し，自分の理論と実践はマルクス主義にもとづくもので，プロレタリアート独裁をうち固めるうえには欠かせないと一貫して考えていた。ここに

かれの悲劇がある。毛沢東同志は全局的には「文化大革命」の誤りをずっとつづけていたが，一部の具体的誤りにたいしてはこれを制止し，是正し，党の一部の指導的幹部と党外の一部の知名人を保護し，一部の指導的幹部をふたたび重要な指導的ポストにつけた。かれは林彪反革命集団を粉砕する闘争を指導し，江青，張春橋らにたいしても重要な批判と摘発をおこない，最高指導権をのっとろうとするかれらの野望を実現させなかった。こうしたことは，のちにわが党が「四人組」を首尾よく粉砕するうえで重要な役割を果たすことになった。…

◇『中国共産党の歴史についての決議』外文出版社，1981年，31，39-40頁。

◆「**“文化大革命”によって，党と国家と人民は建国いらい最大の挫折と損失をこうむった。**」(意訳)⇨「“文化大革命”は，党と国家と人民に建国いらい最大の挫折と損失をこうむらせた。」(使役文)

◆「**毛沢東同志は重大な誤りを犯しながらも，**」⇨「重大な誤りを犯した時期において，毛沢東同志は，」

【歴史決議】

① 3 中全会直後の中国の課題は，一面で政治経済両面における改革・開放を進めるとともに，他面で，文化大革命，毛沢東評価等の過去の問題に決着を付けることであった。それの代表的なものが劉少奇の名誉回復と「建国以来の党の若干の歴史的問題に関する決議」(「歴史決議」)であった。劉少奇は1968年の8期12中全会で「永遠に党を除名された」のであるが，80年の11期5中全会において完全に名誉を回復された。②毛沢東と文化大革命については，両者をともに完全否定する論調が多く発表されたが，1981年6月の「歴史決議」では，文革に対してははぼ完全否定であったものの，毛沢東個人については「功績 7分に過ち3分」という当時支配的な評価と一致していた。文革前の17年間を否定的に描くことは，復活した老幹部層にはできないことであった。この点，文革

前の 17 年を問題にする「思考する世代」とは異なっている。③「歴史決議」は，全体のスタイルとしては，フルシチョフのスターリン批判に反論した 1956 年 4 月と 12 月の，2 つの中国のスターリン評価である「プロレタリア独裁の歴史的経験について」と「再びプロレタリア独裁の歴史的経験について」に酷似している。スターリンを完全に否定することが，当時の中国政府の正統性根拠を揺るがすものであったためにできなかったとすれば，鄧小平の 57 年反右派闘争との関連を始め，多くの旧幹部が正しいと信じて関与した文革前の出来事を批判することはできなかったのである。なお，この文献は中国が「社会主義の初級段階」にあると指摘したことで，87 年以後の改革の理論的限拠を提供している。（岡部達味・天児慧編『原典中国現代史』第 2 巻（政治・下），岩波書店，1995 年，119-120 頁）

【解放軍報】について

人民解放軍機関紙。1956 年北京で創刊。解放軍総政治部の指導のもとに解放軍報社が編集，出版しており，軍指導部の政策・考え方を知るうえで最も重要なニュース・ソース。文化大革命期は 3 紙誌の 1 つとして全国的影響力があったが，その後は軍内に限定。各軍区，軍種，兵種に常駐記者を置き，軍内からも特約通信員，通信員を募る。67 年より日刊となり，当初は軍内向けのみだったが 87 年より国内外に公開発行となった。主な内容は党や政府，軍の命令・指示，国内外の政治・経済・政治・軍事に関するニュースや評論，軍の教育訓練・戦備・作戦の報道など。（『岩波現代中国事典』）

【紅旗】について

中国共産党中央委員会発行の政治理論誌。1958 年 6 月創刊，30 年間続き，88 年 6 月停刊。58 年の 8 期 5 中全会で毛沢東が理論と実際を結合した革命理論誌を発行することを提議し，創刊を決定した。最初，半月刊だったが，65 年から月刊となり，80 年半月刊に戻った。停刊後，その役割は『求是』に引き継がれた。（『岩波現代中国事典』）

■ 参考:『辞海·歴史分冊』の「毛沢東」叙述 ■

〔1980〕

1958 年，制定了鼓足干劲，力争上游，多快好省地建设社会主义的总路线，领导全国农村实现了人民公社化。1959 年辞去中华人民共和国主席职务，以便集中精力来处理党和国家的重大问题。1962 年，提出了以农业为基础，以工业为主导的发展国民经济总方针。1963 年，领导了城乡的社会主义教育运动。1966 年，发动了文化大革命。1971 年，领导全党粉碎了林彪反党集团。1974 年，提出关于三个世界的理论。

1976 年 9 月 9 日零时 10 分，毛泽东因病在北京逝世。

在半个多世纪中，毛泽东领导全党和全国各族人民，取得了新民主主义革命的彻底胜利，创建了中华人民共和国。建国以后，又领导全党和全国各族人民取得了社会主义革命和社会主义建设的伟大胜利。在中国革命的每一个历史阶段，毛泽东都写下了带有指导意义的重要文献，结集为《毛泽东选集》，已出版五卷。毛泽东把马克思列宁主义的普遍真理同中国革命的具体实践结合起来，在革命理论和革命实践上，为中国人民、为全世界无产阶级和革命人民立下了丰功伟绩，赢得我国人民和世界人民的爱戴和尊敬。

◇『辞海·歴史分冊（中国現代史）』上海辞書出版社，1980 年，183 頁；「毛沢東」の項目は 181-183 頁。

〔1984〕

正当全党面临着工作重心转向社会主义建设这一新任务因而需要特别谨慎的时侯，毛泽东的威望达到高峰。他逐渐骄傲起来，逐渐脱离实际和脱离群众，主观主义和个人专断作风日益严重。1958 年，毛泽东和其他领导同志轻率地发动了“大跃进”运动和农村人民公社化运动，使“左”倾错误严重地泛滥开来。同时，他在关于社会主义社会阶级斗争的理论和实践上的错误也发展得越

来越严重，1959 年中央政治局庐山会议后期错误地发动了对彭德怀的批判，进而在全党错误地开展了“反右倾”斗争。由于他在领导上的错误，再加上复杂的社会历史原因，在 1966 年发动和领导了“文化大革命”。对于这个全局性的、长时间的“左”倾严重错误，他负有主要责任。但他在晚年仍警觉地注意维护我国的安全，顶住了霸权主义的压力，执行正确的对外政策，坚决支援各国人民的正义斗争，并在 1974 年提出了划分三个世界的正确战略和我国永远不称霸的重要思想。

1976 年 9 月 9 日零时 10 分，毛泽东因病在北京逝世。

毛泽东对中国革命的功绩远远大于他的过失。他为中国共产党和中国人民解放军的创立和发展，为中国各族人民解放事业的胜利，为中华人民共和国的缔造和我国社会主义事业的发展，建立了永远不可磨灭的功勋。他为世界被压迫民族的解放和人类进步事业作出了重大贡献。主要著作编为《毛泽东选集》。

◇『辞海·歴史分冊(中国現代史)』1984 年, 236 頁;「毛沢東」の項目は 234-236 頁。

毛沢東主席の評価に変化 ■中国の辞典(「マルクス主義者」の記述消える)

【上海 5 日＝古谷浩一】中国で最も権威のある辞典「辞海」の 1999 年改訂版で,「毛沢東」主席の項に「マルクス・レーニン主義者」との記述が無くなった。一方で，新たに「鄧小平」氏の項が加わり，同氏を「共産党と中国の主要な指導者」とたたえた。中国紙は「毛主席の評価の変化に改革・開放の軌跡を見ることが出来る」と分析している。辞海は 36 年に上海で初版が出版されて以来，時代に合わせた改訂を繰り返してきた。今回の改訂は 89 年以来。題字は江沢民国家主席が書いており，現政権の意向が編集に反映しているとされる。79 年版で「偉大なるマルクス・レーニン主義者」「中国各民族人民の偉大な領しゅうであり指導者」だった毛主席は，89 年版で「偉大」の言葉が削られ，新版では「毛沢東思想の主要創造者」などの評価に変わった。(『朝日新聞』1999 年 11 月 6 日)

1978

6 「改革・開放」時代へ

周恩来死後（1976年1月8日），文革派「4人組」の側は，鄧小平勢力の増大を押さえるべく，76年3月末頃から上海『文匯報』などを通じて「走資派」批判を展開した。ところが，4月の清明節にかけて，北京の「人民英雄記念碑」（正面の献辞は毛沢東だが，裏側の献辞は周恩来の手になる）は周恩来への献花（花輪）で文字どおり埋めつくされ，4月7日，中央政治局は毛沢東の指示にもとづき，「天安門事件」は「反革命的政治事件」であるとした上で，鄧小平の解任と華国鋒（1921～）首相代理（2月就任）の首相昇任を決議した。7月6日，朱徳が90歳で死亡した。そして，9月9日，毛沢東は82歳で死去した。

巨大な後楯であった毛沢東の死は，文革4人組にとって決定的な弱点となった。10月6日夜，葉剣英（1897～1986）や華国鋒の指揮下に，4人組系の主要な人物はすべて逮捕され隔離審査に移された。7日，華国鋒が中共中央主席に就任した。

4人組に代表される文革政治の継続を断ち切るうえで重要な役割を果たした華国鋒は，天安門事件の名誉回復には消極的であった。しかし，78年5月からの「実践は真理を検証する唯一の基準である」とするキャンペーンは，文革および毛沢東への個人崇拝からの解放を意図するものであった。それはなお文革政治を維持する勢力への批判でもあ

った。経済の面でも，78 年後半期は，過剰投資と国民収入に対する蓄積率が 36.7%に達する状況となっていた。これらが華国鋒政治の基盤をゆるがしていた。また，文革終結後の中国社会のある種の解放感は，しだいに民衆の政治的活動を生みだし，78 年半ばから北京の西単の壁に大字報が貼りだされ，さまざまな政治的要求がかかげられた。

華国鋒に対する批判は，78年12月に開催された中共第11期3中全会で公然化し，今日の中国で「3中全会以来」といわれる中国政治の戦略的転換がはかられた。思想路線において「実事求是」をかかげ，政治路線では57年以来の「階級闘争論」と文革期の「プロレタリア独裁下の継続革命論」を放棄し，人民の生活改善要求に応える政策を決定した。党の組織路線でも，天安門事件を革命的行動として平反（誤った判決または政治上の結論を改めること）し，59年の彭徳懐批判なども誤りとして平反された。

3中全会の決定の1つに，「階級闘争を大綱とする」スローガンの放棄があり，これは中国社会主義建設全体の方向にかかわる重要な転換であった。それまでの 20 年間（1957～76）は社会的に非常な緊張状態にあったといえよう。こうしたいわば革命の時代の社会の全般的枠組とその思想体系を「革命パラダイム」と呼ぶとすれば，76 年 10 月の「4人組」打倒以後，しだいにその転換がはかられ，台湾や香港などをも含んだ，広範な対外的対内的統一戦線を「愛国統一戦線」として定式化したのである。こうした枠組は，もはや「革命パラダイム」ではなく，「振興中華パラダイム」の樹立と呼ぶほうが適切であろう。（池田誠ほか『図説中国近現代史（新版）』法律文化社，1993 年，196, 200, 214 頁）

（一）

全会一致同意华国锋同志代表中央政治局所提出的决策，现在就应当适应国内外形势的发展，及时地、果断地结束全国范围的大规模的揭批林彪、“四人帮”的群众运动，把全党工作的着重点和全国人民的注意力转移到社会主义现代化建设上来。这对于实现国民经济三年、八年规划和二十三年设想，实现农业、工业、国防和科学技术的现代化，巩固我国的无产阶级专政，具有重大的意义。我们党所提出的新时期的总任务，反映了历史的要求和人民的愿望，代表了人民的根本利益。我们能否实现新时期的总任务，能否加快社会主义现代化建设，并在生产迅速发展的基础上显著地改善人民生活，加强国防，这是全国人民最为关心的大事，对于世界的和平和进步事业也有十分重大的意义。实现四个现代化，要求大幅度地提高生产力，也就必然要求多方面地改变同生产力发展不适应的生产关系和上层建筑，改变一切不适应

的管理方式、活动方式和思想方式，因而是一场广泛、深刻的革命。…

（三）

会议指出：一九七五年，邓小平同志受毛泽东同志委托主持中央工作期间，各方面工作取得很大成绩，全党全军和全国人民是满意的。邓小平同志和中央其他领导同志一道，按照毛泽东同志的指示，对“四人帮”的干扰破坏进行了针锋相对的斗争。…会议指出：一九七六年四月五日的天安门事件完全是革命行动。以天安门事件为中心的全国亿万人民沉痛悼念周恩来同志、愤怒声讨“四人帮”的伟大革命群众运动，为我们党粉碎“四人帮”奠定了群众基础。全会决定撤销中央发出的有关“反击右倾翻案风”运动和天安门事件的错误文件。

会议审查和纠正了过去对彭德怀、陶铸、薄一波、杨尚昆等同志所作的错误结论，肯定了他们对党和人民的贡献。…

◇《中国共产党第十一届中央委员会第三次全体会议公报（一九七八年十二月二十二日通过）》（《人民日报》1978.12.24）。
◆《中共中央综合性文集》（《中国革命史档案文献光盘库》A·1），《新华月报》(B·48)，《红旗》(B·57)。
◆《中国共产党文献资料库》。

jiēpī【揭批】（罪状を）摘発して批判する。¶～四人帮罪行 zuìxíng／四人組の罪状を暴いて批判する。

〔国民经济三年、八年规划和二十三年设想〕1977年12月11日．中共中央、国务院召开全国计划会议。会议研究了加快国民经济发展速度问题．拟定了1978年国民经济计划．讨论了第五个五年计划后三年的安排和"六五"计划的轮廓．展望了本世纪末实现四个现代化的远景。提出今后二十三年的初步设想：在经济上分三个阶段．打几个大战役．使农业每年以百分之四至五、工业每年百分之十以上的速度．持续地、大步地前进（『中華人民共和国経済大事記（1949年10月·1984年9月）』北京出版社，1985年，453·454頁）。

〔同生产力发展不适应的生产关系和上层建筑〕
⇨【唯物史観の公式】

gānrǎo【干扰】（人を）邪魔（する）。妨げる。妨害（する）。¶排除～／妨害を排除する。

zhēn fēng xiāng duì【针锋相对】〈成〉針の先が向かい合う。真っ向から対決する。鋭く対立する。¶给以～的回击／真っ向から反論する。

〔"反击右倾翻案风"运动〕（1975年後半·1976年の鄧小平批判）(1) 1975年，毛沢東は，鄧小平を党中央副主席，国務院第一副総理，軍総参謀長に任命し，中央の日常的指導権を委ねた。(2) 鄧小平が整頓政策を打ち出して文革路線の是正を積極的に推進したことは，「4人組」の反発と毛沢東の不満を招いた。(3) 毛沢東は，「7割は正しいが3割は問題がある」という評価を盛り込んだ文化大革命に関する決議を採択し，鄧小平主導で意思の統一を図ろうと考えた。鄧小平がこれを拒絶したため，毛沢東との対立は決定的に

なった。(4) 毛沢東は，1975年後半から「反右傾翻案風」キャンペーンを発動し，さらに1976年4月の天安門事件において鄧小平のすべての公職を剥奪した（唐亮「現代中国の政治権力闘争年表」，『現代中国研究』第3号，44頁）。

shēngtǎo【声讨】糾弾する。（罪状を）公に非難する。¶憤怒 fènnù ～恐怖集団的罪行 zuìxíng ／テロ集団の犯罪行為を怒りをこめて糾弾する。

diàndìng【奠定】定める。打ち立てる。かためる。¶～基础 jīchǔ ／基礎を定める。

〔彭徳懐反党集団の摘発と反右傾闘争〕（1959年7月·1960年）(1) 廬山会議で，彭徳懐は，大躍進政策の失敗を厳しく批判するとともに毛沢東の責任にも言及した。7月13日，彭は毛に書簡を送り，左傾路線の是正を求めた。これに対して，多くの指導者は彭徳懐の意見に同調した。(2) 7月23日，毛沢東は，彭徳懐書簡を右傾日和見主義の反党綱領と規定して厳しく批判するとともに，彭徳懐，黄克誠，張聞天，周小舟等の「反党集団」を断罪した。(3) 8期8中全会以後，反右傾闘争は全国的に展開され，365万人の幹部が批判，処分された。(4) 大躍進政策の是正が反右傾闘争によって遅れ，中国経済は崩壊の道をたどった（唐亮「現代中国の政治権力闘争年表」43頁）。

〔劉少奇・鄧小平・陶鋳の打倒〕（1966年·1969年）(1) 1962年以降，劉少奇，周恩来，鄧小平等が調整政策を推進して急進政策の是正を行ったことに，毛沢東は不満をもっていた。(2) 1962年後半，党中央によって社会主義教育運動が開始された。この進め方をめぐって毛沢東と劉少奇の対立が生じ，1964年12月の中央工作会議において，両者の見解がぶつかり激論となった。(3) 1966年，毛沢東は文化大革命を発動した。これに対して，劉少奇と鄧小平は各大学に工作組を派遣して運動を制御しようとした。毛沢東は，工作組派遣を革命運動に対する鎮圧であると厳しく批判し，権力の改組を断行した。(4) 毛沢東は，劉少奇，鄧小平等を，ブルジ

ョア路線を歩む実権派であると断罪し，彼らを失脚させた。さらに毛は，実権派の支持基盤をほり崩すために大衆を発動し，多くの指導者と幹部を失脚させた。(5)陶鋳は文化大革命初期に重用されたが，毛沢東の文革路線について行けず，失脚した。(6) この権力闘争は長期にわたって全国民を巻き込み，既成秩序を破壊し，政治，社会と経済に甚大な損害を与えた（唐亮「現代中国の政治権力闘争年表」44 頁)。

〔薄一波批判〕(1953 年) (1) 薄一波・財政部長が独断で導入した新税制は，毛沢東の厳しい批判と地方指導者の反発を招いた。(2) 高崗と饒漱石は，事件を利用して，全国財政会議で薄一波と劉少奇を攻撃した。(3)薄一波は自己批判して財政部長を解任されたが，高崗・饒漱石事件後に復活した(唐亮「現代中国の政治権力闘争年表」42 頁)。

〔彭・羅・陸・楊反党集団の摘発〕(1965 年後半·1966 年 6 月) (1) 1965 年，毛沢東は，江青，陳伯達，康生，張春橋等の左派グループ，林彪の軍人グループを 2 大支持勢力として文化大革命の準備を開始した。(2) 毛沢東は姚文元の「新編歴史劇《海瑞罷官》を評す」を文化大革命発動の突破口にしようとしたが，イデオロギー担当の彭真・中央政治局委員兼中央書記処書記，北京市長はこれに抵抗した。また林彪は，羅瑞卿・中央書記処書記兼軍総参謀長が彼の指示に異論をもっていたことに不満であった。毛沢東は，陸定一が部長を務める中央宣伝部を「伏魔殿」と批判した。これに加えて，陸定一夫人が林彪夫人の男女問題を暴露したことが，林彪を怒らせた。さらに，楊尚昆・中央書記処書記候補兼中央辦公庁主任は劉少奇に近い人物であり，毛沢東の談話を本人の承諾なしに録音した「盗聴事件」の責任者であった。(3) 4 人はいずれも失脚したが，彼らは必ずしも同じ派閥に属してはいなかった。ただ，文化大革命発動の障碍になっていたという点で共通していた。この彭・羅・陸・楊反党集団の摘発は，文化大革命の序幕であった（唐亮「現代中国の政治権力闘争年表」43·44 頁)。

* * *

(1)

Quánhuì yízhì tóngyì Huà Guófēng tóngzhì dàibiǎo Zhōngyāng Zhèngzhìjú suǒ tíchū de juécè, xiànzài jiù yīngdāng shìyìng guónèi-wài xíngshì de fāzhǎn, jíshí de、guǒduàn de jiéshù quánguó fànwéi de dà guīmó de jiēpī Lín Biāo、"Sìrénbāng" de qúnzhòng yùndòng, bǎ quán dǎng gōngzuò de zhuózhòngdiǎn hé quánguó rénmín de zhùyìlì zhuǎnyí dào shèhuì zhǔyì xiàndài-huà jiànshè shàng lái. Zhè duìyú shíxiàn guómín jīngjì sān-nián、bā-nián guīhuà hé èrshísān-nián shèxiǎng, shíxiàn nóngyè、gōngyè、guófáng hé kēxué jìshù de xiàndàihuà, gǒnggù wǒ guó de wúchǎn jiējí zhuānzhèng, jùyǒu zhòngdà de yìyì. Wǒmen dǎng suǒ tíchū de xīn shíqī de zǒng rènwu, fǎnyìng le lìshǐ de yāoqiú hé rénmín de yuànwàng, dàibiǎo le rénmín de gēnběn lìyì. Wǒmen néng fǒu shíxiàn xīn shíqī de zǒng rènwu, néng fǒu jiākuài shèhuì zhǔyì xiàndàihuà jiànshè, bìng zài shēngchǎn xùnsù fāzhǎn de jīchǔ shàng xiǎnzhù de gǎishàn rénmín shēnghuó, jiāqiáng guófáng, zhè shì quánguó rénmín zuì wéi guānxīn de dàshì, duìyú shìjiè de hépíng hé jìnbù shìyè yě yǒu shífēn zhòngdà de yìyì. Shíxiàn sì ge xiàndàihuà, yāoqiú dà fúdù de tígāo shēngchǎnlì, yě jiù bìrán yāoqiú duō fāngmiàn de gǎibiàn tóng shēngchǎnlì fā-zhǎn bú shìyìng de shēngchǎn guānxi hé shàngcéng jiànzhù, gǎibiàn yíqiè bú shìyìng de guǎnlǐ fāngshì、huódòng fāngshì hé sīxiǎng fāngshì, yīn'ér shì yì cháng guǎngfàn、shēnkè de gémìng. …

(3)

Huìyì zhǐchū: yījiǔqīwǔ nián Dèng Xiǎopíng tóngzhì shòu Máo Zédōng tóngzhì wěituō zhǔchí Zhōngyāng gōngzuò qījiān, gè fāngmiàn gōngzuò qǔdé hěn dà chéngjì, quán dǎng quán jūn hé quánguó rénmín shì mǎnyì de. Dèng Xiǎopíng tóngzhì hé zhōngyāng qítā lǐngdǎo tóngzhì yídào, ànzhào Máo Zédōng tóngzhì de zhǐshì, duì "Sìrénbāng" de gānrǎo pòhuài jìnxíng le zhēnfēng xiāngduì de dòuzhēng. … Huìyì zhǐchū: yījiǔqīliù nián sì yuè wǔ rì de Tiān'ānmén Shìjiàn wánquán shì gémìng xíngdòng. Yǐ Tiān'ānmén Shìjiàn wéi zhōngxīn de quánguó yìwàn rénmín chéntòng dàoniàn Zhōu Ēnlái tóngzhì、fènnù shēngtǎo "Sìrénbāng" de wěidà gémìng qúnzhòng yùndòng, wèi wǒmen dǎng fěnsuì "Sìrénbāng" diàndìng le qúnzhòng jīchǔ. Quánhuì juédìng chèxiāo Zhōngyāng fāchū de yǒuguān "Fǎnjī Yòuqīng Fān'ànfēng" yùndòng hé Tiān'ānmén Shìjiàn de cuòwù wénjiàn.

Huìyì shěnchá hé jiūzhèng le guòqù duì Péng Déhuái、Táo Zhù、Bó Yībō、Yáng Shàngkūn děng tóngzhì suǒ zuò de cuòwù jiélùn, kěndìng le tāmen duì dǎng hé rénmín de gòngxiàn. …

*　*　*

(一)

総会は，いま，国内外情勢の発展に照応し，時をうつさず，果断に全国的範囲において林彪・「4人組」を摘発，批判する大規模な大衆運動を終結し，全党の活動の重点と全国人民の注意力を社会主義的現代化の建設に移すべきである，という華国鋒同志が中

央政治局を代表して提起した決定に一致して同意した。これは国民経済の 3 ヵ年，8 ヵ年計画と 23 ヵ年横想を実現し，農業，工業，国防，科学技術の現代化を実現し，わが国のプロレタリア階級独裁をうち固める上で重要な意義をもっている。わが党のうち出した新たな時期の全般的任務は，歴史の要請と人民の念願を反映し，人民の根本的利益を代表している。われわれが新たな時期の全般的任務を実現できるかどうか，社会主義的現代化の建設を速めるとともに，生産の急速な発展をふまえて人民の生活をいちじるしく向上させ，国防を強化できるかどうかは，全国人民のもっとも関心を寄せている重大事であり，世界の平和と進歩の事業にとってもひじょうに重要な意義をもっている。**4つの現代化の実現には，生産力の大幅な向上が要請され，それはまた必然的に多方面にわたって生産力の発展に照応しない生産関係と上部構造を変えさせる要請となり，また，不適当なすべての管理方式，活動方式，思想方式を変えさせる要請となる，したがってそれは幅広い，深刻な革命である。**…

（三）

会議はつぎのように指摘した。1975 年，鄧小平同志が毛沢東同志の委託により中央の活動をつかさどっていた期間，諸方面の活動は非常に大きな成果をあげ，全党，全軍，全国人民は満足していた。鄧小平同志は中央の他の指導者とともに，毛沢東同志の指示にもとづき，「4 人組」の撹乱と切り崩しに真向から対決する闘争をすすめた。…会議はつぎのように指摘した。1976 年 4 月 5 日の天安門事件はまったく革命的行動である。天安門事件を中心とする，全国いく億万人民が周恩来同志を追悼し，憤りに燃えて「4 人組」を糾弾した偉大な革命的大衆運動は，わが党の「4 人組」粉砕の大衆的基盤をつくった。総会は，中央の出した，「右

からの巻き返しの風潮に反撃する」運動と天安門事件に関する誤った文書の廃棄を決定した。

会議は，以前彭徳懐，陶鋳，薄一波，楊尚昆らの諸同志にたいして下された誤った結論を審査し，是正し，党と人民への彼らの貢献を確認した。

◇太田勝洪・小島晋治・高橋満・毛里和子編『中国共産党最新資料集』上巻，勁草書房，1985年，3-7頁（『北京周報』1978年第52号）。

◈「**4つの現代化の実現には，生産力の大幅な向上が要請され，それはまた必然的に多方面にわたって生産力の発展に照応しない生産関係と上部構造を変えさせる要請となり，また，不適当なすべての管理方式，活動方式，思想方式を変えさせる要請となる，したがってそれは幅広い，深刻な革命である。**」⇨「4つの現代化の実現は生産力の大幅な向上を要求し，それはまた，多方面にわたって生産力の発展に照応しない生産関係と上部構造を改変するとともに，すべての不適当な管理方式・活動方式・思想方式を改変することを必然的に要求する。したがってそれは広範かつ深刻な革命である。」

【唯物史観の「公式」】

わたくしにとってあきらかになりそしてひとたびこれをえてからはわたくしの研究にとって導きの糸として役立った一般的結論は，簡単につぎのように公式化することができる。人間は，その生活の社会的生産において，一定の，必然的な，かれらの意志から独立した諸関係を，つまりかれらの物質的**生産諸力**の一定の発展段階に対応する**生産諸関係**を，とりむすぶ。この**生産諸関係**の総体は社会の経済的機構を形づくっており，これが現実の土台となって，そのうえに，法律的，政治的**上部構造**がそびえたち，また，一定の社会的意識諸形態は，この現実の土台に対応している。物質的生活の生産様式は，社会的，政治的，精神的生活諸過程一般を制約する。人間の意識がその存在を規定するのではなくて，逆に，人間の社会的存在がその意識を規定す

るのである。社会の物質的**生産諸力**は，その発展がある段階にたっすると，いままでそれがそのなかで動いてきた既存の**生産諸関係**，あるいはその法的表現にすぎない所有諸関係と矛盾するようになる。これらの諸関係は，**生産諸力**の発展諸形態からその桎梏へと一変する。このとき社会革命の時期がはじまるのである。経済的基礎の変化につれて，巨大な**上部溝造**全体が，徐々にせよ急激にせよ，くつがえる。このような諸変革を考察するさいには，経済的な生産諸条件におこった物質的な，自然科学的な正確さで確認できる変革と，人間がこの衝突を意識し，それと決戦する場となる法律，政治，宗教，芸術，または哲学の諸形態，つづめていえばイデオロギーの諸形態とをつねに区別しなければならない。ある個人を判断するのに，かれが自分自身をどう考えているかということにはたよれないのと同様，このような変革の時期を，その時代の意識から判断することはできないのであって，むしろ，この意識を，物質的生活の諸矛盾，社会的**生産諸力**と社会的**生産諸関係**とのあいだに現存する衝突がら説明しなけれはならないのである。1つの社会構成は，すべての**生産諸力**がそのなかではもう発展の余地がないほどに発展しないうちは崩壊することはけっしてなく，また新しいより高度な**生産諸関係**は，その物質的な存在諸条件が古い社会の胎内で孵化しおわるまでは，古いものにとってかわることはけっしてない。だから人間が立ちむかうのはいつも自分が解決できる課題だけである，というのは，もしさらにくわしく考察するならば，課題そのものは，その解決の物質的諸条件がすでに現存しているか，またはすくなくともそれができはじめているばあいにかぎって発生するものだ，ということがつねにわかるであろうから。大ざっぱにいって，経済的社会構成が進歩してゆく段階として，アジア的，古代的，封建的，および近代ブルジョア的生産様式をあげることができる。ブルジョア的**生産諸関係**は，社会的生産過程の敵対的な，といっても個人的な敵対の意味ではなく，諸個人の社会的生活諸条件から生じてくる敵対という意味での敵対的な，形態の最後のものである。しかし，ブルジョア社会の胎内で発展しつつある**生産諸力**は，同時にこの敵対関係の解決のための物資的諸条件をもつくりだす。だからこの社会構成をもって，人間社会の前史はおわりをつげるのである（マルクス(武田隆夫ほか訳)『経済学批判』序言，岩波文庫，1956年，13-15頁)。

【中国共産党最新資料集】について

太田勝洪・小島晋治・高橋満・毛里和子編，上下2巻，勁草書房，1985-1986年。1978年12月の中国共産党第11期第3回中央委員会総会（3中全会）から1984年10月の第12期第3回中央委員会総会までの重要文献106件と参考資料5件を収録。中共中央文献研究室編『三中全会以来—重要文献選編』（人民出版社，1982年）所収の104文献のうち，内容的に前後の文献と重複しかつ邦訳のある4文献をのぞく100文献と，編者が付加した11文献からなる（上巻の「はじめに」「凡例」）。

1972

7　日中関係の正常化

1972（昭和47）年9月29日午前，北京の人民大会堂の一階「東大庁」（東ホール）では緑色の布におおわれた細長いテーブルの上で，日本と中国の関係を正常化するための『日中共同声明』への署名がおこなわれていた。

私はそのテーブルからやや離れた記者団用の席でその光景を眺めていた。日本側の田中角栄首相と大平正芳外相，中国側の周恩来首相と姫鵬飛外相の 4 人がそれぞれ日本語と中国語の声明文に署名したあと，田中，周両首相が歩みよって，声明文を交換して握手――ここまでは型通りに進んできたが，ここで田中首相の手を握った周首相はぐっとその手に力を入れて，1 つになった 2 人のこぶしを大きく上下に振った。「やっと握りあったこの手はもう放しませんよ」というふうに。一瞬とまどったかに見えた田中首相もすぐさまそれに応えて，負けじと自分も握手する手に力を入れたから，握り合った 2 人のこぶしはさらに大きく上下した。

2 人の背後に並んでいた両国の交渉担当者，そして内外記者団から期せずしてどよめきが起こり，それは大きな拍手に変わった。

この瞬間，第 2 次大戦後長らく未解決のままになってきた外交上の懸案としての「中国問題」は解決した。人やものの往来はそれなりにあるのに，政府どおしは相手を見ない

ふりをしているという奇妙な関係から，ようやくちゃんとしたおつきあいが始まることになったのだ。日本の敗戦からすでに 27 年，中華人民共和国の成立から 23 年がたっていた。

なぜそんなに時間がかかったのだろうか。それは戦後の中国とアジアの情勢変化とその中における日本の立場からそうなってしまったのだが，それはまた，国交を正常化するにあたって何が問題になったかを見ることでもわかる。そこでわれわれはまず両国関係の基本となる1972年の『日中共同声明』の一部を読んでみることにしよう。

『声明』の前文にはこうある。

「日中両国は一衣帯水の間にある隣国であり，長い伝統的友好の歴史を有する。両国国民は，両国間にこれまで存在していた不正常な状態に終止符を打つことを切望している。戦争状悪の終結と日中国交の正常化という両国国民の願望の実現は，両国関係の歴史に新たな1ページを開くことになろう。」

この文章どこかおかしくないだろうか。「不正常な状態」という言葉と「戦争状態」という言葉がならんで使われている。日中関係が正常でなかった最大で唯一の理由は，実際には1945年に日本の敗戦で終わった日中戦争について，その終結を双方で確認し，それにともなういろいろな問題を解決していないことであったのだから，わざわざ「不正常な状態」などと言わずとも「戦争状態」と言えばそれですむ。それなのに「不正常な状態」という言葉を使ったのは，じつは日本はすでに1952年に台湾にある「中華民国」の政府と「日華平和条約」を結び，その政府との間ですでに日中戦争の終結を宣言してしまっていたからなのだ。

1920 年代以来，中国には国民党と共産党という 2 つの政党があって，時に手を結び，時に相争ってきた。日本との戦争では両党は統一戦線を組んでいた（「一致抗日」（⇨**14**, **15**））が，1945 年に日本が敗れたあと両党は内戦をくり広げた。その結果，共産党が勝利を収めて大陸に支配権を確立し，1949 年に「中華人民共和国」を成立させたが(⇨**11**)，一方，負けた国民党も台湾に逃れて，それまで通り「中華民国」を名乗り，全中国を代表する政府であると主張し続けている。

つまり戦争に負けた日本が講和条約を結ぶ相手が，中国側では 2 つに分裂してしまったわけである。だが，日本軍が戦った土地は中国大陸であったのだから，常識的には大陸に成立した政権を選ぶのが自然であった。

ところが，第 2 次大戦後の世界は東西両陣営（東側＝社会主義陣営，西側＝自由主義陣営）の対立が激しくなり，1950 年には北緯 38 度線をはさんで両陣営が対峙していた朝鮮半島で戦火が起こった。そして敗戦後の日本を占領していた連合国軍の主役がアメリカ軍であったところから，日本は西側陣営の 1 国として独立を回復し（1951 年の「サンフランシスコ講和条約」によって），その翌年アメリカの強い主導権のもとに，西側陣営の一員である台湾の中華民国政府を中国の正統政府と認めて，「日華平和条約」を結んだのだった。

この時すでに成立して 3 年を経ていた大陸の中華人民共和国政府は，当然のことながらこれに強く反発し，「日華平和条約」は認めないという態度を明らかにした。

この結果，日本から見れば日中戦争はすでに終結しているのに対して，中国から見ればまだ終わっていないという困

った状態になってしまったのだ。

北京での交渉の結果は，同じ戦争について2度終結を宣言する（つまり以前に自分が結んだ条約の存在を自ら否定する）ことはできないという日本の立場を，中国側も一応了承して，「いつ」戦争状態が終わったかは『共同声明』では明言せず，前文で「不正常な状態」と「戦争状態」と2通りの表現を使って，この両者は実質は同じですよということを感じとらせながら，具体項目の第1項では「日本国と中華人民共和国との間のこれまでの不正常な状態は，この共同声明が発出される日に終了する」という文章になったのだった。

関係正常化にあたっての難題の1つであった「戦争状態の終結」の問題は中国の内戦と東西対立，その中での日本の立場が生み出したものであった。（田畑光永『中国を知る』岩波ジュニア新書，1990年，78-82頁）

中日两国是一衣带水的邻邦，有着悠久的传统友好的历史。两国人民切望结束迄今存在于两国间的不正常状态。战争状态的结束，中日邦交的正常化，两国人民这种愿望的实现，将揭开两国关系史上新的一页。

日本方面痛感日本国过去由于战争给中国人民造成的重大损害的责任，表示深刻的反省。日本方面重申站在充分理解中华人民共和国政府提出的“复交三原则”的立场上，谋求实现日中邦交正常化这一见解。中国方面对此表示欢迎。

中日两国尽管社会制度不同，应该而且可以建立和平友好关系。两国邦交正常化，发展两国的睦邻友好关系，

是符合两国人民利益的，也是对缓和亚洲紧张局势和维护世界和平的贡献。

（一）自本声明公布之日起，中华人民共和国和日本国之间迄今为止的不正常状态宣告结束。

（二）日本国政府承认中华人民共和国政府是中国的唯一合法政府。

（三）中华人民共和国政府重申：台湾是中华人民共和国领土不可分割的一部分。日本国政府充分理解和尊重中国政府的这一立场，并坚持遵循波茨坦公告第八条的立场。

（四）中华人民共和国政府和日本国政府决定自一九七二年九月二十九日起建立外交关系。两国政府决定，按照国际法和国际惯例，在各自的首都为对方大使馆的建立和履行职务采取一切必要的措施，并尽快互换大使。

（五）中华人民共和国政府宣布：为了中日两国人民的友好，放弃对日本国的战争

赔偿要求。

（六）中华人民共和国政府和日本国政府同意在互相尊重主权和领土完整、互不侵犯、互不干涉内政、平等互利、和平共处各项原则的基础上，建立两国间持久的和平友好关系。

根据上述原则和联合国宪章的原则，两国政府确认，
在相互关系中，用和平手段解决一切争端，而不诉诸武力和武力威胁。

（七）中日邦交正常化，不是针对第三国的。两国任何一方都不应在亚洲和太平洋地区谋求霸权，每一方都反对任何其他国家或国家集团建立这种霸权的努力。

（八）中华人民共和国政府和日本国政府为了巩固和发展两国间的和平友好关系，同意进行以缔结和平友好条约为目的的谈判。

（九）中华人民共和国政府和日本国政府为进一步发展两国间的关系和扩大人员往

来，根据需要并考虑到已有的民间协定，同意进行以缔结贸易、航海、航空、渔业等协定为目的的谈判。

中华人民共和国	日本国
国务院总理	内阁总理大臣
周恩来（签字）	田中角荣（签字）
中华人民共和国	日本国
外交部长	外务大臣
姬鹏飞（签字）	大平正芳（签字）

一九七二年九月二十九日于北京

◇《中华人民共和国政府日本国政府联合声明》（《人民日报》1972.9.30）。
◆《新华月报》（《中国革命史档案文献光盘库》B-45），《红旗》（B-56）。

qìjīn【迄今】いままで。¶～为止 wéizhǐ ／いままでのところ。

chóngshēn【重申】重ねて言明する。¶两国政府～观点的一致／両国政府が観点の一致を重ねて言明する。

zūnxún【遵循】従う。¶这是我们必须～的一条原則／これはわれわれが従わなければならない原則である。

〔波茨坦公告第八条〕「カイロ宣言の条項は，履行せらるべく，また日本国の主権は，本州，北海道，九州および四国ならびに吾等の決定する諸小島に極限せらるべし」（『原典中国現代史』第 8 巻，20 頁）。⇨【カイロ宣言】

péicháng【赔偿】賠償する。弁償する。¶保留要求～的权利／賠償を要求する権利を留保する。

〔平和五原則〕社会制度の異なる国家間の共存関係をめざす中国外交の基本原則。1954 年 4 月 29 日締結の「中華人民共和国とインド共

和国のチベット地方とインドとの間の通商・交通に関する協定」で明記された。1）領土・主権の相互尊重，2）相互不可侵，3）内政不干渉，4）平等互恵，5）平和共存の5項目からなる。(『岩波現代中国事典』)

zhū【诸】〈書〉("之于 zhīyú "または"之乎 zhīhū "の合音)これ(を…に)。…かな。¶付～(＝之于)实施 shíshī ／これを実施に付する。

móuqiú【谋求】はかる。はかり求める。追求する。¶～人类进步／人類の進歩を追求する。

dìjié【缔结】締結する。結ぶ。¶～邦交 bāngjiāo ／国交を結ぶ。¶～条约／条約を締結する。

〔日中平和友好条約〕1978年8月12日に北京で調印。10月23日，東京で批准書を交換して発効。⇨【日中平和友好条約】

*　　*　　*

(1) Zì běn shēngmíng gōngbù zhī rì qǐ, Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó hé Rìběnguó zhījiān qìjīn wéizhǐ de bú zhèngcháng zhuàngtài xuāngào jiéshù.

(2) Rìběnguó Zhèngfǔ chéngrèn Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ shì Zhōngguó de wéiyī héfǎ zhèngfǔ.

(3) Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ chóngshēn: Táiwān shì Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó lǐngtǔ bùkě fēngē de yíbùfen. Rìběnguó Zhèngfǔ chōngfèn lǐjiě hé zūnzhòng Zhōngguó Zhèngfǔ de zhè yī lìchǎng, bìng jiānchí zūnxún Bōcítǎn Gōnggào dì·bā tiáo de lìchǎng.

(4) Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ hé Rìběnguó Zhèngfǔ juédìng zì yījiǔqī'èr nián jiǔ yuè èrshíjiǔ rì qǐ jiànlì wàijiāo guānxi. Liǎng guó zhèngfǔ juédìng, ànzhào guójìfǎ hé guójì guànlì, zài gèzì de

shǒudū wèi duìfāng dàshǐguǎn de jiànlì hé lǚxíng zhíwù cǎiqǔ yíqiè bìyào de cuòshī, bìng jìn kuài hù·huàn dàshǐ.

(5) Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ xuānbù: Wèile Zhōng·Rì liǎngguó rénmín de yǒuhǎo, fàngqì duì Rìběn·guó de zhànzhēng péicháng yāoqiú.

(6) Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ hé Rìběnguó Zhèngfǔ tóngyì zài hùxiāng zūnzhòng zhǔquán hé lǐngtǔ wánzhěng、hù bù qīnfàn、hù bù gānshè nèizhèng、píngděng hùlì、hépíng gòngchù gè xiàng yuánzé de jīchǔ shàng, jiànlì liǎng guó jiān chíjiǔ de hépíng yǒuhǎo guānxi.

Gēnjù shàngshù yuánzé hé Liánhéguó Xiànzhāng de yuánzé, liǎng guó zhèngfǔ quèrèn, zài xiānghù guānxi zhōng, yòng hépíng shǒuduàn jiějué yíqiè zhēngduān, ér bú sù zhū wǔlì hé wǔlì wēixié.

(7) Zhōng·Rì bāngjiāo zhèngchánghuà, búshì zhēnduì dì sān guó de. Liǎng guó rènhé yìfāng dōu bù yīng zài Yàzhōu hé Tàipíngyáng dìqū móuqiú bàquán, měi yìfāng dōu fǎnduì rènhé qítā guójiā huò guójiā jítuán jiànlì zhè zhǒng bàquán de nǚlì.

(8) Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ hé Rìběnguó Zhèngfǔ wèile gǒnggù hé fāzhǎn liǎng guó jiān de hé·píng yǒuhǎo guānxi, tóngyì jìnxíng yǐ dìjié hépíng yǒuhǎo tiáoyuē wéi mùdì de tánpàn.

(9) Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Zhèngfǔ hé Rìběnguó Zhèngfǔ wèi jìnyíbù fāzhǎn liǎng guó jiān de guānxi hé kuòdà rényuán wǎnglái, gēnjù xūyào bìng kǎolǜ dào yǐ yǒu de mínjiān xiédìng, tóngyì jìnxíng yǐ dìjié màoyì、hánghǎi、hángkōng、yúyè děng xiédìng wéi mùdì de tánpàn.

＊　＊　＊

1　日本国と中華人民共和国との間のこれまでの不正常な状態は、この共同声明が発出される日に終了する。

2　日本国政府は、中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認する。

3　中華人民共和国政府は，台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であることを重ねて表明する。日本国政府は，この中華人民共和国政府の立場を十分理解し，尊重し，ポツダム宣言第八項にもとづく立場を堅持する。

4　日本国政府および中華人民共和国政府は，1972 年 9 月 29 日から外交関係を樹立することを決定した。両政府は，国際法および国際慣行に従い，それぞれの首都における他方の大使館の設置およびその任務遂行のために必要なすべての措置をとり，また，できるだけすみやかに大使を交換することを決定した。

5　中華人民共和国政府は，中日両国国民の友好のために，日本国に対する戦争賠償の請求を放棄することを宣言する。

6　日本国政府および中華人民共和国政府は，主権および領土保全の相互尊重，相互不可侵，内政に対する相互不干渉，平等および互恵ならびに平和共存の諸原則の基礎の上に両国間の恒久的な平和友好関係を確立することに合意する。

両政府は，右の諸原則および国際連合憲章の原則にもとづき，日本国および中国が，相互の関係において，すべての紛争を平和的手段により解決し，武力または武力による威嚇に訴えないことを確認する。

7　日中両国の国交正常化は，第 3 国に対するものではない。両国のいずれも，アジア・太平洋地域において覇権を求めるべき

ではなく，このような覇権を確立しようとする他のいかなる国あるいは国の集団による試みにも反対する。

8　**日本国政府および中華人民共和国政府は**，両国間の平和友好関係を強固にし，発展させるため，平和友好条約の締結を目的として，交渉を行なうことに合意した。

9　**日本国政府および中華人民共和国政府は**，両国間の関係をいっそう発展させ，人的往来を拡大するため，必要に応じ，また，既存の民間取り決めも考慮しつつ，貿易，海運，航空，漁業等の事項に関する協定の締結を目的として，交渉を行なうことに合意した。

◇安藤正士・小竹一彰編『原典中国現代史』第 8 巻（日中関係），岩波書店，1994 年，131-133 頁（外務省アジア局中国課監修『日中関係基本資料集　1970-1992 年』霞山会，1993 年，98-99 頁）。

【カイロ宣言（全文）】（1943 年 11 月 27 日）

ローズヴェルト大統領，蔣介石総統およびチャーチル総理大臣は，各自の軍事および外交顧問とともに，北アフリカで会議を終了し，次の一般的声明を発した。「各軍事使節は，日本国に対する将来の軍事行動を協定した。3 大同盟国は，海路，陸路および空路によって野蛮な敵国に仮借のない圧力を加える決意を表明した。この圧力は，既に増大しつつある。3 大同盟国は，日本国の侵略を制止し罰するため，今次の戦争を行なっている。同盟国は，自国のためには利得も求めず，また領土拡張の念も有しない。同盟国の目的は，1914 年の第 1 次世界戦争の開始以後に日本国が奪取しまたは占領した太平洋におけるすべての島を日本国から剥奪すること，ならびに満州，台湾および澎湖島のような日本国が清国人から盗取したすべての地域を中華民国に返還することにある。日本国は，また，暴力および強欲により日本国が略取した他のすべての地域から駆逐される。前記の 3 大国は，朝鮮の人民の奴隷状態に留意し，やがて朝鮮を自由独立のものにする決意を有する。以上の目的で，3 同盟国は，同盟諸国中の日本国と交戦中

の諸国と協調し，日本国の無条件降伏をもたらすのに必要な重大で長期間の行動を続行する。」(『原典中国現代史』第8巻，17-18頁)

【日中平和友好条約】

第1条　1　両締約国は，主権および領土保全の相互尊重，相互不可侵，内政に対する相互不干渉，平等および互恵ならびに平和共存の諸原則の基礎の上に，両国間の恒久的な平和友好関係を発展させるものとする。

2　両締約国は，前記の諸原則および国際連合憲章の原則にもとづき，相互の関係において，すべての紛争を平和的手段により解決しおよび武力または武力による威嚇に訴えないことを確認する。

第2条　両締約国は，そのいずれも，アジア・太平洋地域においてもまたは他のいずれの地域においても覇権を求めるべきではなく，また，このような覇権を確立しようとする他のいかなる国または国の集団による試みにも反対することを表明する。

第3条　両締約国は，善隣友好の精神にもとづき，かつ，平等および互恵ならびに内政に対する相互不干渉の原則に従い，両国間の経済関係および文化関係のいっそうの発展ならびに両国民の交流の促進のために努力する。

第4条　この条約は，第3国との関係に関する各締約国の立場に影響を及ぼすものではない。

第5条　1　この条約は，批准されるものとし，東京で行なわれる批准書の交換の日に効力を生ずる。この条約は，10年間効力を有するものとし，その後は2の規定に定めるところによって終了するまで効力を存続する。

2　いずれの一方の締約国も，1年前に他方の締約国に対して文書による予告を与えることにより，最初の10年の期間の満了の際またはその後いつでもこの条約を終了させることができる。(『原典中国現代史』第8巻，144頁)

【原典中国現代史・第8巻(日中関係)】の構成

全体解説，Ⅰ日本の降伏と国共内戦(4＋3＋2，文献数で以下同じ)，Ⅱ東アジアにおける冷戦体制の形成と日中関係(5＋3＋6＋4＋8)，Ⅲ中ソ対立および文化大革命期の日中関係(11＋5)，Ⅳ日中国交正常化と日中平和友好条約(5＋7＋4＋3)，Ⅴ国交正常化以降の日中経済関係(4＋9＋3＋2＋4)，Ⅵ 1980

年代の日中政治関係(11＋7＋8)，Ⅶ歴史認識の問題(3＋5＋5＋2)，Ⅷ最近の日中関係(2＋8＋3＋7)。

【日中関係基本資料集】について

外務省アジア局中国課監修『日中関係基本資料集　1949年～1969年』霞山会，1970年，447＋12頁。「本資料集は，これを通読すれば日中関係の基本的推移が俯瞰できるように編集した。ただ，20年間における北京政府の対日政策の推移を明らかにすることを主要な目的としているので，北京政府側の資料を多く収録し，日本側の資料は必要最小限にとどめてある」（凡例）。1.日中間の政治・外交関係，2.日中間の貿易・漁業関係等，3.中共地区残留邦人引揚関係，4.その他，に関する126資料を収録（巻末に年表と註記を付加)。また，外務省アジア局中国課監修『日中関係基本資料集　1970年～1992年』（霞山会，1993年，695＋8頁）は上記資料集の続編で，192資料を収録するとともに，10件の参考資料と年表・註記を付加する。

1966

8 「動乱」の時代

66年から76年までの10年間，中華人民共和国は建国以来の未曾有の大混乱にみまわれた。今日では「動乱の10年」といわれる「プロレタリア文化大革命（文革）」である。文革は中国共産党による建国後 15 年間の政治・経済・文化・思想など，あらゆる営みの総決算として勃発したものであり，毛沢東時代の特徴をもっともよく示している大事件であった。いや事件というにはあまりにも内容が広く影響が大きすぎるので，長期にわたる政治過程そのものといった方がよい。また当時は，文革こそ「魂をゆさぶる真の革命」「世紀の大実験」であるという誇大な宣伝が外国にも影響を及ぼし，フランス・日本などの知識人や学生運動をも動かした。このように文革が内外にあたえた衝撃波は極めて大きく，しかもその深刻な余波は今日にまで及んでいるから，文革はもう終わったといえるかどうかさえ疑問である。そうした意味で，文革を知ることは現代中国とその歴史を理解する上で不可欠の課題であるといえよう。

さて文革がはじまる前，中国はソ連との間で激しい論争を展開し，ソ連が「修正主義」に堕落したとして対決姿勢を示しつつあった。他方，国内では「調整政策」をとって経済の破綻から免れようと，劉少奇を中心に懸命の努力を払いつつ，同時に修正主義の影響を防ぐために「農村における社会主義教育運動」や「四清」運動をも展開していた。「修

正主義を防ぎ中国が資本主義に変質するのを防ぐこと」，これが文革の第1の表向きの理由であった。

この過程で経済再建を最重視する劉少奇ら党と政府の指導者たちは，論争や運動が政治・社会を混乱させることを恐れ，これを党・政府官僚体制の下にしっかりと統制しようとしていた。他方，毛沢東は劉少奇らのやり方が修正主義批判・防止のためには手ぬるいと感じていたが，「大躍進」の失敗の責任をとって第一線から退いた形をとっていて，実権も権威をも失いつつあった。毛の意志が北京の党・政府のなかでは「針1本，水1滴も通さない」ほどだと嘆いたのはよく知られた話である。そのため彼は，彼の意志を貫くために上海に行き，彼の妻の江青を通して張春橋・姚文元らを使い，権力の奪回をめざすことになる。

では毛沢東の意志とは何であったか。晩年の毛は「社会主義社会のなかでも階級は存在する」と考え，したがって搾取階級と被搾取階級との間の「階級闘争もたえず発生する」と固く信じていた。したがってまたその階級闘争が大規模になって，搾取階級が支配する政治体制を暴力で打倒する革命も必然的であるとする。これが彼のいわゆる「連続革命・継続革命」論である。彼によれば，社会主義社会では階級も階級闘争も存在せず，したがって革命も起こす必要がないと考えることこそが修正主義なのである。さらに彼の特殊なところは，このような修正主義が党内にも波及し，党指導部内が変質して「ブルジョア実権派」「資本主義の道を歩む実権派」になるので，それを防止するか，あるいは排除・打倒するための革命闘争すなわち「奪権闘争」がどうしても必要だと主張するところにあった。

こうして毛沢東式の政治革命＝「奪権闘争」が中国政治の

最も重要で緊急の課題だとされるようになり，生産力の発展による経済発展や生活向上を主張する者は「生産力第一主義者」であり「修正主義者」だとされてしまうのである。しかしそれにしても，もしかりに中国共産党が民衆の意志を広範に反映し，党内でしっかりと民主的に議論して政策決定ができるような組織であったなら，毛沢東の個人的な意志や情念がそのまま全党・全国のものになることはなかったはずである。実際，先にものべたように毛は少数派になっていて，仕方なく上海で行動を起こさざるをえず，また党の正規の組織ではなく毛沢東に忠誠を誓う人々，とくに大学生より下の「紅衛兵」を使わざるをえなかったのであるが，そのようにできたということのなかに，この党の不健全さ，毛沢東個人崇拝の根強さが見られた。この点をぬきにして文革を語るわけにはいかない。(姫田光義ほか『中国20世紀史』東京大学出版会，1993年，229-231頁)

一、社会主义革命的新阶段

当前开展的无产阶级文化大革命，是一场触及人们灵魂的大革命，是我国社会主义革命发展的一个更深入、更广阔的新阶段。…

资产阶级虽然已经被推翻，但是，他们企图用剥削阶级的旧思想，旧文化，旧风俗，旧习惯，来腐蚀群众，征服人心，力求达到他们复辟的目的。无产阶级恰恰相反，必须

迎头痛击资产阶级在意识形态领域里的一切挑战，用无产阶级自己的新思想，新文化，新风俗，新习惯，来改变整个社会的精神面貌。在当前，我们的目的是斗垮走资本主义道路的当权派，批判资产阶级的反动学术“权威”，批判资产阶级和一切剥削阶级的意识形态，改革教育，改革文艺，改革一切不适应社会主义经济基础的上层建筑，以利于巩固和发展社会主义制度。

二、主流和曲折

广大的工农兵、革命的知识分子和革命的干部，是这场文化大革命的主力军。一大批本来不出名的革命青少年成了勇敢的闯将。他们有魄力、有智慧。他们用大字报、大辩论的形式，大鸣大放，大揭露，大批判，坚决地向那些公开的、隐蔽的资产阶级代表人物举行了进攻。在这样大的革命运动中，他们难免有这样那样的缺点，但是，他们的革命大方向始终是正确的。这是无产阶级文化

大革命的主流。无产阶级文化大革命正在沿着这个大方向继续前进。

文化革命既然是革命，就不可避免地会有阻力。这种阻力，主要来自那些混进党内的走资本主义道路的当权派，同时也来自旧的社会习惯势力。这种阻力目前还是相当大的，顽强的。但是，无产阶级文化大革命毕竟是大势所趋，不可阻挡。大量事实说明，只要群众充分发动起来了，这种阻力就会迅速被冲垮。

四、让群众在运动中自己教育自己

无产阶级文化大革命，只能是群众自己解放自己，不能采用任何包办代替的办法。

要信任群众，依靠群众，尊重群众的首创精神。要去掉“怕”字。不要怕出乱子。毛主席经常告诉我们，革命不能那样雅致，那样文质彬彬，那样温良恭俭让。要让群众在这个大革命运动中，自己教育自己，去识别哪些是对的，哪些是错的，哪些做法是正

确的，哪些做法是不正确的。

要充分运用大字报、大辩论这些形式，进行大鸣大放，以便群众阐明正确的观点，批判错误的意见，揭露一切牛鬼蛇神。这样，才能使广大群众在斗争中提高觉悟，增长才干，辨别是非，分清敌我。

十六、毛泽东思想是无产阶级文化大革命的行动指南

在无产阶级文化大革命中，要高举毛泽东思想的伟大红旗，实行无产阶级政治挂帅。要在广大工农兵、广大干部和广大知识分子中，开展活学活用毛主席著作的运动，把毛泽东思想作为文化革命的行动指南。…

◇《中国共产党中央委员会关于无产阶级文化大革命的决定（一九六六年八月八日通过）》（《人民日报》1966.8.9）。
◆《红旗》（《中国革命史档案文献光盘库》B-55）。

chùjí【触及】触れる。触る。¶～人们的灵魂línghún／人々の魂に触れる。

guǎngkuò【广阔】広大である。広い。¶～的前景／洋々たる前途。

fǔshí【腐蚀】(1)腐食(する)。(2)堕落(させる)。むしばむ。¶警惕 jǐngtì 利己主义思想的～／利己主義的思想に冒されないように警戒する。

fùbì【复辟】復辟[ふくへき](する)。君主が復位(する)。(旧支配者・旧制度が)復活(する)。再び支配の座につく。¶防止封建制度～／封建制度の復活を防ぐ。

yíng//tóu【迎头】（～儿）真正面から。出合い頭に。頭から。¶给敌人以～痛击tòngjī ／正面から敵に痛撃を食らわす。

yìshí xíngtài【意识形态】〈哲〉イデオロギー。観念形態。

dòu【斗】（…と）闘争する,闘う。¶～倒 dǎo . ～垮 kuǎ . ～臭 chòu ／闘争によって失権させ, 2 度と立ち上がれないようにし,信用を失墜させること。

chū//míng【出名】有名になる。名高い。¶她通过唱这支歌, 一下子出了名／彼女はこの歌で一躍有名になった。

chuǎngjiàng【闯将】荒武者。がむしゃらな人。▼比喩に用いることが多い。

pòlì【魄力】迫力。気迫。¶他是一个有主张有～的人／彼は主張も気迫もある人だ。

〔四大〕4 つの「大」:“大鸣 dàmíng, 大放 dàfàng, 大字报 dàzìbào, 大辩论 dàbiànlùn”(大いに意見を出し, 大いに討論し, 壁新聞を書き, 大論争をする)の総称：1957 年, 社会主義的民主を発揚する新しい形式として推奨され, 75・78 年の旧憲法で条文化された。しかし, 文革を経た 80 年 8～9 月の第 5 期全国人民代表大会第 3 回会議で, 憲法 45 条から ˙公民…有运用 ˙大鸣. 大放. 大辩论. 大字报˙ 的权利˙ (公民は…「大鳴・大放・大弁論・大字報」を運用する権利を有する)の規定が削除された。(『最新中国情報辞典』)

yǐnbì【隐蔽】(物の陰に) 隠れる。隠蔽する。¶公开的和～的活动／公然の活動と秘密の活動。

jìrán【既然】〔接続詞〕…したからには。…である以上。『語法』複文の先行する文に用い, すでに実現したかもしくは確実となった前提を述べ, 後続する文で前提にもとづく結論を出す。多く, “就. 也. 还” などと呼応する。¶～矛盾 máodùn 已经暴露了, 就不应该回避 huíbì ／矛盾がすでに明らかとなった以上, もはやこれ

を避けて通るべきではない。

dàshì【大势】大勢[たいせい]。普通は政治情勢をさす。¶～所趋 qū ／大勢の赴くところ。

zǔdǎng【阻挡】阻止する。妨げる。遮る。¶历史潮流不可～／歴史の流れは妨げられない。

chōngkuǎ【冲垮】突き破る。流し倒す。¶～敌军的防线／敵軍の防衛線を突き破る。

bāobàndàitì【包办代替】一手代行(する)。¶不能用任何rènhé～的方法／いかなる一手代行の方法も許されない。

shǒuchuàng【首创】創造する。創始する。¶尊重 zūnzhòng 群众的～精神／大衆の創造的イニシアチブを尊重する。

qù//diào【去掉】取り去る。取り除く。¶这块油迹 yóujì 去不掉／この油のしみは取れない。

luànzi【乱子】騒ぎ。問着。事故。¶闹 nào ～／騒ぎを起こす。¶出～／事故が起こる。

〔革命不能那样雅致，那样文质彬彬，那样温良恭俭让。〕革命は，客をよんで宴会をひらくことではない。文章をつくることではない。絵をかいたり，刺繍をしたりすることではない。そんなふうに風流で，そんなふうにおおらかにかかまえた，文質彬彬*で，そんなふうに温，良，恭，倹，譲**ではありえない。革命は暴動である。ひとつの階級がひとつの階級をくつがえす激烈な行動である。「湖南農民運動視察報告」(1927年3月)『毛沢東選集』。

*『論語』雍也篇にみられることば。外面のかざりと内面の実質がともにそなわること。君子の形容。**『論語』学而篇。おとなしく，たてつかず，うやうやしく，つつましく，ひかえめであること。理想の人格。(竹内実訳『毛沢東語録』角川文庫，1971年，30頁) ⇨【毛沢東語録】について

niú guǐ shé shén【牛鬼蛇神】(1)〈成〉〈罵〉妖怪変化。得体の知れない者ども。(2)(文化大革命期に)旧地主や旧資本家,学界の権威などをたとえた。

cáigàn【才干】才幹。才能。腕まえ。¶增长zēngzhǎng～／才能をのばす。

biànbié【辨別】弁別する。区別する。識別する。見分ける。¶～真假／真偽を弁別する。

fēn//qīng【分清】はっきり見分ける。¶～是非／是非をはっきりと見分ける。

guà//shuài【挂帅】(1) 元帥となる。全軍の指揮をとる。(2)〈喩〉指導者になる。指導的位置に立つ。¶政治～／政治をまず念頭において活動する。政治優先。

*　*　*

1. Shèhuì zhǔyì gémìng de xīn jiēduàn

Dāngqián kāizhǎn de Wúchǎnjiējí Wénhuà Dàgémìng shì yì cháng chùjí rénmen línghún de dà gémìng, shì wǒ guó shèhuì zhǔyì gémìng fāzhǎn de yí ge gèng shēnrù、gèng guǎngkuò de xīn jiēduàn.…

Zīchǎn jiējí suīrán yǐjing bèi tuīfān, dànshì, tāmen qǐtú yòng bōxuē jiējí de jiù sīxiǎng, jiù wénhuà, jiù fēngsú, jiù xíguàn, lái fǔshí qúnzhòng, zhēngfú rénxīn, lìqiú dádào tāmen fùbì de mùdì. Wúchǎn jiējí qiàqià xiāngfǎn, bìxū yíngtóu tòngjī zīchǎn jiējí zài yìshí xíngtài lǐngyù lǐ de yíqiè tiǎozhàn, yòng wúchǎn jiējí zìjǐ de xīn sīxiǎng, xīn wénhuà, xīn fēngsú, xīn xíguàn, lái gǎibiàn zhěnggè shèhuì de jīngshén miànmào. Zài dāngqián, wǒmen de mùdì shì dòukuǎ zǒu zīběn zhǔyì dàolù de dāngquán pài, pīpàn zīchǎn jiējí de fǎndòng xuéshù "quánwēi", pīpàn zīchǎn jiējí hé yíqiè bōxuē jiējí de yìshí xíngtài, gǎigé jiàoyù, gǎigé wényì, gǎigé yíqiè bú shìyìng

shèhuì zhǔyì jīngjì jīchǔ de shàngcéng jiànzhù, yǐ lì yú gǒnggù hé fāzhǎn shèhuì zhǔyì zhìdù.

2. Zhǔliú hé qūzhé

Guǎngdà de gōng·nóng·bīng、gémìng de zhīshi fènzǐ hé gémìng de gànbù, shì zhè cháng Wénhuà Dàgémìng de zhǔlì jūn. Yī dàpī běnlái bù chūmíng de gémìng qīng-shàonián chéng le yǒnggǎn de chuǎngjiàng. Tāmen yǒu pòlì、yǒu zhìhuì. Tāmen yòng dàzìbào、dà biànlùn de xíngshì, dàmíng·dàfàng, dà jiēlù, dà pīpàn, jiānjué de xiàng nàxiē gōngkāi de、yǐnbì de zīchǎn jiējí dài-biǎo rénwù jǔxíng le jìngōng. Zài zhèyàng dà de gémìng yùndòng zhōng, tāmen nánmiǎn yǒu zhèyàng nàyàng de quēdiǎn, dànshì, tāmen de gémìng dà fāng-xiàng shǐzhōng shì zhèngquè de. Zhè shì Wúchǎnjiējí Wénhuà Dàgémìng de zhǔliú. Wúchǎnjiējí Wénhuà Dà-gémìng zhèng zài yánzhe zhège dà fāngxiàng jìxù qián-jìn.

Wénhuà Gémìng jìrán shì gémìng, jiù bùkě bìmiǎn de huì yǒu zǔlì. Zhè zhǒng zǔlì, zhǔyào láizì nàxiē hùnjìn dǎng nèi de zǒu zīběn zhǔyì dàolù de dāngquán pài, tóngshí yě láizì jiù de shèhuì xíguàn shìli. Zhè zhǒng zǔlì mùqián hái shì xiāngdāng dà de, wánqiáng de. Dànshì, Wúchǎnjiējí Wénhuà Dàgémìng bìjìng shì dàshì suǒ qū, bùkě zǔdǎng. Dàliàng shìshí shuōmíng, zhǐyào qúnzhòng chōngfèn fādòng qǐlái le, zhè zhǒng zǔlì jiù huì xùnsù bèi chōngkuǎ.

4. Ràng qúnzhòng zài yùndòng zhōng zìjǐ jiàoyù zìjǐ

Wúchǎnjiējí Wénhuà Dàgémìng, zhǐnéng shì qúnzhòng zìjǐ jiěfàng zìjǐ, bù néng cǎiyòng rènhé bāobàn dàitì

de bànfǎ.

Yào xìnrèn qúnzhòng, yīkào qúnzhòng, zūnzhòng qúnzhòng de shǒuchuàng jīngshén. Yào qùdiào "pà" zì. Búyào pà chū luànzi. Máo zhǔxí jīngcháng gàosu wǒmen, gémìng bù néng nàyàng yǎzhi, nàyàng wénzhì bīnbīn, nàyàng wēn liáng gōng jiǎn ràng. Yào ràng qúnzhòng zài zhège Dàgémìng yùndòng zhōng, zìjǐ jiàoyù zìjǐ, qù shíbié nǎxiē shì duì de, nǎxiē shì cuò de, nǎxiē zuòfǎ shì zhèngquè de, nǎxiē zuòfǎ shì bú zhèngquè de.

Yào chōngfèn yùnyòng dàzìbào、dà biànlùn zhèxiē xíngshì, jìnxíng dàmíng-dàfàng, yǐbiàn qúnzhòng chǎnmíng zhèngquè de guāndiǎn, pīpàn cuòwù de yìjian, jiēlù yíqiè niú guǐ shé shén. Zhèyang, cái néng shǐ guǎngdà qúnzhòng zài dòuzhēng zhōng tígāo juéwù, zēngzhǎng cáigàn, biànbié shìfēi, fēnqīng díwǒ.

16. Máo Zédōng Sīxiǎng shì Wúchǎnjiējí Wénhuà Dàgémìng de xíngdòng zhǐnán

Zài Wúchǎnjiējí Wénhuà Dàgémìng zhōng, yào gāojǔ Máo Zédōng Sīxiǎng de wěidà hóngqí, shíxíng wúchǎn jiējí zhèngzhì guàshuài. Yào zài guǎngdà gōng-nóng-bīng、guǎngdà gànbù hé guǎngdà zhīshi fènzǐ zhōng, kāizhǎn huóxué huóyòng Máo zhǔxí zhùzuò de yùndòng, bǎ Máo Zédōng Sīxiǎng zuòwéi Wénhuà Gémìng de xíngdòng zhǐnán.…

*　*　*

一、社会主義革命の新たな段階

いまくりひろげられているプロレタリア文化大革命は，人びと

の魂にふれる大革命であり，わが国社会主義革命のより深く，より広い，新たな発展段階である。…

ブルジョア階級はすでにうちたおされたとはいえ，かれらは搾取階級の旧思想，旧文化，旧風俗，旧習慣によって大衆をむしばみ，人びとの心を征服し，なんとかかれらの復活の目的をとげようとしている。プロレタリア階級はその正反対であって，かならずイデオロギーの分野におけるブルジョア階級のすべての挑戦にまっこうから痛撃をくわえ，プロレタリア階級自身の新思想，新文化，新風俗，新習慣によって社会全体の精神的様相をあらためなければならない。当面のわれわれの目的は，資本主義の道をあゆむ実権派を闘争によってたたきつぶし，ブルジョア階級の反動的学術「権威者」を批判し，ブルジョア階級とすべての搾取階級のイデオロギーを批判し，教育を改革し，文学・芸術を改革し，社会主義の経済的土台に適応しないすべての上部構造を改革して，社会主義制度の強化と発展に役だつようにすることである。

二、主流と曲折

広範な労働者・農民・兵士，革命的知識人，革命的幹部は，この文化大革命の主力部隊である。もともと名も知られなかった多くの革命的青少年が，勇敢な猛将となっている。かれらは，気迫があり，知恵がある。かれらは大字報や大討論の形で，大いに意見をのべ，大いに暴露し，大いに批判し，おもてだったブルジョア階級の代表者やひそみかくれたブルジョア階級の代表者にだんことした攻撃をくわえている。このように大きな革命運動のなかでは，かれらにもあれこれの欠陥はまぬかれがたいが，かれらの革命の大きな方向は一貫して正しいものである。これはプロレタリア文化大革命の主流である。プロレタリア文化大革命は，いま，この大きな方向にそってひきつづき前進している。

文化革命が革命である以上，阻害する力にあうのはさけられな

い。このような阻害する力は，主として党内にもぐりこんだ，資本主義の道をあゆむ実権派からくるが，また古い社会の習慣の力からもくる。このような阻害する力は，いまのところまだかなり大きく，頑強である。しかし，プロレタリア文化大革命は，とどのつまり，大勢のおもむくところであって，はばむことができない。多くの事実が物語っているように，大衆をじゅうぶんに立ちあがらせさえすれば，このような阻害する力は急速におしつぶされるのである。

四、運動のなかで大衆に自分で自分を教育させること

プロレタリア文化大革命では，大衆が自分で自分を解放するしかなく，なにからなにまで一手に引きうけるようなやり方はすべて採用してはならない。

大衆を信頼し，大衆に依拠し，大衆の創意を尊重しなければならない。「恐ろしい」という気持ちをとりのぞかなければならない。騒ぎがおこるのを恐れてはならない。毛主席がつねづねわれわれに教えているように，革命はそんなにお上品で，そんなにみやびやかな，そんなにおだやかでおとなしく，うやうやしく，つつましくひかえ目のものではない。大衆がこの大革命運動のなかで，自分で自分を教育し，なにが正しくて，なにがまちがっているか，どのやり方が正しくて，どのやり方が正しくないかを見わけるようにしなければならない。

大字報や大討論の形式を十分に運用して，大いに意見をのべさせ，それによって，大衆が正しい観点をあきらかにし，誤った意見を批判し，すべての妖怪変化を暴露するようにしなければならない。このようにしてこそ，広範な大衆は闘争のなかで自覚を高め，才能をのばし，是非をみきわめ，敵味方をはっきり区別することができるのである。

十六、毛沢東思想はプロレタリア文化大革命の行動の指針である

プロレタリア文化大革命では，毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ，プロレタリア階級の政治による統率を実行しなければならない。広範な労働者・農民・兵士，広範な幹部，広範な知識人のあいだで，毛主席の著作を活学活用する運動をくりひろげ，毛沢東思想を文化革命の行動の指針としなければならない。…

◇東方書店出版部編『中国プロレタリア大革命資料集成』第1巻，東方書店，1970年，100-108頁

【「文化大革命」の3段階】

①第1段階は，65年11月姚文元「新編歴史劇『海瑞罷官』を許す」を契機とし，66年5月の政治局拡大会議（5・16通知），8月の8期11中全会（「プロレタリアート文化大革命に関する16条」）を経て，毛沢東・林彪らが全面的に劉少奇ら「党内で資本主義の道を歩む実権派」（走資派）に対する奪権闘争を開始したことにはじまる。以後，各地で造反派と称する勢力によって行政・党組織の奪権が展開，全国的に政治的混乱状態となった。69年4月，中共九全大会が開催されるまでの3年間に，劉少奇らは完全に排除された。②第2段階は73年8月の10全大会までで，林彪グループの要求する権力再配分の主張が毛沢東との間に対立を生み，ついに林彪の「武装クーデタ」事件をひきおこすにいたった（71年9月13日事件）。このあと，周恩来が政治的混乱のたてなおしに力をそそぎ，10全大会を開催した。第2段階の最大の戦略転換はアメリカとの和解（72年2月，つづいて9月の日本との，71年10月には国連復帰がなされていた）で，対ソ関係の悪化を前提としていた。文革の第1段階で劉少奇とならんで「走資派」として打倒された鄧小平が副首相として復活したのも73年4月であった。しかし，同時に「4人組」グループも10全大会で進出し，江青・張春橋（1917～）・王洪文（1932～）・姚文元（1932～）らは党政治局に入った。③第3段階は，4人組による権力再分配要求がエスカレートし，周恩来や鄧小平に対する批判（批林批孔運動，74年1月～7月）を通じて国務院の実権掌握を企図した時期である。しかし，75年1月開催の第4期全人代で周恩来は「4つの現代化」推進を表明，鄧小平は党・軍組織の再編成にのりだした。4人組はこれらに対し，75年3月以降「ブルジョワジーに対する全面的独裁論」を提起し攻撃

を加えた。76 年 1 月 8 日の周恩来の死は新たな政治的動揺を予感させるものであった。(池田誠ほか『図説中国近現代史（新版)』194 頁)

【毛沢東語録】について

毛沢東の著作から抜粋して編集した小冊子。林彪は 1959 年に中国共産党中央軍事委員会副主席の職に就くと〈毛主席の著作を学習することはマルクス・レーニン主義を学習することの近道である〉と主張し，「解放軍報」が 61 年 5 月から毎日毛沢東の言葉を掲載し始めた。後に人民解放軍総政治部がそれらを増補編集し，「毛主席語録」として 64 年に軍内で発行した。66 年に文化大革命が発動されると，同年 12 月に林彪は自ら執筆した「再版まえがき」を加え，「語録」は全国で大々的に出版されることとなった。「再版まえがき」には〈毛沢東思想は全党，全軍，全国のすべての活動の指導方針である〉と書かれ，いっそうの毛沢東の個人崇拝が推進された。また，文革で劉少奇が失脚すると「語録」の中の劉少奇に関する記述が削除されるなど，「語録」は政治闘争の道具としても使われた。「語録」は文革期に毛沢東崇拝の象徴となり，公式の場で人々は「語録」を高く掲げ，学校や職場では内容を暗唱することが強要された。「語録」を携帯していない者は，バスや列車の乗車が禁じられたりしたほか，商店で物を売ってもらえないなどの状況すら出現した。大きさは携帯に便利なB7 サイズで，赤いビニール表紙だったことから“赤い宝書”とも呼ばれた。文革の 10 年間に 50 数億冊が出版されたという。(『岩波現代中国事典』)

【「文化大革命」に関する邦文の資料集】について

①新島淳良編『毛沢東最高指示 プロレタリア文化大革命期の発言』三一書房，1970 年；②東方書店出版部編『中国プロレタリア文化大革命資料集成』全 5 巻＋別巻（年表）1，東方書店，1970-71 年；③竹内実編『ドキュメント現代史 16 中国文化大革命』平凡社，1973 年；④加々美光行編『資料 中国文化大革命—出身血統主義をめぐる論争』りくえつ，1980 年。②は中国当局の公表文献のみを集めたものであり，他は未公開資料も収めている。④は表題が示すとおり，編者独自の観点から文革に迫ろうとしている。(野村浩一ほか編『現代中国研究案内』講座現代中国・別巻 2，岩波書店，1990 年，99-100 頁)

1958

9　共産主義のユートピア

58年5月，「社会主義建設の総路線」が採択され，第2次5ヵ年計画の第1年目から大躍進運動が開始された。一般的に「大躍進」と称されるものは，正式には「社会主義建設の総路線」，「大躍進」，「人民公社」の「三面紅旗」政策のことである。

「大躍進」が狙うのは，鉄鋼，エネルギー，食糧を要とした生産の大発展であり，目標は10年で英米諸国に追いつくことであった。開発戦略としては“2本足で歩む”方針が掲げられた。それは農業と工業，中央工業と地方工業，近代工業と伝統工業などを同時発展させようというもので，なかでも重視されたのは「小，土，群」と称された地方小型工場の建設であった。これは投資が少なくてすみ，投資効果が速く，だれでも参加できる簡便さから，中国の条件に適合した工業化方式としてもてはやされた。

人民公社化は58年8月，毛沢東が河南省新郷の七里営を訪れた際，そこで農民が自発的に組織したといわれる大農業集団組織に注目し，「人民公社はすばらしい」と語ったのが契機とされている。農業集団化の強化は社会主義化の加速という流れからすれば必然であった。58年8月，北戴河で開かれた中央政治局拡大会議において突如「農村に人民公社を設立することについての決議」が採択され，以来，全国で相次いで合作社を合併し人民公社が設立されることに

なった。9月時点で，その数が全国で約2万6000，全農家の98%強が公社に組織された。

人民公社の特異性はそれが「郷」（農村の行政単位）に相当し，1つの人民公社あたりが高級合作社の20～30倍にあたる2000戸という大規模なものであっただけではなく，農業，工業，商業，教育，軍事（民兵）のマルチ機能を兼ね備えていることにあった。パリ・コンミューンのような地域住民の自治組織がモデルとされた。

大躍進運動は8月頃からそのテンポが速められ，「わが国において共産主義が実現することはもはやそれほど遠い将来ではない」といった主張が公然となされる雰囲気となった。このなかで食糧生産や鉄鋼などの生産計画目標の倍増ないし繰り上げ達成が各部門や各地区政府に大きなプレッシャーとして課せられることになった。

工業製品から食糧まで相次ぐ大増産運動によって，基本建設投資は天井知らずに膨張し，経済は過熱状態となった。特に鉄鋼増産に異常な努力が払われ，大型製鉄所だけでなく土法高炉に全国で5000万人も動員され，昼夜を徹して製鉄，製鋼に従事させられた。この結果，労働力のみならず，石炭生産とその輸送，電力の供給が緊張するなど，国民経済の各方面でボトルネックが顕在化した。政府のマクロ経済に対する統制は失われ，国民の負担は極限に達した。

破綻はまず農業面から顕在化した。あまりにも条件を顧みない大規模集団化，農村社会の伝統を否定した共同食堂，共同保育，絶対平等主義という左翼傾向が農民のやる気を喪失させた。鉄鋼増産のための農業労働力の酷使もたたり，58年の秋の収穫期から農業生産の停滞と農民の窮乏化が深刻化した。農村のこうした状況から，人民公社の軌道修正

は避けられなくなった。同年12月，武昌会議において，「人民公社の若干の問題についての決議」がなされ，農業政策の調整が行なわれたが，すでに国民経済は取り返しのつかないほど大きな痛手を負っていた。

国民経済が大混乱に陥っているなかで，59 年夏から南部における洪水，北部における旱魃，虫害が相次いで発生し，解放後最大の被災面積となった。労働力の酷使，土法高炉建設や過度な食糧増産運動による自然資源の荒廃，農民の生産意欲の低下といった悪条件が重なり，各地で食糧不足による飢餓状態が生じた。

59 年 7 月，深刻な経済危機を前に江西省廬山で政治局拡大会議が開かれた。同会議で国防部長であった彭徳懐は大躍進と人民公社における“プチブル的熱狂主義”の誤りを批判した。勇気をもって正論を展開した彭徳懐に対し，毛沢東は自己の路線だけでなく，彼の指導性，無謬性への挑戦ととらえ，ただちに反撃にでた。彼は大躍進への批判をブルジョア階級の動揺性のあらわれ，党に対する攻撃と位置づけ，本来ならば左翼偏向を是正すべき会議を逆に右翼日和見主義分子との闘争の場に切りかえてしまった。結果として彭徳懐は反党集団として弾劾されることになり，大躍進政策の続行が確認された。これにより同会議から，再び経済の実状を顧みない高度成長の追求にアクセルが踏みこまれ，60 年の半ばまで続けられた。国民経済の傷口はさらに広げられた。このころ食糧供給も極めて悪化し，餓死者さえでる状況となった。そうしたなかで 60 年 7 月，中ソ論争の報復としてソ連は対中援助を打切った。

以上の現実を前に，さすがの毛沢東も戦線の縮小を決意せざるをえなくなった。60 年 6 月から 8 月にかけて大躍進政

策の放棄，経済調整政策への移行が決定された。大躍進は膨大な人的被害をもたらしただけでなく，資源の乱掘，乱伐による簡単には癒すことのできない自然環境破壊をもたらした。大躍進，人民公社化によって全国では2000万人が食糧不足から死に至らしめられたという。大躍進は6億6000万人（当時）もの全中国人を巻きこんだ解放後最大の政治経済運動であり，それゆえに行き過ぎや未熟な点があったものの，それは人類の理想を追求したもの，普遍的な意義をもつ開発戦略の実験であったという評価もある。しかし結果として2000万人もの死者を出したという事実を前にしては，いかなる弁解も説得力をもちえず，客観的な条件を無視した毛沢東の妄想の産物，人災であったといわざるをえない。（姫田光義ほか『中国20世紀史』東京大学出版会，1993年，223-226頁）

一

一九五八年，一种新的社会组织像初升的太阳一样，在亚洲东部的广阔的地平线上出现了，这就是我国农村中的大规模的、工农商学兵相结合的、政社合一的人民公社。它一出现，就以它的强大的生命力，引起了人们广泛的注意。

人民公社运动的发展很快。从一九五八年夏季开始，只经过了几个月时间，全国七

十四万多个农业生产合作社，就已经在广大农民的热烈要求的基础上，改组成了二万六千多个人民公社。参加公社的有一亿二千多万户，已经占全国各民族农户总数的百分之九十九以上。…

农村人民公社制度的发展，还有更为深远的意义。这就是：它为我国人民指出了农村逐步工业化的道路，农业中的集体所有制逐步过渡到全民所有制的道路。社会主义的“按劳分配”（即按劳付酬）逐步过渡到共产主义的“按需分配”（即各取所需）的道路，城乡差别、工农差别、脑力劳动和体力劳动的差别逐步缩小以至消失的道路，以及国家对内职能逐步缩小以至消失的道路。

二

人民公社是我国社会主义社会结构的工农商学兵相结合的基层单位，同时又是社会主义政权组织的基层单位。根据马克思列宁主义的理论和我国人民公社的初步经验，现

在可以预料：人民公社将加快我国社会主义建设的速度，并且将成为我国实现下述两个过渡的最好的形式，即第一，成为我国农村由集体所有制过渡到全民所有制的最好的形式；第二，成为我国由社会主义社会过渡到共产主义社会的最好的形式。现在也可以预料，在将来的共产主义社会，人民公社将仍然是社会结构的基层单位。…

七

办好人民公社的根本问题是加强党的领导。只有加强党的领导，才能实行政治挂帅，才能在干部和社员中深入地进行社会主义、共产主义的思想教育和反对各种错误倾向的斗争，才能正确地执行党的路线和政策。某些人认为有了公社就可以不要党，就可以实行所谓“党社合一”，这种想法是错误的。…

◇《关于人民公社若干问题的决议（一九五八年十二月十日中国共产党第八届中央委员会第六次全体会议通过）》（中共中央文献研究室编《建国以来重要文献选编》第11册，中央文献出版社，1995年，第598-620页）。

◆《人民日报》(1958.12.19)。

◆《中共中央综合性文集》(《中国革命史档案文献光盘库》A-1)，《新华半月刊》(B-38)。

◆《中国共产党文献资料库》。

〔农业生产合作社〕 ⇨【中国の社会主義化】

shēnyuǎn【深远】深遠である。奥深い。¶～的意义／深遠な意義。¶～的影响 yǐngxiǎng ／はかり知れない影響。

zhúbù【逐步】一歩一歩と。しだいに。¶这个问题必须～加以解决／この問題は一歩一歩解決していかなければならない。

〔农业中的集体所有制逐步过渡到全民所有制的道路〕 ⇨【全人民所有制と集団所有制】

〔社会主义的“按劳分配”（即按劳付酬）逐步过渡到共产主义的“按需分配”（即各取所需）的道路〕 ⇨【共産主義の2段階論】

yǐzhì【以至】〔接続詞〕…に至るまで。¶看一遍不懂，就看两遍三遍、～更多遍／1度読んで分からないときは，2度，3度，さらにはもっと多くの度数を重ねる。¶生产效率 xiàolǜ 提高几倍～几十倍／生産性が数倍から数十倍にまで高まった。〔時には前の部分に“自、从”などを用いて呼応させることもある〕

jiégòu【结构】(1) 構成。仕組み。¶这篇文章～严密 yánmì ／この文章は構成ががっちりしている。(2)（建築の）組み立て，構造。¶社会～／社会構造。

yùliào【预料】予想（する）。見積もる。¶这件事我们早有～／この事について私たちは前から予想していた。

*　*　*

(1)

Yījiǔwǔbā nián, yì zhǒng xīn de shèhuì zǔzhī xiàng chū shēng de tàiyáng yíyàng, zài Yàzhōu dōngbù de guǎngkuò de dìpíngxiàn shang chūxiàn le, zhè jiùshì wǒ guó nóngcūn zhōng de dà guīmó de、gōng·nóng·shāng·xué·bīng xiāng jiéhé de、zhèng·shè héyī de Rénmín Gōngshè. Tā yī chūxiàn, jiù yǐ tā de qiángdà de shēngmìnglì, yǐnqǐ le rénmen guǎngfàn de zhùyì.

Rénmín Gōngshè yùndòng de fāzhǎn hěn kuài. Cóng

yījiǔwǔbā nián xiàjì kāishǐ, zhǐ jīngguo le jǐ ge yuè shíjiān, quánguó qīshísì wàn duō ge nóngyè shēngchǎn hézuòshè, jiù yǐjing zài guǎngdà nóngmín de rèliè yāoqiú de jīchǔ shang, gǎizǔ chéng le liǎngwàn liùqiān duō ge Rénmín Gōngshè. Cānjiā gōngshè de yǒu yīyì liǎngqiān duō wàn hù, yǐjing zhàn quánguó gè mínzú nónghù zǒngshù de bǎifēnzhī jiǔshíjiǔ yǐshàng. …

Nóngcūn Rénmín Gōngshè zhìdù de fāzhǎn, hái yǒu gèng wéi shēnyuǎn de yìyì. Zhè jiù shì tā wèi wǒ guó rénmín zhǐchū le nóngcūn zhúbù gōngyèhuà de dàolù, nóngyè zhōng de jítǐ suǒyǒuzhì zhúbù guòdù dào quánmín suǒyǒuzhì de dàolù. Shèhuì zhǔyì de "àn láo fēnpèi" (jí àn láo fùchóu) zhúbù guòdù dào gòngchǎn zhǔyì de "àn xū fēnpèi" (jí gè qǔ suǒ xū) de dàolù, chéng-xiāng chābié、gōng-nóng chābié、nǎolì láodòng hé tǐlì láodòng de chābié zhúbù suōxiǎo yǐzhì xiāoshī de dàolù, yǐjí guójiā duìnèi zhínéng zhúbù suōxiǎo yǐzhì xiāoshī de dàolù.

(2)

Rénmín Gōngshè shì wǒguó shèhuì zhǔyì shèhuì jiégòu de gōng-nóng-shāng-xué-bīng xiāng jiéhé de jīcéng dānwèi, tóngshí yòu shì shèhuì zhǔyì zhèngquán zǔzhī de jīcéng dānwèi. Gēnjù Mǎkèsī-Lièníng Zhǔyì de lǐlùn hé wǒ guó Rénmín Gōngshè de chūbù jīngyàn, xiànzài kěyǐ yùliào: Rénmín Gōngshè jiāng jiākuài wǒ guó shèhuì zhǔyì jiànshè de sùdù, bìngqiě jiāng chéngwéi wǒ guó shíxiàn xià shù liǎng ge guòdù de zuì hǎo de xíngshì, jí dì-yī, chéngwéi wǒ guó nóngcūn yóu jítǐ suǒyǒuzhì guòdù dào quánmín suǒyǒuzhì de zuì hǎo de xíngshì; dì-èr, chéngwéi wǒ guó yóu shèhuì zhǔyì shè-

huì guòdù dào gòngchǎn zhǔyì shèhuì de zuìhǎo de xíngshì. Xiànzài yě kěyǐ yùliào, zài jiānglái de gòngchǎn zhǔyì shèhuì, Rénmín Gōngshè jiāng réngrán shì shèhuì jiégòu de jīcéng dānwèi. …

(7)

Bàn hǎo Rénmín Gōngshè de gēnběn wèntí shì jiāqiáng dǎng de lǐngdǎo. Zhǐyǒu jiāqiáng dǎng de lǐngdǎo, cái néng shíxíng zhèngzhì guàshuài, cái néng zài gànbù hé shèyuán zhōng shēnrù de jìnxíng shèhuì zhǔyì、gòngchǎn zhǔyì de sīxiǎng jiàoyù hé fǎnduì gè zhǒng cuòwù qīngxiàng de dòuzhēng, cái néng zhèngquè de zhíxíng dǎng de lùxiàn hé zhèngcè. Mǒu xiē rén rènwei yǒu le Gōngshè jiù kěyǐ búyào dǎng, jiù kěyǐ shíxíng suǒwèi "dǎng-shè héyī", zhè zhǒng xiǎngfǎ shì cuòwù de. …

*　*　*

—

1958 年，1 つの新しい社会組織が，のぼる朝日のように，アジア東部のひろびろとした地平線上にあらわれた。それこそ，わが国農村における大規模な，工業，農業，商業，文化・教育，軍事を結びあわせた，行政と農業社とが合体した人民公社である。それが出現すると，その強大な生命力で，ひろく人びとの注意をひいた。

人民公社運動の発展は非常にはやい。1958 年の夏から始まって，わずか数ヵ月のあいだに，全国 74 万余の農業生産合作社はすでに，広範な農民の熱烈な要求をもととして，2 万 6000 余の人民公社に改組された。公社に参加したものは 1 億 2000 余万戸

に達し，全国各民族の農家総数の 99 パーセント以上をしめている。

農村の人民公社制度の発展には，さらにもっと深遠な意義がある。それは，わが国の人民に，農村がしだいに工業化してゆく道，農業における集団的所有制がしだいに全人民的所有制へ移行する道，社会主義の「労働におうじた分配」（つまり，労働におうじて報酬を支払うこと）からしだいに共産主義の「必要におうじた分配」（つまり，必要におうじて受けとること）へ移行する道，都市と農村の差別，工業と農業の差別，頭脳労働と肉体労働の差別をしだいに縮小し，しまいにはそれを消滅させてゆく道，および国家の対内的な機能をしだいに縮小し，しまいには消滅してしまう道をさし示したことである。

二

人民公社は，わが国の社会主義的社会構造の工業，農業，商業，文化・教育，軍事を結びあわせた基層単位であると同時に，社会主義権力機構の基層単位である。マルクス・レーニン主義の理論とわが国における人民公社の初歩的な経験からして，いまのところ，人民公社はわが国の社会主義建設の速度をはやめるとともに，わが国が以下の2つの移行を実現する最良の形態となることが予想される。すなわち，第1は，わが国の農村を集団的所有制から全人民的所有制へ移行させる最良の形態となり，第2は，わが国を社会主義社会から共産主義社会へ移行させる最良の形態となるということである。また，将来の共産主義社会においても，人民公租はやはり社会構造の基層単位であることがいまから予想できる。

七

人民公社を立派に運営するうえでの根本問題は，党の指導をつ

よめることである。党の指導をつよめることによってはじめて，政治がいっさいを統率することが実現されるようになり，幹部と社員のあいだで社会主義，共産主義の思想教育と，さまざまな誤った便向に反対する闘争を深く行なうことができ，党の路線と政策を正しく遂行してゆくことができるのである。公社があれば党はなくてもよいとか，いわゆる「党と公社の合体」を実行することができるなどと考えているものがあるが，こうした考え方は間違っている。

◇日本国際問題研究所中国部会編『中国大躍進政策の展開』上巻，日本国際問題研究所，1973 年，387-402 頁。

【中国の社会主義化】

①1953年半ば，第1次5ヵ年計画が提起されたが，これは中華人民共和国成立から社会主義改造の完成までを「過渡期」とする「総路線と総任務」の重要な柱となった。つまり，1)国家の社会主義工業化と，2)農業，3)手工業，4)および資本主義工商業の社会主義的改造（一化三改）という総路線が，中国政治経済の依るべき枠組として提示されたのである。翌 54 年 9 月の「第 1 回全国人民代表大会」は，共同綱領にかわる中華人民共和国憲法を採択し，労働者階級の指導する労農同盟を基礎とした人民民主主義国家であるとしたうえで，過渡期の総任務を明文化した。②1953 年から 57 年までの 5 ヵ年計画は，社会主義工業化の基礎をつくりあげるものとして認識され，周恩来（1898～1976），陳雲（1905～）が主導した。中心的課題はソビエト連邦の援助になる 156 単位と 694 単位の大中型工業建設で，鉄鋼・有色金属・電力・石炭・重機械・自動車トラクターなどの分野が含まれていた。56 年までの 7 年間に，工業の固定資産は 155 億元に達し，旧中国時代の総額 124 億元をも上まわった。工業生産額は，52 年の 184%（年平均 19.6%）に達し，57 年をまたずして五ヵ年計画の目標を達成した。③他方，農業政策では，**土地改革後（⇨10）の零細な農民的土地所有制の生産力的限界を突破するため，農村での互助組・合作社の組織化に着手し，53年12月「農業生産合作社に関する決議」を全国に指示した。さらに，55年7月の毛沢東報告「農業合作社問題について」を契機として，**

翌56年3月までに初級農業合作社（平均20～30戸）に加入した農家は88．9%に達した。さらに同年末には，高級農業合作社（平均200戸）加入率は87．8%となり，集団化が4年ほどの間に完成された。この急激な展開は合作社における経営管理能力の不十分さとあいまって，「平均主義」が社会主義であるとする風潮が一般化することになった。たしかに，この集団化政策は，分散的農村を政治的に統合し，食糧調達を合理化したが，それは工業化の急速な達成のための動員体制づくりと，冷戦という国際的情勢の緊張を背景としてはじめて可能なものであった。④同時に，政治体制としての「集権的社会主義」システムが形成され，国家と社会と中国共産党の「三位一体」的構造が明確となった。（池田誠ほか『図説中国近現代史（新版）』184頁）

【全人民所有制と集団所有制】

①1950年代半ば以降，中国経済は，所有形態からみれば，基本的に国家所有制と集団所有制で構成されていた。工業，銀行，商業，建築，運輸などの領域では，国家所有制が圧倒的であり，集団所有制が，限られた範囲で補完するという構成であった。農業では，集団所有制の人民公社がほぼ全面化した。②国家所有は，形式的・法的には，全勤労人民の所有＝全人民所有である。国有企業の「主人公」は労働者であり，彼らは労働者・職員代表大会等を通して，企業の管理・運営に関与するとされていた。しかし実際には労働者は企業の管理・運営から排除され，ただ上からの指揮・命令に従って与えられた任務を行なうだけであった。さらに労働者は，国家の労働部門によって計画的に各企業へ配分され，いったん就業すれば，基本的に一生，企業から離れることはできなかった。労働者は，「職業選択」という最も基本的な意思決定からも排除されていた。③実際に所有権（管理・運営権，成果の取得・処分権）を行使したのは国家＝党であった。国家は，国有企業を直接管轄する，産業部門別に設立された行政機構＝中央の各部や各省・直轄市・自治区およびそれ以下の地方政府の各局・庁（これらの管轄部門を企業の上級主管部門という）やその他の国家行政部門（計画，財政，物資，労働等の部門），および各上級主管部門によって任命される企業裏を通して，国有企業を管理・運営していた。④そしてこれらの行政部門の業務全体を，党の中央および地方各級党委員会の業務部門が管理していた。50年代半ば以降，中国では，旧ソ連・東欧のような，党が国家機関に配置された党員を通して間接的に国家

を指導するシステムではなく，実質的のみならず形式的にも，党が国家を直接指導する一元的な指導システム（「党国」システム）がとられており，各行政部門は，党委員会の命令に服すべきことが指示されていた。たとえば企業内についてみると，重要な意思決定権，中級幹部の任命権等は企業の党委員会が握っており，国家から下達される任務を国家に代わって遂行する国家行政幹部としての企業長は，党委員会の指導のもとにあった（党委員会指導下の企業長責任制）。また企業長などの企業レベルの幹部の人事権も，上級主管部門の党組織が握っていた。その意味で国家所有の主体は，党にあったといえよう。国家が企業を管理・運営するという意味で，一般に国有企業を国営企業と呼んできたが，実態は党経営企業であった。⑤集団所有制の実態も，国家所有制とほとんど変わらなかった。**集団所有の所有権は，形式的・法的には集団を構成する範囲内の勤労者にあるとされていた。**しかし規模が比較的大きく，生産・経営条件が比較的良いとみなされた都市部の集団所有制の企業は，業種別に一括して，省・市・自治区および県のそれぞれの主管行政機構（局，公司，たとえば第2軽工業局）に管理されるようになり，所有権と管理権は実際には，これらの主管行政機構の手に集中していた。たとえば，これらの企業の利潤はすべて各主管行政機構に集中され，主管行政機構の裁量によって使用された。企業の労働者・職員の賃金標準も，主管行政機構によって確定された。また主管行政機構の管理に移って以降，企業長も主管行政機構によって任命され，労働者も国家によって計画的に配分されるようになっている。したがってこれらの集団所有制企業は，実質上，国有企業とほとんど変わらなかった。これらを「大集団」企業といい，それ以外のものを「小集団」企業というが，後者は零細なものに限られていた。⑥**人民公社は農村部の集団所有制企業であると同時に，基層政権機構（郷人民政府）と合体した組織（政社合一）であり，国家のヒエラルキー構造に組み込まれ，実質的には国家コントロールのもとに置かれていた。**たとえば作付けすべき農作物の種類，その作付け面積，生産量，単位面積当たり収量が，「指令性計画」として国家機関から通達されていた。⑦「改革・開放」以前の国家所有の実態は党所有であり，集団所有も，大部分は，党所有であったといえよう。（上原一慶編『現代中国の変革』世界思想社，1994年，175-178頁）

【共産主義の 2 段階論】

①マルクスは「発展した共産主義社会」と「生まれたばかりの共産主義社会」を区別し，「あらゆる点で，経済的にも道徳的にも精神的にも，それが生まれでてきた母胎たる旧社会の母斑をまだおびている」この後者の段階について次のように説明した。個々の生産者は，「彼が社会にあたえたのと正確に同じだけのものを……かえしてもらう」。彼はこれこれの労働を給付したという証明書を社会から受け取り，この証明書をもって消費資料の社会的貯蔵からひとしい量の労働を要するものをひきだす。人は能力によって，同じ時間内でより多くの労働を給付しうる。となれば，受け取るものもより多くなるのである。このような「不平等の権利」，「欠陥」は共産主義の第一段階では避けられない。②つまり**「各人は能力に応じて，各人には労働に応じて」**という状態が革命後の当面の目標となるというのである。これはサン=シモン主義者のスローガンを共産主義の第 1 段階に位置づけたものである。そのような第 1 段階がユートピアになるということは，1875 年においても人々が能力を生かして働く機会を平等にめぐまれていないし，労働に応じて受け取ることも十分には保障されていないという資本主義社会の現実があったためであろう。③より高度な，第 2 段階については，次のように説明されている。「個人が分業に奴隷的な従属をすることがなくなり，それとともに精神労働と肉体労働との対立がなくなったのち，労働そのものが第 1 の生活欲求となったのち，個人の全面的な発達にともなって生産力も増大し，協同社会的富のあらゆる泉がいっそうわきでるようになったのち――そのときはじめて，……社会はその旗のうえにこう書くことができる――**各人はその能力に応じて，各人にはその必要に応じて！**」④このスローガンがカベー，ルイ・ブランらのスローガンをそのまま採用したものであるのは明らかである。マルクスの 2 段階論は初期社会主義者の分裂を段階論で総合したと言える。多くの人々がもつ共産主義ユートピアを第 2 段階に位置づけたということは，それが一挙には実現できず，資本主義を引きずった第一段階が相当期間続くと主張することにひとしかった。**「各人にはその必要に応じて」**というユートピアは，欲望のコントロールという問題と結びついている。あらゆるユートピア思想家はこの問題に悩んできた。初期社会主義者がキリスト教に回帰する最大の理由はここにもあった。しかし，宗教を拒絶するマルクスにとって，必要に応じての分配を保証するものは基本的に生産力の増大だけということになる。たしかに 19 世紀は生産力の無限の発展にバラ色の期待がかけられた時代であった。それにしてもマルクスがユートピアの難題

を単純な楽観論ですりぬけている印象は否めない。その意味で言えば，マルクス主義はユートピア思想としては，むしろ後退を現していると言わざるをえない。⑤だが，弱点もまた強みである。マルクス主義の強みは存在する資本主義社会，近代市民社会の鈍い分析批判にあり，対決的な政治的急進主義と世界史的使命観によって人々を困難な闘争に鼓舞する力にあった。社会主義ユートピアについて語ることが貧しかったことは，マルクス主義が現実改革の急進思想，近代化革命の急進思想として機能する可能性を与えたのである。（和田春樹『歴史としての社会主義』岩波新書，1992 年，49-52 頁）

【建国以来重要文献選編】について

中共中央文献研究室編，中央文献出版社，1992-1998 年。建国から「文化大革命」前夜にいたる時期の，中共中央・全国人民代表大会・政務院と国務院・中央軍事委員会が出した基本文献，それらが各所轄部門に示達した重要文献，中央の指導者・部門責任者が発表した重要講話・文章，中央の意向を伝達する重要な社論，および歴史的に少なからず影響を与えたあるいは重要な理論的意義を有する非公式文献・講話記録を収録（第 1 冊所収の「出版説明」）。各冊の内容は以下の通り。第 1 冊（1949-1950），第 2 冊（1951），第 3 冊（1952），第 4 冊（1953），第 5 冊（1954），第 6 冊（1955.1-1955.7），第 7 冊（1955.7-1955.12），第 8 冊（1956.1-1956.7），第 9 冊（1956.8-1956.12），第 10 冊（1957），第 11 冊（1958），第 12 冊（1959），第 13 冊（1960），第 14 冊（1961），第 15 冊（1962），第 16 冊（1963.1-1963.8），第 17 冊（1963.9-1963.12），第 18 冊（1964.1-1964.6），第 19 冊（1964.7-1964.12），第 20 冊（1965）。

【中国大躍進政策の展開】について

日本国際問題研究所中国部会編，上下 2 巻，日本国際問題研究所，1973-1974 年。1958 年 2 月から 1960 年 4 月までの政治・経済・軍事・外交・文化・教育等の基本資料を編纂・翻訳し，解説を付加する（131＋4 文献を収録）。

1950

10　農村の変革

〔土地改革の定義〕土地所有制度の変革。一般的に，少数の地主が集中的に所有している土地を，実際に耕作に従事する農民（多くは小作農）に分配し，自作農を創設する社会改革を言う。

〔概観〕土地改革は，ヨーロッパではブルジョア革命の一環として行なわれ，近代資本主義，民主主義発展の原動力となった。アジアでは，中国も含めてほとんどの国が，第 2 次大戦後の民主化・近代化改革の一環として土地改革を実施し，その後の経済発展と民主化の基礎を用意した。

〔中国の土地改革〕中国の土地改革は，中国共産党によるものと，中国国民党によるものがあるが，中国大陸における土地改革は主に前者である。中共は，その土地改革によって3億人の農民に7億畝（4666万ha）の土地を分配したといい，分配を受けた農民は生産意欲を強めたと思われる。しかし，中国に限らず，土地改革は本来，地主的土地所有を廃し，農民に土地を所有させるために行なわれるものなので，政治的な性格をもつ。特に中国の場合，国共2つの革命政党が土地改革を革命の一環と位置付けたので、政治色がきわめて強く，その直接的な目的は経済よりも政治にあった。

中共は、党創設以来，中国の現状を“半植民地・半封建社会”と規定し，これに対する革命の任務を“反帝・反封建”と規定していた。封建とは主として地主的土地所有を指し，

反封建の主要な内容は土地改革であった。したがって，土地改革は農村における現体制の破壊と中共権力の樹立をめざす革命であった。しかし，農民が自発的に動くことは少なく，中共は村へ工作隊を送って農民を説得し地主に対して闘争させる方式をとった。一方、国民党の創設者孫文も早くから“耕者有其田”（耕す者が土地を持つ）のスローガンを掲げ，土地改革を党の政策とした。1920 年代の国共合作期には国共とも土地改革に積極的であったが系統的に実施できる状況にはなかった。

〔土地革命〕〔減租減息政策〕〔土地改革・農村革命の曲折〕

〔土地改革法と農村権力の確立〕 人民共和国成立の翌50年6月，全国的な土地改革実施のために，土地改革法が制定された。土地法大綱への反省から，土地改革法は富農経済の温存を柱とした穏健な規定に特徴がある。しかし，朝鮮戦争の勃発によって，中共政権は国内の階級敵が国外の敵と呼応することを恐れて，富裕層に対する攻撃を強めた。土地改革においても，ほとんどの地域で富農経済温存の原則は無視され，土地法大綱の場合と同様に，頭割り均分が行なわれている。

52年，土地改革は完了したが，1人当たり平均分配地は華北では3-4畝（20-25a），華南では2-3畝（13-20a）程度で，専業農家としては経営の苦しい零細な規模である。中共が農業集団化を急いだ理由の1つはここにあった。一般的に，土地改革は農民の生産意欲を強めるので，長期的には農業生産の拡大につながることが知られている。しかし中国の場合，土地改革後の農業生産の伸びは他の時期に比べて特に顕著とは言えない。ただこれは土地改革の経済効果を否定するものではなく，それが実現する前に農業集団化によって農民から土地所有権が奪われたと見るべきであろう。

いずれにせよ，主要な成果は，経済でなく政治にある。土地改革は，農村の旧秩序を徹底的に破壊し，末端権力を農民に与えた。村幹部たちは中共に忠誠な新支配層を形成し，中共は彼らを通じて村政権を掌握し，支配体制を固めたのである。(『岩波現代中国事典』1999年、959-961頁)

第一章　总则

第一条　废除地主阶级封建剥削的土地所有制，实行农民的土地所有制，借以解放农村生产力，发展农业生产，为新中国的工业化开辟道路。

第二章　土地的没收和征收

第二条　没收地主的土地、耕畜、农具、多余的粮食及其在农村中多余的房屋。但地主的其他财产不予没收。

第四条　保护工商业，不得侵犯。

地主兼营的工商业及其直接用于经营工商业的土地和财产，不得没收。不得因没收封建的土地财产而侵犯工商业。

工商业家在农村中的土地和原由农民居住的房屋，应予征收。但其在农村中的其他

财产和合法经营，应加保护，不得侵犯。

第三章　土地的分配

第十条　所有没收和征收得来的土地和其他生产资料，除本法规定收归国家所有者外，均由乡农民协会接收，统一地、公平合理地分配给无地少地及缺乏其他生产资料的贫苦农民所有。对地主亦分给同样的一份，使地主也能依靠自己的劳动维持生活，并在劳动中改造自己。

第五章　土地改革的执行机关和执行方法

第二十八条　为加强人民政府对土地改革工作的领导，在土地改革期间，县以上各级人民政府，经人民代表会议推选或上级人民政府委派适当数量的人员，组织土地改革委员会，负责指导和处理有关土地改革的各项事宜。

第二十九条　乡村农民大会，农民代表会及其选出的农民协会委员会，区、县、省各级农民代表大会及其选出的农民协会委员

会，为改革土地制度的合法执行机关。

第三十条　土地改革完成后，由人民政府发给土地所有证，并承认一切土地所有者自由经营、买卖及出租其土地的权利。土地制度改革以前的土地契约，一律作废。

◇《中华人民共和国土地改革法（一九五〇年六月二十八日中央人民政府委员会第八次会议通过，一九五〇年六月三十日中央人民政府主席毛泽东发布命令公布施行）》（中共中央文献研究室编《建国以来重要文献选编》第一册，1992年，第336-343页）。

◆《人民日报》(1950.6.30)。

◆《中共中央综合性文集》(《中国革命史档案文献光盘库》A-1)，《中华人民共和国法令、法规、法律汇编(三)》(A-7)，《新华社新闻稿》(B-14)，《新华月报》(B-30)。

◆《中国共产党文献资料库》。

jièyǐ【借以】それによって…する。¶一件一件地核对 héduì 事实，～做出结论／事実を１つ１つ照合し，それによって結論を下す。

zhēngshōu【征收】（政府が法律によって）徴収する。¶～公粮／農業税としての穀物を徴収する。¶～商业税 shāngyèshuì ／営業税を徴収する。

bùyǔ【不予】…してやらない。¶～批准／批准をしない。許可しない。

bùdé【不得】〈書〉…するを得ず。…してはならない。¶～将参考书携 xié 出阅览室yuèlǎnshì／参考書を閲覧室から持ち出してはならない。

jí【及】〔“及＋其”の形で，あるものと，それに従属するものとを接続する〕¶本人～其家属／本人およびその家族。¶句子的主要成分～其语法功能／文の主要成分およびその文法上の働き。

ér【而】因果関係をなす２つの事柄を接続する。¶因病～缺席 quēxí

／病気で欠席した。¶为早日实现四个现代化～奋斗／4つの近代化の早期実現のために奮闘する。

yīng【应】…べきである。…なければならない。▼話し言葉では普通，"应该""应当"を用いる。

〔乡〕農村部における末端行政区画単位。建国後，郷は農村部における末端行政区画単位として設置されたが，1958年の人民公社化により，人民公社が経済組織と末端政権組織としての機能を併せ持つ，いわゆる政社合一制がとられ，郷制は廃止された。しかし，70年代末に始まる農村改革に伴い，人民公社は事実上崩壊し，82年の憲法改正を受けて郷制が復活した。郷には人民代表大会と人民政府が置かれ，人民政府には郷長と副郷長が置かれる。人民代表大会の代表は住民により直接選挙され，郷長・副郷長は人民代表大会により選出される。郷政府は郷人民代表大会の執行機関であるとともに，国の一地方行政機関でもあり，上級機関である県政府の指揮監督に服する。(『岩波現代中国事典』)

tuīxuǎn【推选】(口頭で)推薦する，選出する。

wěipài【委派】任命する。委任する。(仕事を)割り当てる。

fāgěi【发给】支給する。発行する。交付する。¶～他护照 hùzhào／彼にパスポートを発行する。

zuò//fèi【作废】無効になる。廃物になる。無効にする。廃棄する。¶车票三天内有效，过期～／乗車券は3日以内有効で，期日を過ぎると無効になる。

*　*　*

Dì-yī zhāng: Zǒngzé

Dì-yī tiáo

Fèichú dìzhǔ jiējí fēngjiàn bōxuē de tǔdì suǒyǒuzhì, shíxíng nóngmín de tǔdì suǒyǒuzhì, jièyǐ jiěfàng nóngcūn shēngchǎnlì, fāzhǎn nóngyè shēng-

chǎn, wèi xīn Zhōngguó de gōngyèhuà kāipì dàolù.

Dì-èr zhāng Tǔdì de mòshōu hé zhēngshōu

Dì-èr tiáo

Mòshōu dìzhǔ de tǔdì、gēngchù、nóngjù、duōyú de liángshi jí qí zài nóngcūn zhōng duōyú de fángwū. Dàn dìzhǔ de qítā cáichǎn bùyǔ mòshōu.

Dì-sì tiáo: Bǎohù gōngshāngyè, bùdé qīnfàn.

Dìzhǔ jiānyíng de gōngshāngyè jí qí zhíjiē yòng yú jīngyíng gōngshāngyè de tǔdì hé cáichǎn, bùdé mòshōu. Bùdé yīn mòshōu fēngjiàn de tǔdì cáichǎn ér qīnfàn gōngshāngyè.

Gōngshāngyèjiā zài nóngcūn zhōng de tǔdì hé yuán yóu nóngmín jūzhù de fángwū, yīng yú zhēngshōu. Dàn qí zài nóngcūn zhōng de qítā cáichǎn hé héfǎ jīngyíng, yīng jiā bǎohù, bùdé qīnfàn.

Dì-sān zhāng: Tǔdì de fēnpèi

Dì-shí tiáo

Suǒyǒu mòshōu hé zhēngshōu dé lái de tǔdì hé qí tā shēngchǎn zīliào, chú běn fǎ guīdìng shōu guī guójiā suǒyǒuzhě wài, jūn yóu xiāng nóngmín xiéhuì jiēshōu, tǒngyī de、gōngpíng hélǐ de fēnpèi gěi wú dì shǎo dì jí quēfá qí tā shēngchǎn zīliào de pínkǔ nóngmín suǒyǒu. Duì dìzhǔ yì fēn gěi tóngyàng de yí fèn, shǐ dìzhǔ yě néng yīkào zìjǐ de láodong wéichí shēnghuó, bìng zài láodòng zhōng gǎizào zìjǐ.

Dì-wǔ zhāng: Tǔdì gǎigé de zhíxíng jīguān hé zhíxíng fāngfǎ

Dì-èrshíbā tiáo

Wèi jiāqiáng rénmín zhèngfǔ duì tǔdì gǎigé gōngzuò de lǐngdǎo, zài tǔdì gǎigé qījiān, xiàn yǐ-

shàng gèjí rénmín zhèngfǔ, jīng rénmín dàibiǎo huìyì tuīxuǎn huò shàngjí rénmín zhèngfǔ wěipài shìdàng shùliàng de rényuán, zǔzhī tǔdì gǎigé wěiyuánhuì, fùzé zhǐdǎo hé chǔlǐ yǒuguān tǔdì gǎigé de gè xiàng shìyí.

Dì·èrshíjiǔ tiáo

Xiāngcūn nóngmín dàhuì, nóngmín dàibiǎohuì jí qí xuǎnchū de nóngmín xiéhuì wěiyuánhuì, qū、xiàn、shěng gèjí nóngmín dàibiǎo dàhuì jí qí xuǎnchū de nóngmín xiéhuì wěiyuánhuì, wéi gǎigé tǔdì zhìdù de hé·fǎ zhíxíng jīguān.

Dì·sānshí tiáo

Tǔdì gǎigé wánchéng hòu, yóu rénmín zhèngfǔ fā·gěi tǔdì suǒyǒuzhèng, bìng chéngrèn yíqiè tǔdì suǒyǒuzhě zìyóu jīngyíng、mǎimai jí chūzū qí tǔdì de quánlì. Tǔdì zhìdù gǎigé yǐqián de tǔdì qìyuē, yílǜ zuòfèi.

*　*　*

第１章　総則

第１条　地主階級の封建的搾取の土地所有制を廃止して，農民的土地所有制を実行し，それによって農村の生産力を解放し，農業生産を発展させ，新中国の工業化のために道を開く。

第２章　土地の没収と徴収

第２条　地主の土地，役畜，農具，余分の穀物および農村に所有する余分の家屋を没収する。ただし，地主のその他の財産は没収しない。

第４条　工商業を保護し，侵害してはならない。

地主が兼営する工商業および工商業を経営するうえで直接使用している土地財産は没収してはならない。封建的な土地財産を没収することによって工商策を侵害してはならない。

工商業者が農村にもつ土地および元来農民に居住させていた家屋は徴収すべきである。ただし，農村にあるその他の財産と合法的な経営は保護し，侵害してはならない。

第3章　土地の分配

第 10 条　没収および徴収で得たすべての土地とその他の生産手段は，本法が国家の所有に帰すと規定するものを除き，すべて郷農民協会が接収し，土地のない者，土地のすくない者，およびその他の生産手段に欠乏している貧困の農民に，統一的に，公平かつ合理的に，分配して所有させる。地主にたいしても同じわけまえを与え，地主が自分の労働によって生活を維持できるようにさせ，そしてまた労働のなかで自己を改造させる。

第5章　土地改革の執行機関と執行方法

第 28 条　土地改革工作にたいする人民政府の指導を強化するため，土地改革の期間中には，県以上の各級人民政府は，人民代表会議が推薦するか，または上級の人民政府が派遣する適当な数の人員で土地改革委員会を組織し，土地改革関係の各種の事項を指導し処理する責任を負わせる。

第 29 条　郷村農民大会，農民代表会議およびそれらが選出する農民協会委員会，区・県・省の各級農民代表大会およびその選出する農民協会委員会は，土地制度を改革するための合法的な執行機関である。

第 30 条　土地改革完了後，人民政府は土地所有証を交付し，すべての土地所有者がその土地を自由に経営し，売買し賃貸す

る権利を承認する。土地制度改革以前の土地契約は，すべて廃棄する。

◇日本国際問題研究所中国部会編『新中国資料集成』第3巻，日本国際問題研究所，1969年，131-136頁。

◆郷村農民大会，農民代表会議およびそれらが選出する農民協会委員会，区・県・省の各級農民代表大会およびその選出する農民協会委員会は，土地制度を改革する〔ための〕合法的な執行機関である。 ※「为」は「…とする，とみなす」。

【新華通信社】

略称，新華社。前身は紅色通信社(略称，紅中社)。1931年11月，中華ソビエト共和国臨時政府の機関通信社として革命根拠地の瑞金で創立された。その後長征を経て，陝西省北部に根拠地が移り，37年1月，紅中社は新華通信社と改名。49年10月建国とともに新華社は国営通信社となり，国務院直属の機関となった。主な任務は，国内と国際社会の重要ニュースや情報を取材・報道すると同時に，調査研究を進めて，中央と各省の指導機関に参考資料を提供することである。人民共和国の報道機関のなかでも，最も規模が大きく，中枢の役割を果たしている。(『岩波現代中国事典』)

【新中国資料集成】について

日本国際問題研究所・中国部会編，5巻，1963-1971年。第二次世界大戦終了前後から1958年までの中国の政治・経済・軍事・外交などに関する基本的資料を翻訳・収録する(第1巻「解題」)。各巻の構成は：第1巻(1945年～1947年，130資料)，第2巻(1948年～1949年9月，135資料)，第3巻(1949年10月～1952年，96資料)，第4巻(1953年～1955年7月，79資料)，第5巻(1955年8月から1958年2月，61資料)。

1949

11　中華人民共和国の成立

日中戦争が終わった時，共産党は 100 万以上の正規軍と約 220 万の民兵および合計 19 の解放区を有していた。ソ連の国民政府承認とアメリカを軸とする東アジアの新秩序形成という情勢を踏まえて，共産党は「南方を縮め北方に発展する」ことにより国民党からの譲歩を獲得するという方針を立て，毛沢東と周恩来は重慶に赴いた。当地における国民党との交渉に際し，共産党は連合政府の主張を取り下げて国民政府が招集する政治会議（党派協商会議）を提起したが，その一方でソ連の秘密裏の支持のもとで共産党軍の東北への浸透を図っていた。1946 年 1 月の停戦協定と政治協商会議での合意形成に対して，共産党は「平和と民主の新段階」が到来したとの情勢評価のもと，闘争形態の転換を提起した。同時に，「党軍」の保持に関しては極めて慎重な態度を崩さなかった。

東北戦争が本格化した 1946 年 5 月，共産党は従来の「減租減息」政策を改めて土地改革を提起した（「清算・減租と土地問題についての指示」）。この転換は，農村における階級闘争と内戦を結合することによって，共産党に対する農民の広範な支持を獲得するうえで決定的な意味を有していた。6 月，共産党は蒋介石との全面的軍事対決を指示したが，なお「停戦協定」と「政協決議」の回復を要求して蒋介石の打倒を提起しなかった。同年夏，内戦は全国に波及した。国民党

軍の圧倒的優勢と中米友好通商航海条約締結（11月）・国民大会の強行（同月）・アメリカ兵による女子学生暴行事件（12月）・マーシャルの帰国（1947年1月）という事態の展開に対して，共産党はアメリカと蒋介石を一体のものとして捉え「アメリカ帝国主義と蒋介石封建買弁集団」の打倒をめざすという認識に到達した。

人民解放軍と改称した共産党軍は，1947年6月以降攻勢に転じた。10月の「人民解放軍宣言」は，蒋介石政府の打倒と民主連合政府の樹立を正式に宣言した。**12月，毛沢東は，「反帝・反封建」という「新民主主義」革命の打倒対象に「反官僚資本」を付加した**（「目前の情勢と我々の任務」）。翌年1月，国民政府によって非合法化された民主同盟は，共産党との協力を表明した。5月，共産党は蒋介石の総統就任に対抗して「メーデー・スローガン」を発表し，民主連合政府を樹立するための新政治協商会議の開催を呼びかけたが，10月以降，コミンフォルムのユーゴ批判を背景として共産党の指導を強調する政権構想に傾斜していった。1948年9月から1949年1月にいたる3大戦役によって軍事的優位を確立した共産党は，6月，北平で新政治協商会議準備会を開催して中国政治における主導性を発揮した。**9月，(1)党派・(2)地域・(3)軍・(4)団体の代表および(5)特別招請人士によって構成される人民政治協商会議が「共同綱領」・「中央人民政府組織法」を採択したことを受けて，10月1日に中華人民共和国が成立した。**この新たに樹立された国家権力は，旧政協でなされた政治的合意を継承しつつ以後における普通選挙による全国人民代表大会の招集を言明することによって統治の正当性を確認していた。（上原一慶編『現代中国の変革』世界思想社，1994年，23-25頁）

第一章　总纲

第一条　中华人民共和国为新民主主义即人民民主主义的国家，实行工人阶级领导的、以工农联盟为基础的、团结各民主阶级和国内各民族的人民民主专政，反对帝国主义、封建主义和官僚资本主义，为中国的独立、民主、和平、统一和富强而奋斗。

第三条　中华人民共和国必须取消帝国主义国家在中国的一切特权，没收官僚资本归人民的国家所有，有步骤地将封建半封建的土地所有制改变为农民的土地所有制，保护国家的公共财产和合作社的财产，保护工人、农民、小资产阶级和民族资产阶级的经济利益及其私有财产，发展新民主主义的人民经济，稳步地变农业国为工业国。

第二章　政权机关

第十二条　中华人民共和国的国家政权属于人民。人民行使国家政权的机关为各级人民代表大会和各级人民政府。各级人民代

表大会由人民用普选方法产生之。各级人民代表大会选举各级人民政府。各级人民代表大会闭会期间，各级人民政府为行使各级政权的机关。

国家最高政权机关为全国人民代表大会。全国人民代表大会闭会期间，中央人民政府为行使国家政权的最高机关。

第三章　军事制度

第二十条　中华人民共和国建立统一的军队，即人民解放军和人民公安部队，受中央人民政府人民革命军事委员会统率，实行统一的指挥，统一的制度，统一的编制，统一的纪律。

第四章　经济政策

第二十六条　中华人民共和国经济建设的根本方针，是以公私兼顾、劳资两利、城乡互助、内外交流的政策，达到发展生产、繁荣经济之目的。…

第五章　文化教育政策

第四十一条　中华人民共和国的文化教育为新民主主义的，即民族的、科学的、大众的文化教育。人民政府的文化教育工作，应以提高人民文化水平、培养国家建设人才、肃清封建的、买办的、法西斯主义的思想、发展为人民服务的思想为主要任务。

第六章　民族政策

第五十条　中华人民共和国境内各民族一律平等，实行团结互助，反对帝国主义和各民族内部的人民公敌，使中华人民共和国成为各民族友爱合作的大家庭。反对大民族主义和狭隘民族主义，禁止民族间的歧视、压迫和分裂各民族团结的行为。

第七章　外交政策

第五十四条　中华人民共和国外交政策的原则，为保障本国独立、自由和领土主权的完整，拥护国际的持久和平和各国人民间的友好合作，反对帝国主义的侵略政策和战争政策。

◇《中国人民政治协商会议共同纲领（一九四九年九月二十九日中国人民政治协商会议第一届全体会议通过）》（中共中央文献研究室编《建国以来重要文献选编》第1册、第1-13頁）。
◆《人民日报》(1949.9.30)。
◆《中共中央综合性文集》(《中国革命史档案文献光盘库》A-1)、《中华人民共和国法令、法规、法律汇编(三)》(A-7)，《新华社电讯稿》(B-13)，《新华月报》(B-30)。
◆《中国共产党文献资料库》。

wéi【为】(1) …である。▼書き言葉で“是”の意味で用いられる。¶十寸～一尺／10寸は1尺である。¶学习期限～三年／学習期間は3年である。(2) …とする。…とみなす。▼必ず目的語をとる。兼語文の第2の動詞として用いられるか，もしくは他の動詞の後に用いられる。¶拜 bài 他～师／彼を師と仰ぐ。¶选 xuǎn 他～出席全国科学大会的代表／彼を全国科学大会に出席する代表として選出する。

wèi【为】(1)〔介詞〕…のために。▼動作の受益者を導く。¶～人民服务／人民のために奉仕する。¶～祖国做出新的贡献 gòngxiàn／祖国のために新しい貢献をする。(2)〔介詞〕…のために。…が原因で。▼原因や目的を示す。“了，着”をつけることも多い。¶～了培育 péiyù 下一代，我愿意终身从事 cóngshì 教育工作／次の世代を育成するために，私は教育の仕事に一生従事したい。

yǐ【以…为…】“为 wéi ”と組み合わせて固定的形式“以…为…”を作り，「…を…とする（考える）」「…を…とみなす（判断する，感じる）」「…の方である（…と評価する）」などの意味を表す。¶我们要～雷锋为榜样 bǎngyàng ，全心全意地为人民服务／我々は雷鋒を手本にして誠心誠意人民のために奉仕しなければならない。

〔新民主主義〕1940 年前後に毛沢東によって定式化された中国共産党の革命理論。「新民主主義」革命は，帝国主義段階の植民地・半植民地の国がとるブルジョア民主主義の一形態で，樹立されるべき「新民主主義」共和国は，プロレタリアートと共産党の指導下の革命的諸階級による連合独裁国家であるとして，49 年の権力奪取

を理論的に準備した。アヘン戦争から五四運動までは「旧民主主義」とされ，また53年以降の社会主義とも区別される。（『角川世界史辞典』稿）

〔人民民主専政論〕中華人民共和国*成立前夜に毛沢東が提起した新国家の基本性格。権力の実質はプロレタリア階級指導下の労農同盟を基礎とする人民民主独裁で,人民内部における民主の保障と反動派に対する独裁の実行を主張した。（『角川世界史辞典』稿）

guī【归】…に属する。…に帰属する。¶土地～国家所有／土地は国家の所有に帰する。

bùzhòu【步骤】段取り。（事の）順序。次第。¶这件事要分三个～进行／この事は3段階に分けて進めなければならない。

jiāng【将】〔介詞〕…を ▼目的語を動詞の前に出すのに用いる。“把”に同じ。¶～他请来／その人をこちらへお通ししなさい。

wěnbù【稳步】着実な歩調。確かな足どり。¶～前进／着実に前進する。¶工作～开展／仕事が着実に進展する。

jiāngù【兼顾】両方に配慮を加える。¶公私～／公私双方に配慮を加える。¶要搞好工作就一定要～这两个问题／仕事をうまくやるためにはこの2つの問題を併せて配慮しなければならない。

xiá'ài【狭隘】(1)（幅が）狭い。(2)（見識・見解・心・度量などが）狭い,狭隘[きょうあい]である,偏狭である。

qíshì【歧视】差別（する）。差別視（をする）。¶种族 zhǒngzú ～／人種差別。

chíjiǔ【持久】長い間持ちこたえる。永続させる。¶争取世界～和平／世界の恒久平和を勝ちとる。

*　*　*

Dì-yī zhāng: Zǒnggāng

Dì-yī tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó wéi Xīn-Mínzhǔzhǔyì jí

rénmín mínzhǔ zhǔyì de guójiā, shíxíng gōngrén jiējí lǐngdǎo de、yǐ gōng-nóng liánméng wéi jīchǔ de、tuánjié gè mínzhǔ jiējí hé guónèi gè mínzú de rénmín mínzhǔ zhuānzhèng, fǎnduì dìguó zhǔyì、fēngjiàn zhǔyì hé guānliáo zīběn zhǔyì, wèi Zhōngguó de dúlì、mínzhǔ、hépíng、tǒngyī hé fùqiáng ér fèndòu.

Dì-sān tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó bìxū qǔxiāo dìguó zhǔyì guójiā zài Zhōngguó de yíqiè tèquán, mòshōu guānliáo zīběn guī rénmín de guójiā suǒyǒu, yǒu bùzhòu de jiāng fēngjiàn bàn-fēngjiàn de tǔdì suǒyǒuzhì gǎibiàn wéi nóngmín de tǔdì suǒyǒuzhì, bǎohù guójiā de gōnggòng cáichǎn hé hézuòshè de cáichǎn, bǎohù gōngrén、nóngmín、xiǎo zīchǎn jiējí hé mínzú zīchǎn jiējí de jīngjì lìyì jí qí sīyǒu cáichǎn, fāzhǎn Xīn-Mínzhǔzhǔyì de rénmín jīngjì, wěnbù de biàn nóngyè-guó wéi gōngyèguó.

Dì-èr zhāng: Zhèngquán jīguān

Dì-shíèr tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó de guójiā zhèngquán shǔyú rénmín. Rénmín xíngshǐ guójiā zhèngquán de jīguān wéi gèjí rénmín dàibiǎo dàhuì hé gèjí rénmín zhèngfǔ. Gèjí rénmín dàibiǎo dàhuì yóu rénmín yòng pǔxuǎn fāngfǎ chǎnshēng zhī. Gèjí rénmín dàibiǎo dàhuì xuǎnjǔ gèjí rénmín zhèngfǔ. Gèjí rénmín dàibiǎo dàhuì bìhuì qījiān, gèjí rénmín zhèngfǔ wéi xíngshǐ gèjí zhèngquán de jīguān.

Guójiā zuìgāo zhèngquán jīguān wéi Quánguó Rénmín Dàibiǎo Dàhuì. Quánguó Rénmín Dàibiǎo Dàhuì bìhuì qījiān, Zhōngyāng Rénmín Zhèngfǔ wéi xíngshǐ

guójiā zhèngquán de zuìgāo jīguān.

Dì-sān zhāng: Jūnshì zhìdù

Dì-èrshí tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó jiànlì tǒngyī de jūnduì, jí Rénmín Jiěfàngjūn hé rénmín gōng'ān bùduì, shòu Zhōngyāng Rénmín Zhèngfǔ Rénmín Gémìng Jūnshì Wěiyuánhuì tǒngshuài, shíxíng tǒngyī de zhǐhuī, tǒngyī de zhìdù, tǒngyī de biānzhì, tǒngyī de jìlǜ.

Dì-sì zhāng: Jīngjì zhèngcè

Dì-èrshíliù tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó jīngjì jiànshè de gēnběn fāngzhēn, shì yǐ gōng-sī jiāngù、láo-zī liǎnglì、chéng-xiāng hùzhù、nèi-wài jiāoliú de zhèngcè, dádào fāzhǎn shēngchǎn、fánróng jīngjì zhī mùdì. …

Dì-wǔ zhāng: Wénhuà jiàoyù zhèngcè

Dì-sìshíyī tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó de wénhuà jiàoyù wéi Xīn-Mínzhǔzhǔyì de, jí mínzú de、kēxué de、dàzhòng de wénhuà jiàoyù. Rénmín Zhèngfǔ de wénhuà jiàoyù gōngzuò, yīng yǐ tígāo rénmín wénhuà shuǐpíng、péiyǎng guójiā jiànshè réncái、sùqīng fēngjiàn de、mǎibàn de、fǎxīsī zhǔyì de sīxiǎng、fāzhǎn wèi rénmín fúwù de sīxiǎng wéi zhǔyào rènwù.

Dì-liù zhāng: Mínzú zhèngcè

Dì-wǔshí tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó jìngnèi gè mínzú yílǜ píngděng, shíxíng tuánjié hùzhù, fǎnduì dìguó zhǔyì hé gè mínzú nèibù de rénmín gōngdí, shǐ Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó chéngwéi gè mínzú yǒu'ài hézuò de dà jiātíng. Fǎnduì dà mínzú zhǔyì hé xiá'ài mínzú

zhǔyì, jìnzhǐ mínzú jiān de qíshì、yāpò hé fēnliè gè mínzú tuánjié de xíngwéi.

Dì·qī zhāng: Wàijiāo zhèngcè

Dì·wǔshísì tiáo

Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó wàijiāo zhèngcè de yuánzé, wéi bǎozhàng běn guó dúlì、zìyóu hé lǐngtǔ zhǔquán de wánzhěng, yōnghù guójì de chíjiǔ hépíng hé gè guó rénmín jiān de yǒuhǎo hézuò, fǎnduì dìguó zhǔyì de qīnlüè zhèngcè hé zhànzhēng zhèngcè.

*　*　*

第1章　総綱

第1条　中華人民共和国は新民主主義，すなわち人民民主主義の国家であって，労働者階級が指導し，労農同盟を基盤とし，民主的諸階級と国内の各民族を結集した人民民主独裁を実行し，帝国主義・封建主義および官僚資本主義に反対して，中国の独立・民主・平和・統一および富強のために奮闘する。

第3条　中華人民共和国は，中国における帝国主義国家のすべての特権を取り消し，官僚資本を没収して人民の国家所有に移し，一歩一歩封建的，半封建的土地所有制を農民的土地所有制にあらため，国家の公共財産および合作社の財産を保護し，労働者・農民・小ブルジョアジーおよび民族ブルジョアジーの経済的利益およびその私有財産を保護し，新民主主義の人民経済を発展させ，しだいに農業国を工業国にかえていかなければならない。

第2章　政権機関

第12条　中華人民共和国の国家政権は，人民に属する。人民が

国家政権を行使する機関は，各級人民代表大会および各級人民政府である。各級人民代表大会は，人民が普通選挙の方法でこれをもうける。各級人民代表大会は，各級人民政府を選挙する。各級人民代表大会の閉会中は，各級人民政府が，各級政権を行使する機関である。国家の最高政権機関は，全国人民代表大会である。全国人民代表大会の閉会中は，中央人民政府が国家政権を行使する最高機関である。

第3章　軍事制度

第 20 条　中華人民共和国は，統一的な軍隊，すなわち人民解放軍および人民公安部隊を建設し，中央人民政府人民革命軍事委員会の統率を受け，統一的指揮，統一的制度，統一的編制，統一的規律を実行する。

第4章　経斉政策

第 26 条　中華人民共和国の経済建設の根本方針は，公私兼顧・労資両利・城郷（訳注：都市と農村）互助・内外交流の政策をもって生産発展・経済繁栄の目的を達成するにある。…

第5章　文化教育政策

第 41 条　中華人民共和国の文化教育は新民主主義的，すなわち民族的，科学的，大衆的な文化教育である。人民政府の文化教育工作は，人民の文化水準を高め，国家建設の人材を育成し，封建的，買弁的，ファッショ的な思想を一掃し，人民のために服務する思想を発展させることを主要任務としなければならない。

第6章　民族政策

第 50 条　中華人民共和国領域内の各民族は一律平等であって，団結互助を実行し，帝国主義および各民族内部の人民の公敵に反対し，中華人民共和国が各民族友愛合作の大家庭となるよう

にする。大民族主義および狭隘な民族主義に反対し，民族間の偏見・圧迫および各民族の団結を分裂させる行為を禁止する。

第7章　外交政策

第54条　中華人民共和国外交政策の原則は，わが国の独立・自由および領土主権の保全を保障し，国際的な恒久平和と各国人民間の友好合作を擁護し，帝国主義の侵略政策および戦争政策に反対することである。

◇日本国際問題研究所中国部会編『新中国資料集成』第2巻，日本国際問題研究所，1964年，589-596頁。

◆中華人民共和国の経済建設の根本方針は，公私兼顧・労資両利・城郷互助・内外交流の政策**をもって**生産発展・経済繁栄の目的を達成する**にある**。⇨中華人民共和国の経済建設の根本方針は，公私兼顧・労資両利・城郷互助・内外交流の政策によって生産発展・経済繁栄の目的を達成することである。

【「中華民族」の解放】

①国民党は19世紀以来の従属的な国際的地位の変更に成功し，第2次世界大戦後には「大国」の地位を獲得した。しかしながら，戦後における国内政治の再編成と国民経済の再建に失敗し，その参入型統合は挫折した。一方共産党は，国共内戦期に「アメリカ帝国主義と蒋介石封建買弁集団」の打倒を提起して自立型統合を明確化した。1949年10月，中華人民共和国中央人民政府はその成立を宣言すると同時に，各国政府に対して「およそ平等・互恵および相互に領土主権を尊重することなどの原則を遵守しようと望むいかなる外国の政府とも，本政府は均しく外交関係を樹立することを望むものである」と述べた。このことは，中国が版図国家から領域国家への転換を完成し近代国民国家として自らを確立したことを，換言すれば中国ナショナリズムの勝利を示すものであった。②この点に関連して，以下の補足説明が必要である。すなわち，第1に，**「共同綱領」は「区域自治」論によりエスニックグループの民族自決権を否定していたことであ**

る。ソヴェト革命期における共産党の民族政策はソ連の政治機構を下敷きとする連邦国家論であり，エスニックグループの民族自決権を承認していた。この後，日中全面戦争期の抗日根拠地で「区域自治」論が準備され，さらに第2次世界大戦後の内モンゴルの経験を一般化することにより，共産党の民族政策は「連邦国家＝民族自決」論から「区域自治」論に転換した。この点からすれば，共産党による国家権力の奪取は，50数民族を包括する「中華民族」の解放であった。第2に，1949年7月の「ソ連一辺倒」表明から1950年2月の「中ソ友好同盟相互援助条約」にいたる過程をどのように捉えるのかという問題である。その際，中ソ条約は自己の軍事力たる「党軍」による国家権力の奪取を前提として中華人民共和国政府の主体的選択として締結されたのであり，かつての国際的な力関係の差異を背景とする強いられた条約締結ではなかったということに留意する必要があろう。また，(1)東北・新疆におけるソ連以外の企業・団体の活動を認めない，(2)東北における有事の際のソ連軍の自由な鉄道使用を認めるという中ソ条約の秘密条項は1956年に廃棄された。 第3に，1950年代前半期にアメリカによって構築された経済封鎖と対中国包囲条約網の存在を考慮に入れれば，中華人民共和国の国際的承認は1970代初めにおける国連代表権の獲得とニクソン訪中によって完成されたとすべきであろう。(上原一慶編『現代中国の変革』47-48頁)

1945

12　蒋介石と毛沢東の握手

抗日戦争の勝利と国際環境の変化は，国共の大規模な内戦の勃発を不可能にした。米ソの支持を背景として中共問題の政治的解決を図ろうと考えた蒋介石は，毛沢東を重慶に招請した。一方，中共は，「南方を縮め北方に発展する」戦略方針によって国民党から譲歩を獲得しようと考えた。8 月 28 日，毛沢東と周恩来は重慶に飛来した。こうして双方は，相異なる方針を抱いて交渉のテーブルについた。29 日，蒋介石は，国民党側の交渉原則を政令と軍令の統一におくことを決定した。華北地区における国共の争奪戦が激化するなかで，9 月 10 日から 15 日の交渉において，両党は政治会議と国民会議に関して妥結した。19 日，中共は，現勢比に従って国共両軍を縮編するというハーレー案を受け入れ，1)中共軍の兵員数を国民党軍の 7 分の 1 に縮小する；2)中共軍を黄河以北に撤収する；3)北方の 4 省 1 区の主席と北平行営は中共が主宰するという譲歩案を提出した。27 日，国民党は，1)中共の根拠地の「現状を維持」；2)中央による省政府の任命と中共が樹立した県政府の「相互承認」；3)軍隊問題に関する専門小組の組織を提起した。これを受けて，中共が大都市の接収と交通の回復問題で譲歩したことにより，双方は一応の妥結に到達した。討論と修正を経て，10月10日に「政府與中共代表会談紀要」（双十協定）が発表された。翌日，毛沢東は延安に戻った。

双十協定に対して，平和を渇望する民衆は平和への可能性

を読み取り，民主党派もまた国家大計の決定に彼らが関与しうることを理解した。しかしながら，重慶交渉と双十協定は，両党の和解に対していかなる具体的方法も提示していなかった。国共双方にとって，それらは世論を獲得しかつ相手を制御するための手段にすぎなかった。11月12日，民盟の代表は，両党の交渉は行き詰まっているとして根本問題を解決するための政治協商会議（政協）の即時開催を提起し，両党もこれに同意した。25日，周恩来は，延安に帰還した。中共は，政協を新たな政治攻勢の場と位置づけた。（楊奎松『失去的機会？—抗戦前後国共談判実録』広西師範大学出版社，1992年，188-224頁の要約）

中國國民政府蔣主席於抗戰勝利後，邀請中國共産黨中央委員會主席毛澤東先生，商討國家大計。毛先生於八月二十八日應邀來渝，進見蔣主席，曾作多次會談。同時雙方各派出代表，政府方面爲王世杰、张群、張治中、邵力子四先生。中共方面爲周恩來、王若飛兩先生。迭在友好、和諧的空氣中進行商談，已獲得左列之結果；並仍将在互信、互讓之基礎上繼續商談，求得圓滿之解決，兹特發表會談紀要如下：

一、關於和平建國的基本方針

一致認爲中國抗日戰爭業已勝利結束，和平建國的新階段即將開始，必須共同努力，以和平、民主、團結、統一爲基礎；並在蔣主席領導之下，長期合作，堅決避免內戰，建設獨立、自由和富强的新中國，徹底實行三民主義。雙方又同認蔣主席所倡導之政治民主化、軍隊國家化及黨派平等合法，爲達到和平建國必由之途徑。

二、關於政治民主化問題

一致認爲應迅速結束訓政，實施憲政，並應先採必要步驟；由國民政府召開政治協商會議，邀集各黨派代表及社會賢達協商國是，討論和平建國方案及召開國民大會各項問題。現雙方正與各方洽商政治協商會議名額、組織及其職權等項問題，雙方同意一俟洽商完畢，政治協商會議即應迅速召開。

三、關於國民大會問題

中共方面提出重選國民大會代表，延緩國民大會召開日期及修改國民大會組織法、

選舉法和五五憲法草案等三項主張。政府方面表示，國民大會已選出之代表，應爲有效，其名額可使之合理的增加和合法的解決，五五憲法草案原曾發動各界研討貢獻修改意見，因此雙方未能成立協議。但中共方面聲明：中共不願見因此項問題之爭論而破裂團結，同時雙方均同意將此項問題提交政治協商會議解決。

四、關於人民自由問題

一致認爲 政府應保證人民享受一切民主國家人民在平時應享受身體、信仰、言論、出版、集會、結社之自由；現行法令，當依此原則，分別予以廢止或修正。

五、關於黨派合法問題

中共方面提出政府應承認國民黨、共產黨及一切黨派的平等、合法地位；政府方面表示，各黨派在法律之前平等，本爲憲政常軌，今可即行承認。

九、關於軍隊國家化問題

…爲具體計劃本項所述各問題起見，雙方同意組織三人小組（軍令部、軍政部及第十八集團軍各派一人）進行之。

十、關於解放區地方政府問題

…此項問題久懸不決，〔政府方面〕慮爲和平建設之障碍，乃亟盼能商得具體解決方案；中共方面亦同意繼續商談。

◇《政府與中共代表會談紀要(民國三十四年十月十日)》(《中華民國重要史料初編—對日抗戰時期》第七編戰後中國，二)。
◆《中华民国史史料长编》(《中华民国史档案文献光盘库》G30)。

shāngtǎo【商讨】(比較的大きくて複雑な問題を解決するために) 討議する，協議する，検討する。¶～对策 duìcè ／対策を討議する。

yú【渝】四川省重慶の別称。

jìnjiàn【进见】(目上の人に) 会う。お目見えする。

dié【迭】互いに。代わる代わる。交代する。¶～为 wéi 宾主／代わる代わる客となり主人となる。

zī【兹】〈書〉(1) これ。この。(2) いま。現在。ここに。(3) 年。

yèyǐ【业已】〈書〉すでに。▼もと公文書によく用いた。¶各项准备工作～就绪jiùxù ／すべての準備がすでにできている。

jíjiāng【即将】〔副詞〕〈書〉間もなく…しようとしている。¶研讨会 yántǎohuì ～开始／シンポジウムは間もなく開会する。

〔三民主義〕⇨**20**

tóng【同】共に…する。(…を) 共にする。▼書き言葉に用いる。¶三人～行，必有我师／3人同行すれば，必ず自分の師となる人がいる。

bìjīngzhīlù【必经之路】〈成〉避けて通ることのできない道。必ず通

らなければならない道。▼ ˙必由yóu之路˙ ともいう。

〔訓政、憲政〕 ⇨17

xiándá【贤达】才徳・声望のある人。¶社会～／社会的に名声のある人。

qiàshāng【洽商】相談する。協議する。打ち合わせる。¶明天我们即jí 到贵社～／あす私たちはすぐ貴社へ打ち合わせに参ります。

sì【俟】〈書〉待つ。¶一～准备就绪 jiùxù，即 jí 公开展出／準備が整いしだい公開展示する。

wánbì【完毕】 終わる。完了する。済ませる。¶工作～／仕事が終わる。

yánhuǎn【延缓】 (時間を)延ばす。しばらく見合わせる。棚上げにする。¶这个工作可以～几天再做／この仕事は2,3日遅らせてもよい。

〔五五憲法草案〕1936年5月5日に立法院が発表した「中華民国憲法草案」。

tíjiāo【提交】交付する。提出する。回す。¶～大会讨论／大会の討議に回す。¶～毕业论文／卒業論文を提出する。

běn【本】元来。本来。もともと。¶～想不去／もともと行くまいと思っていた。

chángguǐ【常轨】常軌。正常の方法。常道。¶此事应循xún～解决／このことは通常の方法によって解決すべきである。¶越出～／常軌を逸する。

qǐjiàn【起见】…の点からみて。…の見地から。¶为交通安全～，各种车辆 chēliàng 在夜间行驶 xíngshǐ 时必须点灯／交通安全の見地から，夜間に車両を使用する場合は必ずライトをつけること。
※『注意』˙起见˙は ˙为 wèi ……起见˙ の形で用いる。

〔第十八集団軍〕共産党軍を指す。

xuán ér wèi jué【悬而未决】〈成〉懸案となっていて未解決のままである。¶这些都是多年以来～的老问题／これらはすべて長年懸案となったままの古い問題だ。

nǎi【乃】〈書〉(＝于是 yúshì)そこで。¶因经费不足，这项计划～就此 jiùcǐ 罢休 bàxiū ／経費が足りないのでこの計画を取り

やめた。

jí【亟】〔副詞〕〈書〉速やかに。はやく。¶～待 dài 解決／早急に解決を要する。¶～须纠正 jiūzhèng／ただちに是正すべきである。

*　　*　　*

Zhōngguó Guómín Zhèngfǔ Jiǎng zhǔxí yú kàngzhàn shènglì hòu, yāoqǐng Zhōngguó Gòngchǎndǎng Zhōngyāng Wěiyuánhuì Zhǔxí Máo Zédōng xiānsheng, shāngtǎo guójiā dàjì. Máo xiānsheng yú bā yuè èrshíbā rì yìng yāo lái Yú, jìnjiàn Jiǎng zhǔxí, céng zuò duō cì huìtán. Tóngshí shuāngfāng gè pàichū dàibiǎo, zhèngfǔ fāngmiàn wéi Wáng Shìjié、Zhāng Qún、Zhāng Zhìzhōng、Shào Lìzǐ sì xiānsheng. Zhōnggòng fāngmiàn wéi Zhōu Ēnlái、Wáng Ruòfēi liǎng xiānsheng. Dié zài yǒuhǎo、héxié de kōngqì zhōng jìnxíng shāngtán, yǐ huòdé zuò liè zhī jiéguǒ; bìng réng jiāng zài hù xìn、hù ràng zhī jīchǔ shang jìxù shāngtán, qiúdé yuánmǎn zhī jiějué, zī tè fābiǎo huìtán jìyào rú xià:

1. Guānyú hépíng jiànguó de jīběn fāngzhēn

Yízhì rènwéi Zhōngguó Kàng·Rì Zhànzhēng yèyǐ shènglì jiéshù, hépíng jiànguó de xīn jiēduàn jíjiāng kāishǐ, bìxū gòngtóng nǔlì, yǐ hépíng、mínzhǔ、tuánjié、tǒngyī wéi jīchǔ; bìng zài Jiǎng zhǔxí lǐngdǎo zhīxià, chángqī hézuò, jiānjué bìmiǎn nèizhàn, jiànshè dúlì、zìyóu hé fùqiáng de xīn Zhōngguó, chèdǐ shíxíng Sānmín Zhǔyì. Shuāngfāng yòu tóng rèn Jiǎng zhǔxí suǒ chàngdǎo zhī zhèngzhì mínzhǔhuà、jūnduì guójiāhuà jí dǎngpài píngděng héfǎ, wéi dádào hépíng jiànguó bì yóu zhī tújìng.

2. Guānyú zhèngzhì mínzhǔhuà wèntí

Yízhì rènwéi yīng xùnsù jiéshù Xùnzhèng, shíshī Xiànzhèng, bìng yīng xiān cǎi bìyào bùzhòu; yóu Guómín Zhèngfǔ zhàokāi zhèngzhì xiéshāng huìyì, yāojí gè dǎngpài dàibiǎo jí shèhuì xiándá xiéshāng guóshì, tǎolùn hépíng jiànguó fāng'àn jí zhàokāi guómín dàhuì gè xiàng wèntí. Xiàn shuāngfāng zhèng yǔ gè fāng qiàshāng zhèngzhì xiéshāng huìyì míng'é、zǔzhī jí qí zhíquán děng xiàng wèntí, shuāngfāng tóngyì yì sì qiàshāng wánbì, zhèngzhì xiéshāng huìyì jí yīng xùnsù zhàokāi.

3. Guānyú guómín dàhuì wèntí

Zhōnggòng fāngmiàn tíchū chóng xuǎn guómín dàhuì dàibiǎo, yánhuǎn guómín dàhuì zhàokāi rìqī jí xiūgǎi guómín dàhuì zǔzhīfǎ、xuǎnjǔfǎ hé Wǔ-Wǔ Xiànfǎ cǎo'àn děng sān xiàng zhǔzhāng. Zhèngfǔ fāngmiàn biǎoshì, guómín dàhuì yǐ xuǎnchū zhī dàibiǎo, yīng wéi yǒuxiào, qí míng'é kě shǐ zhī hélǐ de zēngjiā hé héfǎ de jiějué, Wǔ-Wǔ Xiànfǎ cǎo'àn yuán céng fādòng gèjiè yántǎo gòngxiàn xiūgǎi yìjiàn, yīncǐ shuāngfāng wèi néng chénglì xiéyì. Dàn Zhōnggòng fāngmiàn shēngmíng: Zhōnggòng bú yuàn jiàn yīn cǐ xiàng wèntí zhī zhēnglùn ér pòliè tuánjié, tóngshí shuāngfāng jūn tóngyì jiāng cǐ xiàng wèntí tíjiāo zhèngzhì xiéshāng huìyì jiějué.

4. Guānyú rénmín zìyóu wèntí

Yízhì rènwéi zhèngfǔ yīng bǎozhèng rénmín xiǎngshòu yíqiè mínzhǔ guójiā rénmín zài píngshí yīng xiǎngshòu shēntǐ、xìnyǎng、yánlùn、chūbǎn、jíhuì、jiéshè zhī zìyóu; xiànxíng fǎlìng, dāng yī cǐ yuánzé, fēnbié yǔyǐ fèizhǐ huò xiūzhèng.

5. Guānyú dǎngpài héfǎ wèntí

Zhōnggòng fāngmiàn tíchū zhèngfǔ yīng chéngrèn Guómíndǎng、Gòngchǎndǎng jí yíqiè dǎngpài de píng·děng、héfǎ dìwèi; zhèngfǔ fāngmiàn biǎoshì, gè dǎng·pài zài fǎlǜ zhī qián píngděng, běn wéi Xiànzhèng chángguǐ, jīn kě jí xíng chéngrèn.

9. Guānyú jūnduì guójiā huà wèntí

… Wèi jùtǐ jìhuà běn xiàng suǒ shù gè wèntí qǐ·jiàn, shuāngfāng tóngyì zǔzhī Sānrén·Xiǎozǔ (Jūn·lìngbù、Jūnzhèngbù jí Dì·Shíbā Jítuánjūn gè pài yī rén) jìnxíng zhī.

10. Guānyú Jiěfàngqū dìfāng zhèngfǔ wèntí

… Cǐ xiàng wèntí jiǔ xuán bù jué, (zhèngfǔ fāng·miàn) lǜ wéi hépíng jiànshè zhī zhàng'ài, nǎi jí pàn néng shāngdé jùtǐ jiějué fāng'àn; Zhōnggòng fāngmiàn yì tóngyì jìxù shāngtán.

*　　*　　*

中国国民政府蒋主席は抗戦勝利の後，中国共産党中央委員会主席毛沢東氏を招いて国家の大計を協議した。毛氏は8月28日招請に応じて重慶に到着，蒋主席と会見して会談をかさねた。同時に，政府側は王世杰・張群・張治中・邵力子4氏，中共側は周恩来・王若飛両氏を，双方それぞれ代表として送り，互いに友好的でなごやかな空気のうちに協議を進めて，すでに左の結果を得，さらに相互の信頼と譲歩の基礎の上に円満な解決をめざして協議をつづけようとしている。ここにとくにつぎの会談紀要を発表する。

(1)平和建国の基本方針に関して

中国の抗日戦争がすでに終結し，平和建国の新段階がまもなく始まろうとしており，ともに努力せねばならないこと，平和・民主・団結・統一を基礎とし，かつ蒋主席の指導の下に，長期にわたって合作し，内戦を堅く避け，独立・自由および富強の新中国を建設し，三民主義を徹底的に実行せねばならないこと，を一致して認めた。双方はまた蒋主席の唱える政治の民主化，軍隊の国家化，および党派の平等・合法が，平和建国のために必ず通らねはならない道であることをともに承認した。

(2)政治の民主化の問題に関して

すみやかに訓政を終結させ，憲政を実施すべきこと，またまず必要な措置をとり，国民政府が政治協商会議を召集し，各党派代表および学識経験者を集めて国是を協議し，平和建国方案および国民大会召集等の問題を討論すべきであることを一致して認めた。現在双方は各方面と政治協商会議の定員・組織およびその職権等の問題を協議中であり，双方は協議の終わりしだい，政治協商会議はすみやかに召集されるべきであることに同意した。

(3)国民大会の問題に関して

中共側は，国民大会代表をあらためて選挙し，国民大会の召集期日を延期すること，および国民大会組織法，選挙法，五・五憲法草案を修正する等3項の主張を提出した。政府側は，国民大会のすでに選出された代表は，有効であるべきであるが，その定員は合理的に増加させて合法的解決をしてもよいこと，五・五憲法草案は，すでに各界の検討にゆだね，修正意見を提出させていることを表明した。したがって双方はまだ意見の一致を見ていない。しかし中共はこの問題のため団結を破壊することは望まないと声明した。同時に双方はこの問題を政治協商会議に移して解決することに同意した。

(4)人民の由由の問題に関して

いっさいの民主国家の人民が平時において享受すべき身体・信仰・言論・出版・集会・結社の自由を人民が享受することを政府が保証すべきであること，現行の法令はこの原則によって，個別に廃止されまたは修正を加えられるべきであることを一致して認めた。

(5)党派の合法の問題に関して

中共側は，政府が国民党・共産党およびいっさいの党派の平等・合法的地位を承認すべきであることを提案した。政府側は，各党派が法の前に平等であることは，本来憲政の常道であり，ただちに承認してさしつかえない旨表明した。

(9)軍隊の国家化の問題に関して

…本項に述べられたそれぞれの問題を具体的に計画するため，双方は3人委員会（軍令部・軍政部および第18集団軍より各1名を派遣する）を組織してこれを進めることに同意した。

(10)解放区における地方政府の問題に関して

…〔政府側は〕この問題がながく懸案のままに残ることは，平和建設の障害となる恐れがあるので，やはりぜひとも協議のうえ具体的解決策を見出したいとし，中共側も協議を継続することに同意した。

◇日本国際問題研究所中国部会編『新中国資料集成』第1巻，日本国際問題研究所，1963年，130-133頁。

◆**国民大会のすでに選出された代表**（國民大會已選出之代表）：「すでに選出された国民大会の代表」であって「国民大会がすでに選出した代表」ではない。

◆**その定員は合理的に増加させて合法的解決をしてもよい**（其名額可使之合理的增加和合法的解決）：「之」は「名額」。「その定員

は，これを合理的に増加させ合法的に解決してもよい。」連用修飾語を作る「的」は「地」と書くことが多い。

◈**五・五憲法草案は，すでに各界の検討にゆだね，修正意見を提出させている**（五五憲法草案原曾發動各界研討貢獻修改意見）：「草案」は「研討」「修改」の目的語で主語ではない。主語は明示されていないが「政府」で，「各界」は兼語である。

◈中共はこの問題のため団結を破壊することは**望まない**と声明した（中共不願見因此項問題之争論而破裂團結）：「願見」の「見」は「見る」で「見ることを望まない」。

【蒋介石の挫折】

①抗日戦争に勝利した国民政府が直面した課題は，(1)日本軍占領地区の行政権を回復すること（その際，東北に進駐していたソ連軍と沿海地区に19の解放区を樹立していた共産党軍の存在が問題となった），(2)解放区・共産党軍の国家機構への実質的編入を実現すること，(3)中国政治における国民党の主導権を損なわないかたちで「訓政」から「憲政」に移行して国民による主権の行使を制度的に保障することであった。②日本の降伏は，日本軍・傀儡軍の武装解除方針をめぐる共産党との確執を引き起こした。蒋介石は，共産党軍の移動を禁止する一方で日本軍・傀儡軍に対して蒋の指定する部隊への投降を命令し，米軍の支援を受けて内陸部に温存していた中央軍を日本軍占領地区に派遣してその武装解除と行政権の回復を図った。こうして国共両軍のこぜりあいが頻発するようになった。**③ヤルタ協定と「中ソ友好同盟条約」に示された米ソ協調と両国の国民政府支援という有利な国際環境を背景に，蒋介石は共産党に譲歩を迫った。両党首脳による重慶交渉を経て1945年10月に公表された「政府と中共代表の会談紀要」（双十協定）は，和平建国の基本方針を確認するとともに，未解決の問題について協議する政治協商会議の創設を確認した。後者は，国民政府が国共以外の党派を政治主体として初めて認知したことを示すものであった。中国における代議制度の確立と共産党軍の国家化をめざしたアメリカ大統領トルーマンは，彼の特使マーシャルを派遣し両党の調停に当たらせた。1946年1月10日，国共停戦協定が成立するとともに政治協商会**

議が重慶で開催された。31日，同会議は，中国政治の基本問題に関する5決議（「政府組織案」・「国民大会案」・「和平建国綱領」・「軍事問題案」と「憲法草案案」）を決議して閉幕した。こうして直面する政治課題の平和的解決が実現するように思われた。④同じころ，米ソの対立は顕在化しつつあった。内戦の発動がアメリカの支持の喪失につながらないと判断した蒋介石は，戦争による問題の解決をめざした。これに対して，アメリカは限定的関与（干渉）に終始した。1946 年 3 月，国民党は政協決議の基本原則を否認した。このころから東北における内戦が激化し夏には全国に波及した。こうした情勢下で，国民党は自ら定めたプログラムに沿って「憲政」への移行を強行した。すなわち，(1)憲法制定のための国民大会の開催(1946年11月)，(2)「中華民国憲法」の公布と施行(1947年1月と12月)，(3)蒋介石の中華民国総統就任(1948年5月)がそれである。形式的には，この「憲制」への移行をもって国民党による参入型統合は完成したということができる。しかしながら，この過程は国民政府による統治の正当性が流失していく過程であり，同時に，1948 年 4 月に国民大会が採択した「反乱鎮定時期臨時条項」は内戦を理由として「憲政」の実質化を阻止していた。国民政府の軍事的敗北は国民党による参入型統合の挫折を意味したが，冷戦体制下の台湾において分断国家を形成した国民党は，「憲政」によって統治の正当性を主張しながら「臨時条項」・「戒厳令」（1949 年 5 月施行）により同地における一党独裁支配を維持した。（上原一慶編『現代中国の変革』17-18 頁）

【中華民国重要資料初編—対日抗戦時期】について

秦孝儀主編，中華民国重要資料初編編輯委員会編，中国国民党中央委員会党史委員会出版，7 編 26 冊。外交部檔案・国民党中央執行委員会記録・蒋介石の機密文書，およびその他の機構の檔案を収録。①「求精不求全」を原則として未発表の資料を収録する（一般的な資料やすでに公開されている資料は収録しない）；②所収資料には如何なる修正も行わない（標点のない資料には標点を付す）；③それぞれの資料の出所を明記する，という方針で編集された（『緒編・一』「前言」）。各編の構成は以下のとおり。第 1 編・緒編（3 冊，2618 頁，1981 年），第 2 編・作戦経過（4 冊，2609 頁，1981 年），第 3 編・戦時外交（3 冊，2618 頁，1981 年），第 4 編・戦

時建設（4 冊，4228 頁，1988 年），第 5 編・中共活動真相（4 冊，2208 頁，1985 年），第 6 編・傀儡組織（4 冊，2983 頁，1981 年），第 7 編・戦後中国（4 冊，3570 頁，1981 年）。

【中華民国史檔案文献光盤庫】について

第二歴史檔案館所蔵の重要文献を収録する CD ロム（第二歴史檔案館・北京超星公司編製）。1996 年。内容は下記の通り。中華民国史档案資料匯編(E1-2)；**中華民国档案資料叢書**(F1-3) ⇨**16**；**臨時政府公報**(G1) ⇨**19**；臨時公報(G1)；黄埔軍校史稿(G1)北洋政府公報(G2-17)；南京国民政府外交部公報(G18-19)；立法院公報(G20-21)；汪偽国民政府公報(G22)；国民政府資源委員会公報(G23)；汪偽政府行政院会議録(G24)；国民政府行政院公報(G25-26)；**中華民国史史料長編**(G27-30) ⇨**12,14**；民国档案雑誌(H1)。

■ 参考：「蒋介石」についての２つの言説 ■

I

蒋介石（1887—1975）　名中正，原名瑞元，字介石，学名志清。浙江奉化人。…1927 年 4 月 12 日，在上海发动反革命政变，屠杀共产党人和革命群众，并在各地“清党”，破坏了第一次国共合作。4 月 18 日，在南京另立国民政府。1927 年“宁汉合流”过程中，国民党内派系纷争，在反蒋势力的压力下，他于 8 月 13 日辞去国民革命军总司令职，赴日本，以退为进。不久与宋美龄结婚。通过多种努力，进一步取得帝国主义和江浙财团的支持。1928 年 1 月，复任总司令职。2 月，任中国国民党中央执行委员会常务委员、军事委员会主席，后又兼第一集团军总司令。3 月，任中央政治委员会主席。4 月，联合冯玉祥、阎锡山和新桂系对张作霖进行北伐战争，后以张学良宣布东北易帜而告“统一”。1928 年 10 月，任南京国民政府主席兼陆海空军总司令，改组国民政府，实行“以党治国”的

训政。1930 年，兼行政院院长。此时，在新军阀混战中，他以军事和政治手段，先后打败了所有对手，还战胜了汪精卫、胡汉民、孙科等反蒋派系的对抗，从而巩固了他的独裁统治。从 1930 年冬起，连续对中国工农红军和革命根据地发动五次大规模“围剿”。日本帝国主义发动九一八事变后，他操纵国民政府，采取对日不抵抗政策，引起全国各界强烈不满。1931 年 12 月 15 日，辞去国民政府主席和行政院长，回浙江乡居，遥控南京政府。1932 年 1 月 21 日，与汪精卫联袂入京，任军事委员会委员长兼参谋总长，汪任行政院长，共同掌握南京政府大权。曾多次镇压学生爱国运动，极力加强独裁统治，建立以 CC 系和黄埔系分子为骨干(后发展为中统和军统)的两支特务势力，实施法西斯特务统治。还在国民党统治区发动文化“围剿”，查禁进步书刊，迫害左翼作家和文化工作者。在全国推行新生活运动，以加紧对人民的思想控制。又凭借政治特权，和宋子文、孔祥熙、陈果夫、陈立夫建立和发展国家资本主义经济，逐步形成官僚资本。1935 年，日本帝国主义扩大对中国的侵略，策动“华北自治”，民族危机空前严重。在中国共产党和全国人民的停止内战、一致抗日的压力和推动下，蒋介石和中国国民党决定调整其内外政策，表示要保持领土主权的完整，还采取了改善同苏联的关系，试图同中国共产党进行谈判等措施，但仍然坚持要“剿灭”经长征到达陕北的红军。1935 年 12 月，汪精卫遇刺之后，继汪任行政院长。1936 年 12 月 12 日，在西安被张学良、杨虎城扣押，经中共代表团参加谈判，被迫接受了停止内战、联共抗日的条件，停止“剿共”军事活动。七七事变后，1938 年 3 月，任中国国民党总裁。1939 年 1 月，任国防最高委员会委员长，统一党政军领导权。1943 年 8 月，林森去世后，继任国民政府主席。抗日战争初期，

在他统率下，中国军队先后在淞沪、忻口、徐州、武汉、长沙、南昌等地进行会战，阻滞了日军的疯狂进攻。但由于实行片面抗战路线和单纯防御的战略方针，致使大片国土沦于敌手。特别是武汉失守以后，由于他实行专制统治，政治腐败，消极抗日，积极反共，引起人民不满。抗日战争胜利后，他一方面邀请毛泽东赴重庆商谈国是，同意和平建国方针，签订了国共两党会谈纪要和商定国共军队就地停战，并召开政治协商会议，通过协议；一方面却调集军队向解放区进攻，抢夺人民胜利果实。1946 年 6 月，撕毁国共停战协定，发动了全面内战，大失人心。战争初期，一时得势，又撕毁政协协议，片面召开制宪国民大会。1948 年 4 月，当上中华民国总统。但国民党军队在战场上节节败退，其精锐兵力在辽沈、淮海和平津三大战役中被消灭殆尽，终因无法挽回战争败局，于 1949 年 1 月 21 日宣告“引退”，由副总统李宗仁代理总统，但他仍操纵实权，破坏和平谈判。全国解放后，于 1949 年 12 月 10 日败走台湾省。1950 年 3 月 1 日，复任“总统”。此后一直连任“总统”和国民党总裁。1975 年 4 月 5 日在台北病逝。(中共中央文献研究室編撰『多媒体光盤・毛沢東』, 中央文献出版社・湖南電子音像出版社, 1998年*)

* 「生平篇」「年表篇」「著作篇」「詩詞篇」「書法篇」「風采篇」からなるCDロム(4枚)。「著作篇」は,『毛沢東選集』,『毛沢東文集』,『毛沢東軍事文集』,『毛沢東外交文選』,『毛沢東新聞工作選』,『毛沢東著作選読』,『毛沢東書信選集』を収録する。

Ⅱ

蒋中正先生，字介石，清光緒十三年九月十五日（一八八七年十月三十一日）生，浙江省奉化縣溪口鎮人。 中正先生在民國十四年國父孫

中山先生逝世後， 繼續領導北伐大業，擔任國民革命軍總司令，民國十七年六月北伐完成，結束了軍閥割據的局面，使國家又歸於統一。之後，擔任軍事委員會委員長，在民國二十六年到三十四年期間，領導對日八年抗戰，民國三十四年八月十四日，日本宣告無條件投降，抗日戰爭終於獲得最後的勝利。民國三十六年一月一日，憲法公布，同年十二月二十五日實行。民國三十七年經由國民大會選舉，在同年五月二十日就任中華民國行憲後第一任總統。不久，因爲中共全面發動內戰，國內情勢逆轉，中正先生在民國三十八年一月二十一日發布引退文告，由副總統李宗仁代行總統的職權。政府播遷臺灣以後，民國三十九年三月一日中正先生在臺北復行視事。在政治方面，開始實行地方自治，進行縣市議員與縣市長的民選；在經濟方面，先後實施「三七五減租」、「公地放領」及「耕者有其田」方案，成功的完成了土地改革。並且從民國四十二年起，以四年爲一期，連續推動五期經濟計畫，奠定了臺灣經濟發展的基礎。民國四十三年， 經國民大會第二次會議選舉爲中華民國第二任總統。民國四十九年，再經國民大會第三次會議選舉爲第三任總統。民國五十五年，經國民大會第四次會議選舉爲第四任總統。民國五十七年，實施九年國民義務教育，民國五十八年十二月開始舉行自由地區國大代表、立法委員、監察委員的增補選，以後每三年依法改選，並且逐期擴大名額。民國六十一年，由國民大會第五次會議選舉爲第五任總統。民國六十四年四月五日病逝，享壽八十九歲。(「中華民国総統府」→「中華民国簡介」→「国父暨行憲後歷任総統」http://www.oop.gov.tw)

1940

13　中国革命論の確立

抗日戦争が対峙段階に入ると国共の軍事摩擦が顕在化し，またヨーロッパ戦争の勃発によって英・仏を仲介とする対日和平の機運が発生した。華北地区での国民党軍に対する軍事的優位を確立しつつあった共産党は，毛沢東の「『共産党人』発刊のことば」（1939年10月）・「中国革命と中国共産党」（12月）・「新民主主義論」（1940年1月）によって，プロレタリアートの指導を前提として抗日民族統一戦線から中国革命の勝利を展望する独自の革命論＝「新民主主義革命」論を確立した。その主たる内容は，(1)「新民主主義革命」は革命的な植民地・半植民地の国がとるブルジョア民主主義革命の形態であり，同時に社会主義世界革命の一環でもある，(2)革命によって樹立される「新民主主義」共和国は革命的諸階級の連合独裁による民主共和国であり，ブルジョア独裁の共和国ともプロレタリアート独裁の共和国とも異なる，(3)革命に対してブルジョアジーが「二面性」を有しているため，プロレタリアートと共産党は指導性を発揮して革命を成功させなければならない，というものであった。

共産党軍が華北地区で発動した百団大戦（1940 年 8·12 月）を契機として，日本軍は抗日根拠地に対する掃討作戦を強化した。また，翌年 1 月，国民党軍が安徽省南部の共産党軍を攻撃した皖南事変によって国共関係は極度に悪化し，これとあい前後して，国民政府は共産党軍に対する財政援助の打ち切るとともに根拠地に対する軍事的・経済的封鎖を強

化した。こうして抗日根拠地は危機的状況を迎えた。危機に直面した共産党は，(1)税負担の合理化と増税および財政支出の削減により根拠地財政の転換をはかるとともに，労働力の集約化や大生産運動によって根拠地経済の自給化をめざし，(2)「三三制」と「減租減息」政策を実施して根拠地社会における政治的・経済的資源の再配分を行うことにより共産党の政治指導に対する「下から」の合意を調達する一方，(3)党組織・政府機関・軍隊・民衆団体の一体化と共産党による指導の貫徹および「毛沢東思想」による党内のイデオロギー的統一が図られた（整風運動）。また，この時期の根拠地では清算闘争を契機とする「農業革命」が進行し，社会構造の転換が生じていた。こうして共産党は危機の克服に成功し，抗日根拠地は拡大局面に転じた。

1945年4月，共産党7全大会の政治報告「連合政府論」において，毛沢東は，(1)各党各派・無党無派の代表の協議による臨時の連合政府の樹立，(2)広範な民主的基礎を有する国民大会の開催，(3)連合政府の性質を有する民主的政府の樹立，(4)独立・自由・民主・統一・富強の新中国の建設というプログラムを提起したが，これは，中国政治における国民党のリーダーシップを明確に否認したものにほかならない。　（上原一慶編『現代中国の変革』22-23頁）

四 中國革命是世界革命的一部分

中國革命的歷史特點分爲民主主義與社會主義兩個步驟，而其第一步，現在已不是一般的民主主義，而是中國式的特殊的新式

的民主主義，而是新民主主義。…

中國資產階級民主主義革命，自從一九一四年爆發第一次帝國主義世界大戰與一九一七年俄國十月革命在地球六分之一的土地上建立了社會主義國家以來，起了一個變化。

在這以前，中國資產階級民主主義革命，是屬於舊的世界資產階級民主主義革命的範疇之內的，是屬於舊的世界資產階級民主主義革命的一部分。

在這以後，中國資產階級民主主義革命，却改變爲屬於新的資產階級民主主義革命的範疇，而在革命的陣綫說來，則屬於世界無產階級社會主義革命的一部分了。…

這種殖民地半殖民地革命的第一階段，第一步，雖然按其社會性質，基本上依然還是資產階級民主主義的，它的客觀要求，基本上依然還是掃除資本主義發展道路上的障碍。然而這種革命，已經不是舊的完全被資產階級領導的，以建立資本主義的社會與資

產階級專政的國家爲目的的革命，而是新的，被無產階級領導或參加領導的，以在第一階段上建立新民主主義的社會與建立各個革命階級聯合專政的國家爲目的的革命。這種革命，在其進行中，因爲敵情與同盟軍的變化，又分爲若干的階段，然而其基本性質是沒有變化的，不至社會主義革命之時，其基本性質總是同一的。…

五　新民主主義的政治

這種新民主主義的共和國，一方面與舊式的，歐美式的，資產階級專政的，資本主義的共和國相區別，這是舊民主主義的共和國，這種共和國已經過時了。另一方面也與最新式的，蘇聯式的，無產階級專政的，社會主義的共和國相區別，這是最新民主主義的共和國，這種共和國已經在蘇聯興盛起來了，並且還要在各資本主義國家建立起來，無疑將成爲一切先進國家的國家構成與政權構成的統治形式。但是這種共和國，在一定

的歷史時期中，還不適用於殖民地半殖民地國家之中。因此，在一切革命的殖民地半殖民地國家，在一定歷史時期中的國家形式，唯一的只能是第三種形式。這就是新民主主義共和國。這是一定歷史時期的國家形式，因而是過渡的形式，但是不可移易的必要的一種國家形式。…

十一　新民主主義的文化

革命亦有新舊之分，在某一歷史時期是新的東西，在另一歷史時期就變爲舊的了。在中國資產階級民主革命的一百年中，分爲前八十年與後二十年兩個大段落。這兩個大段落中，各有一個基本的帶歷史性質的特點，即在前八十年，中國資產階級民主革命是屬於舊範疇的，而在後二十年，由於國際國內政治形勢的變化，都屬於新範疇了。…

◇毛澤東《新民主主義論》(《解放》第 98·99 期)。
◆《中国文化》(《中国革命史档案文献光盘库》B·12)，《解放》(B·11)。

bùshì【不是】（‘不是……，而是érshì……’の形で）…ではなくて…だ。¶他们～没有经验，而是没有认真总结／彼らに経験がないのではなくて，真剣にそれを総括しなかったまでだ。

zìcóng【自从】〔介詞〕…より。…から。『語法』過去のある時点を起点とすることを表す。ある事柄を規準とする起点を表すので，簡単な時間詞は後にとらない。たとえば，‘自从去年他来了…’（去年彼が来てから…）とは言えても，‘自从去年…’（去年から…）とは言えない。“以来”や“以后”と呼応して用いることも多い。

shǔyú【属于】…に属する。…のものである。▼“没”では否定できない。¶这一带～河北省，不～北京市／このあたりは河北省に属し，北京市には属していない。¶最后的胜利不会～他们／最後の勝利は彼らのものにはならない。

〔却〕表示转折的连词。（『新華字典』）

ér【而】〔接続詞〕しかして。名詞以外の並列等の関係にある2つの成分（動詞・形容詞またはそれらを中心とする句）を接続する。(a)並列関係にある，または関連のある成分を接続する。(b)肯定形と否定形とで互いに補足し合う2つの要素を接続する。(c)“而”の後ろが前を受けるか，順接，あるいは発展させる関係にある2つの動詞句を接続する。(d)意味が正反対の2つの成分を接続する。(e)因果関係をなす2つの事柄を接続する。

zé【则】〈書〉〔接続詞〕(a)（2つの動作の前後関係を表す）（…する）と…。…してから…。¶日出即jì起，日没mò～息xī／夜が明けるとすぐ起き日が暮れるとすぐ寝る。(b)（条件・結果の関係を表す）…すれば。…ければ。¶物体热～涨zhàng，冷～缩suō／物体は熱すれば膨張し，冷やせば収縮する。(c)（他と比較してこれは…と限定する）は。¶今～不然／いまはそうでない。

àn【按】〔介詞〕…に基づき。…に準じて。…に応じて。『語法』何らかの基準に従うことを示す。後に名詞（単音節のものを除く）が続くとき‘着zhe’を加えて‘按着’の形で用いることもある。¶～他的说法，…／彼の話では，…。¶～条件讲，…／条件から言えば，…。

jīběnshang【基本上】〔副詞〕(1)主として。主に。¶取得 qǔdé 胜利,～是依靠yīkào 了群众／勝利を勝ち取ったのは主として大衆に依拠したからである。(2)たいてい。ほぼ。おおよそ。一応。¶生产任务～已经完成／生産任務はほぼ達成した。

zǒngshì【总是】〔副詞〕いつも。いつまでも(…である)。¶一到冬天他～感冒／冬になると彼はしょっちゅう風邪を引く。『注意』"总"＋"是"の形で,「どうしても」「やはり」の意味を表す。¶中学生总是中学生,看问题哪能那么深刻?／中学生はしょせん中学生で,問題をどうしてそんなに深く見ることができようか。

guò//shí【过时】流行遅れ。時代遅れ。¶～的设备／時代遅れの設備。

xīngshèng【兴盛】盛んになる。栄える。興隆する。¶事业～／事業が盛んになる。

wúyí【无疑】疑いを入れない。…にちがいない。まちがいない。きっと。¶这种行为 xíngwéi ～是错的／こういう行いは明らかにまちがいだ。

〔构成〕→〔结构〕各个组成部分的搭配和排列。(『現代漢語詞典・修訂本』)

〔形式〕对内容而言. 指事物的组织结构和表现方式。(『漢語大詞典・光盤 1.0 版』)

yíyì【移易】〈書〉(＝改变 gǎibiàn)改める。変える。変更する。

〔就〕表示在某种条件或情况下自然怎么样。前面常用 '只要、要是、既然' 等或者含有这类意思。¶谁愿意去,谁～去。(『現代漢語詞典・修訂本』)

duànluò【段落】段落。区切り。切れ目。¶我们的工作到此 cǐ 告一～／われわれの仕事はこれで一区切りついた。

*　　*　　*

4: Zhōngguó gémìng shì shìjiè gémìng de yí bùfen
Zhōngguó gémìng de lìshǐ tèdiǎn fēn wéi mínzhǔ

zhǔyì yǔ shèhuì zhǔyì liǎng ge bùzhòu, ér qí dì-yībù, xiànzài yǐ búshì yìbān de mínzhǔ zhǔyì, ér shì Zhōng-guóshì de tèshū de xīnshì de mínzhǔ zhǔyì, ér shì Xīn-Mínzhǔzhǔyì. …

Zhōngguó zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì gémìng, zìcóng yījiǔyīsì nián bàofā dì-yī cì dìguó zhǔyì shìjiè dàzhàn yǔ yījiǔyīqī nián Eguó Shíyuè Gémìng zài dìqiú liù fēn zhī yī de tǔdì shàng jiànlìle shèhuì zhǔyì guójiā yǐlái, qǐ le yí ge biànhuà.

Zài zhè yǐqián, Zhōngguó zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì gémìng, shì shǔyú jiù de shìjiè zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì gémìng de fànchóu zhīnèi de, shì shǔyú jiù de shìjiè zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì gémìng de yí bùfen.

Zài zhè yǐhòu, Zhōngguó zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì gémìng, què gǎibiàn wéi shǔyú xīn de zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì gémìng de fànchóu, ér zài gémìng de zhènxiàn shuō lái, zé shǔyú shìjiè wúchǎn jiējí shèhuì zhǔyì gémìng de yí bùfen le. …

Zhè zhǒng zhímíndì bàn-zhímíndì gémìng de dì-yī jiēduàn, dì-yī bù, suīrán àn qí shèhuì xìngzhì, jīběn-shang yīrán hái shì zīchǎn jiējí mínzhǔ zhǔyì de, tā de kèguān yāoqiú, jīběnshang yīrán hái shì sǎochú zīběn zhǔyì fāzhǎn dàolù shàng de zhàng'ài. Rán'ér zhè zhǒng gémìng, yǐjing búshì jiù de wánquán bèi zīchǎn jiējí lǐngdǎo de, yǐ jiànlì zīběn zhǔyì de shèhuì yǔ zīchǎn jiējí zhuānzhèng de guójiā wéi mùdì de gémìng, érshì xīn de, bèi wúchǎn jiējí lǐngdǎo huò cānjiā lǐngdǎo de, yǐ zài dì-yī jiēduàn shàng jiànlì Xīn-Mínzhǔzhǔyì de shèhuì yǔ jiànlì gège gémìng jiējí

liánhé zhuānzhèng de guójiā wéi mùdì de gémìng. Zhè zhǒng gémìng, zài qí jìnxíng zhōng, yīnwèi díqíng yǔ tóngméngjūn de biànhuà, yòu fēn wéi ruògān de jiēduàn, rán'ér qí jīběn xìngzhì shì méiyǒu biànhuà de, búzhì shèhuì zhǔyì gémìng zhī shí, qí jīběn xìngzhì zǒngshì tóngyī de. …

5: Xīn-Mínzhǔzhǔyì de zhèngzhì

Zhè zhǒng Xī-Mínzhǔzhǔyì de gònghéguó, yī fāngmiàn yǔ jiùshì de, Oumēishì de, zīchǎn jiējí zhuānzhèng de, zīběn zhǔyì de gònghéguó xiāng qūbié, zhè shì jiù mínzhǔ zhǔyì de gònghéguó, zhè zhǒng gònghéguó yǐjing guòshí le. Lìng yī fāngmiàn yě yǔ zuì xīnshì de, Sūliánshì de, wúchǎn jiējí zhuānzhèng de, shèhuì zhǔyì de gònghéguó xiāng qūbié, zhè shì zuì xīn mínzhǔ zhǔyì de gònghéguó, zhè zhǒng gònghéguó yǐjing zài sūlián xīngshèng qǐlái le, bìngqiě hái yào zài gè zīběn zhǔyì guójiā jiànlì qǐlái, wúyí jiāng chéngwéi yíqiè xiānjìn guójiā de guójiā gòuchéng yǔ zhèngquán gòuchéng de tǒngzhì xíngshì. Dànshì zhè zhǒng gònghéguó, zài yídìng de lìshǐ shíqī zhōng, hái bú shìyòng yú zhímíndì bàn-zhímíndì guójiā zhīzhōng. Yīncǐ, zài yíqiè gémìng de zhímíndì bàn-zhímíndì guójiā, zài yídìng lìshǐ shíqī zhōng de guójiā xíngshì, wéiyī de zhǐ néng shì dì-sān zhǒng xíngshì. Zhè jiù shì Xīn-Mínzhǔzhǔyì gònghéguó. Zhè shì yídìng lìshǐ shíqī de guójiā xíngshì, yīn'ér shì guòdù de xíngshì, dànshì bùkě yíyì de bìyào de yì zhǒng guójiā xíngshì. …

11: Xīn-Mínzhǔzhǔyì de wénhuà

Gémìng yì yǒu xīn-jiù zhī fēn, zài mǒu yī lìshǐ

shíqī shì xīn de dōngxi, zài lìng yī lìshǐ shíqī jiù biàn wéi jiù de le. Zài Zhōngguó zīchǎn jiējí mínzhǔ gémìng de yìbǎi nián zhōng, fēn wéi qián bāshí nián yǔ hòu èrshí nián liǎng ge dà duànluò. Zhè liǎng ge dà duànluò zhōng, gè yǒu yíge jīběn de dài lìshǐ xìngzhì de tèdiǎn, jí zài qián bāshí nián, Zhōngguó zīchǎn jiējí mínzhǔ gémìng shì shǔyú jiù fànchóu de, ér zài hòu èrshí nián, yóuyú guójì guónèi zhèngzhì xíngshì de biànhuà, dōu shǔyú xīn fànchóu le. …

*　*　*

4　中国革命は世界革命の一部である

中国革命の歴史的特質が民主主義と社会主義の2つのステップに分かれ，その第1歩がいまやすでに一般的な民主主義ではなくて，中国的な，特殊な，新しい型の民主主義となっており，新民主主義となっている。…

中国のブルジョア民主主義革命は，1914年に第1次帝国主義世界大戦が勃発し，1917年にロシアの10月革命が地球の6分の1の地上に社会主義国家をうちたてて以来，変化が生じた。

それ以前においては，中国のブルジョア民主主義革命は旧い世界ブルジョア民主主義革命の範疇に属するものであり，旧い世界ブルジョア民主主義革命の一部分であった。

それ以後においては，中国のブルジョア民主主義革命は新しいブルジョア民主主義革命の範疇に属するものにあらたまり，革命陣営のうえからいえば，世界プロレタリア社会主義革命の一部に属するにいたったのである。

こうした植民地・半植民地革命の第1段階・第1歩は，その社会的性質にしたがえば，基本的には依然としてなおブルジョア民

主主義的なものであって，その客観的要求が，基本的には依然としてなお資本主義発展の途上における障害物を一掃することにあるとはいえ，この革命はもはや旧い，完全にブルジョアジーに指導された，資本主義社会とブルジョア独裁の国家の樹立を目的とする革命ではなくて，新しいプロレタリアートに指導されるか，またはプロレタリアートが指導に参加したところの，第1段階では新民主主義社会の樹立と革命諸階級が連合して独裁する国家の樹立を目的とする革命である。この革命は，その進行過程で，敵の情勢や同盟軍の変化によって，またいくつかの段階に分かれるが，その基本的な性質には変化はないのであり，社会主義革命に達しないうちは，その基本的な性質はつねに同一なのである。

5　新民主主義の政治

こうした新民主主義共和国は，一面では，旧い形態の，欧米型の，ブルジョア独裁の，資本主義の共和国とは区別される。これは旧民主主義の共和国であり，こうした共和国はすでに時代おくれになっている。これは，他の一面では，もっとも新しい形態の，ソ連型のプロレタリア独裁の，社会主義の共和国とも区別される。これはもっとも新しい民主主義の共和国であり，こうした共和国はすでにソ連において興隆しているし，またさらに資本主義諸国においてもうちたてられようとしており，疑いもなくすべての先進国の国家構成と政権構成の支配的な形態となるであろう。だが，こうした共和国は，一定の歴史的時期には，なお植民地・半植民地国には適用されないのである。それゆえに，すべての革命的な植民地・半植民地国では，一定の歴史的時期における国家形態は，ただ1つ，第3の形態でしかありえない。それがすなわち，新民主主義の共和国である。これは一定の歴史的時期の国家形態であり，したがって過渡的な国家形態である。とはいえ，それは他の

ものとはとりかえることのできない必要な国家形態なのである。

11　新民主主義の文化

革命も新旧の別があり，ある歴史的時期には新しいものでも他の歴史的時期には旧いものに変わってしまう。中国のブルジョア民主主義革命における 100 年間は，前の 80 年と後の 20 年との 2 大時期に分けられる。この 2 つの時期は，それぞれ歴史的性質をおびた特質がある。すなわち，前の 80 年間は，中国のブルジョア民主主義革命は旧い範疇のそれであったが，後の 20 年間は，国際的・国内的な政治情勢の変化によって，新しい範疇に属するものである。…

◇日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集』第 10 巻，勁草書房，1974 年，172-197 頁（尾崎庄太郎訳）。

◆中国革命の歴史的特質が民主主義と社会主義の2つのステップに分かれ⇨中国革命の歴史的特質が〔中国革命を〕民主主義と社会主義の 2 つのステップに分け
◆その客観的要求が，基本的には依然としてなお資本主義発展の途上における障害物を一掃することにあるとはいえ，この革命は⇨その客観的要求は，基本的には依然としてなお資本主義発展の途上における障害物を一掃することである。しかしながらこの種の革命は
◆つねに⇨やはり

【中国革命史に関する「通説」】
①中華人民共和国建国直後の1951年から公刊された『毛沢東選集』に収録された文章は，社会主義建設のための体系的理論を提供する目的で系統的な改訂が施された。胡喬木「中国共産党の 30 年」（1951 年）は『毛沢東選集』を踏まえた半ば公式の共産党史としての位置づけを付与され，中国革命史の「通説」となった。「通説」の骨子は以下の通りである。(1)中

国におけるブルジョア民主主義革命の課題は，アヘン戦争以来の「半植民地・半封建」社会における帝国主義勢力と封建主義勢力の打倒（「反帝・反封建」）であった。従って，中国のブルジョア民主主義革命はウエスタン・インパクトを契機とする「半植民地・半封建」社会の形成とその展開・崩壊の過程として理解しうる。(2) この革命の具体的内容には，a 対外戦争，b 農民戦争，c 政治改革，d 大衆的民族運動，e 革命運動（戦争）が含まれ，五四運動以前のブルジョアジーが指導する「旧民主主義革命」時期と，以後のプロレタリアートが指導する「新民主主義革命」時期に2分される。(3) 1927 年に国民革命が挫折したあと共産党がそれを継承・遂行し，毛沢東による「正しい」戦略・戦術指導により 1949 年の勝利がもたらされた。革命を「裏切った」蒋介石＝国民政府は国民革命の打倒対象であった軍閥と質的相違はなく（「新軍閥」），いかなる民族性も近代性も有していない。この点からいえば，国民党が「新民主主義革命」の打倒対象となった時，革命の課題は「反帝・反封建・反官僚資本」となった。(4) 中国ブルジョア民主主義革命の後半部分を構成する「新民主主義革命」の成功＝中華人民共和国の成立をさかいに，中国革命は社会主義革命段階に転化した。② 1950 年代末以降の政治的急進化のなかで，農村における武装闘争の役割を突出化させる中国革命史理解が定着するとともに，五四運動から建国までの「現代史」は政治史に，政治史は革命史に，革命史は共産党史にそれぞれ代替され，さらに共産党史は毛沢東の「正しい路線」と彼のライバルたちの「誤った路線」との間の「路線闘争史」に矮小化されていった。（上原一慶編『現代中国の変革』4-5 頁）

【今日の毛沢東評価】

毛泽东同志是伟大的马克思主义者，无产阶级革命家、战略家和理论家，是近代以来中国伟大的爱国者和民族英雄。毛泽东同志在艰苦漫长的革命岁月中，表现出一个革命领袖高瞻远瞩的政治远见，坚定不移的革命信念，得心应手的斗争艺术和驾驭全局的领导才能。他是从人民群众中成长起来的伟大领袖，永远属于人民。毛泽东同志的革命精神具有强大的凝聚力，他的伟大品格具有动人的感染力，他的科学思想具有非凡的号召力。他和他的战友们所创造的彪炳史册的丰功伟业，为世界一切正直的人们所尊重。他的革命实践和光辉业绩已经载入史册。他的名字、他的思想和精神永远鼓舞着中国共

产党人和各族人民，继续推动着中国历史的前进。毛泽东同志作为一个伟大的历史人物，属于中国，也属于世界。毛泽东同志永远生活在我们中间，我们要认真学习他的科学著作，从中汲取智慧和力量。中国出了个毛泽东，是我们党的骄傲，是我们国家的骄傲，是中华民族的骄傲。我们对毛泽东同志永远怀着深深的尊敬和爱戴之情！(http://www.peopledaily.com.cn→资料、中心人物:人民领袖毛泽东，历史评价。江泽民「在毛泽东同志诞辰一百周年纪念大会上的讲话」(抜粋)1993.12.26)

【中国文化】について

1940 年 2 月延安で創刊。陝甘寧辺区文化協会の指導のもとに中国文化社が編集に当たった。3 巻 15 期を発行して 41 年 8 月に停刊。毛沢東「新民主主義論」は,『中国文化』創刊号掲載の「新民主主義的政治與新民主主義的文化」が最も早いテキストである。(廖蓋隆主編『中国共産党史大辞典・新民主主義革命時期』中共中央党校出版社, 1991 年, 716 頁)

【解放】について

中共中央機関誌。1937 年 4 月延安で創刊。週刊（のち半月刊）で, 1941 年 8 月に第 134 期を発行して停刊。張聞天・廖承志・徐冰らがこの工作を指導した。(廖蓋隆主編『中国共産党史大辞典・新民主主義革命時期』524-525 頁)

【中国共産党史資料集】について

12 巻。日本国際問題研究所中国部会編。勁草書房, 1970～75。中共創立前後から太平洋戦争終結までの, 中共史に関係する基本的資料 987 篇を翻訳, 収録したもの。資料収録には原典主義に立ち, 既訳のものも原典によって新たに訳出してあるが, 資料の多くは日本で初訳である。資料は①中共の政策・方針およびコミンテルンの対中共指示や対中国・アジア方針, ②中共の指導的人物の主要論文・講演, ③中共と関係の深い大衆的組織の動向およびその名で発表された資料, の 3 段階に分けられ, その第 1 級資料が内外から収集されている。各資料ごとに資料考証, 発出時の情況, 関連資料が注記される。また各巻ごとに出典, 発出日時などを明記した約 2000 項目に亘る資料目録が, 年代順に事項年表と関連をもたせながら併

載される。このような質量ともに充実した資料目録は，世界的には唯一のものである。更に各巻ごとに使用文献資料一覧表と索引が付けられている。なお最終巻には別冊が付けられ，これは資料目録補・全 12 巻総目次・人名総索引からなる。各巻の収載時期および収録資料数は次のとおりである。1 巻=1918.7-25.8,128 篇；2 巻=1925.9-27.3,98 篇；3 巻=1927.4-28.6,84 篇；4 巻=1928.7-30.5,49 篇；5 巻=1930.6-32.1,90 篇；6 巻=1932.2-33.11,80 篇；7 巻=1934.1-35.9,69 篇；8 巻=1935.10-37.9,98 篇；9 巻=1937.10-39.7,52 篇；10 巻=1939.9-41.12,87 篇；11 巻=1942.1-43.12,75 篇；12 巻=1944.1-45.8,77 篇。（山根幸夫編『中国史研究入門・下』山川出版社，1983 年，460-461 頁）

■ 参考：『毛沢東選集』における改訂 ■

〔1952〕

这种殖民地半殖民地革命的第一阶段，第一步，虽然按其社会性质，基本上依然还是资产阶级民主主义的，它的客观要求，**是为资本主义的发展扫清道路**；然而这种革命，已经不是旧的、**被资产阶级领导的**、以建立资本主义的社会和资产阶级专政的国家为目的的革命，而是新的、被无产阶级**领导的**、以在第一阶段上建立新民主主义的社会和建立各个革命阶级联合专政的国家为目的的革命。**因此，这种革命又恰是为社会主义的发展扫清更广大的道路。**这种革命，在其进行中，因为敌情和同盟军的变化，又分为若干的阶段，**然而其基本性质是没有变化的。**

◇《毛泽东选集（第二版）》第 2 卷，1991 年，第 668 頁。

◆書き替え：「被無産階級領導或参加領導的」⇨「被无产阶级领导的」
◆加筆：「因此，这种革命又恰是为社会主义的发展扫清更广大的道路。」

【『毛沢東選集』と毛沢東の著作】について

『毛沢東選集』(5 巻。中共中央毛沢東選集出版委員会編。人民出版社, 1951～53, 60, 77)は毛沢東の重要著作集で, 第 1～4 巻は新民主主義時期のもの(1926～49) 158 篇, 第 5 巻は社会主義革命および社会主義建設期のもの(1949～57) 70 篇, 合計 228 篇が収録される*。また毛沢東がマルクス主義の活動方法, 観点などについて論じた著作を収録した『毛沢東著作選読』(毛沢東著作選読編集委員会編, 1964)がある。甲種本と乙種本があり, 甲種本は一般幹部向け(2 冊, 人民出版社), 乙種本は労農大衆, 青年知識人向け(1 冊, 中国青年出版社)である。甲種本には『毛沢東選集』に収録されていない 2 篇, 乙種本には 3 篇が収載される。両種本とも著作 37 篇を収載するが, 重複するものは 18 篇である。『毛沢東選集』の邦訳には, まず三一書房版 9 巻(1955～56, 61)がある。次に日本共産党中央委員会出版部版 4 巻 8 冊本(1962～65)で, 訳出には中国側の援助, 協力を得, 注は原本より多くなっている。次は中国の外文出版社版 5 巻(1968～77)で, 原本第 5 巻が訳出されているのはこの版だけである。この版にも訳注が付けられている。『毛沢東選集』は全集でなく選集であり, また編集に際して, 毛沢東の枚閲を受け, 文章の一部だけが収録されたり, また内容上若干の補訂が加えられたりしており, もちろん文字上の修正も行われている。研究者の間から選集に収録されていない著作を目にしたい, あるいは収録されたものも完全な形でしかも原初型態で知りたいという希望が出るのは当然であった。この要望にできるだけ近づこうとしたのが, 『毛沢東集』10 巻(竹内実監修, 毛沢東文献資料研究会編。北望社, 1970～72)である**。収録の範囲は 1917～49 年の毛沢東の著作を最大限に収録するため, 個人署名, 共同署名のものを区別せず収録, また署名がなくとも, 毛沢東の著作であるとする根拠のあるもの, あるいは著作と推定されるものは採録する。しかしさきの『毛沢東選集』『毛沢東著作選読』にしか収録されていないものは, 除外されている。採用テキストは初出あるいはそれに近いテキストを優先的に採用し, 誤植・不明個所などは他のテキストにより訂正・補充し, 採用テキストと『毛沢東選集』収録のものとの異同は, 注記するなどしてある。配列は執筆日時順(編年体)で, 全巻で 429 篇に達する。本書は『毛沢東選集』を利用する際には, 必ず参照すべき資料である。なお『毛沢東選集』所収の諸論文を, その初出形態に立ち返って研究, 特に毛沢東の階級区分論にひきつけて研究し, 毛沢東理論の史的変遷を理論化しようとした労作, 今堀誠二『毛沢東研究序説』(勁草書房, 1966)があ

ることを付記したい(山根幸夫編『中国史研究入門』下, 山川出版社, 1983 年, 469-471 頁)。

* 1991 年, 第 1～4 巻の第二版が出版された。また第 5 巻は, 現在, 公式には認知されていない。なお中共中央文献研究室編『建国以来毛沢東文稿』(13 冊, 中央文献出版社, 1987～1998 年)は, 1949 年以来の毛沢東の手稿・談話, 毛沢東の名義で出された文書, 論文, 指示を収録する。

**1983 年に『毛沢東集・第二版』10 巻が, 1983～1985 年に『毛沢東集補巻』10 巻が蒼蒼社から出版された。

1938

14　日中全面戦争と対日抗戦

1937年8月に国防最高会議を設置するとともに国民政府軍事委員会を最高統帥部とすることを決定して戦時体制を構築した国民政府は，南京陥落前夜，国民政府の重慶移転を宣言して対日抗戦の堅持を表明した。9月の第2次国共合作の成立により中国全土は空前の抗日ブームに沸きたった。**1938年3月に武漢で開催された国民党臨時全国代表大会が採択した「抗戦建国綱領」は，7月に創設された国民参政会において，全面戦争下における中華民国の基本方針を示す文献として認知された。**こうして中国社会の広範な勢力を結集して日本の中国侵略に対する抗戦を堅持するという中国政治の枠組が確立した。

1938年10月の武漢・広州陥落の後，戦線は膠着状態となり，国民政府は沿海地域を喪失し内陸部に依拠して抗戦を堅持することとなった。翌年1月，重慶で開催された国民党5期5中全会は，国防最高委員会を設置して軍令・政令を中央に統一するとともに党・政・軍に対する蒋介石の支配を強化した。同時に，国民党は，日本軍占領地区における共産党の活動および国民政府統治地区における国民党以外の政治団体とその活動に対する統制強化を決定した。国民政府は，地方勢力の政治的・経済的基盤を奪取することによって西南地区における政治統合を実現していったが，この時期以降のアメリカによる中国支援は，ヨーロッパの危機に起因するイギリス帝国の防衛を目的としたものであった。

ヨーロッパ戦争・独ソ戦からアジア太平洋戦争にいたる過程において，国際的反ファシズム陣営が徐々に明確化していった。1941 年 12 月，中国は日・独・伊 3 国に対して宣戦を布告するとともに，「連合国共同宣言」に調印した。翌年 1 月，蒋介石は連合軍の中国戦区最高司令官に就任した。1943 年 1 月，国民政府は，こうした国際環境を背景として不平等条約の撤廃に成功した。ヨーロッパ戦線が最終局面を迎えた 1945 年 2 月，ヤルタで開催された米・英・ソの首脳会談において，ソ連の対日参戦とともに，外モンゴルの現状維持と日露戦争でロシアが失った権益の回復が確認された。この中国の主権にかかわる 2 項目に関して中ソ交渉がもたれ，8 月 14 日，これらを確認する「中ソ友好同盟条約」が締結された。このことは，国民政府が中国を代表する政府であることをソ連が承認したことを示すものであった。抗日戦争の勝利により，国民政府は東北と台湾の主権を回復するとともに，創設された国際連合安全保障理事会の五常任理事国の一角を占めることとなった。こうしてアヘン戦争以来の民族課題は基本的に達成された。（上原一慶編『現代中国の変革』15-16 頁）

中國國民黨領導全國，從事於抗戰建國之大業，欲求抗戰必勝，建國必成，固有賴於本黨同志之努力，尤其全國人民，戮力同心，共同擔負，因此本黨有請求全國人民，捐棄成見，破除畛域，集中意志，統一行動

之必要，特於臨時全國代表大會製定外交、軍事、政治、經濟、民衆、教育各綱領，議決公佈，使全國力量，得以集中團結，而實現總動員之效能，綱領如左：

甲、總　則

（一）確定三民主義暨總理遺教爲一般抗戰行動及建國之最高準繩。

（二）全國抗戰力量，應在本黨及蔣委員長領導之下，集中全力，奮勵邁進。

乙、外　交

（三）本獨立自主之精神，聯合世界上同情於我之國家及民族，爲世界之和平與正義共同奮鬥。

（五）聯合一切反對日本帝國主義侵略之勢力，制止日本侵略，樹立並保障東亞之永久和平。

（七）否認及取消日本在中國領土內以武力造成之一切僞政治組織，及其對內對外之行爲。

丙、軍　事

（八）加緊軍隊之政治訓練，使全國官兵明瞭抗戰建國之意義，一致爲國效命。

（九）訓練全國壯丁，充實民衆武力，補充抗戰部隊，對於華僑回國效力疆場者，則按照其技能，施以特殊訓練，使之保衛祖國。

（十）指導及援助各地武裝人民，在各戰區司令長官指揮之下，與正式軍隊，配合作戰，以充分發揮保衛鄉土捍禦外侮之效能，並在敵人後方，發動普遍的游擊戰，以破壞及牽制敵人之兵力。

丁、政　治

（十二）組織國民參政機關，團結全國力量，集中全國之思慮與識見，以利國策之決定與推行。

（十三）實行以縣爲單位，改善並健全民衆之自衛組織，施以訓練，加强其能力，並加速完成地方自治條件，以鞏固抗戰中之

政治的社會的基礎，並爲憲法實施之準備。

戊、經　濟

（十七）經濟建設應以軍事爲中心，同時注意改善人民生活，本此目的，以實行計劃經濟，獎勵海内外人民投資，擴大戰時生產。

己、民衆運動

（二十五）發動全國民衆，組織農工商學各職業團體，改善而充實之，使有錢者出錢，有力者出力，爲争取民族生存之抗戰而動員。

（二十六）在抗戰期間，於不違反三民主義最高原則及法令範圍内，對於言論出版集會結社，當與合法之充分保障。

（二十八）加强民衆之國家意識，使能輔助政府肅清反動，對於漢奸嚴行懲辦，並依法没收其財產。

◇《中國國民黨臨時全國代表大會府議通過之「中國國民黨抗戰建國綱領」(民國二十七年四月一日)》(《中華民國重要史料初編—對日抗戰時期》第四編戰時建設 一)。

◆《中华民国史史料长编》(《中华民国史档案文献光盘库》G29)。

lài【赖】頼る。頼りにする。¶仰 yǎng ～／頼る。¶试验的成功，有～于各方面的支持／実験の成功には各方面からの支持によるところが大きい。

lù lì tóng xīn【戮力同心】〈成〉一致協力する。一心同体となって努力する。¶我们一定要～，争取 zhēngqǔ 早日把这项任务完成／われわれはぜひとも一致協力して，この任務を1日も早く達成するように努めなければならない。

qǐngqiú【请求】頼む。願う。申請する。▼"请"よりも硬い表現。¶～上级批准我休一个星期假 jià ／上役に1週間の休暇を許可してくれるよう願い出る。

juān【捐】捨てる。なげうつ。¶～弃 qì ／投げ捨てる。

chéngjiàn【成见】先入観。先入主。¶固执gùzhí～／先入観に固執する。¶消除xiāochú～／先入観を除く。

pò//chú【破除】（これまで尊重・信仰されてきた好ましくない事柄を）打ち破る，除き去る，捨てる。¶～旧思想的束缚 shùfù ／古い考え方の束縛を破る。

zhěnyù【畛域】〈書〉境。境界。¶不分～／分け隔てをしない。

déyǐ【得以】（…によって）…することができる。¶必须放手发动群众，让群众的意见～充分 chōngfèn 发表出来／思い切って大衆を動員し，大衆の意見が十分に発表されるようにしなければならない。

jì【暨】(1)〈書〉および。…と。(2)〈書〉…まで。…に至って。¶～今／今まで。

〔總理遺教〕1925年3月11日に孫文が同志に託した「遺嘱」。「余，国民革命に力を致すこと四十年，その目的は中国の自由平等を求めるにあり。…現在，革命はなおいまだ成功せず。すべての我が同志たちは，余の著したる"建国方略""建国大綱""三民主義"と"第一次全国代表大会宣言"に依って引き続き努力し，その貫徹を求めねばならない。…」

zhǔnshéng【准绳】〈書〉(1) 水平と直線を測定する器具。(2)〈喩〉規則。よりどころ。基準。 ¶每个同学都要以《学生守则》为～，

严格 yángé 要求自己／学生はだれもがみな「学生心得」をよりどころにして自己を厳しく律しなければいけない。

běn【本】基づく。¶这个纷争fēnzhēng必须～着友好精神加以解决／この紛争は友好の精神に基づいて解決しなければならない。

míngliǎo【明了】はっきり分かっている。はっきり知っている。¶～对方的心思／相手の考えをよく知っている。

xiàomìng【效命】〈書〉命を捧げる。命がけで尽くす。¶～疆场 jiāngchǎng ／戦場に出て命がけで戦う。

zhuàngdīng【壮丁】〈旧〉壮丁。▼兵役適齢期の男性をさすことが多い。

xiào//lì【效力】（＝效劳 láo ）力を尽くす。骨を折る。奉仕する。¶为国家～／国家のために力を尽くす。

hàn【捍】守る。防衛する。¶～御 yù ／防御する。

wàiwǔ【外侮】外国の侮り。外国の侵略と圧迫。¶抵御 dǐyù ～／外国の侵略と圧迫に立ち向かう。

qiānzhì【牵制】牽制（する）。引きつけておく。▼主に軍事面についていう。¶他们巧妙 qiǎomiào 地～对方，不给对方留一点余地／彼らは巧みに相手を牽制し，少しもゆとりを与えない。

shíjiàn【识见】〈書〉識見。見識。

yǔ【与】与える。やる。渡す。¶～人方便／人に便宜をはかる。

〔之〕用法跟 '的' 相当。(『新華字典』)

chéngbàn【惩办】（犯罪者に）罰を加える。処罰する。¶～一切卖国贼màiguózéi ／あらゆる売国奴を処罰する。

*　　*　　*

Zhōngguó Guómíndǎng lǐngdǎo quánguó, cóngshì yú kàngzhàn jiànguó zhī dàyè, yùqiú kàngzhàn bì shèng, jiànguó bì chéng, gù yǒu lài yú běn dǎng tóngzhì zhī nǚlì, yóuqí quánguó rénmín, lù lì tóng xīn, gòngtóng dānfù, yīncǐ běn dǎng yǒu qǐngqiú quánguó rénmín, juānqì chéngjiàn, pòchú zhěnyù, jízhōng yìzhì, tǒng-

yī xíngdòng zhī bìyào, tè yú línshí quánguó dàibiǎo dàhuì zhìdìng wàijiāo、jūnshì、zhèngzhì、jīngjì、mínzhòng、jiàoyù gè gānglǐng, yìjué gōngbù, shǐ quánguó lìliang, déyǐ jízhōng tuánjié, ér shíxiàn zǒngdòngyuán zhī xiàonéng, gānglǐng rú zuò:

Jiǎ: Zǒngzé

1. Quèdìng Sānmín Zhǔyì jì Zǒnglǐ Yíjiào wéi yìbān kàngzhàn xíngdòng jí jiànguó zhī zuìgāo zhǔnshéng.

2. Quánguó kàngzhàn lìliang, yīng zài běn dǎng jí Jiǎng wěiyuánzhǎng lǐngdǎo zhīxià, jízhōng quánlì, fènlì màijìn.

Yǐ: Wàijiāo

3. Běn dúlì zìzhǔ zhī jīngshén, liánhé shìjiè shàng tóngqíng yú wǒ zhī guójiā jí mínzú, wèi shìjiè zhī hépíng yǔ zhèngyì gòngtóng fèndòu.

5. Liánhé yíqiè fǎnduì Rìběn dìguó zhǔyì qīnlüè zhī shìli, zhìzhǐ Rìběn qīnlüè, shùlì bìng bǎozhàng Dōngyà zhī yǒngjiǔ hépíng.

7. Fǒurèn jí qǔxiāo Rìběn zài Zhōngguó lǐngtǔ nèi yǐ wǔlì zàochéng zhī yíqiè wěi zhèngzhì zǔzhī, jí qí duìnèi duìwài zhī xíngwéi.

Bǐng: Jūnshì

8. Jiājǐn jūnduì zhī zhèngzhì xùnliàn, shǐ quánguó guānbīng míngliǎo kàngzhàn jiànguó zhī yìyì, yízhì wèi guó xiàomìng.

9. Xùnliàn quánguó zhuàngdīng, chōngshí mínzhòng wǔlì, bǔchōng kàngzhàn bùduì, duìyú huáqiáo huí guó xiàolì jiāngchǎng zhě, zé ànzhào qí jìnéng, shī yǐ tèshū xùnliàn, shǐ zhī bǎowèi zǔguó.

10. Zhǐdǎo jí yuánzhù gè dì wǔzhuāng rénmín, zài gè zhànqū sīlìng zhǎngguān zhǐhuī zhīxià, yǔ zhèng-

shì jūnduì, pèihé zuòzhàn, yǐ chōngfèn fāhuī bǎowèi xiāngtǔ hànyù wàiwǔ zhī xiàonéng, bìng zài dírén hòufāng, fādòng pǔbiàn de yóujīzhàn, yǐ pòhuài jí qiānzhì dírén zhī bīnglì.

Dīng: Zhèngzhì

12. Zǔzhī guómín cānzhèng jīguān, tuánjié quánguó lìliang, jízhōng quánguó zhī sīlǜ yǔ shíjiàn, yǐ lì guócè zhī juédìng yǔ tuīxíng.

13. Shíxíng yǐ xiàn wéi dānwèi, gǎishàn bìng jiànquán mínzhòng zhī zìwèi zǔzhī, shī yǐ xùnliàn, jiāqiáng qí nénglì, bìng jiāsù wánchéng dìfāng zìzhì tiáojiàn, yǐ gǒnggù kàngzhàn zhōng zhī zhèngzhì de shèhuì de jīchǔ, bìng wéi xiànfǎ shíshī zhī zhǔnbèi.

Wù: Jīngjì

17. Jīngjì jiànshè yīng yǐ jūnshì wéi zhōngxīn, tóngshí zhùyì gǎishàn rénmín shēnghuó, běn cǐ mùdì, yǐ shíxíng jìhuà jīngjì, jiǎnglì hǎi-nèiwài rénmín tóuzī, kuòdà zhànshí shēngchǎn.

Jǐ: Mínzhòng yùndòng

25. Fādòng quánguó mínzhòng, zǔzhī nóng-gōng-shāng-xué gè zhíyè tuántǐ, gǎishàn ér chōngshí zhī, shǐ yǒu qián zhě chū qián, yǒu lì zhě chū lì, wèi zhēngqǔ mínzú shēngcún zhī kàngzhàn ér dòngyuán.

26. Zài kàngzhàn qījiān, yú bù wéifǎn Sānmín Zhǔyì zuìgāo yuánzé jí fǎlìng fànwéi nèi, duìyú yánlùn chūbǎn jíhuì jiéshè, dāng yǔ héfǎ zhī chōngfèn bǎozhàng.

28. Jiāqiáng mínzhòng zhī guójiā yìshí, shǐ néng fǔzhù zhèngfǔ sùqīng fǎndòng, duìyú hànjiān yán xíng chéngbàn, bìng yīfǎ mòshōu qí cáichǎn.

＊　＊　＊

中国国民党は全国が抗戦建国の大業に従事するのを指導している。抗戦がかならず勝利し，建国がかならず成功するよう求めるには，もとよりわが党同志の努力に頼らなければならないし，とりわけ全国人民が一致協力し，共同してその責務を担うことが必要である。それゆえに，わが党は，全国人民が偏見を棄て，派閥を打破し，意思を集中して，行動を統一するよう要請する必要があり，とくにわが党の随時全国代表大会において，外交・軍事・政治・経済・民衆〔運動〕・教育の各綱領を議決し，公布することによって，全国の力を集中・団結できるようにし，総動員の効果を発揮せんとするものである。その綱領は次のとおりである。

甲　総則

(1) 三民主義および総理の遺訓をもって，一般的抗戦行動および建国の最高基準として確定する。

(2) 全国の抗戦諸勢力は，わが党と蒋委員長の指導の下に，全力を集中し，奮励邁進すべきである。

乙　外交

(3) 独立自主の精神にもとづき，世界でわが国に同情する国家および民族と連合し，世界の平和と正義のために，ともに奮闘する。

(5) 日本帝国主義の侵略に反対する全勢力を連合させ，日本の侵略を阻止し，東亜の恒久平和を確立し，保障する。

(7) 日本が中国領土内で武力によってつくりあげたすべての傀儡的政治組織とその内外に対する行為はこれを認めず，これを破棄する。

丙　軍事

(8) 軍隊の政治訓練を強化して，全国の将兵に抗戦建国の意義をはっきりと理解させ，一致して国のために身命を捧げさせる。

(9) 全国の壮丁を訓練し，民衆の武力を充実させ，抗戦部隊を補充する。華僑で，帰国して戦場で活動するものに対しては，その技能に応じて，特殊の訓練を施し，祖国防衛にあたらせる。

(10) 各地の武装人民を指導ならびに援助して，各戦区司令長官の指揮下で，正規軍と呼応して戦わせ，郷土防衛・外侮撃退の効果を十分に発揮させ，また敵後方において広範な遊撃戦を起こさせ，それによって敵の兵力を破壊ならびに牽制させる。

丁　政治

(12) 国民参政機関を組織して，全国の諸勢力を結集し，全国の思慮と識見を集中し，それにより国策の決定と推進を容易ならしめる。

(13) 県を単位とした民衆自衛組織の改善ならびに健全化を実行し，これに訓練を施し，その能力を強化させるとともに，地方自治の条件を早急にととのえることによって，抗戦中の政治的・社会的基礎を固め，これを憲法実施の準備とする。

戊　経済

(17) 経済建設は軍事を中心とし，同時に民衆生活の改善に注意する。この目的にしたがって計画経済を実行し，内外人民の投資を奨励し，戦時生産を拡大する。

己　民衆運動

(25) 全国民衆を動員し，農民・労働者・商人・学生の各職業団体を組織し，またその改善と充実をはかり，金があるものには金を出させ，力があるものには力を出させて，民族の生存をかちとる抗戦のために動員する。

(26) 抗戦期間中は，三民主義の最高原則および法令に違反しな

い範囲内で，言論・出版・集会・結社について，合法的な範囲において十分な保障を与える。

（28）民衆の国家意識を強化して，反動を粛清する政府に協力し得るようにさせる。漢奸については厳しく処罰するとともに，法によってその財産を没収する。

◇日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集』第9巻，勁草書房，1974年，131-134頁（竹島金吾訳）。

◈抗戦期間中は，三民主義の最高原則および法令に違反しない範囲内で，言論・出版・集会・結社について，合法的な範囲において十分な保障を与える。⇨抗戦期間中，三民主義の最高原則および法令に違反しない範囲内において，言論・出版・集会・結社に対しては，合法的なものには十分な保障を与える。

◈民衆の国家意識を強化して，反動を粛清する政府に協力し得るようにさせる。⇨民衆の国家意識を強化し，政府が反動を粛清することを助けることができるようにする。

◈漢奸については⇨漢奸に対しては

1935

15　抗日民族統一戦線の提起

南方根拠地の放棄を余儀なくされた共産党＝紅軍は，北方にわずかに残されたソヴェト区に結集した（長征）。**1935年8月にコミンテルンの中国代表団が提起した新政策は，共産党の革命運動の決定的転機となった。すなわち，「抗日救国のために全同胞に告げる書」（八一宣言）は，日本の中国侵略に対抗して中華民族社会を防衛するためにすべての政治勢力が結集することを要求した。**共産党は，この方針にもとづいて活発な統一戦線工作を展開し，1936年なかばには，陝西省北部で「囲剿」作戦にあたっていた東北軍（張学良）・西北軍（楊虎城）との「三位一体」的関係の樹立と「抗日救国」をめざす諸勢力の全国的ネットワークの形成に成功した。8月に提出された「民主共和国」構想は，普通選挙による全国議会の招集というかたちで中国政治の民主的変革の問題を提起した。西安事変の平和解決のあと，(1)地主に対する土地没収政策を停止しうる，(2)ソヴェト政府を中華民国特区政府に紅軍を国民革命軍に改称しうるという共産党の提案を受けて，国民党は，共産党問題の軍事的解決方針を放棄した。37年5月に延安で開催された共産党ソヴェト区代表大会において，共産党の抗日民族統一戦線理論は，「抗日」と「民主」の結合，抗日民族統一戦線理論と中国革命理論の結合という内実を有したものとして確立した。第2次国共合作の発足によって，共産党はソヴェト権力を国民政府下の地方政府に転換させ，中国政治における自らの存在を制度的

に保障することに成功した。その際，国家権力に対する相対的自立性を確保したことによって，共産党は，体制内批判を媒介とする国家権力の掌握にむけての政治的回路を有するようになった。

1938 年，「持久戦を論ず」によって日本軍占領地区での抗日根拠地の開拓が抗日戦争の勝利と共産党の党勢の拡大をもたらすという政治的展望を獲得した毛沢東は，「新段階論」において，国民党との「長期合作と合作建国」とともに共産党の活動の拠点を前線と敵後に置くことを主張した。1940 年，抗日根拠地は人口約 1 億を擁するまでに発展した。

（上原一慶編『現代中国の変革』20-22 頁）

近年来，我国家、我民族已处在千钧一发的生死关头。抗日则生，不抗日则死，抗日救国，已成为每个同胞的神圣天职！…

到现在：我同胞抗日救国事业之所以还未得到应有胜利的原因，一方面是由于日寇蒋贼的内外夹攻，另方面是由于各种抗日反蒋势力互相之间，存在有各种隔阂和误会，以致未能团结一致。

因此，当今我亡国灭种大祸迫在眉睫之时，共产党和苏维埃政府再一次向全体同胞呼吁：无论各党派间在过去和现在有任何政

见和利害的不同，无论各界同胞间有任何意见上或利益上的差异，无论各军队间过去和现在有任何敌对行动，大家都应当有“兄弟阋墙外御其侮”的真诚觉悟，首先大家都应当停止内战，以便集中一切国力（人力、物力、财力、武力等）去为抗日救国的神圣事业而奋斗。苏维埃政府和共产党特再一次郑重宣言：只要国民党军队停止进攻苏区行动，只要任何部队实行对日抗战，不管过去和现在他们与红军之间有任何旧仇宿怨，不管他们与红军之间在对内问题上有任何分歧，红军不仅立刻对之停止敌对行为，而且愿意与之亲密携手共同救国。此外，苏维埃政府和共产党现在更进一步地恳切号召：

一切不愿当亡国奴的同胞们！

一切有爱国天良的军官和士兵兄弟们！

一切愿意参加抗日救国神圣事业的党派和团体的同志们！

国民党和蓝衣社中一切有民族意识的热

血青年们！

一切关心祖国的侨胞们！

中国境内一切被压迫民族（蒙、回、韩、藏、苗、瑶〔瑶〕*、黎、番等）的兄弟们！

大家起来！冲破日寇蒋贼的万重压迫，勇敢地：

与苏维埃政府和东北各地抗日政府一起组织全中国统一的国防政府；与红军和东北人民革命军及各种反日义勇军一块组织全中国统一的抗日联军。…

为的使国防政府真能担当起国防重任，为的使抗日联军真能担负起抗日重责，共产党和苏维埃政府号召全体同胞：有钱的出钱，有枪的出枪，有粮的出粮，有力的出力，有专门技能的供献专门技能，以便我全体同胞总动员，并用一切新旧式武器，武装起千百万民众来。共产党和苏维埃政府坚决相信：如果我们四万万同胞有统一的国防政府作领导，有统一的抗日联军作先锋，有千百万武

装民众作战备，有无数万东方的和全世界的无产阶级和民众作声援，一定能战胜内受人民反抗和外受列强敌视的日本帝国主义！

*「根据中央档案原铅印件刊印」を収録。「错字改正用〔 〕(编辑说明)」。

◇《中国苏维埃政府、中国共产党中央为抗日救国告全体同胞书（八一宣言）》(《中共中央文件选集》第10册)。
◆《中共中央综合性文集》(《中国革命史档案文献光盘库》A-1)，《中共中央文件选集》(A-3)。
◆《中国共产党文献资料库》。

yī fà qiān jūn【一发千钧】〈成〉危機一髪。▼"千钧一发"ともいう。¶在这～的时刻／この危機一髪のときに当たって。

guāntóu【关头】瀬戸際。最も大切な時機。¶生死～／死ぬか生きるかの瀬戸際。

jiāgōng【夹攻】挟撃する。はさみ打ちにする。¶内外～／内と外から挟撃する。

géhé【隔阂】わだかまり。隔たり。疎隔。みぞ。¶消除～／わだかまりを解く。

yǐzhì【以致】〔接続詞〕（最後には）…の結果になる。▼先行の文で述べる情況が好ましくない結果を引き起こす場合に用いることが多い。¶有些人看问题的方法不对，～迷失 míshī 了自己的方向／一部の人は問題に対する見方がまちがっているために，自分の進路までも見失う結果になった。

méijié【眉睫】〈書〉眉毛とまつ毛。目睫[もくしょう]。¶迫 pò 在～／目前に差し迫っている。

Sūwéi'āi【苏维埃】ソビエト。ソ連の中央および地方の各級の国家権力機関。▼中国では第2次国内革命戦争（第1次国共内戦）期に革命根拠地政権組織をソビエトと称した。

hūyù【呼吁】呼びかける。アピールする。¶～废止 fèizhǐ 核武器／

核兵器の廃絶を呼びかける。

wúlùn【无论】〔接続詞〕（＝不论）…を問わず。…にかかわらず。…でも。…にしても。『語法』疑問代詞や選択内容を表す並列成分を含んだ文に用い，条件のいかんを問わず，結果や結論は同じだということを示す。“都，也”などと呼応する。

xiōng dì xì qiáng【兄弟阋墙】〈成〉内部の争い。内輪げんか。兄弟［けいてい］墻［かき］にせめぐ。『語源』もとは『詩経』の中の“兄弟阋于墙，外御 yù 其侮 wǔ ”（兄弟は内輪げんかをするけれども，よそから攻めてこられたときは共同して当たる）という言葉から。

yǐbiàn【以便】〔接続詞〕…するために。…するように。▼後の文の冒頭に用い，それ以下で述べる目的が容易に実現できるようにということを表す。¶你先把材料准备好，～大家开会研究／みんなで会を持って検討できるように，君はまず資料を整えなさい。

zhǐyào【只要】〔接続詞〕（必要条件を表す）…さえすれば。…さえあれば。

bùguǎn【不管】〔接続詞〕…をしようと。…であろうと。▼“多（么），怎么，谁，什么”などと併用し，後の文の“总，都，也”などと呼応させる。いかなる条件でも結論にかわりがないことを表す。

chóu【仇（雠）】恨み。遺恨。¶有冤yuān报冤，有～报～／冤罪のあるものは冤罪をそそぎ，遺恨のあるものは遺恨を晴らす。

sùyuàn【宿怨】〈書〉宿怨［しゅくえん］。年来の恨み。前々からの恨み。

tiānliáng【天良】（生まれつきの）良心。¶丧尽 sàngjìn ～／良心をすっかり失う。

〔蓝衣社〕蒋介石独裁を擁護する国民党軍人の国家主義的組織の呼称。1932年3月，黄埔軍官学校出身軍人を中心に三民主義力行社が南京で成立し，蒋介石が社長，賀衷寒，劉健群などが幹事となり，各省市・軍隊に秘密組織を設け，さらに外郭団体として革命青年同志会，中華復興社などを組織した。その目的は，蒋介石を唯一の領袖として全党・全国が団結し，民族復興を実現することであり，反共擁蒋の国家主義的主張の宣伝，反蒋諸党派の監視，日本

軍の対華北工作妨害，対日諜報などの活動を行ない，党の擁蒋派閥CC系とは対立した。“藍衣社”は，力行社を中核とするこれらの擁蒋軍人組織のファシスト的性格を批判する呼称であり，正式名称ではない。抗日戦争開始後の 1938 年，力行社，復興社は解散したが，そのメンバーは三民主義青年団の掌握に努め，また戴笠の握る特務部門は”軍統”として肥大化した。(『岩波現代中国事典』)

〔番〕えびす。未開の蕃族の称。四川・甘粛・雲南・貴州等に住む種族など。転じて，外域から輸入した物に冠する語。(諸橋轍次『大漢和辞典・修訂版』)

〔東北人民革命軍〕1931 年九一八事変后，中国共产党号召人民武装抗日，东北各地纷纷组织抗口武装。其中接受中国共产党领导的部分抗日义勇军，在东北人民支持下艰苦斗争，队伍日益壮大。1933 年后中共满洲省委同各种反日部队建立统一战线，成立了**东北人民革命军**、抗日同盟军、反日联合军等。1936 年 2 月统一改编为东北抗日联军，组成十一个军。同年 6 月，又将抗日联军第一、第二军编为第一路军，杨靖宇任总指挥兼政委。1937 年 11 月将第四、第五、第七、第八、第十军编为第二路军，周保中任总指挥兼政委。1939 年 5 月，将第三、第六、第九、第十一军编为第三路军，李兆麟任总指挥，冯仲云任政委。在极其困难的条件下始终坚持斗争，直至抗口战争胜利。(『辞海・歴史分冊（中国現代史)』,「東北抗日聯軍」の項目)

yǒu【有】兼語文を作る。“有”の後の名詞が後の動詞の主語となる。
¶屋里～人说话／部屋の中でだれかの声がする。

*　　*　　*

Jìnniánlái wǒ guójiā wǒ mínzú yǐ chǔ zài qiān jūn yí fà de shēngsǐ guāntóu. Kàng-Rì zé shēng, bú kàng-Rì zé sǐ, Kàng-Rì jiùguó, yǐ chéngwéi měi ge tóngbāo de

shénshèng tiānzhí! …

Dào xiànzài: wǒ tóngbāo kàng-Rì jiùguó shìyè zhī suǒyǐ hái wèi dédào yīng yǒu shènglì de yuányīn, yì fāngmiàn shì yóuyú Rì-kòu Jiǎng-zéi de nèiwài jiāgōng, lìng fāngmiàn shì yóuyú gè zhǒng kàng-Rì fǎn-Jiǎng shìlì hùxiāng zhījiān, cúnzài yǒu gè zhǒng géhé hé wùhuì, yǐzhì wèinéng tuánjié yízhì.

Yīncǐ, dāngjīn wǒ wángguó mièzhǒng dàhuò pò zài méijié zhī shí, Gòngchǎndǎng hé Sūwéi'āi Zhèngfǔ zài yícì xiàng quántǐ tóngbāo hūyù: wúlùn gè dǎngpài jiān zài guòqù hé xiànzài yǒu rènhé zhèngjiàn hé lìhài de bùtóng, wúlùn gèjiè tóngbāo jiān yǒu rènhé yìjiàn shàng huò lìyì shàng de chāyì, wúlùn gè jūnduì jiān guòqù hé xiànzài yǒu rènhé díduì xíngdòng, dàjiā dōu yīngdāng yǒu "xiōngdì xì qiáng wàiyù qí wǔ" de zhēn-chéng juéwù, shǒuxiān dàjiā dōu yīngdāng tíngzhǐ nèizhàn, yǐbiàn jízhōng yíqiè guólì (rénlì、wùlì、cáilì、wǔlì děng) qù wèi kàng-Rì jiùguó de shénshèng shìyè ér fèndòu. Sūwéi'āi Zhèngfǔ he Gòngchǎndǎng tè zài yícì zhèngzhòng xuānyán: zhǐyào Guómíndǎng jūn-duì tíngzhǐ jìngōng Sūqū xíngdòng, zhǐyào rènhé bùduì shíxíng duì-Rì kàngzhàn, bùguǎn guòqù hé xiàn-zài tāmen yǔ Hóngjūn zhījiān yǒu rènhé jiù chóu sùyuàn, bùguǎn tāmen yǔ Hóngjūn zhījiān zài duìnèi wèntí shàng yǒu rènhé fēnqí, Hóngjūn bùjǐn lìkè duì zhī tíngzhǐ díduì xíngwéi, érqiě yuànyi yǔ zhī qīnmì xiéshǒu gòngtóng jiùguó. Cǐwài, Sūwéi'āi Zhèngfǔ hé gòngchǎndǎng xiànzài gèng jìn yí bù de kěnqiè hào-zhào:

Yíqiè bú yuàn dāng wángguónú de tóngbāomen!

Yíqiè yǒu àiguó tiānliáng de jūnguān hé shìbīng xiōngdìmen !

Yíqiè yuànyì cānjiā kàng-Rì jiùguó shénshèng shì-yè de dǎngpài hé tuántǐ de tóngzhìmen !

Guómíndǎng hé Lányīshè zhōng yíqiè yǒu mínzú yìshí de rèxuè qīngniánmen !

Yíqiè guānxīn zǔguó de qiáobāomen !

Zhōngguó jìngnèi yíqiè bèi yāpò mínzú (Méng、Huí、Hán、Zàng、Miáo、Yáo、Lí、Fān děng) de xiōngdìmen !

Dàjiā qǐlái ! Chōngpò Rì-kòu Jiǎng-zéi de wàn chóng yāpò, yǒnggǎn de:

Yǔ Sūwéi'āi Zhèngfǔ hé Dōngběi gè dì kàng-Rì zhèngfǔ yìqǐ zǔzhī quán Zhōngguó tǒngyī de guófáng zhèngfǔ; yǔ Hóngjūn hé Dōngběi Rénmín Gémìngjūn jí gè zhǒng fǎn-Rì yìyǒngjūn yíkuài zǔzhī quán Zhōngguó tǒngyī de kàng-Rì liánjūn. …

Wèide shǐ guófáng zhèngfǔ zhēn néng dāndāng qǐ guófáng zhòngrèn, wèide shǐ kàng-Rì liánjūn zhēn néng dānfù qǐ kàng-Rì zhòngzé, Gòngchǎndǎng hé Sūwéi'āi Zhèngfǔ hàozhào quántǐ tóngbāo: yǒu qián de chū qián, yǒu qiāng de chū qiāng, yǒu liáng de chū liáng, yǒu lì de chū lì, yǒu zhuānmén jìnéng de gòngxiàn zhuān-mén jìnéng, yǐbiàn wǒ quántǐ tóngbāo zǒngdòngyuán, bìng yòng yíqiè xīn-jiùshì wǔqì, wǔzhuāng qǐ qiānbǎi-wàn mínzhòng lái. Gòngchǎndǎng hé Sūwéi'āi Zhèngfǔ jiānjué xiāngxìn: rúguǒ wǒmen sì wànwàn tóngbāo yǒu tǒngyī de guófáng zhèngfǔ zuò lǐngdǎo, yǒu tǒngyī de kàng-Rì liánjūn zuò xiānfēng, yǒu qiānbǎiwàn wǔ-zhuāng mínzhòng zuò zhànbèi, yǒu wúshùwàn dōngfāng de hé quán shìjiè de wúchǎn jiējí hé mínzhòng zuò

shēngyuán, yídìng néng zhànshèng nèi shòu rénmín fǎnkàng hé wàishòu lièqiáng díshì de Rìběn dìguó zhǔyì !

*　　*　　*

近年来①わが民族は既に②生死の関頭に立つてゐる，抗日ならば生き不抗日ならば死し，抗日救国は既に各同胞の神聖なる天職となつてゐる，…

現在において，わが民族の救国抗日事業がまさに得べき勝利を未だ獲得せざる原因は，1つには日寇と蒋賊の内外からの夾攻，1つには各種抗日反蒋勢力間の隔離と誤解に基く不一致，不団結のためである，**ここにおいて中国ソヴィエト政府と共産党は抗日共同戦線を結成すべき必要が目捷の間に迫つてゐることを強調し再び全国同胞に対して呼びかける次第である…**

各党派が過去において，また現在において，政見並に利害が不同であるにせよ，③各軍隊が過去および現在において敵対行動を執つてゐるにせよ，均しくすべての人は「兄弟牆に鬩げども外の侮りを防ぐ」といふ眞の自覚が必要である，**先づ一切の内戦を停止し，対立を超越して凡ゆる国力**（人力，物力，財力，武力等）**を集中し以て抗日救国の神聖なる事業のために戦はねばならぬ，**

中国ソヴィエト政府と共産党はもう一度④宣言する…

国民党の軍隊はソヴィエト区域攻撃の行動を即時停止し何れの部隊も対日戦争準備を遂行**せねばならぬ**，紅軍は過去と現在彼等と紅軍の間に介在せる如何なる旧仇宿怨にもこだわらず，且つ彼等と紅軍の間に介在する内政問題上の凡ゆる紛争にもこだわることなく直ちにこれらの**対立を克服し**，彼等と親密なる提携の下に共同救国を希望するものである。

中国ソヴィエト政府と共産党は更に一歩を進めて懇切なる呼

びかけをなすであらう。

一切の亡国奴たることを願はざる同胞たちよ。

一切の愛国的良心的な軍官，士兵たちよ，兄弟たちよ。

一切の抗日救国の神聖事業への参加を希望する諸党派並に各団体の同志たちよ。

一切の国民党，藍衣社内の民族意識ある熱血な青年たちよ。

一切の祖国に関心を待つ同胞たちよ。

一切の中国国内被圧迫民族（漢，韓，蒙，蔵，猺，苗，果，黎，番等）の兄弟たちよ。

ともに起ち上つて，日寇および蒋賊の⑤圧迫を勇敢に突き破り，中国ソヴィエト政府と東北各地の抗日政権を単一的全国的国防政府に組織し，紅軍と東北人民革命軍および各地反日義勇軍を単一的全国的抗日義勇軍に組織しやうではないか。

ソヴィエト政府と共産党は，国防政府をして眞に国防責任を負はしめるため，抗日聯合をして眞に抗日責任を負はしめるため全国同胞に呼びかける——銃あるものは銃を出し，糧あるものは糧を出し，力あるものは力を出せと，専門技能あるものはその技能を貢献し，全体同胞を総動員し，⑥あらゆる新旧武器を以て幾百幾千万の民衆を武装せしめよと。

中国ソヴィエト政府と共産党は固く信ずる。

若し4億5000万同胞に統一ある国防政府の指導があるならば，単一的抗日聯軍が先駆となるならば，幾百幾千万の武装民衆を整へるならば，数知れね東方および全世界無産階級，被圧迫民族の声援があるならば，内からは日本労働者農民の反抗があり外からは列強の敵視する日本帝国主義に必すや打ち勝ち得るであらう。

*①～⑥は編者が付した。

◇波多野乾一編『資料集成・中国共産党史』第5巻，時事通信社，1961年，714-720頁。

①「わが国家」
②「危機一髪の」
◆「ここにおいて中国ソヴィエト政府と共産党は抗日共同戦線を結成すべき必要が目捷の間に迫つてゐることを強調し再び全国同胞に対して呼びかける次第である…」⇨「これによって，現在わが亡国・滅種・大禍が目前に差し迫っている時，共産党とソビエト政府は，今一度，全同胞に向けて呼びかける：」
③「各界同胞の間にいかなる意見・利益の違いがあったとしても」
◆「先づ一切の内戦を停止し，対立を超越して凡ゆる国力を集中し以て抗日救国の神聖なる事業のために戦はねばならぬ」⇨「すべての国力を集中して抗日救国の神聖な事業のために奮闘できるように，まず第1にすべてのものは内戦を停止しなければならない。」または「まずすべてのものが内戦を停止する必要がある。そうしてこそ，すべての国力を集中して抗日救国の神聖な事業のために奮闘できるのである。」
④「鄭重に」
◆「せねばならぬ」⇨「しさえすれば」
◆「対立を克服し」⇨「敵対行動を停止し」
◆「同胞」⇨「僑胞」
◆「漢，韓，蒙，蔵，猺，苗，果，黎，番」⇨「蒙，回，韓，蔵，苗，瑤，黎，番」

※『中国共産党史資料集』第7巻所収のテキスト（「為抗日救国告全体同胞書」と題するパンフレットの邦訳）は「蒙，回，朝鮮，チベット，苗，猺，黎，番」としている（524頁）。

⑤「万重の」
◆「貢献し」⇨「貢献することによって」
⑥「さらに」
◆「労働者農民」⇨「人民」

【「瑶」と「猺」】
諸橋轍次『大漢和辞典』によると，「猺」は，(1) 獣の名，(2) 蛮族の名(両広・湖南・雲南の地方に住む)；一方「瑶」は，(1) 美しい玉，(2) たま(物に冠してほめたたえるに用いる) で，「瑶」を民族名とする用例はない。「瑶族」は，中華人民共和国成立後に実施された民族識別工作において，1954年までに少数民族として確認された38民族の1つである（梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社，1995年，「中国民族識別工作」の項目)。

【コミンテルン】
〔共产国际，Gòngchǎn Guójì〕ロシア革命を背景として 1919 年 3 月にモスクワで結成された共産主義政党の世界組織（1943 年 5 月解散)。コミンテルンは共産主義インターナショナルの異称で，マルクス=レーニン主義を標榜する「単一の世界政党」であると自己規定していた。各国の共産党は支部と位置づけられ，コミンテルン執行委員会の決議に無条件で従うことが要求された。ソ連共産党は組織的にはコミンテルンの 1 支部にすぎなかったが，ソ連という国家を背景にコミンテルンに対して圧倒的な影響力を有していた。このため国家としてのソ連の外交方針とコミンテルンそれ自体の戦略を明確に区別することは不可能であり，後者が前者に引きずられるという事態を引き起こした。結成直後の中国共産党は，植民地・従属国におけるプロレタリアートと民族革命的なブルジョアジーの提携というコミンテルンの主張を具体化して国共合作方針を採用し国民革命を提起した。国民革命からソビエト革命への転換はソ連党の内部対立の影響を受けて曲折を経ざるをえなかった。28 年にモスクワで開催された中共 6 全大会が行った中国革命の特質と基本方針に関する規定は，49 年の国家権力奪取にいたる同党の政治闘争を方向づけた。20 年代末から 30 年代前半期にかけての中共の左傾路線と中国政治における孤立化は一国社会主義をとるソ連の国益優先およびコミンテルンの左傾化に起因するものであった(31-4 年コミンテルンの中共に対する指示は中共駐コミンテルン代表団長王明を介して行われた)。**35年コミンテルン第7回大会が採択した人民戦線戦術に基づいて発表された八一宣言は，国共の再合作というかたちで中共に政治的再生をもたらした。**さらに各国党の状況に配慮しつつ個々の組織問題には関与しないという大会決議は，新民主主義革命論の提起と中共

党内における毛沢東の指導権確立を可能にした。Comintern; Communist International　(『岩波現代中国事典』)

【中共中央文件選集】について

中央檔案館編，中共中央党校出版社，18冊，1989-1992年。中共中央の批准に基づき中央檔案館が編集（中共中央文献研究室が審査）した中華人民共和国建国以前の中共中央の文献集。各種の版本を収集してそれらを検討し，最良の版本を底本とした。毛沢東・周恩来・劉少奇・朱徳らの著作は各人の選集に収録されているため，目次に掲げるが本文は収録していない（「編輯説明」)。各巻の内容は以下の通り。第1冊（1921-1925年，676頁)，第2冊（1926年，687頁)，第3冊（1927年，640頁)，第4冊（1928年，763頁)，第5冊（1929年，835頁)，第6冊（1930年，660頁)，第7冊（1931年，827頁)，第8冊（1932年，650頁)，第9冊（1933年，662頁)，第10冊（1934-1935年，806頁)，第11冊（1936-1938年，890頁)，第12冊（1939-1940年，683頁)，第13冊（1941-1942年，559頁)，第14冊（1943-1944年，649頁)，第15冊（1945年，607頁)，第16冊（1946-1947年，801頁)，第17冊（1948年，709頁)，第18冊（1949年1-9月，868頁)。

【資料集成・中国共産党史】について

波多野乾一編，時事通信社，7巻，1961年（1932-8年に外務省情報部が執務参考資料として省内発行したものの再刊)。「記述に当っては主観を交えず，客観的に，資料本位に編集した。後年になって役に立つのは資料であって，議論ではないと信じたからである」（第1巻「序」)。各巻の内容は以下の通り。第1巻（1920-1931年，694頁)，第2巻（1932年，348頁)，第3巻（1933年，937頁)，第4巻（1934年，978頁)，第5巻（1935年，766頁)，第6巻（1936年，766頁)，第7巻（1937年，1090頁)。

1928

16　南京国民政府の成立

中国国民党によって指導・監督を受けた国民政府は，26年7月，北伐戦争に着手してより，同年10月には長江流域にまですすんだ。この段階で，武漢への遷都問題がおこったが（10月広州聯席会議），3月には武漢に中国国民党中央執行委員と国民政府委員からなる臨時聯席会議が設置され，27年1月1日より武漢に遷都することとなった。武漢国民政府の成立である。ところが蔣介石はこの遷都に反対し，27年1月3日以降，南昌に在って武漢の中央党政聯席会議に対抗するにいたった。さらに，3月に開催された国民党第2期3中全会で，蔣介石はその行動を批判されたが，4月3日の上海でのクーデタを経て，同月18日，南京に国民政府を設け，胡漢民を主席とした。ここに「寧漢対立」状態が出現した。これより先，26年4月国民党から除名されていた「西山会議派」は，勢力は大きくなかったが上海に独自に「国民党中央党部」を組織しており，国民党という政治組織は事実上，3分裂状態にあった。

武漢の国民党および国民政府は，汪精衛のもとにあって，7月15日，「分共」政策をもって国共合作を破棄し，9月20日，上記国民党3派は国民党中央特別委員会において合流し，国民政府委員を選出するにいたった。その後，28年2月7日の国民党第2期4中全会ではあらためて国民政府委員を改選し，譚廷闓を国民政府主席にするとともに，一時下野していた蔣介石を軍事委員会主席に任じた。そのもとで，

いわゆる「第 2 次北伐」が行なわれ，同年 6 月，張作霖を北平から追い全国統一へと歩をすすめた。

ここで，「軍政期」が終了したとされ，国民政府委員胡漢民は，パリから譚延闓主席宛に「訓政大綱草案」を送付し，「党を以て政を統べ，党を以て政を訓じ，五権制度を以て訓政とする」ことを主張したとされる。同年8月14日，国民党第2期5中全会は「国民政府建国大綱」にもとづき，「五院」の設置と軍政軍令の統一などを決議し，さらに10月3日，中央執行委員会第172次常務委員会は，「中国国民党訓政綱領」を採択し（翌29年3月19日，第3次全国代表大会はこれを追認した），同時に国民党の中央政治会議は「国民政府組織法（7章48条）」を採択し，10月8日，第173次中央常務委員会は国民政府主席に蒋中正（介石），行政院長に譚延闓，立法院長に胡漢民，司法院長に王寵恵，考試院長に戴伝賢（季陶），監察院長に蔡元培を推薦した。

ところで，8 月 15 日の 5 中全会宣言では「訓政開始」が提議され，その会議で蒋介石は「党を以て国を治めるにあたり，政府と行政人員は断じて党から離れて独立することはできぬ」と述べていた。10 月の訓政綱領説明書には「党を以て国を建てるとは，本党が民衆のために政権を奪取し，民国一切の規模を創立することであり，党を以て国を治めるとは，本党がこの規模を以て訓政の効能を策し，人民自身が確実に政権を運用しうるようにすることである」と説明されていた。

訓政綱領の規定は，孫中山のいう「政権」（Right of Control）と「治権」（Right of Function）の区別（有権者としての人民と，人民のために幸福をはかる有能者としての政府，つまり「権」と「能」の区分でもある）にもとづき，政権は本来「国民」にあるが，訓政期はそれを「国民党全国代表大会—国民

党中央執行委員会」に付託し代行させることを意味していた。治権についても，国民政府は全面的に国民党中央執行委員会政治会議から指導監督を受けることになる。この中央政治会議は，28年10月25日の「中央政治会議暫行条例（13カ条）」によって，訓政期における全国の最高指導機関とされ，国民党中央執行委員会に責任を負うこととなった。ただし，政治会議の議決事項は，直接国民政府に提議し執行させるものとされた。こうした政治体制は，中華民国政治史における「訓政国家」の成立とすることができる。（西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』研文出版，1991年，93-96頁）

◇訓政綱領◇

中國國民黨實施三民主義，依照建國大綱在訓政時期訓練國民使用政權，至憲政開始，弼成全民政治，制定左之綱領：

一　中華民國於訓政期間，由中國國民黨全國代表大會代表國民大會領導國民，行使政權。

二　中國國民黨全國代表大會閉會時，以政權付託中國國民黨中央執行委員會執行之。

三　依照總理建國大綱所定選舉、罷免、創制、複決四種政權，應訓練國民逐漸推行，以立憲政之基礎。

四　治權之行政、立法、司法、考試、監察五項付託於國民政府，總會而執行之，以立憲政時期民選政府之基礎。

五　指導監督國民政府重大國務之施行，由中國國[民]黨中央執行委員會政治會議行之。

六　中華民國國民政府組織法之修正及解釋，由中國國民黨中央執行委員會政治會議議決行之。

*［　］は編者が補った。

◇《訓政綱領(民國十七年十月三日中央常務會議通過)》(《革命文献》第22輯、316-317頁，《上海中央日报》民國17年10月4日)。
◆《中华民国档案资料从书:综合类》(《中华民国史档案文献光盘库》F-1b)。

◇国民政府組織法◇

中國國民黨本革命之三民主義、五權憲法，建設中華民國；既用兵力掃除障礙，由

軍政時期入於訓政時期，允宜建立五權之規模，訓練人民行使政權之能力，以期促進憲政，奉政權於國民。茲謹本歷史上所授予本黨指導監督政府之職責，制定國民政府組織法，頒布之如左。

第一章　國民政府

第一條　國民政府總攬中華民國之治權。

第二條　國民政府統率陸海空軍。

第五條　國民政府以行政院、立法院、司法院、考試院、監察院五院組織之。

第六條　國民政府設主席委員一人，委員十二人至十六人。

第七條　國民政府五院院長、副院長，由國民政府委員任之。

第十一條　國民政府以國務會議處理國務。

國務會議由國民政府委員組織之，國民政府主席爲國務會議之主席。

第十三條　公布法律，發布命令，經國

務會議議決，由國民政府主席及五院院長署名行之。

第二章　行政院

第十五條　行政院爲國民政府最高行政機關。

第十七條　行政院設各部，分掌行政之職權。

關於特定之行政事宜，得設委員會掌理之。

第三章　立法院

第二十五條　立法院爲國民政府最高立法機關。

立法院有議決法律案、預算案、大赦案、宣戰案、媾和案、條約案及其他重要國際事項之職權。

第四章　司法院

第三十三條　司法院爲國民政府最高司法機關，掌理司法審判、司法行政、官吏懲戒及行政審判之職權。

關於特赦、減刑及復權事項，由司法院院長提請國民政府核准施行。

第五章　考試院

第三十七條　考試院爲國民政府最高考試機關，掌理考選、銓叙事宜，所有公務員均須依法律經考試院考選、銓叙方得任用。

第六章　監察院

第四十一條　監察院爲國民政府最高監察機關，依法律行使左列職權：

一　彈劾；

二　審計。

◇《中華民國國民政府組織法（中華民國十七年十月三日中央政治會議通

過）》（《革命文獻》第 22 輯，318-323 頁，《国民政府公报》第 99 輯，民國 17 年 10 月）。
◆《中华民国档案资料从书：综合类》（《中华民国史档案文献光盘庫》F-1b）。

〔三民主義〕⇨**20** 事項解説「三民主義」
〔建國大綱〕⇨**17**
〔訓政〕〔憲政〕⇨**17** 事項解説「政治体制としての“訓政”システム」
bì【弼】〈書〉補佐する。
〔政權〕選舉・罷免・創制（イニシアティブ）・複決（レフェレンダム）の 4 権を言う。
〔總理〕孫文を指す。
〔治權〕行政・立法・司法・考試・監察の 5 権を言う。
〔總會〕北京大学法律系憲法教研室・資料室編『憲法資料選編』第 2 輯（北京大学出版社，1982 年）所収のテキストでは「總會」の部分を「总揽」としている（304 頁）。一方，『中華民国史檔案文献光盤庫』（F-1b）が収録している『国民党政府政治制度檔案史料選編』（上）は「总会」である（590 頁）。
〔五權憲法〕孫文は，将来の中華民国の政治制度は，欧米の行政・立法・司法のいわゆる 3 権分立に，中国的形式からする考選（官吏採用試験）・監察（官吏の裁判）の 2 権を加えたもの，すなわち 5 権分立を原則とするものとした。「五権憲法」（1921 年）のテキスト上の問題については，中華書局版『孫中山全集』第 5 巻の 486 頁を参照。
jì【既】〔接続詞〕（＝既然 jìrán ）
jìrán【既然】〔接続詞〕…したからには。…である以上。『語法』複文の先行する文に用い，すでに実現したかもしくは確実となった前提を述べ，後続する文で前提にもとづく結論を出す。多く，“就，也，还”などと呼応する。
yǔn【允】許す。認める。承知する。承諾する。
yí【宜】…すべきだ。

fèng【奉】(上役や目上の人に) 差し上げる。献上する。¶～上新书一册 cè ／新刊書を1冊差し上げる。

shòuyǔ【授予】(勲章・賞状・肩書き・称号などを) 授ける,授与する。¶～他们“爱民模范 mófàn 连”的称号／彼らに「愛民模範中隊」の称号を授ける。

bānbù【颁布】(法令・条例などを) 発布する,公布する。▼日本語の「頒布」は“分发”に相当する。¶～宪法xiànfǎ／憲法を発布する。

*　*　*

(1) Xùnzhèng Gānglǐng

Zhōngguó Guómíndǎng shíshī Sānmín Zhǔyì, yīzhào Jiànguó Dàgāng zài Xùnzhèng shíqī xùnliàn guómín shǐyòng zhèngquán, zhì Xiànzhèng kāishǐ bì chéng quánmín zhèngzhì, zhìdìng zuǒ zhī gānglǐng:

1. Zhōnghuá Mínguó yú Xùnzhèng qījiān, yóu Zhōngguó Guómíndǎng Quánguó Dàibiǎodàhuì dàibiǎo guómín dàhuì lǐngdǎo guómín, xíngshǐ zhèngquán.

2. Zhōngguó Guómíndǎng Quánguó Dàibiǎodàhuì bì·huì shí, yǐ zhèngquán fùtuō Zhōngguó Guómíndǎng Zhōngyāng Zhíxíng Wěiyuánhuì zhíxíng zhī.

3. Yīzhào Zǒnglǐ Jiànguó Dàgāng suǒ dìng xuǎnjǔ、bàmiǎn、chuàngzhì、fùjué sì zhǒng zhèngquán, yīng xùnliàn guómín zhújiàn tuīxíng, yǐ lì Xiànzhèng zhī jīchǔ.

4. Zhìquán zhī xíngzhèng、lìfǎ、sīfǎ、kǎoshì、jiānchá wǔ xiàng fùtuō yú Guómín Zhèngfǔ, zǒnghuì ér zhíxíng zhī, yǐ lì Xiànzhèng shíqī mínxuǎn zhèngfǔ zhī jīchǔ.

5. Zhǐdǎo jiāndū Guómín Zhèngfǔ zhòngdà guówù zhī shīxíng, yóu Zhōngguó Guómíndǎng Zhōngyāng Zhíxíng

Wěiyuánhuì Zhèngzhì Huìyì xíng zhī.

6. Zhōnghuá Mínguó Guómín Zhèngfǔ Zǔzhīfǎ zhī xiūzhèng jí jiěshì, yóu Zhōngguó Guómíndǎng Zhōngyāng Zhíxíng Wěiyuánhuì Zhèngzhì Huìyì yìjué xíng zhī.

(2) Guómín Zhèngfǔ Zǔzhīfǎ

Zhōngguó Guómíndǎng běn gémìng zhī Sānmín Zhǔyì、Wǔquán Xiànfǎ, jiànshè Zhōnghuá Mínguó; jì yòng bīnglì sǎochú zhàng'ài, yóu Jūnzhèng shíqī rù yú Xùnzhèng shíqī, yǔn yí jiànlì Wǔquán zhī guīmó, xùnliàn rénmín xíngshǐ zhèngquán zhī nénglì, yǐ qī cùjìn Xiànzhèng, fèng zhèngquán yú guómín. Zī jǐn běn lìshǐ shàng suǒ shòuyú běndǎng zhǐdǎo jiāndū zhèngfǔ zhī zhízé, zhìdìng Guómín Zhèngfǔ Zǔzhīfǎ, bānbù zhī rú zuǒ.

Dì yī zhāng: Guómín Zhèngfǔ

Dì yī tiáo: Guómín Zhèngfǔ zǒnglǎn Zhōnghuá Mínguó zhī zhìquán.

Dì èr tiáo: Guómín Zhèngfǔ tǒngshuài lù·hǎi·kōng jūn.

Dì wǔ tiáo: Guómín Zhèngfǔ yǐ Xíngzhèngyuàn、Lìfǎyuàn、Sīfǎyuàn、Kǎoshìyuàn、Jiāncháyuàn wǔ-yuàn zǔzhī zhī.

Dì liù tiáo: Guómín Zhèngfǔ shè zhǔxí wěiyuán yī rén, wěiyuán shí'èr rén zhì shíliù rén.

Dì qī tiáo: Guómín Zhèngfǔ wǔyuàn yuànzhǎng、fùyuànzhǎng, yóu Guómín Zhèngfǔ wěiyuán rèn zhī.

Dì shíyī tiáo: Guómín Zhèngfǔ yǐ Guówù Huìyì chǔlǐ guówù.

Guówù Huìyì yóu Guómín Zhèngfǔ wěiyuán zǔzhī zhī,

Guómín Zhèngfǔ zhǔxí wéi Guówù Huìyì zhī zhǔxí.

Dì shísān tiáo: Gōngbù fǎlǜ, fābù mìnglìng, jīng Guówù Huìyì yìjué, yóu Guómín Zhèngfǔ Zhǔxí jí wǔyuàn yuànzhǎng shǔmíng xíng zhī.

*　*　*

訓政綱領

1，中華民国は訓政期間においては中国国民党全国代表大会が国民大会を代表し国民を指導して政権を行使する。

2，中国国民党全国代表大会閉会の時は政権を中国国民党中央執行委員会に付託してこれを執行させる。

3，総理の建国大綱の定めるところにより，選挙，罷免，創制，複決の 4 種の政権は国民を訓練して逐次推行し，以て憲政の基礎を立てなければならない。

4，治権の行政，立法，司法，考試，監察の 5 項は国民政府に付託してこれを総攬執行させ，以て憲政時期における民選政府の基礎を立てる。

5，国民政府の重大な国務の施行に対する指導監督は中国国民党中央執行委員会政治会議がこれを行う。

6，中華民国国民政府組織法の修正及び解釈は中国国民党中央執行委員会政治会議が議決してこれを行う。

◇石川忠雄『中国憲法史』慶応通信，1952 年，31 頁。

◆中国国民党は三民主義を実施し，建国大綱をよりどころとして訓政時期には国民が政権を用いることを訓練し，憲政開始に至って全民政治を補佐するため，左記の綱領を制定する。

国民政府組織法

中国国民党は，革命の三民主義と五権憲法にもとづき中華民国を建設する。兵力を用いて障碍を除去すれば，軍政時期から訓政時期に入り，5権の機構（規模）を樹立して人民が政権を行使する能力を訓練することを認め，以て憲政を促進して政権を国民に返還することを期すべきである。政府を指導・監督するという歴史上本党に授けられた職責にもとづき，ここに謹んで左記の国民政府組織法を制定し，これを公布する。

第1章　国民政府

第1条　国民政府は中華民国の治権を総覧する。

第2条　国民政府は陸海空軍を統率する。

第5条　国民政府は行政院・立法院・司法院・考試院・監察院の5院を以てこれを組織する。

第6条　国民政府に主席委員1人と委員12～15人を置く。

第7条　国民政府の5院院長と副院長は国民政府委員が之に任ぜられる。

第11条　国民政府は国務会議を以て国務を処理する。

国務会議は国民政府委員がこれを組織し，国民政府主席が国務会議主席となる。

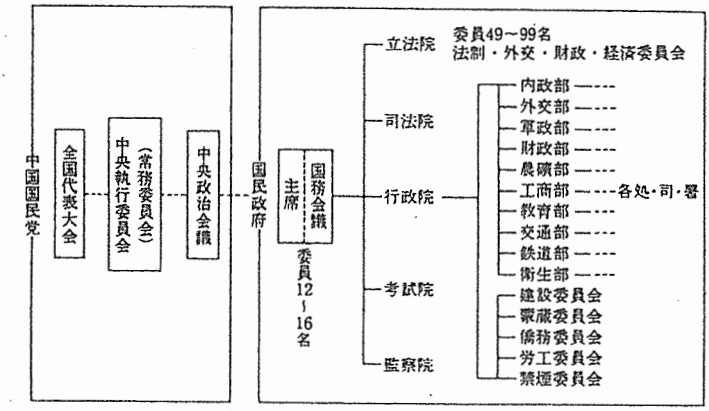
第13条　法律の公布と命令の発布は，国務会議の議決を経，国民政府主席及び5院院長の署名によって之を行う。

【革命文献】について

中国国民党中央委員会党史委員会編。国民革命における重要文献を掲載する資料集として1953年5月に創刊。第41輯（67年12月）以降，中心的テーマについての体系的かつ総合的な資料集となった。89年6月までに117輯を出版。第41輯～第117輯の内容は以下のとおり。41（民国初年之国民党史料）；42-3（宋教仁被刺及袁世凱違法大借款史料）；44（二次革命史料）；45（中華革命党史料）；46-7（討袁史料）；48（中華革命党時期

函牘）；49（護法與軍政府資料）；50（護法戦役及南北義和史料）；51（重建護法政府史料）；52（重建広州革命基地史料）；53-7（抗戦前之教育）；58-61（抗戦時期之教育）；62-3（抗戦時期之青年活動）；64（興中会革命史料）；65-6（中国同盟会史料）；67（十次起義史料）；68（新生活運動史料）；69（中国国民党宣言集）；70（中国国民党党章政綱集）；71-75（抗戦前国家建設史料：内政・外交・財政・貨幣金融・実業）；76-7（中国国民党歴次全国代表大会重要決議案彙集）；78（抗戦前国家建設史料：交通建設）；79-80（中国国民党歴屆歴次中全海重要決議案彙編）；81-3（抗戦前国家建設史料：水利建設）；84-7（抗戦前国家建設史料：合作運動）；88-90（抗戦前国家建設史料：西北建設）；91-3（抗戦前国家建設史料：首都建設）；94-5（西安事変史料）；96-101（抗戦建国史料：社会建設）；102-105（抗戦建国史料：農林建設）；106-7（盧溝橋事変史料）；108-9（日軍在華暴行：南京大虐殺）；110-3（抗戦建国史料：糧政方面）；114-7（抗戦建国史料：田賦徴実）。また**テキストとして用いた「訓政綱領」「国民政府組織法」は，「国民政府成立前後之政治建制史料」（20，22-5）として収録されている。**

【国民党と「五院政府」の関係】



出所）「訓政綱領」、「中華民国国民政府組織法」、「中央政治会議暫行条例」より作成。

*金子肇「上海資本家階級と国民党統治」『史学研究』第 176 号，1987 年，30 頁。

1924

17 「国民政府」による国家建設

ロシア革命，五・四運動は，孫文に大きな転機を与えた。19 年中華革命を大衆政党としての中国国民党に改組，また 21 年末コミンテルン代表マーリンの訪問を受け，23 年 1 月にはソビエト代表ヨッフェとの間で共同宣言を発表し協力を約束するに至った。**この動きは共産党との連携，国共合作を生み出し，24年1月には“連ソ，容共，扶助工農”の3大政策を掲げ，反帝国主義を明確にした国民党改組（国民党第一回党大会）が行なわれるに至った。**この転換は 20 年代初めの国際，国内状況の中で孫文の革命運動に質的な発展をもたらした。それまで広州に政府を樹立しつつも，なお軍閥勢力に依存していたために，彼らに利用され，裏切られるという経験を余儀なくされていた孫文は，この時期，ようやく自らの政権と武力をもち始めたといえる。24 年，北京を支配した馮玉祥が和平統一のための国民会議を呼びかけたのに応じて北上，神戸で有名な「大アジア主義」の講演を行なった後，北京に入ったが，ついに病いに倒れ，同地で死去した。

〈革命いまだ成らず〉〈世界でわれわれを平等に遇する民族と連合してともに奮闘せよ〉という彼の国民党への遺嘱は，様々な意味合いで中国革命を推し進めるための象徴的なアピールとして受け継がれた。

孫文は近代西洋を深く研究，理解する一方，20 世紀中国の革命家としてきわめて現実的な革命，建国プランを提示した。彼は建国に当って立法，司法，行政のほかに考試，監察

を合わせた五権憲法を構想し，また**革命の過程として軍政の次に，国民党が民衆を教育，指導する訓政，そして憲政という3段階を設定する「建国大綱」を示した。**晩年の3大政策の採用もまた当時の状況の中での後進国の変革の道の模索ともいえる。やがて政権を掌握した国民党が孫文と三民主義を党是としたのはもちろんのこと，共産党も孫文の革命的生涯を高く評価し，歴史に占める位置はきわめて大きい。（『岩波現代中国事典』「孫文」の項目）

一　国民政府本革命之三民主义、五权宪法，以建设中华民国。

五　建设之程序分为三期：一曰军政时期；二曰训政时期；三曰宪政时期。

六　在军政时期，一切制度悉隶于军政之下。政府一面用兵力以扫除国内之障碍，一面宣传主义以开化全国之人心，而促进国家之统一。

七　凡一省完全底定之日，则为训政开始之时，而军政停止之日。

八　在训政时期，政府当派曾经训练考试合格之员，到各县协助人民筹备自治。其程度以全县人口调查清楚，全县土地测量完竣，

全县警卫办理妥善，四境纵横之道路修筑成功，而其人民曾受四权使用之训练，而完毕其国民之义务，誓行革命之主义者，得选举县官以执行一县之政事，得选举议员以议立一县之法律，始成为一完全自治之县。

九　一完全自治之县，其国民有直接选举官员之权，有直接罢免官员之权，有直接创制法律之权，有直接复决法律之权。

十四　每县地方自治政府成立之后，得选国民代表一员，以组织代表会，参预中央政事。

十六　凡一省全数之县皆达完全自治者，则为宪政开始时期。国民代表会得选举省长，为本省自治之监督；至于该省内之国家行政，则省长受中央之指挥。

十七　在此时期，中央与省之权限采均权制度。凡事务有全国一致之性质者，划归中央；有因地制宜之性质者，划归地方。不偏于中央集权或地方分权。

十八　县为自治之单位，省立于中央与县之间，以收联络之效。

十九　在宪政开始时期，中央政府当完成设立五院，以试行五权之治。其序列如下：曰行政院；曰立法院；曰司法院；曰考试院；曰监察院。

二十二　宪法草案当本于建国大纲及训政、宪政两时期之成绩，由立法院议订，随时宣传于民众，以备到时采择施行。

二十三　全国有过半数省份达至宪政开始时期，即全省之地方自治完全成立时期，则开国民大会，决定宪法而颁布之。

二十四　宪法颁布之后，中央统治权则归于国民大会行使之，即国民大会对于中央政府官员有选举权、有罢免权，对于中央法律有创制权、有复决权。

二十五　宪法颁布之日，即为宪政告成之时，而全国国民则依宪法行全国大选举。国民政府则于选举完毕之后三个月解职。而

授政于民选之政府，是为建国之大功告成。

◇《国民政府建国大纲（一九二四年一月二十三日）》（《孙中山全集》第9巻）。

chéngxù【程序】順序。次第。手順。手続き。¶工作～／仕事の手順。

xī【悉】すべて。全部。

fán【凡】およそ。一般に。おしなべて。

dìng【定】"定"が動詞の結果補語になるとき。固定して動かないことを表す。¶坐～／しっかり腰を下ろす。¶站～／両足を踏みしめて立つ。

dāng【当】当然…すべきである。¶～说则 zé 说／言うべきことは言う。

wánjùn【完竣】（多くは工事が）完成する，終わる，でき上がる。¶修建工程～／土木工事が竣工[しゅんこう]する。建築が終わる。

jǐngwèi【警卫】(1) 警備する。護衛する。(2) 警備に当たる人。護衛。ボディーガード。

tuǒshàn【妥善】妥当である。適切である。穏当である。¶～处理／適切に処理する。

xiūzhù【修筑】（土木工事をして）築造する。¶～码头 mǎtou ／波止場を築造する。

wánbì【完毕】終わる。完了する。済ませる。¶一切准备～／準備万端整った。

huàguī【划归】編入する。合併する。¶这个县已经～另一个省了／その県はすでに他の省に合併された。

yīndì zhì yí【因地制宜】〈成〉その土地の事情に適した措置をとる。

dìng【订】（条約・契約などを）取り決める，締結する，結ぶ。（計画などを）立案する，立てる。（規則などを）定める。

gàochéng【告成】完成を告げる。¶大功～／大きな仕事が完成する。

*　　*　　*

1. Guómín Zhèngfǔ běn gémìng zhī Sānmín Zhǔyì、Wǔquán Xiànfǎ, yǐ jiànshè Zhōnghuà Mínguó.

5. Jiànshè zhī chéngxù fēn wéi sānqī: yī yuē Jūnzhèng shíqī; èr yuē Xùnzhèng shíqī; sān yuē Xiànzhèng shíqī.

6. Zài Jūnzhèng shíqī, yíqiè zhìdù xī lì yú Jūnzhèng zhīxià. Zhèngfǔ yímiàn yòng bīnglì yǐ sǎochú guónèi zhī zhàng'ài, yímiàn xuānchuán zhǔyì yǐ kāihuà quánguó zhī rénxīn, ér cùjìn guójiā zhī tǒngyī.

7. Fán yī shěng wánquán dǐ dìng zhī rì, zé wéi Xùnzhèng kāishǐ zhī shí, ér Jūnzhèng tíngzhǐ zhī rì.

8. Zài Xùnzhèng shíqī, zhèngfǔ dāng pài céngjīng xùnliàn kǎoshì hégé zhī yuán, dào gè xiàn xiézhù rénmín chóubèi zìzhì. Qí chéngdù yǐ quán xiàn rénkǒu diàochá qīngchu, quán xiàn tǔdì cèliáng wánjùn, quán xiàn jǐngwèi bànlǐ tuǒshàn, sìjìng zònghéng zhī dàolù xiūzhù chénggōng, ér qí rénmín céng shòu Sì-Quán shǐyòng zhī xùnliàn, ér wánbì qí guómín zhī yìwù, shì xíng gémìng zhī zhǔyì zhě, dé xuǎnjǔ xiànguān yǐ zhíxíng yí xiàn zhī zhèngshì, dé xuǎnjǔ yìyuán yǐ yì lì yí xiàn zhī fǎlǜ, shǐ chéngwéi yī wánquán zìzhì zhī xiàn.

9. Yī wánquán zìzhì zhī xiàn, qí guómín yǒu zhíjiē xuǎnjǔ guānyuán zhī quán, yǒu zhíjiē bàmiǎn guānyuán zhī quán, yǒu zhíjiē chuàngzhì fǎlǜ zhī quán, yǒu zhíjiē fùjué fǎlǜ zhī quán.

14. Měi xiàn dìfāng zìzhì zhèngfǔ chénglì zhīhòu, dé xuǎn guómín dàibiǎo yī yuán, yǐ zǔzhī dàibiǎohuì, cānyù zhōngyāng zhèngshì.

16. Fán yī shěng quánshù zhī xiàn jiē dá wánquán

zìzhì zhě, zé wéi Xiànzhèng kāishǐ shíqī. Guómín dàibiǎohuì dé xuǎnjǔ shěngzhǎng, wéi běn shěng zìzhì zhī jiāndū; zhìyú gāi shěng nèi zhī guójiā xíngzhèng, zé shěngzhǎng shòu zhōngyāng zhī zhǐhuī.

17. Zài cǐ shíqī, zhōngyāng yǔ shěng zhī quánxiàn cǎi jūnquán zhìdù. Fán shìwù yǒu quánguó yízhì zhī xìngzhì zhě, huàguī zhōngyāng; yǒu yīn dì zhì yí zhī xìngzhì zhě, huàguī dìfāng. Bù piān yú zhōngyāng jíquán huò dìfāng fēnquán.

18. Xiàn wéi zìzhì zhī dānwèi, shěng lì yú zhōngyāng yǔ xiàn zhījiān, yǐ shōu liánluò zhī xiào.

19. Zài Xiànzhèng kāishǐ shíqī, zhōngyāng zhèngfǔ dāng wánchéng shèlì Wǔ-Yuàn, yǐ shìxíng Wǔ-Quán zhī zhì. Qí xùliè rúxià: yuē Xíngzhèngyuàn; yuē Lìfǎyuàn; yuē Sīfǎyuàn; yuē Kǎoshìyuàn; yuē Jiānchá-yuàn.

22. Xiànfǎ cǎo'àn dāng běn yú Jiànguó Dàgāng jí Xùnzhèng、Xiànzhèng liǎng shíqī zhī chéngjì, yóu Lìfǎyuàn yì dìng, suíshí xuānchuán yú mínzhòng, yǐ bèi dào shí cǎizé shīxíng.

23. Quánguó yǒu guò bànshù shěngfèn dá zhì Xiànzhèng kāishǐ shíqī, jí quán shěng zhī dìfāng zìzhì wánquán chénglì shíqī, zé kāi guómín dàhuì, juédìng xiànfǎ ér bānbù zhī.

24. Xiànfǎ bānbù zhī hòu, zhōngyāng tǒngzhìquán zé guīyú guómín dàhuì xíngshǐ zhī, jí guómín dàhuì duìyú zhōngyāng zhèngfǔ guānyuán yǒu xuǎnjǔquán、yǒu bàmiǎnquán, duìyú zhōngyāng fǎlǜ yǒu chuàngzhìquán、yǒu fùjuéquán.

25. Xiànfǎ bānbù zhī rì, jí wéi Xiànzhèng gàochéng

zhī shí, ér quánguó guómín zé yī xiànfǎ xíng quánguó dà xuǎnjǔ. Guómín Zhèngfǔ zé yú xuǎnjǔ wánbì zhīhòu sān ge yuè jiě zhí. Ér shòu zhèng yú mínxuǎn zhī zhèng-fǔ, shì wéi jiànguó zhī dàgōng gàochéng.

*　　*　　*

(1) 国民政府は革命の三民主義・五権憲法に本づき，以て中華民国を建設する。

(5) 建設の程序は分つに 3 期とする。1 を軍政時期といひ，2 を訓政時期といひ，3 を憲政時期といふ。

(6) 軍政時期に在つては，一切の制度は悉く軍政の下に隷し，政府は一面兵力を用ゐて以て国内の障礙を掃除し，一面主義を宣伝して以て全国の人心を開化し，国家の統一を促進する。

(7) およそ 1 省が完全に底定する日は，則ち訓政開始の時，軍政停止の日とする。

(8) 訓政時期に在つては，政府は訓練考試を経て合格せる員を派して各県に到らしめ，人民を協助して自治を籌備せしめる。その程度，全県の人口調査清楚に，全県の土地測量完竣し，全県の警備弁理妥善に，四境縦横の道路修築成功し，その人民曾つて 4 権使用の訓練を受け，その国民の義務を完畢し，革命の主義を誓行するものは，県官を選挙して 1 県の政事を執行し，議員を選挙して以て 1 県の法律を議立することを得，はじめて完全自治の県とする。

(9) 1 完全なる自治県では，その国民は直接官員を選挙する権を有し，直接官員を罷免する権を有し，直接法律を創制する権を有し，直接複決する権を有する。

(14) 毎県地方自治政府成立の後，国民代表1員を選挙し，以て代表会を組織し，中央の政事に参与させることが出来る。

(16) およそ1省全数の県が皆完全なる自治に達したものは，則ち憲政開始の時期とし，国民代表会は省長を選挙して本省自治の監督とすることが出来る。該省内の国家行政に至つては，則ち省長は中央の指揮を受ける。

(17) この時期に在つては，中央と省との権限は均権制度を採る。およそ事務の全国一致の性質あるものは中央に画帰し，地に因り宜しきを制する性質あるものは地方に画帰し，中央集権或ひは地方分権に偏せざらしめる。

(18) 県は自治の単位であり，省は中央と県との間に立ち，以て聯絡の効を収める。

(19) 憲政開始の時期に在つて，中央政府はまさに五院の設立を完成し，以て5権の治を試行すべきである。その序列は下のごとくである。行政院・立法院・司法院・考試院・監察院。

(22) 憲法草案は建国大綱，及び訓政・憲政両時期の成績に本づき，立法院より議訂し，随時民衆に宣伝し，以て時に到り採択施行するに備ふべきである。

(23) 全国過半数の省が憲政開始時期，即ち全国の地方自治完全成立時期に達すれば，則ち国民大会を開き，憲法を決定してこれを頒布すべきである。

(24) 憲法頒布の後，中央の統治権は国民大会に帰してこれを行使する。即ち国民大会は中央政府の官員に対し選挙権あり，罷免権あり，中央の法律に対し創制権あり，複決権がある。

(25) 憲法頒布の日は即ち憲政告成の時で，全国国民は憲法に依つて全国大選挙を行ひ，国民政府は選挙完畢後3ケ月にし

て解職し，政を民選の政府に授ける。これを建国の大功告成とする。

◇波多野乾一『中国国民党史』大東出版社，1943年，284-286頁。

【政治体制としての「訓政」システム】

①政治体制としての「訓政システム」とは，国民政府という国家の統治形態・統治過程レベルに属するもので，国民党の統治原理としての「訓政論」にその基礎をもつ。②すでに早く孫中山『中国同盟会革命方略』(1906年)において，革命の過程は「軍法の治」「約法の治」「憲法の治」という3段階に区分され，軍法期は3年，約法期は6年と予定されていた（⇨**20**）。その後，1914年7月8日の中華革命党総章第4条では，「軍政・訓政・憲政」の3時期を想定し，19年10月10日の中国国民党規約第1条には，「共和を鞏固にし三民主権の実行を宗旨とする」とのみあるだけであったが，翌20年11月9日の修正中国国民党総章第3条で「軍政・憲政」の2期に分け，軍政期に「訓政」を含ませていた。そして，**24年4月12日の『建国大綱』において，「国民政府は革命の三民主義，五権憲法にもとづき，中華民国を建設する」（第1項）こととし，その建設過程を軍政・訓政・憲政の3期とし（第5項），第6項以下第25項まで具体的政策内容を指示した。③軍政期は，革命政府が武力で国内の障碍を一掃しつつ主義を宣伝することによって，全国の人心を開化し国家の統一を促進する段階である。訓政期は，1省が完全に統治されたときから開始され，地方自治や資源の開発という政治経済建設にあてられる。憲政期は，県レベルの完全自治が完成してより実現されるもので，全国の半数の省が憲政を実施する段階で，国民大会を開催し憲法を公布し，民選の政府を組織することになる。**④そして，この革命の全過程を担う主体は，中国国民党にあることが証明される。すなわち孫中山は，「以党建国・以党治国」論を展開した1921年3月6日の「三民主義之具体弁法」と題する講演で，英米における先例として「以党治国」＝政党政治による「治国」を説き，その広州における適用，さらには全国への波及を強調した。いうまでもなく，この場合の「党」とは革命政党としての「国民党」であり，政治的「主義」をもつて結合した組織

であった。これは国民党による「政党国家」（サルトーリ）構想としての特徴をもったものといえよう。⑤広州の第3次広東軍政府（大元帥府）が「国民政府」に改組されたのは，孫文死後 4 カ月を経，広東の諸軍閥（陳炯明，楊希閔，劉震寰ら）の鎮圧（6 月 3 日）後の 25 年 7 月 2 日のことであった。国民政府組織法第 1 条は「国民政府は中国国民党の指導および監督を受け，全国政務を掌理する」とあり，中国国民党の指導下に「全国政権」をめざす権力として組織された。これは，それまでの護法闘争とは異なる革命戦略であり，中華民国臨時約法の「法統」護持の枠組を超えた新たな段階を切り拓きつつあった。というのも，すでに 24 年 1 月 20 日孫中山は，中国国民党第 1 次全国代表大会で，「国民政府を組織する案に関する説明」を行ない，国民政帝を樹立して北方軍閥とは異なる政権の確立と，それによる「革命」を主張していたからである。（西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』研文出版，1991 年，91-93 頁）

【孫中山全集】について

中山大学歴史系孫中山研究室・広東省社会科学院歴史研究所・中国社会科学院近代史研究所民国史研究室編，中華書局，11 巻，1981-1986 年。孫文の著作のほか，彼の署名した領収書・題詞まで網羅的に収録する。各巻の内容は以下のとおり。第 1 巻(1890-1911)，第 2 巻（1912)，第 3 巻(1913-1916)，第 4 巻（1917-1918)，第 5 巻(1919.1-1921.11)，第 6 巻(1921.12-1922.12)，第 7 巻（1923.1-1923.6)，第 8 巻(1923.7-1923.12)，第 9 巻(1924.1-1924.3)，第 10 巻(1924.4-1924.8)，第 11 巻(1924.9-1925.3)。

1915

18　伝統的秩序への挑戦

陳独秀は，1915年に始まる新文化運動のオピニオンリーダーであり，中国共産党の創設者でもある。『新青年』（創刊当初は『青年雑誌』）は，陳独秀によって創刊され，新文化運動の機関紙的役割を果たした雑誌である。その創刊号の巻頭を飾ったのが「敬告青年」であった。

新文化運動の特徴は，儒教的伝統文化に対する徹底的攻撃である。そして，伝統思想攻撃の武器として用いられたのがさまざまな欧米思想であった。それは，プラグマティズムであったり，イプセンであったりしたが，陳独秀の場合，人権論・進化論・社会主義などであった。「敬告青年」に2分法的に対照して記されているうちの肯定すべき自主的・進歩的・進取的・世界的・実利的・科学的を体現するのが欧米であり，否定すべき奴隷的・保守的・退嬰的・鎖国的・空想的を体現しているのが中国伝統思想である。

陳独秀は儒教的伝統文化を批判するために，多くの知識人を『新青年』誌上に動員した。西欧自由主義思想に拠って伝統的家族倫理とその根底にある儒教思想を激しく批判した呉虞も陳によって発掘されたし，魯迅の「狂人日記」も陳の熱心な勧めによって書かれたと言う。

さまざまな主張を陳は「民主と科学」というスローガンにまとめあげた。「この両先生を認識すれば，政治・道徳・学術・思想上の一切の暗黒から中国を救うことができる」と彼は断言した。この「民主と科学」が，「五四」70 周年の 1989

年の民主化運動のスローガンとして再び立ち現われた。さらに方励之や金観涛（『中国社会の超安定システム』），あるいは『河殤』の世界などに顕著に見られる，西欧に拠って中国を徹底的に批判する手法また然り，青年と知識人を対象とし，「科学は生産力であり，それを推進している知識分子は労働階級の中の最も先進的成分である」（方励之）といったエリート主義，これらから新文化運動と近年の民主化運動とのいちじるしい相似形を見いだすことができよう。

陳独秀はこの後，1917 年に蔡元培の招きで北京大学文科学長（文学部長）に就任し，やがて中国共産党の創立に参加する。一方，陳の故郷安徽省の科学技術大学副学長の職にあった方励之は，対照的に八六学潮（1986 年末の学生らによる民主化運動）で責任を問われてその職を追われ，また共産党を除名された。その間には 70 年の歴史が存在していた。

なお，新文化運動の基調はこのように，西洋による東洋批判，近代思想による伝統思想批判にあったが，同時に伝統思想，とくに儒教を現代に生きる哲学たらしめようとする梁漱溟・馮友蘭らの流れがあったことも，また今日の「儒教ルネッサンス」状況に通ずるものがあるのかも知れない。（六四中国近現代研究者有志連絡会編『中国―民主と自由の軌跡』青木書店，1989 年，140-142 頁）

竊以少年老成。中國稱人之語也。年長而勿衰(Keep young while growing old)。英美人相勖之辭也。此亦東西民族涉想不同現象趨異之一端歟。青年如初春。如朝日。如百卉之

萌動。如利刃之新發於硎。人生最可寶貴之時期也。青年之於社會。猶新鮮活潑細胞之在人身。新陳代謝。陳腐朽敗者無時不在天然淘汰之途。與新鮮活潑者以空間之位置及時間之生命。人身遵新陳代謝之道則健康。陳腐朽敗之細胞充塞*人身則人身死。社會遵新陳代謝之道則隆盛。陳腐朽敗之分子充塞社會則社會亡。準斯以談。吾國之社會。其隆盛耶。抑將亡耶。非予之所忍言者。彼陳腐朽敗之分子。一聽其天然之淘汰。惟不願以如流之歲月。與之說短道長。希冀其脫胎換骨也。予所欲涕泣陳詞者。惟屬望於新鮮活潑之青年。有以自覺而奮鬥耳。自覺者何。自覺其新鮮活潑之價值與責任。而自視不可卑也。奮鬥者何。奮其智能。力排陳腐朽敗者以去。視之若仇敵。若洪水猛獸。而不可與爲鄰。而不爲其菌毒所傳染也。嗚呼吾國之青年。其果能語於此乎。吾見夫青年其年齡。而老年其身體者十之五焉。青年其年齡或身體。而老年其腦神經者十之九焉。

華其髮。澤其容。直其腰。廣其膈。非不儼然青年也。及叩其頭腦中所涉想所懷抱。無一不與彼陳腐朽敗者爲一丘之貉。其始也未常不新鮮活潑。寖假而爲陳腐朽敗分子所同化者有之。寖假而畏陳腐朽敗分子勢力之龐大。瞻顧依回。不敢明目張膽。作頑狠之抗鬥者有之。充塞社會之空氣。無往而非陳腐朽敗焉。求些少之新鮮活潑者。以慰吾人窒息之絕望。亦杳不可得。循斯現象。於人身則必死。於社會則必亡。欲救此病。非太息咨嗟之所能濟。是在一二敏於自覺勇於奮鬥之青年。發揮人間固有之智能。決擇人間種種之思想。孰爲新鮮活潑。而適於今世之爭存。孰爲陳腐朽敗。而不容留置於腦裏。利刃斷鐵。快刀理麻。決不作牽就依違之想。自度度人。社會庶幾其有清寧之日也。青年乎。其有以此自任者乎。若夫明其是非。以供決擇。謹陳六義。幸平心察之。

（一）自主的而非奴隸的

（二）進步的而非保守的

（三）進取的而非退隱的

（四）世界的而非鎖國的
（五）實利的而非虛文的
（六）科學的而非想像的

＊ 原文で傍点を付している部分をゴチック体とした。
＊「**細胞充塞**」：原文は「**充塞細胞**」。『陳独秀選集』（天津人民出版社，1990年，10頁）によって訂正した。

◇陳獨秀《敬告青年》（《青年雜誌》第1巻第1号，民國4年9月15日）。
◆《新青年》（《中国革命史档案文献光盘库》B-1）。

qiè【竊[窃]】〈書〉自分（の）。自分（の意見）を謙遜していう語。¶～以为 yǐwéi 不可／いけないと愚考する。

yě【也】…だ。…のだ。▼文や節の最後につけて判断や解釈を表す。

xù【勖】〈書〉励ます。

〔涉想〕念及；想象。（『漢語大詞典ver.1.0』）

yú【歟[欤]】〔助詞〕か。かな。▼疑問を表す。使い方は“乎”にほぼ同じ。

huì【卉】草の総称。▼観賞用の草花をさすことが多い。¶花～／花卉[かき]。草花。

méngdòng【萌动】(1)（植物が）芽を吹く。(2)（物事が）始まる，動き出す。

lìrèn【利刃】よく切れる刃物。利刀。

xíng【硎】〈書〉(1) 砥石[といし]。(2) 研ぐ。

yóu【猶[犹]】〈書〉…のようである。…と同じ。

〔新陈代谢〕新陳代謝〈成〉。古いものが次第に去って，新しいものがこれに変わること。（『日中大辞典』）

zhě【者】〈書〉…というものは。…とは。…は。▼語・連語・句などの後につけて，それを主題として強調する。

yé【耶】〈書〉〔助詞〕（＝呢 ne，吗 ma）疑問を表す。¶是～非 fēi ～?／是か非か。

yì【抑】〔接続詞〕〈書〉それとも。▼選択を表す。

fēi【非】…ではない。…にあらず。▼書き言葉の中で，一定の形式で用いる。“非……所……”の形。¶这个问题～我们所能解决的／この問題はわれわれが解決できるようなものではない。

yú【予】〈書〉（＝我 wǒ ）余。われ。

wéi【惟】〈書〉ひとり。ただ。ひたすら。だけ。のみ。

〔说长道短〕あれこれと批評する。（『中日大辞典』）

xījì【希冀】〈書〉こいねがう。望む。

tuō tāi huàn gǔ【脱胎换骨】〈成〉心を入れ替えて真人間に生まれ変わる。また，徹底的に立場と観点を変える。⇨本是道教修炼者的说法，他们认为修道者得道，就脱凡胎而成圣胎，换凡骨而为仙骨。（『漢語成語詞典・修訂本』）

tìqì【涕泣】〈書〉悲しくて涙をこぼす。

chéncí【陈词】【陈辞】自分の言い分を述べる。

zhǔwàng【属望】嘱望する。期待をかける。

ěr【耳】〈書〉だけ。のみ。

zìshì【自视】自分を見る。自己評価をする。

〔卑〕卑しむ，へりくだる。（『中日大辞典』）

hóng shuǐ měng shòu【洪水猛兽】〈成〉甚だしい災禍のたとえ。

wūhū【呜呼】〔感嘆詞〕〈書〉ああ。

hū【乎】〔助詞〕〈書〉疑問を表す。▼口語の“吗 ma ”に同じ。

fú【夫】〈書〉〔指示代詞〕(1) あの。その。この。(2)〔代詞〕彼。あの人。

yān【焉】〈書〉現代語の“呢”に同じ。確認の語気を表す。

nǎoshénjīng【脑神经】〈生理〉脳神経。

huá【华】はでやか（である）。華やか（である）。ぜいたく（である）。

zé【泽[泽]】湿っている。潤いがある。

gé【膈】〈生理〉横隔（膜）。

〔儼然[俨然]〕きちんと整っているさま。（『中日大辞典』）

kòu【叩】〈書〉（＝询问 xúnwèn ）尋ねる。問い合わせる。

wú yī bù……【无一不……】一つとして…ないものはない。すべて…である。

yī qiū zhī hé【一丘之貉】〈成〉同じ穴のムジナ。

〔寖〕jìn⇨〔浸〕だんだんと，徐々に。(『中日大辞典』)

〔假〕にせる（て），偽る（って）。(『中日大辞典』)

wéi【为】〔介詞〕〈書〉（＝被 bèi）れる。られる。…される。▼“为”＋名詞＋“所”＋動詞の形で用いる。

zhāngù【瞻顾】〈書〉前を見たり後ろを見たりする。優柔不断である。

míng mù zhāng dǎn【明目張膽[明目张胆]】〈成〉公然と。おおっぴらに。なにはばかるところなく。▼大それた事をすることについていう。

wúrén【吾人】〈書〉（＝我们 wǒmen）吾人。われわれ。

yǎo【杳】〈書〉影も見えないほど遠いさま。¶～无音信／杳[よう]として音信がない。

sī【斯】〈書〉（＝此 cǐ，这 zhè，这个 zhège，这里 zhèli）この。これ。ここ。

tàixī【太息】〈書〉長いため息をつく。嘆息（する）。

〔咨嗟〕ああ。〔咨〕は嘆息の声。(『中日大辞典』)

shì【是】〈書〉これ。ここ。¶～晩／この日。

shú【孰】〔疑問代詞〕〈書〉(1)（＝谁 shuí）だれ。だれか。(2)（＝哪个 nǎge）（選択を表す）いずれ。どちら。(3)（＝什么 shénme）なに。

kuàidāo zhǎn luànmá【快刀斩乱麻】〈喩〉快刀乱麻を断つ。もつれた物事をてきぱきとさばく。複雑な事柄を手際よく明快に処理する。

qiānjiù【牽就】⇨【迁就】（折れ合う。譲る。譲歩する。妥協する。）

yīwéi【依违】〈書〉（承知するか否かで）躊躇[ちゅうちょ]する，ぐずぐずする。¶～不决／ためらって決心がつかない。

duó【度】〈書〉推測する。推し量る。¶以己～人／自分の考えで人を推し量る。

shùjī【庶幾[庶几]】〈書〉（＝庶几乎 shùjīhū）…かも知れない。ど

うにか…できる。

hū【乎】〔感嘆詞〕〈書〉感嘆を表す。▼口語の“啊”に同じ。

ruòfú【若夫】〔助詞〕〈書〉もしそれ。『語法』何かを説き起こす場合や,話題を改める場合に,文頭に置く。

xìng【幸】〈書〉願う。希望する。

*　*　*

Qiè yǐ shàonián lǎochéng. Zhōngguó chēng rén zhī yǔ yě. Nián zhǎng ér wù shuāi. Yīng-Měirén xiāng xù zhī cí yě. Cǐ yì dōngxī mínzú shè xiǎng bù tóng xiànxiàng qū yì zhī yìduān yú. Qīngnián rú chūchūn. Rú zhāorì. Rú bǎi huì zhī méngdòng. Rú lìrèn zhī xīn fā yú xíng. Rénshēng zuì kě bǎoguì zhī shíqī yě. Qīngnián zhī yú shèhuì. Yóu xīnxiān huópō xìbāo zhī zài rénshēn. Xīn chén dài xiè. Chénfǔ xiǔ bài zhě wú shí bú zài tiānrán táotài zhī tú. Yǔ xīnxiān huópō zhě yǐ kōngjiān zhī wèizhì jí shíjiān zhī shēngmìng. Rénshēn zūn xīn chén dài xiè zhī dào zé jiànkāng. Chénfǔ xiǔ bài zhī xìbāo chōngsè rénshēn zé rénshēn sǐ. Shèhuì zūn xīn chén dài xiè zhī dào zé lóngshèng. Chénfǔ xiǔ bài zhī fènzǐ chōngsè shèhuì zé shèhuì wáng. Zhǔn sī yǐ tán. Wú guó zhī shèhuì. Qí lóngshèng yé. Yì jīang wáng yé. Fēi yú zhī suǒ rěn yán zhě. Bǐ chénfǔ xiǔ bài zhī fènzǐ. Yì tīng qí tiānrán zhī táotài. Wéi bú yuàn yǐ rú liú zhī suìyuè. Yǔ zhī shuō duǎn dào cháng. Xījì qí tuō tāi huàn gǔ yě. Yú suǒ yù tìqì chéncí zhě. Wéi zhǔwàng yú xīnxiān huópō zhī qīngnián. Yǒu yǐ zìjué ér fèndòu ěr. Zìjué zhě hé. Zìjué qí xīnxiān huópō zhī jiàzhí yǔ zérèn. Ér zìshì bùkě bēi yě. Fèndòu zhě hé. Fèn

qí zhìnéng. Lì pái chénfǔ xiǔ bài zhě yǐ qù. Shì zhī ruò chóudí. Ruò hóng shuǐ měng shòu. Ér bùkě yǔ wéi lín. Ér bù wéi qí jùndú suǒ chuánrǎn yě. Wūhū wú guó zhī qīngnián. Qí guǒ néng yǔ yú cǐ hū. Wú jiàn fú qīngnián qí niánlíng. Ér lǎonián qí shēntǐ zhě shí zhī wǔ yān. Qīngnián qí niánlíng huò shēntǐ. Ér lǎonián qí nǎoshénjīng zhě shí zhī jiǔ yān. Huá qí fà. Zé qí róng. Zhí qí yāo. Guǎng qí gé. Fēi bù yǎnrán qīngnián yě. Jí kòu qí tóunǎo zhōng suǒ shè xiǎng suǒ huáibào. Wú yī bù yǔ bǐ chénfǔ xiǔ bài zhě wéi yì qiū zhī hé. Qí shǐ yě wèi cháng bù xīnxiān huópō. Jìn jiǎ ér wéi chénfǔ xiǔ bài fènzǐ suǒ tónghuà zhě yǒu zhī. Jìn jiǎ ér wèi chénfǔ xiǔ bài fènzǐ shìlì zhī pángdà. Zhāngù yī huí. Bùgǎn míng mù zhāng dǎn. Zuò wán hěn zhī kàng dòu zhě yǒu zhī. Chōngsè shèhuì zhī kōngqì. Wú wǎng ér fēi chénfǔ xiǔ bài yān. Qiú xiē shǎo zhī xīnxiān huópō zhě. Yǐ wèi wúrén zhìxī zhī juéwàng. Yì yǎo bùkě dé. Xún sī xiànxiàng. Yú rénshēn zé bì sǐ. Yú shèhuì zé bì wáng. Yù jiù cǐ bìng. Fēi tàixī zījiē zhī suǒ néng jì. Shì zài yī èr mǐn yú zìjué yǒng yú fèndòu zhī qīngnián. Fāhuī rénjiān gù yǒu zhī zhìnéng. Juézé rénjiān zhǒngzhǒng zhī sīxiǎng. Shú wéi xīnxiān huópō. Ér shì yú jīnshì zhī zhēngcún. Shú wéi chénfǔ xiǔ bài. Ér bù róng liúzhì yú nǎo lǐ. Lìrèn duàn tiě. Kuàidāo lǐ má. Jué bù zuò qiānjiù yī wéi zhī xiǎng. Zì duó duó rén. Shèhuì shùjī qí yǒu qīngníng zhī rì yě. Qīngnián hū. Qí yǒu yǐ cǐ zì rèn zhě hū. Ruòfú míng qí shìfēi. Yǐ gōng jué zé. Jǐn chén liù yì. Xìng píng xīn chá zhī.

＊　＊　＊

思うに「若年にして老成す」とは中国で人をたたえる言葉であり，「年老ゆるも衰うるなかれ」とは英米人の励ましの言葉であるが，これもまた東西民族の発想の相違，現象の懸隔の一端であろうか。青年は早春のごとく，朝日のごとく，萌え出づる青草のごとく，砥ぎあげた利刃のごとく，人生の最も貴重なる時期である。社会における青年は，人体における新鮮活発なる細胞のごときものである。新と旧は代謝する，陳腐老朽なるものはすべて刻々自然陶汰の道を歩んで，新鮮活発なるものに空間的地位と時間的生命を譲るのである。人体がこの新陳代謝の道に従えば健康であり，陳腐老朽の細胞が充満すれば人は死ぬ。社会が新陳代謝の道に従えば隆盛となり，陳腐老朽の分子が充満すれば社会は滅びる。

然りとすれば，わが国の社会はいま隆盛におもむこうとしているのだろうか，はたまた滅びようとしているのだろうか。私はとうてい口にするにしのびない。かの陳腐老朽の分子は，自然陶汰〔の説〕を聞いたにしても，決して流れてやまぬ歳月を前提としてその是非を論じようとはせず，それならば〔道教の教える〕不死の仙骨に変わろうというふうにしか考えぬ。私がいま涙とともに述べようとするものは，ただ新鮮活発なる青年が，自覚して奮闘することへの嘱望のみである。

自覚とはなにか。みずからの新鮮活発なることの価値と責任を自覚し，みずから卑下しないことだ。奮闘とはなにか。みずからの良知良能を奮い，陳腐老朽なるものを仇敵，洪水猛獣と見なしてこれを排除し，断じて居をともにすることなく，その病菌をうつされぬことだ。

ああ，はたしてわが国の青年は，このことを呼びかけるに足りるだろうか。私の見るところ，10 人のうち 5 人は，年齢は青年でも肉体は老人だ。10 人のうち 9 人は，年齢あるいは肉体は青年でも脳髄は老人だ。髪はゆたかで顔はつややかだ，腰は直く胸は広い，このまぎれもない青年が，脳中に発想し抱懐するものといえば，ひとつとしてかの陳腐老朽せるものと同類でないものはない。はじめは新鮮活発でなかったわけではない。だが，しだいに陳腐老朽の分子に同化されたものもあれば，しだいに陳腐老朽分子の勢力の強大さに恐れをなして右顧左眄するうちに，堂々として頑強なる闘争をあえてしなくなったものもある。社会に充満する空気は，至るところみな陳腐老朽せぬものはなく，いささかの新鮮活発を求めてわが窒息の絶望を慰めようと欲しても，杳として得る術がないからである。

このありさまでは，それが人体ならば死ぬしかない。それが社会ならば滅びるほかはない。この病弊を救うには嘆息するだけではどうにもならぬ。明敏に自覚し勇敢に奮闘する一二の青年が，人間固有の良知良能を発揮し，世界のあらゆる思想を吟味選択し——いずれが新鮮活発で現代の生存競争に適するか，いずれが陳腐老朽して脳裏から棄て去るべきか——利刃鉄を断ち，快刀乱麻を断つごとく，優柔不断の能度を棄ててみずから救い人をも救ってこそ，社会に清寧の日の来たらんことを望みうるのだ。青年よ，この任を諸君は負うか。

ここにその是非を明らかにして諸君の吟味選択に供せんがために，6 カ条の原則を述べさせていただきたい。願わくは冷静なる考察を加えられんことを。

◇西順蔵編『原典中国近代思想史』第 4 冊，岩波書店，1977 年，102-104 頁（丸山松幸訳）。

【その後の陳独秀】

①パリ講和会議で帝国主義列強は中国の民族自決の要求を踏みにじった。この現実を通して啓蒙思想の限界を知り，マルクス主義者となっていった。1919年の五四運動では街頭でビラを配布して逮捕され，北京大学を辞して上海に逃れた。20年12月～21年10月，広東省省長・陳炯明の招聘で広州に赴き，広東全省教育委員会委員長に就任譚平山らと広東の共産党を組織した。その後，全国各地の共産主義者グループを統合して，上海で21年7月に中国共産党を創設し，初代の総書記となった。労働運動の組織化に着手して独自の革命運動の展開を目指したが，孫文の中国国民党と提携することを要求するコミンテルンに屈して，国共合作による国民革命を指導した。中国は半植民地，半封建社会であると規定し，反帝国主義と反軍閥の民族民主革命を推進した。この民族民主革命の実現はブルジョアジーとプロレタリアートが共に求める政治課題であり，国共合作がその両階級の統一戦線であるとされ，その階級調和論を唱えた。先ずブルジョアジーと協力して民主革命を成功させ，その後にプロレタリア革命を実行するという2段階革命論であった。しかし共産党の台頭はブルジョアジーに脅威を与え，階級対立が表面化してきた。そこで孫文死後は共産党の組織的自立を求めたが，コミンテルンの反対にあって成功しなかった。国民革命軍の北伐戦争が勝利するにつれて，共産党の台頭を恐れる蒋介石は急速に反共的色彩を濃くして，遂に27年4月に反共クーデターを敢行し，これによって共産党は大きな打撃を受けた。この国民党とのヘゲモニー争いに敗北した政治的責任は全て陳独秀の日和見主義にあるとされ，27年7月に中国共産党総書記を解任された。②その後，国民革命の敗北はスターリンの責任であると主張するトロツキーに共感し，中国でトロツキズム運動を開始した。中国における封建的要素の残存を強調する民主革命論を批判して，中国ではすでに資本主義が主要な要素となっているとみなし，来る革命はプロレタリア革命であると主張した。しかし革命は退潮期にあるため軍事闘争よりも公開的政治闘争の必要性を求め，ソヴィエト革命を進める共産党と対立した。このため1929年に中国共産党から追放され，トロツキズム運動を組織したが，32年に国民党に逮捕された。柏文蔚など国民党幹部の旧友が援助の手をさしのべ，死刑は免れたが5年間投獄された。③盧溝橋事件で日中戦争が始まると出獄した。トロツキスト組織には合流せず，また共産党復帰問題が発生したが復帰しなかった。組織に属さず独自の立場から抗日戦争論を主張した。共産党の主張と大差なかったが，只一点軍隊の指揮

にかんしては中央集権を要求し，共産党の独自な遊撃戦には批判的であった。1942年5月重慶尾郊外の江津で病死した。④息子の陳延年，喬年も共産党の幹部として活躍したが，共に国民党によって殺された。長く共産党の公式見解では陳独秀は革命の裏切り者として非難されてきたが，最近ではその再評価がなされ始めた。(山田辰雄編『近代中国人名辞典』霞山会，1995年)

【原典中国近代思想史】について

西順蔵編，岩波書店，6冊，1976-1977年。アヘン戦争から中華人民共和国にいたる時期の中国近代思想の諸潮流を「原典」によって再構成したもの。各巻の内容はつぎのとおり。第1冊（アヘン戦争から太平天国まで），第2冊（洋務運動と変法運動），第3冊（辛亥革命），第4冊（五四運動から国民革命まで），第5冊（毛沢東思想の形成と発展），第6冊（国共分裂から解放戦争まで）。

1912

19　中華民国の成立

1911年4月，黄興に率いられた革命派は，広州で武装蜂起（広州起義）を敢行したが，多数の幹部を失うなど手痛い敗北を喫した。

しかし5月，清朝政府は・川漢（成都～広水）鉄道など幹線鉄道の国有化と満族の王公貴族を中心とする親貴内閣の成立を発表した。これは，特に四川省諮議局に基盤を置く立憲派の反発を惹起し，彼らは四川保路同志会を組織する一方，親貴内閣の改組を要求したが，清朝政府は激しい弾圧をもって応えた。しかし，この四川保路運動を導火線として，各地に反清の動きが広がっていった。10月10日，かねて文学社，共進会の影響を受けて革命化していた武昌の新軍兵士が蜂起，翌11日，黎元洪（1864～1928）を都督とする中華民国湖北軍政府の樹立を宣言した。辛亥革命の蜂火である。各省，各都市で次々と「独立」（あるいは「光複」）が宣言された。「独立」した各省軍政府は，11月15日，上海で各省都督府連合会を結成して清朝政府に対抗しようとした。他方，清朝は，11月1日，親貴内閣を廃して袁世凱を総理大臣に抜擢して革命を抑えようとした。袁は，イギリスの支持を得，武力を誇示しつつ，革命派を「南北和議」へと誘導していった。

武昌起義勃発の時，孫文はアメリカに滞在していたが，欧米諸国から革命への支持を取り付けるためにヨーロッパを回って，1911年12月25日，上海に帰着した。帰国後各省代表によって「中華民国臨時大総統」に選出された孫文は，

12年1月1日，南京の江蘇省諮議局で中華民国の建国を宣言した。1月3日，臨時政府が成立したが，実業総長張謇ら立憲派の協力が得られず，財政的基盤が脆弱だった孫文らは，結局袁世凱との妥協に賭けた。皇帝退位を条件として袁に臨時大総統の地位を譲り渡すというものである。2月12日，宣統帝退位が宣言され，ここに268年にわたって続いた大清帝国が滅亡，同時にそれは，秦漢以来2000年余続いてきた君主専制支配の終焉でもあった。

孫文は，参議院に臨時大総統辞職とその職を袁に譲ることを申し出て承認された。南京を首都とすることは袁によって無視された。**3月11日，孫文は臨時約法を公布し，これによって袁を法的に規制しようとした。**4月1日，孫文は正式に辞職，5日，参議院も北京に移転した。（池田誠ほか『図説中国近現代史（新版）』72頁）

第一章　總綱

第一條　中華民國，由中華人民組織之。

第二條　中華民國之主權，屬於國民全體。

第三條　中華民國領土，爲二十二行省，內外蒙古，西藏，青海。

第四條　中華民國以參議院，臨時大總統，國務員，法院，行使其統治權。

第二章　人民

第五條　中華民國人民，一律平等，無種族階級宗教之區別。

第六條　人民得享有左列之自由權：…

第十五條　本章所載人民之權利，有認爲增進公益，維持治安，或非常緊急必要時，得依法律限制之。

第三章　參議院

第十六條　中華民國之立法權，以參議院行之。

第十七條　參議院，以第十八條所定各地方所選派之參議員組織之。

第十八條　參議員，每行省、內蒙古、外蒙古、西藏，

各選派五人，青海選派一人，其選派方法，由各地方自定之。

參議院會議時，每參議員，有一表決權。

第十九條　參議院之職權如左：

一　議決一切法律案。

十一　參議院對於臨時大總統，認爲有

謀叛行爲時，得以總員五分之四以上之出席，出席員四分之三以上之可決彈劾之。

第四章　臨時大總統副總統

第二十九條　臨時大總統副總統，由參議院選舉之，以總員四分之三以上之出席，得票滿投票總數三分之二以上者爲當選。

第三十條　臨時大總統，代表臨時政府，總攬政務，公布法律。

第三十二條　臨時大總統，統率全國海陸軍隊。

第五章　國務員

第四十三條　國務總理及各部總長，均稱爲國務員。

第四十四條　國務員輔佐臨時大總統，負其責任。

第六章　法院

第四十八條　法院以臨時大總統及司法總長分別任命之法官組織之。

法院之編制，及法官之資格，以法律定

之。

第七章　附則

第五十三條　本約法施行後，限十個月內，由臨時大總統召集國會，其國會之組織及選舉法，由參議院定之。

第五十四條　中華民國之憲法，由國會制定，憲法未施行以前，本約法之效力與憲法等。

◇《中華民國臨時約法（中華民國元年三月十一日）》（中國史學會主編《中國近代史資料叢刊・辛亥革命》第 8 册，第 30-36 頁。原載：《臨時政府公報》第 35 號）。
◆《孙中山全集》（第 2 卷，第 219-224 頁。原載：《临时政府公报》第 35 号）。
◆《临时政府公报》（《中华民国史档案文献光盘库》G-1）。

〔行省〕 xíngshěng 中国の行政域。もと〔行中書省〕すなわち，元代に〔中書省〕を政府とし，〔行中書省〕を各地方にもうけ，これを〔～〕，略して〔省〕といった。これが行政区画の意味に使われたもので，明には 15 行省を置き，清には 22 省を置いた。(『中日大辞典』)

dé【得】他の動詞の前に用い，許可を表す。▼主として法令や公文に用いる。否定文に用いることが多い。¶这笔钱非 fēi 经批准不～动用／この金は許可なしに使用することを許さない。

xuánpài【选派】選んで派遣する。

déyǐ【得以】（…によって）…することができる。

tánhé【弹劾】弾劾（する）。¶他因这个事件受到了议会的～／彼はこの事件で議会から弾劾された。

mǎn【满】すべての。全体の。すっかり。まったく（…ない）。¶～身油泥／全身油まみれ。

*　*　*

Dì-yī zhāng: Zǒnggāng

Dì-yī tiáo: Zhōnghuá Mínguó yóu Zhōnghuá rénmín zǔzhī zhī.

Dì-èr tiáo: Zhōnghuá Mínguó zhī zhǔquán, shǔyú guómín quántǐ.

Dì-sān tiáo: Zhōnghuá Mínguó lǐngtǔ, wéi èrshíèr xíngshěng, Nèi-Wàiměnggǔ, Xīzàng, Qīnghǎi.

Dì-sì tiáo: Zhōnghuá Mínguó yǐ Cānyìyuàn, Línshí Dàzǒngtǒng, Guówùyuán, Fǎyuàn, xíngshǐ qí tǒngzhì-quán.

Dì-èr zhāng: Rénmín

Dì-wǔ tiáo: Zhōnghuá Mínguó rénmín, yílǜ píng-děng, wú zhǒngzú jiējí zōngjiào zhī qūbié.

Dì-liù tiáo: Rénmín dé xiǎngyǒu zuǒ liè zhī zìyóu quán: …

Dì-shíwǔ tiáo: Běnzhāng suǒ zǎi rénmín zhī quánlì, yǒu rènwéi zēngjìn gōngyì, wéichí zhì'ān, huò fēi-cháng jǐnjí bìyào shí, dé yī fǎlǜ xiànzhì zhī.

Dì-sān zhāng: Cānyìyuàn

Dì-shíliù tiáo: Zhōnghuá Mínguó zhī lìfǎquán, yǐ Cānyìyuàn xíng zhī.

Dì-shíqī tiáo: Cānyìyuàn yǐ dì-shíbā tiáo suǒ dìng gè dìfāng suǒ xuǎnpài zhī Cānyìyuán zǔzhī zhī.

Dì-shíbā tiáo: Cānyìyuán, měi xíngshěng、Nèi-měnggǔ、Wàiměnggǔ、Xīzàng, gè xuǎnpài wǔ rén, Qīnghǎi xuǎnpài yī rén, qí xuǎnpài fāngfǎ, yóu gè dìfāng zì

dìng zhī.

Cānyìyuàn Huìyì shí, měi cānyìyuán yǒu yī biǎojué quán.

Dì·shíjiǔ tiáo: Cānyìyuàn zhī zhíquán rú zuǒ:

1. Yìjué yíqiè fǎlǜ'àn.

11. Cānyìyuàn duìyú Línshí Dàzǒngtǒng, rènwéi yǒu móupàn xíngwéi shí, déyǐ zǒng yuán wǔ fēn zhī sì yǐshàng zhī chūxí, chūxí yuán sì fēn zhī sān yǐshàng zhī kě jué tánhé zhī.

Dì·sì zhāng: Línshí Dàzǒngtǒng Fùzǒngtǒng

Dì·èrshíjiǔ tiáo: Línshí Dàzǒngtǒng Fùzǒngtǒng, yóu Cānyìyuàn xuǎnjǔ zhī, yǐ zǒngyuán sì fēn zhī sān yǐshàng zhī chūxí, dé piào mǎn tóupiào zǒngshù sān fēn zhī èr yǐshàng zhě wéi dāngxuǎn.

Dì·sānshí tiáo: Línshí Dàzǒngtǒng, dàibiǎo Línshí Zhèngfǔ, zǒnglǎn zhèngwù, gōngbù fǎlǜ.

Dì·sānshíèr tiáo: Línshí Dàzǒngtǒng tǒngshuài quánguó hǎi·lù jūnduì.

Dì·wǔ zhāng: Guówùyuán

Dì·sìshísān tiáo: Guówù Zǒnglǐ jí gè bù Zǒngzhǎng, jūn chēng wéi Guówùyuán.

Dì·sìshísì tiáo: Guówùyuán fǔzuò Línshí Dàzǒngtǒng fù qí zérèn.

Dì·liù zhāng: Fǎyuàn

Dì·sìshíbā tiáo: Fǎyuàn yǐ Línshí Dàzǒngtǒng jí Sīfǎ Zǒngzhǎng fēnbié rènmìng zhī fǎguān zǔzhī zhī.

Fǎyuàn zhī biānzhì, jí fǎguān zhī zīgé, yǐ fǎlǜ dìng zhī.

Dì·qī zhāng: Fùzé

Dì·wǔshísān tiáo: Běn Yuēfǎ shíxíng hòu, xiàn shí

ge yuè nèi, yóu Línshí Dàzǒngtǒng zhàojí guóhuì, qí guóhuì zhī zǔzhī jí xuǎnjǔfǎ, yóu cānyìyuàn dìng zhī.

Dì-wǔshísì tiáo: Zhōnghuá Mínguó zhī xiànfǎ, yóu guóhuì zhìdìng, xiànfǎ wèi shīxíng yǐqián, běn Yuēfǎ zhī xiàolì yǔ xiànfǎ děng.

*　*　*

第1章　総綱

第1条　中華民国は中華人民がこれを組織する。

第2条　中華民国の主権は国民全体に属する。

第3条　中華民国の領土は22行省，内外蒙古，西蔵，青海とする。

第4条　中華民国は参議院，臨時大総統，国務員，法院を以てその統治権を行使する。

第2章　人民

第5条　中華民国人民は一律平等にして種族，階級，宗教の区別はない。

第6条　人民は左記各項の自由権を享有することができる。

第15条　本章に掲げる人民の権利は，公益を増進し治安を維持しあるいは非常緊急の必要ありと認めた時は，法律によってこれを制限することができる。

第3章　参議院

第16条　中華民国の立法権は参議院を以てこれを行なう。

第17条　参議院は第18条に定めるところの地方選出の参議員を以てこれを組織する。

第18条　参議員は各行省，内蒙古，外蒙古，西蔵から各々5名を選出し，青海からは1名を選出する。その選出方法は各地方が自らこれを定める。

第 19 条　参議院の職権は左のとおりとする。

1. 一切の法律を議決する。

11. 参議員は，臨時大総統に謀反の行為ありと認めた時は，総員の 5 分の 4 以上の出席，出席者の 4 分の 3 以上の可決を以て，これを弾劾することができる。

第 4 章　臨時大総統　副総統

第 29 条　臨時大総統副総統は参議院がこれを選挙し，総員の 4 分の 3 以上が出席し，投票総数の 3 分の 2 以上の得票を得た者を当選とする。

第 30 条　臨時大総統は臨時政府を代表し政務を総覧し法律を公布する。

第 32 条　臨時大総統は全国の陸海軍を統帥する。

第 5 章　国務員

第 43 条　国務総理及び各部総長はすべてこれを国務員と称する。

第 44 条　国務員は臨時大総統を補佐してその責任を負う。

第 6 章　法院

第 48 条　法院は臨時大総統及び司法総長が任命した法官を以てこれを組織する。法院の編成及び法官の資格については法律を以てこれを定める。

第 7 章　附則

第 53 条　本約法施行後 10 か月以内に臨時大総統は国会を召集する。その国会の組織及び選挙法は参議院がこれを定める。

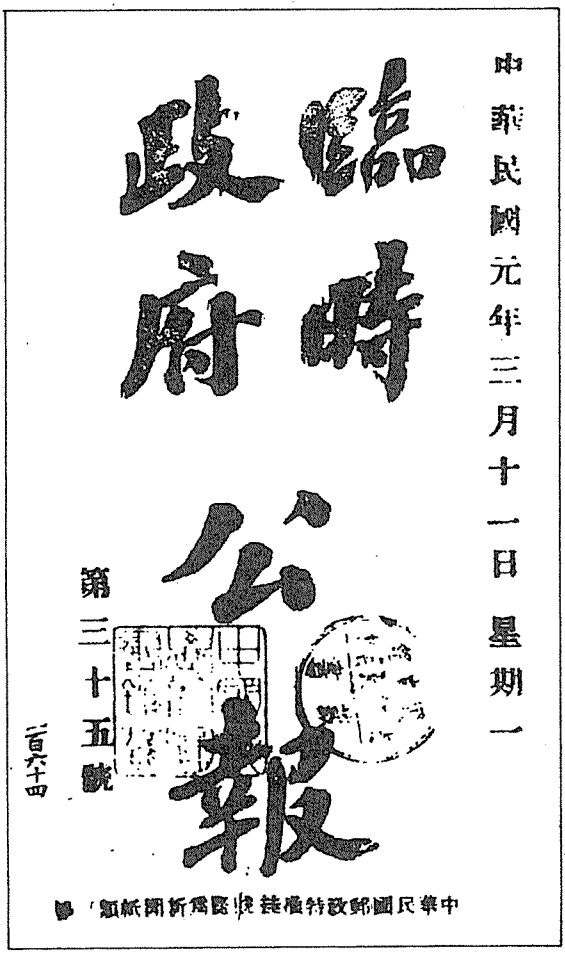
第 54 条　中華民国憲法は国会がこれを定める。国会開設まで本約法の効力は憲法と等しいものとする。

◇横山英編訳『ドキュメンタリー中国近代史』，亜紀書房，1973 年，122-126 頁。

■ 参考：版本の問題 ■

《临时政府公报》

⇨《中國近代史資料叢刊・辛亥革命》
⇨《孙中山全集》


中華民國元年三月十一日 星期一

臨時政府公報

第三十五號

一百六十四

中華民國郵政特准掛號認爲新聞紙類

*《中华民国史档案文献光盘库》G-1

【中国近代史資料叢刊】について

中国史学会主編，上海人民出版社出版。中華人民共和国建国後，近代史研究の再建をめざして編纂された資料集。内容な下記の通り。鴉片戦争(6 冊，1957)，第二次鴉片戦争(6 冊，1978·9)，太平天国(6 冊，1952)，捻軍(6 冊，1953)，回民起義(4 冊，1953)，洋務運動(8 冊，1961)，中法戦争(7 冊，1957)，中日戦争(7 冊，1957)，戊戌変法(4 冊，1953)，義和団(4 冊，1951)，辛亥革命(8 冊，1957)。

【ドキュメンタリー中国近代史】について

横山英編訳，亜紀書房，1973 年，357 頁。1840 年から 1927 年までの中国近代史に関する基本資料 68 点の邦訳。

1905

20 「革命」の構想

孫文は，広東省香山（現，中山）の貧しい農家の生まれた。字は逸仙，号は中山。中国では孫中山が一般的である。12歳の時，ハワイで成功した長兄のもとへと渡り，西欧の近代的教育を受けたのち帰国。広州，香港で医学を学び開業するが，清末の民族危機の中で異民族満洲の支配する専制王朝打倒の革命を決意し，1894年，ハワイに秘密結社興中会を組織した。95年，広州で最初の武装蜂起を企て失敗して日本に亡命，以後，辛亥革命に至るまで十数年，日本を拠点に欧米，東南アジア各地の華僑の間に革命を訴え，かつ10回に及ぶ蜂起を試みた。この間，97年，日本で宮崎滔天，平山周，犬養毅ら，中国革命に関心を寄せる民間の志士在野の政治家と知り合い，以後日本との間に深い結びつきを作った。

ついで**1905年，興中会，光復会，華興会の革命3派は大同団結して中国同盟会を結成，孫文は総理に推され，彼はその政治綱領として，民族，民権，民生からなるユニークな三民主義を掲げた。**この頃，海外では清朝の下での改革を主張する康有為や梁啓超らの“保皇派”が大きい勢力をもっていたが，同盟会は機関誌「民報」を発刊して激烈な論戦を交え，改良の風潮を革命へと切りかえていった。こうして11年10月10日ついに中部同盟会による武昌蜂起が成功し，孫文はその知らせを米国で聞くことなる。12月に帰国し，新たに誕生した中華民国（12年1月1日）の臨時大総統に選ばれた。（『岩波現代中国事典』「孫文」の項目）

今者国民军起，立军政府，涤二百六十年之膻腥，复四千年之祖国，谋四万万人之福祉，此不独军政府责无旁贷，凡我国民皆当引为己责者也。维我中国开国以来，以中国人治中国，虽间有异族篡据，我祖我宗常能驱除光复，以贻后人。今汉人倡率义师，殄除胡虏，此为上继先人遗烈，大义所在，凡我汉人当无不晓然。惟前代革命如有明及太平天国，只以驱除光复自任，此外无所转移。我等今日与前代殊，于驱除鞑虏、恢复中华之外，国体民生尚当与民变革，虽纬经万端，要其一贯之精神则为自由、平等、博爱。故前代为英雄革命，今日为国民革命。所谓国民革命者，一国之人皆有自由、平等、博爱之精神，即皆负革命之责任，军政府特为其枢机而已。自今已往，国民之责任即军政府之责任，军政府之功即国民之功，军政府与国民同心戮力，以尽责任。用特披露腹心，以今日革命之经纶暨将来治国之大本，

布告天下：

一、驱除鞑虏　今之满洲，本塞外东胡。昔在明朝，屡为边患。后乘中国多事，长驱入关，灭我中国，据我政府，迫我汉人为其奴隶，有不从者，杀戮亿万。我汉人为亡国之民者二百六十年于斯。满政府穷凶极恶，今已贯盈，义师所指，覆彼政府，还我主权。其满洲汉军人等，如悔悟来降者，免其罪；敢有抵抗，杀无赦！汉人有为满奴以作汉奸者，亦如之。

二、恢复中华　中国者，中国人之中国；中国之政治，中国人任之。驱除鞑虏之后，光复我民族的国家。敢有为石敬瑭、吴三桂之所为者，天下共击之！

三、建立民国　今者由平民革命以建国民政府，凡为国民皆平等以有参政权。大总统由国民公举。议会以国民公举之议员构成之。制定中华民国宪法，人人共守。敢有帝制自为者，天下共击之！

四、平均地权　文明之福祉，国民平等以享之。当改良社会经济组织，核定天下地价。其现有之地价，仍属原主所有；其革命后社会改良进步之增价，则归于国家，为国民所共享。肇造社会的国家，俾家给人足，四海之内无一夫不获其所。敢有垄断以制国民之生命者，与众弃之！

右四纲，其措施之次序则分三期。…此三期，第一期为军政府督率国民扫除旧污之时代；第二期为军政府授地方自治权于人民，而自总揽国事之时代；第三期为军政府解除权柄，宪法上国家机关分掌国事之时代。俾我国民循序以进，养成自由平等之资格，中华民国之根本胥于是乎在焉。

以上为纲有四，其序有三。军政府为国戮力，矢信矢忠，终始不渝。尤深信我国民必能踔厉坚忍，共成大业。汉族神灵，久焜耀于四海，比遭邦家多难，困苦百折，今际光复时代，其人人各发扬其精色。我汉人同

为轩辕之子孙，国人相视，皆伯叔兄弟诸姑姊妹，一切平等，无有贵贱之差、贫富之别；休戚与共，患难相救，同心同德，以卫国保种自任。战士不爱其命，闾阎不惜其力，则革命可成，民政可立。愿我四万万人共勉之！

◇《军政府宣言》（《中国同盟会革命方略（一九〇六年秋冬间）》，《孙中山全集》第1卷）。

〔者〕時を表す詞の語尾として用いられる。¶近～／近ごろ。（『中日大辞典』）

dí【涤】洗う。¶洗～／洗浄（する）。¶→～荡 dàng 。

xīngshān【腥膻】家畜やけものの臭いにおい。▼“膻”は羊肉のにおいをさす。

zé wú páng dài【责无旁贷】〈成〉自分が当然負うべき責任は他人に押しつけるわけにはいかない。他に転嫁することができない責任。

〔维〕wéi発語の助詞。これ。ただ。⇨〔惟〕（『中日大辞典』）

cuàn【篡】奪い取る。▼君位を奪うことをさすことが多い。¶～权／権力を奪い取る。

zǔzōng【祖宗】（一族の）祖先。

guāngfù【光复】（亡びた国を）建て直す。（失地を）回復する。

yí【贻】残す。¶～患 huàn ／災いを残す。

chàng【倡】提唱する。

yìshī【义师】正義のために起こした軍隊。義兵。

tiǎn【殄】尽くす。滅ぼす。

wúbù【无不】…でないのはない。…しないものはない。

xiǎo【晓】知らせる。明らかにする。さとす。

wéi【惟】思う。考える。

zhuǎnyí【转移】移す。移る。転換する。変える。

shū【殊】異なる。差異がある。¶与原本无～／原本にそっくりである。

jīngwěi【经纬】(1) 縦糸と横糸。(2) (地球の) 経度と緯度。(3) (物事の) いきさつ。経緯。

wànduān【万端】多種多様である。さまざまである。

tèwèi【特为】特に。わざわざ。

shūjī【枢机】(1) 〈古〉封建王朝の重要な機関・官職。(2) 〈書〉枢機。大事な事柄。

éryǐ【而已】〔助詞〕〈書〉…にすぎない。ばかりである。だけである。

〔自今已往〕⇨〔自今日以往〕(『中国近代史資料叢刊・辛亥革命』第 2 冊、14 頁)

yòng【用】〈書〉…によって。¶～特函达 hándá ／よってここに書中をもって申し上げます。

fùxīn【腹心】〈書〉〈喩〉急所。

jīnglún【经纶】〈書〉経綸[けいりん]。国家を治め整える。

sī【斯】〈書〉この。これ。ここ。¶以至于 zhīyú ～／もってここに至る。

qióng xiōng jí è【穷凶极恶】〈成〉きわめて凶暴で残酷である。極悪非道。

yíng【盈】満ちる。

rú【如】〔接続詞〕(＝如果 rúguǒ)もし…ならば。¶～处理得当 dédàng，问题不难解决／もし処置が当を得たならば,問題の解決はそう難しくはないだろう。

〔石敬瑭〕892·942。五代後晋の建国者。高祖。西方異民族の出身という。後唐明宗に仕えてその即位をたすけ，節度使を歴任し禁軍を統率した。仲の悪い廃帝が即位すると，石敬瑭は契丹に援助を求め，それによって後唐を滅ぼして，936 年帝位につき晋を建国した。契丹には約束によって莫大な歳幣を送り，国王を父と呼んで仕え，さらに燕雲 16 州を契丹に割譲して後生に大きな影響を与えた。(『新編・東洋史辞典』)

〔吴三桂〕1612-78。明末清初の軍人。高郵の人で，遼東に移った家に生まれ，字は長白。明末に父の蔭により都指揮使，総兵となり山海関を守って清軍の侵入を防いだ。明が李自成に滅ぼされると清に降り，その中国進出の先鋒となって大攻をたて，平西王に封じられ雲南に駐屯した。やがて清がその勢力を削ろうとすると，1673 年耿精忠・尚之信とはかって兵をあげた。いわゆる 3 藩の乱であるが，78 年指導者たる彼が病死すると，反乱軍の勢力は衰え，3 年をへて鎮定された。(『新編・東洋史辞典』)

hédìng【核定】査定する。裁定する。¶～奖金 jiǎngjīn ／ボーナスを査定する。

bǐ【俾】〈書〉…するようにさせる。¶～众周知／周知徹底させる。

jiā jǐ rén zú【家给人足】〈成〉どの家も人々もみな暮らしが豊かである。▼“人给家足”ともいう。

fū【夫】〈旧〉成年の男。¶匹 pǐ ～／匹夫[ひつぷ]。ひとりの男。

cìxù【次序】順序。順番。次第。¶工作要有一定的～／仕事には決まった順序がなくてはならない。

quánbǐng【权柄】権力。¶掌 zhǎng 着～／権力を握っている。

xúnxù【循序】順序を追って。¶～渐进 jiànjìn ／（学習・仕事などを）順を追って一歩一歩進める。

xū【胥】〈書〉みな。すべて。¶万事～备／用意万端整えた。

yúshì【于是】〔接続詞〕そこで。それで。そして。ここにおいて。▼話し言葉では“于是乎 yúshìhū ”ともいう。

yān【焉】〈書〉これに。ここに。これから。▼“介词”の“于 yú ”に“代词”の“是”を加えたものに相当する。

shǐ【矢】誓う。誓いを立てる。 ¶～忠 zhōng ／忠誠を誓う。

bùyú【不渝】〈書〉（節操・誓約などを）変えない。¶始终～／終始変わらない。

chuōlì【踔厉】〈書〉意気盛んである。

jiānrěn【坚忍】堅忍。我慢強く堪え忍ぶ。¶～不拔 bá 的意志／堅忍不拔の意志。

shénlíng【神灵】神霊。神の総称。

〔焜〕kūn 明亮。(『新華字典』)

bǐ【比】(古くはbì)〈書〉このごろ。近ごろ。¶～来／近来。

bǎizhébùnáo【百折不挠】〈成〉不撓[ふとう]不屈。何度挫折しても意志を曲げないこと。

jì【际】時。折。

〔其人人各发扬其精色〕⇨〔祈人人各发扬其精神〕(『中国近代史資料叢刊・辛亥革命』第2冊、16頁)

〔轩辕〕黄帝の名。(『中日大辞典』)

bózhòngshūjì【伯仲叔季】兄弟の順序。『参考』"伯"は長兄,"仲"は次兄,"叔"は三兄,"季"は末弟。かつては名前によくこれらの字を使って兄弟間の順序を表した。

〔诸姑姊妹〕多数の婦人に対する称呼。 (『中日大辞典』)

xiūqī【休戚】喜びと憂い。¶～与共／禍福を分かち合う。苦楽を共にする。

tóng xīn tóng dé【同心同德】〈成〉一心同体である。心を一つにする。

lúyán【闾阎】〈書〉昔の庶民の住居区。(転じて)庶民。

gòngmiǎn【共勉】互いに励まし合う。¶愿 yuàn ～之／お互いに励まし合いましょう。

*　　*　　*

Jīn zhě Guómínjūn qǐ, lì Jūnzhèngfǔ, dí èrbǎi liù-shí nián zhī shānxīng, fù sìqiān nián zhī zǔguó, móu sì wànwàn rén zhī fúzhǐ, cǐ bù dú Jūnzhèngfǔ zé wú páng dài, fán wǒ guómín jiē dāng yǐn wéi jǐ zé zhě yě. Wéi wǒ Zhōngguó kāiguó yǐlái, yǐ Zhōngguórén zhì Zhōngguó, suī jiān yǒu yìzú cuàn jù, wǒ zǔ wǒ zōng cháng néng qūchú guāngfù, yǐ yí hòurén. Jīn Hànrén chàng shuài yìshì, tiǎn chú hú lǔ, cǐ wéi shàng jì xiānrén yíliè, dàyì suǒzài, fán wǒ Hànrén dāng wú bù

xiǎo rán. Wéi qiándài gémìng rú yǒu Míng jí Tàipíng Tiānguó, zhǐ yǐ qūchú guāngfù zì rèn, cǐwài wú suǒ zhuǎnyí. Wǒ děng jīnrì yǔ qiándài shū, yú qūchú dálǔ、huīfù Zhōnghuá zhīwài, guótǐ mínshēng shàng dāng yǔ mín biàngé, suī wěijīng wànduān, yào qí yíguàn zhī jīngshén zé wéi zìyóu、píngděng、bó'ài. Gù qiándài wéi yīngxióng gémìng, jīnrì wéi guómín gémìng. Suǒwèi guómín gémìng zhě, yì guó zhī rén jiē yǒu zìyóu、píngděng、bó'ài zhī jīngshén, jí jiē fù gémìng zhī zérèn, Jūnzhèngfǔ tè wéi qí shūjī éryǐ. Zì jīn yǐ wǎng, guómín zhī zérèn jí Jūnzhèngfǔ zhī zérèn, Jūnzhèngfǔ zhī gōng jí guómín zhī gōng, Jūnzhèngfǔ yǔ guómín tóngxīn lùlì, yǐ jìn zérèn. Yòng tè pīlù fùxīn, yǐ jīnrì gémìng zhī jīnglún jì jiānglái zhìguó zhī dàběn, bùgào tiānxià:

1. Qūchú dálǔ

Jīn zhī Mǎnzhōu, běn Sàiwài Dōnghú. Xī zài Míngcháo, lǚ wéi biān huàn. Hòu chéng Zhōngguó duō shì, chángqū rù guān, miè wǒ Zhōngguó, jù wǒ zhèngfǔ, pò wǒ Hànrén wéi qí núlì, yǒu bù cóng zhě, shālù yìwàn. Wǒ Hànrén wéi wángguó zhī mín zhě èrbǎi liùshí nián yú sī. Mǎn zhèngfǔ qióng xiōng jí è, jīn yǐ guàn yíng, yìshī suǒ zhǐ, fù bǐ zhèngfǔ, huán wǒ zhǔquán. Qí Mǎnzhōu Hànjūn rén děng, rú huǐwù lái xiáng zhě, miǎn qí zuì; gǎn yǒu dǐkàng, shā wú shè! Hànrén yǒu wèi Mǎnnú yǐ zuò hànjiān zhě, yì rú zhī.

2. Huīfù Zhōnghuá

Zhōngguó zhě, Zhōngguórén zhī Zhōngguó; Zhōngguó zhī zhèngzhì, Zhōngguórén rèn zhī. Qūchú dálǔ zhī

hòu, guāngfù wǒ mínzú de guójiā. Gǎn yǒu wéi Shí Jìngtáng、Wú Sānguì zhī suǒ wéi zhě, tiānxià gòng jī zhī !

3. Jiànlì mínguó

Jīn zhě yóu píngmín gémìng yǐ jiàn guómín zhèngfǔ, fán wéi guómín jiē píngděng yǐ yǒu cānzhèngquán. Dà·zǒngtǒng yóu guómín gōngjǔ. Yìhuì yǐ guómín gōngjǔ zhī yìyuán gòuchéng zhī. Zhìdìng Zhōnghuá Mínguó Xiànfǎ, rénrén gòng shǒu. Gǎn yǒu dìzhì zì wéi zhě, tiānxià gòng jī zhī !

4. Píngjūn dìquán

Wénmíng zhī fúzhǐ, guómín píngděng yǐ xiǎng zhī. Dāng gǎiliáng shèhuì jīngjì zǔzhī, hédìng tiānxià dìjià. Qí xiànyǒu zhī dìjià, réng shǔ yuánzhǔ suǒyǒu; qí gémìng hòu shèhuì gǎiliáng jìnbù zhī zēngjià, zé guīyú guójiā, wéi guómín suǒ gòngxiǎng. Zhào zào shèhuì de guójiā, bǐ jiā jǐ rénzú, sìhǎi zhī nèi wú yī fū bú huò qí suǒ. Gǎn yǒu lǒngduàn yǐ zhì guómín zhī shēngmìng zhě, yǔ zhòng qì zhī !

Yòu sì·gāng, qí cuòshī zhī cìxù zé fēn sān qī. … Cǐ sān qī, dì·yī qī wéi Jūnzhèngfǔ dūshuài guómín sǎochú jiùwū zhī shídài; dì·èr qī wéi Jūnzhèngfǔ shòu dìfāng zìzhìquán yú rénmín, ér zì zǒnglǎn guóshì zhī shídài; dì·sān qī wéi Jūnzhèngfǔ jiěchú quánbǐng, xiànfǎ shàng guójiā jīguān fēnzhǎng guóshì zhī shídài. Bǐ wǒ guómín xúnxù yǐ jìn, yǎngchéng zìyóu píngděng zhī zīgé, Zhōnghuá Mínguó zhī gēnběn xū yú shì hū zài yān.

Yǐshàng wéi gāng yǒu sì, qí xù yǒu sān. Jūnzhèngfǔ

wèi guó lùlì, shǐ xìn shǐ zhōng, zhōngshǐ bùyú. Yóu shēnxìn wǒ guómín bì néng chuōlì jiānrěn, gòng chéng dàyè. Hànzú shénlíng, jiǔ kūn yào yú sìhǎi, bǐ zāo bāng jiā duō nàn, kùnkǔ bǎizhé, jīn jì guāngfù shídài, qí rénrén gè fāyáng qí jīngsè. Wǒ Hànrén tóng wéi Xuānyuán zhī zǐsūn, guórén xiāng shì, jiē bóshū xiōngdì zhūgū zǐmèi, yíqiè píngděng, wú yǒu guìjiàn zhī chā、pínfù zhī bié; xiūqī yǔ gòng, huànnàn xiāng jiù, tóng xīn tóng dé, yǐ wèi guó bǎo zhǒng zì rèn. Zhànshì bú ài qí mìng, lǚyán bùxī qí lì, zé gémìng kě chéng, mínzhèng kě lì. Yuàn wǒ sì wànwàn rén gòng-miǎn zhī !

*　　*　　*

今や，国民軍は起ち，軍政府を樹立して，260年にわたる膻腥（なま臭さ。満族の支配）を洗い流し，4000年来の祖国を回復して，4億人民の福祉をはからんとしている。これは，他に転嫁できぬ軍政府の責任ではあるが，そればかりではない，わが国民すべてが責任を負うべきことでもある。そもそも，わが国は建国以来，中国人によって中国を統治してきた。その間，異民族に簒奪・占領されたこともあったが，わが歴代の祖先は，常にこれを駆除して光復（革命によって国土を恢復する）し，後世の人びとに伝えてきた。今や，中国人は正義の軍隊を率いて異民族を絶滅せんとしている。これは遠く先人たちの遺業を継ぐものであり，大義の存するところ，中国人たる者は，みなこれを知らねばならない。思うに，たとえば明代や太平天国など前代の革命は，ただ異民族を駆除・光復するだけをみずからの使命とした。しかるに，今日われわれは前代と異なって，満州族を取除して中華を恢復する以

外に，人民と協力しながら国体と民生をも変革せねばならない。そのための方策はさまざまあろうとも，これを一貫する精神は，自由・平等・博愛である。ゆえに，前代は英雄革命であり，今日は国民革命である。いわゆる国民革命とは，1国の者すべてが自由・平等・博愛の精神を抱く，すなわち，すべての者が革命の責任を負い，軍政府はただその枢機（中心，かなめ）となるにすぎない。今日以後，国民の責任は，すなわち軍政府の責任であり，軍政府の功名は，すなわち国民の功名である。軍政府は国民と心と力を合せて責任を果たすのである。よって，特に本心を披瀝し，今日の革命の経綸（事業）および将来における政治の根本を天下に布告する。

一　韃虜を駆除する。

今の満州族は，もと長城以北の東胡であり，明代の昔，しばしば辺境の禍いをなした。のちに中国の多事に乗じ，長駆して山海関に侵入してわが中国を滅し，わが政府を占拠し中国人を奴隷の地位に追いこみ，従わぬ者を数かぎりなく殺戮した。ここに，わが中国人の亡国の民たること260年に及んだ。満州政府の凶悪なること，今や，その極に達した。わが正義の軍隊の目指すところは，かの政府を転覆し，わが主権を奪還するにある。満州人や漢民族の軍人（漢軍八旗など）にして，もし，罪を悔いて降伏する者があればその罪を許し，あえて抵抗する者は容赦なく殺す。中国人で満州人の奴隷となり漢奸（売国奴）となった者も同様である。

二　中華を恢復する。

中国は中国人の中国である。中国の政治は中国人がこれに任ずる。満州族を駆除したのち，わが民族の国家を光復する。あえて，石敬瑭（北方の異民族契丹に中国の地燕雲16州を割譲した）や

呉三桂（清軍を関内に誘導しその中国侵入を助けた）のごとき行為をなす者は，天下こぞってこれを撃つ。

三　民国を建立する。

今や，平民革命により，国民政府を樹立せんとする。およそわが国民たるものはすべて平等に参政権を持つ。大総統は国民が選挙し，議会は国民の公選した議員が構成し，中華民国憲法を制定し，人民は，ともにこれを守る。あえて帝制を実行せんとする者は，天下がともにこれを撃つ。

四　地権を平均にする。

文明の福祉は，国民が平等にこれを享受する。社会・経済の組織を改良し，全国の地価を確定しなければならない。現在の地価はもとの所有者に属せしめる。ただし，革命後，社会の改良・進歩による値上り分は国家に帰せしめ，国民の共有とする。社会的な国家を創造して，国中すべて，すべての家，人ともに生活を安定させる。国中すべて，なんびとも所を得ない者がないようにする。あえて壟断（独占）をはかり，国民の生命を制せんとする者は，人民とともにこれを棄てる。

右の4綱目は，実施順序を3期に分ける。…この3期のうち，第1期は，軍政府が国民を監督し統率して，旧来の汚毒を除去する時代である。第2期は，軍政府が人民に地方自治権を授けて，国の政治を統括する時代である。第3期は，軍政府がその権限を解除されて，憲法上の国家機関が国の政治を分掌する時代である。**もし，わが国民が順を追って進み**，自由・平等の資格を養成すれば，中華民国の根本はすべてここに備わるのである。

以上，大綱は4，その順序は3である。軍政府は国のために誠心誠意，終始かわることなく協力をつくすが，わが国民もかならずや踔厲（奮い立つこと）堅忍，ともに大業を完成するものと深

く信ずる。漢民族の神聖なる精霊は，かつて久しく4海に輝いたが，近ごろ国家は苦難と挫折に遭遇した。しかし，今や光復の時代を迎えたのである。人びとは各自その精色（本領）を発揚せよ。わが漢民族は，ともに軒轅氏（黄帝）の子孫であり，国民は互いにみな親類・兄弟・姉妹のごとき間がらである。一切平等で貴賤・貧富の差別はない。喜びと悲しみを共にし，患難は助けあい，心を1つにし徳を同じくして，国家を防衛し，種族を維持する責任をみずから担おう。戦士が身命を惜しまず，閭閻（村里の門。民間）が労を惜しまなければ，革命は成功し，**憲政**は樹立できる。願わくは，わが4億の民よ。ともに努力されんことを。

◇伊地智善継・山口一郎監修『孫文選集』第3巻，社会思想社，1989年，40-44頁（庄司荘一訳）。

◆「中国人を」「中国人で」⇨「漢人を」「漢人で」
◆「満州人や漢民族の軍人」⇨「清朝の漢族軍人」
◆「もし，わが国民が順を追って進み，」⇨「順を追ってわが国民を進歩させ，」
◆「憲政」⇨「民政」

【三民主義】

①孫文が20世紀中国の民族的危機打開を志して提示した救国のための政治理論，また“救国思想”。民族，民権，民生の3主義から成る。**清朝打倒の革命活動に奮闘していた孫文が最初にこの構想を打ち出したのは，中国同盟会結成の時期である（1905年）。その内容は，1)韃虜（清洲族）の駆除，中華の回復（民族主義），2)民国創立（民権主義），3)地権平均（民生主義）という綱領に示された。**彼は亡命中，ヨーロッパ社会をつぶさに研究し，先進資本主義社会になお存在する大きい貧富の差，そこに生まれる社会問題に注目し，中国の革命のためには共和制樹立の政治革命と同時に社会革命を平行して行なわなければならないと考えた。民生主義と呼ば

れるこの主張が三民主義の顕著な特色を形成するものとなる。②しかし**構想当初の三民主義は，たぶんに種族主義的なナショナリズムと“専制から民主へ”という共和主義によって組み立てられており，民生主義（＝地権平均）については，産業化に伴う地価の上昇分を国家が吸い上げることを通じて貧富の差を未然に解消するという単純な内容を持つものだった。**だが，中華民国の誕生にもかかわらず中国の危機はまったく解消されず，内にあっては封建的な軍閥支配，対外的には列強からのいっそうの抑圧が進行し，孫文は新たな理論構築を迫られることになった。こうした中で孫文に画期的な転機を与えたのはロシア革命と五・四運動だった。彼は五・四運動の経験から民衆を基盤とした大衆政党としての中国国民党を創始すると共に，“帝政ロシアの既得権益の放棄”を宣言したソ連との連携の中に新たな道を求め，同時に三民主義の内容をも大きく転換させることになった。それは，“連ソ，容共，扶助工農”の3大政策の採用に示されるが，理論内容としては中国の独立・解放のための反帝民族主義，“資本節制”また“耕者有其田（耕す者に田を）”という封建的地主制廃止の主張などに要約される。ただし孫文の死のために，この転換が全体としてどのような理論的形をとるかは明確にされないままに残った。③ところで，三民主義は，孫文の革命・建国プランを含めそれらが国民党の“党義”と規定されたことによって，彼の死後も現実政治に深い影響を及ぼすことになった。早くも孫文の死の直後，戴季陶は孫文主義を中国の道統を受け継ぐものとして儒家的伝統思想の中に位置づけたが，こうした規定はその後反共の立場に立って政権を掌握した国民党に強力な理論的根拠を与えるものとなった。他方，毛沢東もまた，抗日戦争を迎えて第2次国共合作が実現する中で，晩年の孫文思想を“新（真）三民主義”と規定し，“資本節制”などを根拠に，中国共産党はそれを受け継ぐ形で奮闘すると主張（「新民主主義論」）した。三民主義は，20世紀前半の中国政治を動かす重要な政治理論だったといえる。（『岩波現代中国事典』）

【孫文選集】について

伊地智善継・山口一郎監修，社会思想社，1985-1989年，3巻。第1巻（三民主義），第2巻（革命哲学・革命観），第3巻（中国革命史・国際政治観・対日観・孫文論）からなる。

参考（⇨2）

課文とテキストとの対応関係

在悼念胡耀邦同志逝世的活动中，广大共产党员、工人、农民、知识分子、干部、解放军和青年学生，以各种形式表达自己的哀思，并表示要化悲痛为力量，为实现四化、振兴中华贡献力量。

在悼念活动期间，也出现了一些不正常情况。极少数人借机制造谣言，指名攻击党和国家领导人；蛊惑群众冲击党中央、国务院所在地中南海新华门；甚至还有人喊出了打倒共产党等反动口号；在西安、长沙发生了一些不法分子打、砸、抢、烧的严重事件。

考虑到广大群众的悲痛心情，对于青年学生感情激动时某些不妥当的言行，党和政府采取了容忍和克制态度。在22日胡耀邦同志追悼大会召开前，对于先期到达天安门广场的一些学生并没有按照惯例清场，而是要求他们遵守纪律，共同追悼胡耀邦同志。由于大家的共同努力，保证了追悼大会在庄严肃穆的气氛中顺利进行。

但是，在追悼大会后，极少数别有用心的人继续利用青年学生悼念胡耀邦同志的心情，制造种种谣言，蛊惑人心，利用大小字报污蔑、谩骂、攻击党和国家领导人；公然违反宪法，鼓动反对共产党的领导和社会主义制度；在一部分高等学校中成立非法组织，向学生会“夺权”，有的甚至抢占学校广播室；在有的高等学校中鼓动学生罢课、教师罢教，甚至强行阻止同学上课；盗用工人组织的名义，散发反动传单；并且四处串联，企图制造更大的事端。

这些事实表明，极少数人不是在进行悼念胡耀邦同志的活动，

不是为了在中国推进社会主义民主政治的进程，也不是有些不满发发牢骚。他们打着民主的旗号破坏民主法制，其目的是要搞散人心，搞乱全国，破坏安定团结的政治局面。这是一场有计划的阴谋，是一次动乱，其实质是要从根本上否定中国共产党的领导，否定社会主义制度。这是摆在全党和全国各族人民面前的一场严重的政治斗争。

如果对这场动乱姑息纵容，听之任之，将会出现严重的混乱局面，全国人民，包括广大青年学生所希望的改革开放，治理整顿，建设发展，控制物价，改善生活，反对腐败现象，建设民主与法制，都将化为泡影；甚至十年改革取得的巨大成果都可能丧失殆尽，全民族振兴中华的宏伟愿望也难以实现。一个很有希望很有前途的中国，将变为一个动乱不安的没有前途的中国。

全党和全国人民都要充分认识这场斗争的严重性，团结起来，旗帜鲜明地反对动乱，坚决维护得来不易的安定团结的政治局面，维护宪法，维护社会主义民主和法制。决不允许成立任何非法组织；对以任何借口侵犯合法学生组织权益的行为要坚决制止；对蓄意造谣进行诬陷者，要依法追究刑事责任；禁止非法游行示威，禁止到工厂、农村、学校进行串联；对于搞打、砸、抢、烧的人要依法制裁；要保护学生上课学习的正当权利。广大同学真诚地希望消除腐败，推进民主，这也是党和政府的要求，这些要求只能在党的领导下，加强治理整顿，积极推进改革，健全社会主义民主和法制来实现。

全党同志、全国人民必须清醒地认识到，不坚决地制止这场动乱，将国无宁日。这场斗争事关改革开放和四化建设的成败，事关国家民族的前途。中国共产党各级组织、广大共产党员、共青团员、各民主党派、爱国民主人士和全国人民要明辨是非，积极行动起来，为坚决、迅速地制止这场动乱而斗争！

参考（⇨12）

繁体字と簡体字

中国国民政府蒋主席于抗战胜利后，邀请中国共产党中央委员会主席毛泽东先生，商讨国家大计。毛先生于八月二十八日应邀来渝，进见蒋主席，曾作多次会谈。同时双方各派出代表，政府方面为王世杰、张群、张治中、邵力子四先生。中共方面为周恩来、王若飞两先生。迭在友好、和谐的空气中进行商谈，已获得左列之结果；并仍将在互信、互让之基础上继续商谈，求得圆满之解决，兹特发表会谈纪要如下：

一、关于和平建国的基本方针

一致认为中国抗日战争业已胜利结束，和平建国的新阶段即将开始，必须共同努力，以和平、民主、团结、统一为基础；并在蒋主席领导之下，长期合作，坚决避免内战，建设独立、自由和富强的新中国，彻底实行三民主义。双方又同认蒋主席所倡导之政治民主化、军队国家化及党派平等合法，为达到和平建国必由之途径。

二、关于政治民主化问题

一致认为应迅速结束训政，实施宪政，并应先采必要步骤；由国民政府召开政治协商会议，邀集各党派代表及社会贤达协商国是，讨论和平建国方案及召开国民大会各项问题。现双方正与各方洽商政治协商会议名额、组织及其职权等项问题，双方同意一俟洽商完毕，政治协商会议即应迅速召开。

三、关于国民大会问题

中共方面提出重选国民大会代表，延缓国民大会召开日期及修

改国民大会组织法、选举法和五五宪法草案等三项主张。政府方面表示，国民大会已选出之代表，应为有效，其名额可使之合理的增加和合法的解决，五五宪法草案原曾发动各界研讨贡献修改意见，因此双方未能成立协议。但中共方面声明：中共不愿见因此项问题之争论而破裂团结，同时双方均同意将此项问题提交政治协商会议解决。

四、关于人民自由问题

一致认为政府应保证人民享受一切民主国家人民在平时应享受身体、信仰、言论、出版、集会、结社之自由；现行法令，当依此原则，分别予以废止或修正。

五、关于党派合法问题

中共方面提出政府应承认国民党、共产党及一切党派的平等、合法地位；政府方面表示，各党派在法律之前平等，本为宪政常轨，今可即行承认。

九、关于军队国家化问题

…为具体计划本项所述各问题起见，双方同意组织三人小组（军令部、军政部及第十八集团军各派一人）进行之。

十、关于解放区地方政府问题

…此项问题久悬不决，〔政府方面〕虑为和平建设之障碍，乃亟盼能商得具体解决方案；中共方面亦同意继续商谈。

参考（⇨13）

小テスト*

1)
這 種 新民主主義 的 共和國，一 方面 與 舊式 的，歐美式 的，

資產 階級 專政 的，資本 主義 的 共和國 相 區別，這 是

舊 民主 主義 的 共和國，這 種 共和國 已經 過時 了。

2)
Zhōngguó gémìng de lìshǐ tèdiǎn fēn wéi mínzhǔ zhǔyì yǔ

shèhuì zhǔyì liǎng ge bùzhòu, ér qí dì-yībù, xiànzài yǐ

búshì yìbān de mínzhǔ zhǔyì, ér shì Zhōngguóshì de tèshū

de xīnshì de mínzhǔ zhǔyì, ér shì Xīn-Mínzhǔzhǔyì.

3) **

name _____ score [ ]

* 1)は漢字をピンインに直すこと，2)はピンインを漢字に直すこと，3)は朗読した内容を漢字で書き取ること，を求めている。

** 革命亦有新旧之分，在某一历史时期是新的东西，在另一历史时期就变为旧的了。

*1999年11月10日実施（夜間主コース，専攻語科目「中国語9」）

参考（⇨18）

標点と符号について

敬告青年

陳獨秀

稱以少年者。蓋中國稱人之語也。年長而勿衰。(Keep young while growing old) 英美人相勗之辭也。此亦東西民族思想不同現象趨異之一端歟。青年如初春。如朝日。如百卉之萌芽。如利刃之新發於硎。人生最可寶貴之時期也。青年之於社會。猶新鮮活潑細胞之在人身。新陳代謝。陳腐朽敗者。無時不在。天然淘汰之途。與新鮮活潑者以空間之位置及時間之生命。人身道新陳代謝之道。則健康。陳腐朽敗之充塞細胞。人身則人身死。社會道新陳代謝之道。則隆盛。陳腐朽敗之分子充塞社會。則社會亡。

準斯以驗吾國之社會。其隆盛耶。抑將亡耶。非予之所忍言者。彼陳腐朽敗之分子。一聽其天然之淘汰。惟不願以如流之歲月。與之既短道長。帝國其脫胎換骨也。予所欲涕泣陳詞者。惟屬望於新鮮活潑之青年。有以自覺而奮鬥耳。自覺者。何自覺其新鮮活潑之價值與責任。而自視不可卑也。奮鬥者。何奮其智能力排陳腐朽敗者以去舊之若仇敵。若洪水猛獸。而不可與爲鄰。而不爲其固毒所傳染也。嗚呼吾國之青年。其果能語於此乎。吾見夫青年其年齡。而若年。其身體者十之五。爲青年。其年齡或身體。而老年。其腦神經者十之九。爲準。其髮澤其容直。其軀廣其膚。非不像然青年也。及叩其頭腦中所涉想所假抱。無一不與彼陳腐朽敗者爲一丘之貉。其始也。未嘗不新鮮活潑。迨假而爲陳腐朽敗分子。所同化者。有之。迨假而長陳腐朽敗分子。勢力之膨大。噤口。依回。不敢明目張膽作一狠之抗鬥者。有之。充塞社會之空氣。無往而非陳腐朽敗。爲求些少之新鮮活潑者以慰吾人。窒息之絕望。亦杳不可得。循斯現象。於

*《青年雑誌》第1巻第1号(《中国革命史档案文献光盘庫》B·1)。

20世紀中国のあゆみ

00 ⑥義和団,北京・天津に進出;⑧八カ国連合軍,北京入城;⑨ロシア軍,東北占領
01 ①新政施行の詔勅;⑨辛丑条約
02 ②新民叢報創刊;⑥大公報創刊　日英同盟成立①;シベリア鉄道全面開通① 02
03 ⑥蘇報事件;⑦東清鉄道開通;⑨商部設立
04 ③東方雑誌創刊;⑨ラサ条約　日露戦争② 04
05 ⑤対米ボイコット運動;⑧**中国同盟会結成 20**;⑨科挙廃止　[露]「血の日曜日」① 05
06 ⑨立憲準備布告　[日]南満州鉄道株式会社設立勅令⑥ 06
07 ④東北で省制施行　英露協商⑧ 07
08 ⑨欽定憲法大綱公布;⑪宣統帝即位　青年トルコ党の革命⑦ 08
09 ②各省に諮議局設置を命令
10 ⑩資政院開設　英領南アフリカ成立⑤;[日]韓国「併合」⑧ 10
11 ⑤鉄道国有令公布;⑩武昌蜂起;⑪外モンゴル独立宣言
12 ①**中華民国臨時政府成立 19**;②清朝滅亡　第一次バルカン戦争⑩ 12
13 ⑦第二革命;⑪中露協定　第二次バルカン戦争⑥ 13
14 ①国会解散;⑦中華革命党結成;⑨[日]青島占領　第一次世界大戦⑦ 14
15 ⑤二一カ条受諾;⑨**『青年雑誌』創刊 18**;⑫袁世凱,帝政就任を表明
16 ⑥袁世凱死去;⑥旧約法回復,国会招集　[露]レーニン『帝国主義論』⑥ 16
17 ⑦張勲復辟;⑧対独宣戦;⑨広州で軍政府成立　[露]十月革命⑪ 17
18 ⑤日中軍事協定調印　[米]十四カ条①;独降伏⑪ 18
19 ⑤五四運動;⑦カラハン宣言;⑩中国国民党結成
[朝]三一独立運動③;コミンテルン結成③;ベルサイユ条約⑥ 19
20 ⑦安直戦争　国際連盟成立① 20
21 ①日中軍事協定廃棄;⑦中国共産党成立　モンゴル革命⑦;ワシントン会議⑪ 21
22 ①香港海員スト;④第一次奉直戦争;⑥陳炯明反乱　九カ国条約②;ソ連邦成立⑫ 22
23 ②二七惨案;②旅大回収運動　[日]関東大震災⑨;トルコ共和国成立⑩ 23
24 ①**国民党一全大会 17**;⑨第二次奉直戦争　[伊]ファシスト党勝利④ 24
25 ③孫文死去;⑤五三〇事件;⑦国民政府成立　ロカルノ条約⑫ 25
26 ③三一八惨案;③中山艦事件;⑦北伐開始　[英]対華新政策発表⑫ 26
27 ④四一二クーデター;⑦武漢政府崩壊;⑧南昌蜂起　[日]山東出兵⑤;東方会議⑥ 27
28 ④北伐再開;⑥張作霖爆殺;**北伐軍北京入城 16**;⑫張学良「易幟」
コミンテルン第六回大会⑦;不戦条約⑧ 28
29 ①編遣会議;⑦中東鉄路問題　世界恐慌⑩ 29
30 ④中原大戦;⑩[台]霧社事件;⑫第一次「囲剿」　ロンドン海軍軍縮会議① 30
31 ⑨柳条湖事件;⑪「中華ソビエト共和国」成立　スペイン共和革命④ 31
32 ①上海事件;③「満州国」成立;⑫中ソ復交　[日]五一五事件⑤ 32
33 ①熱河作戦;④廃両改元;⑤塘沽停戦協定;⑪福建事件
ヒトラー内閣成立①;[日]国際連盟脱退③ 33

34 ②新生活運動提唱;⑩長征 [米]銀買上法⑥;[ソ]国際連盟加入⑨ 34
35 ①遵義会議;⑩**八一宣言 15**;⑪幣制改革;⑫一二九運動
コミンテルン第七回大会⑦;[伊]エチオピア侵入⑩ 35
36 ⑥全国各界救国連合会成立;⑪綏遠事件;⑫西安事件
[日]二二六事件②;スペイン内戦⑦;日独防共協定⑪ 36
37 ⑦盧溝橋事件;⑨第二次国共合作;⑫南京事件
[米]隔離演説⑩;ブリュッセル会議⑪ 37
38 ④**抗戦建国綱領 14**;⑦国民参政会;⑩広州・武漢陥落
[日]近衛声明①;[独]オーストリア併合③;ミュンヘン協定⑨ 38
39 ③国民精神総動員綱領;⑥異党活動制限規定
ノモンハン事件⑤;独ソ不可侵条約⑧;[独]ポーランド侵入⑨ 39
40 ①**毛沢東「新民主主義論」13**;③南京「国民政府」成立
[独]パリ占領⑥;[日]北部仏印進駐⑨;日独伊三国同盟⑨ 40
41 ①皖南事件;⑥田賦中央移管;⑩中国民主政団同盟結成
日ソ不可侵条約④;独ソ戦⑥;大西洋憲章⑧;[日]マレー・真珠湾奇襲⑫ 41
42 ②整風運動;⑥中米武器貸与協定 連合軍宣言①;ミッドウェー海戦⑥ 42
43 ①米英,対華不平等条約撤廃;③蔣介石「中国の命運」
コミンテルン解散⑤;カイロ宣言⑪ 43
44 ①[日]大陸打通作戦;⑨民主同盟結成;⑩スティルウェル召還
ノルマンディー作戦⑥ 44
45 ④中共七全大会;⑤国民党六全大会;⑧中ソ友好同盟条約;⑩双十協定 **12**
ヤルタ会談②;[独]降伏⑤;ポツダム宣言⑦;[日]降伏⑧ 45
46 ①政治協商会議;⑦全面内戦化;⑪国民大会
国際連合成立①;フルトン演説③;[日]新憲法公布⑪ 46
47 ②[台]二二八事件;⑩人民解放軍宣言
マーシャルプラン発表⑥;インド・パキスタン独立⑧ 47
48 ④国民大会;⑧華北人民政府;⑨遼海戦役
イスラエル建国宣言⑤;ベルリン封鎖⑥;南北朝鮮成立⑧⑨ 48
49 ⑨新政治協商会議;⑩**中華人民共和国成立 11**;⑫毛沢東,モスクワ訪問
コメコン結成①;NATO結成④;[米]中国白書⑧;西東ドイツ成立⑨⑩ 49
50 ⑥三反五反運動;⑥土地改革法 **10**;⑩人民義勇軍,朝鮮出動 朝鮮戦争⑥ 50
51 ⑩ラサ進駐 サンフランシスコ講和条約⑨;日米安全保障条約⑨ 51
52 ④日「華」条約 [英]スエズ運河封鎖① 52
53 ⑧毛沢東,「過渡期の総路線」指示;⑨中ソ経済技術援助協定 スターリン死去③ 53
54 ⑨第一期全人代(憲法公布);⑫米「華」相互防衛条約 SEATO創設⑨ 54
55 ⑦毛沢東「農業協同化の問題について」 バンドン会議④;ワルシャワ条約⑤ 55
56 ④毛沢東「十大関係論」;⑤百花斉放・百家争鳴;⑨中共八全大会
[ソ]スターリン批判②;ハンガリー事件⑩;日本,国連加盟⑫ 56
57 ⑥反右派闘争;⑪毛沢東,「東風は西風を圧倒する」
EEC発足③;[ソ]スプートニク1号⑩ 57
58 ⑤社会主義建設の総路線;⑧**人民公社化 9**;⑧金門・馬祖砲撃 イラク革命⑦ 58
59 ③チベット動乱;⑦廬山会議;⑧中印国境衝突 キューバ革命①;米ソ首脳会談⑨ 59
60 ⑦[ソ]在中国技術者の引き揚げ通告;⑪人民公社の三級所有制 OECD設立⑫ 60
61 ①調整政策;①呉晗「海瑞の免官」 [韓]軍事クーデター⑤ 61
62 ⑨毛沢東,階級闘争継続論;⑩中印国境紛争
[米]ベトナム戦争介入②;キューバ危機⑩ 62

63 ②「雷鋒に学べ」運動;⑤農村社会主義教育運動;⑥中ソ公開論争
アフリカ統一機構成立⑤;[米]ケネディー暗殺⑪ 63
64 ⑧毛沢東,内陸部建設方針;⑩初の核実験
[米]トンキン湾事件⑧;[ソ]フルシチョフ失脚⑩ 64
65 ⑨林彪,人民戦争勝利万歳;⑪姚文元,文匯報論文
[米]北爆開始②;日韓基本条約⑥;インドネシア政変⑨ 65
66 ⑤五一六通知;⑧**プロレタリア文化大革命決定 8** [仏]NATO脱退③ 66
67 ②上海コミューン;⑦武漢事件 EC成立⑦;ASEAN結成⑧ 67
68 ⑨革命委員会成立;⑩劉少奇除名決議 [米]北爆停止③;チェコ事件⑧ 68
69 ③中ソ国境紛争;⑨中共九全大会;⑪劉少奇獄死 [米]アポロ月面着陸⑦ 69
70 ④初の人口衛星;⑧陳伯達批判 [米]カンボジア侵攻④ 70
71 ⑨林彪事件;⑩国連,中国代表権決議 [米]金・ドル交換停止⑧ 71
72 ②ニクソン訪中;⑨**田中首相訪中 7** 沖縄返還⑤;[米]ウォーターゲート事件⑥ 72
73 ④鄧小平復活;⑧中共十全大会(四人組台頭) ベトナム和平協定①;石油危機⑩ 73
74 ①批林批孔運動;④鄧小平「三つの世界」論;⑪李一哲大字報
75 ①75年憲法;④[台]蔣介石死去 ベトナム戦争終結④ 75
76 ①周恩来死去;④天安門事件;⑨毛沢東死去;⑩四人組逮捕 南北ベトナム統一⑦ 76
77 ⑦鄧小平復活;⑧中共十一全大会 ベトナム・カンボジア紛争⑫ 77
78 ②78年憲法;⑤真理基準論争;⑫**中共十一期三中全会 6**
ベトナム華僑大量帰国⑤;日中平和友好条約⑧ 78
79 ②ベトナム侵攻;③魏京生逮捕;⑫民主の壁閉鎖
中米国交①;イラン・イスラム革命①;アフガニスタン政変⑫ 79
80 ②劉少奇名誉回復;⑧深圳などに経済特区設置 エジプト・イスラエル国交① 80
81 ①林彪・四人組裁判;⑥**歴史決議 5** サダト暗殺⑩ 81
82 ④**82年憲法 4**;⑨中共十二全大会 [ソ]タシケント提案③;フォークランド紛争④ 82
83 ⑩中共,整党決議 ワレサ,ノーベル平和賞⑩ 83
84 ⑤国営企業改革決定;⑥鄧小平,「一国両制」提起;⑫**中英香港共同声明 3**
85 ⑥人民公社解体,郷政府樹立 プラザ合意⑨ 85
86 ④義務教育法;⑨[台]民進党結成;⑫合肥で学生運動
フィリピン革命②;[ソ]チェルノブイリ事故④;[ソ]ウラジオストック提案⑦ 86
87 ①胡耀邦辞任;⑦[台]戒厳令解除;⑩中共十三全大会 [ソ]ペレストロイカ政策⑤ 87
88 ①[台]蔣経国総統死去 [ソ]アフガニスタンから撤退⑤ 88
89 ④胡耀邦死去;⑥**天安門事件 2**;⑥江沢民総書記
ダライ・ラマ,ノーベル平和賞⑩;「ベルリンの壁」崩壊⑪;マルタ会議⑫ 89
90 ⑦中国・インドネシア国交再開 イラク軍,クウェート侵攻⑧;東西ドイツ統一⑩ 90
91 ④[台]「動員勘乱時期」終結 アパルトヘイト廃止⑥;ソ連解体⑫ 91
92 ①**鄧小平,南方視察 1**;⑩中共十四全大会(「社会主義市場経済」)
マーストリヒト条約②;ユーゴスラビア解体③;[日]天皇,中国訪問⑩ 92
93 ⑩中越国境協定;⑪中ロ軍事協定 EC統合市場発足①;[日]五五年体制崩壊⑦ 93
94 ①外貨兌換券発行停止 [朝]金日成死去⑦ 94
95 ⑨香港立法評議会選挙 WTO 発足①;[日]阪神大地震① 95
96 ③台湾付近で軍事演習;③[台]総統直接選挙
97 ②鄧小平死去;⑦香港返還;⑨中共十五全大会 アムステルダム条約調印⑩ 97
98 ③朱鎔基,総理就任;⑩国際人権B規約署名;⑪村民委員会組織法
①南アフリカと国交樹立;[米]中台関係で「三つのノー」⑥ 98
99 ⑨[台]中部大地震;⑫マカオ返還 欧州単一通貨発足① 99

索　引

文献案内

1『中国共産党文献資料庫』／『北京週報』／『岩波現代中国事典』／**2**『人民日報』／『チャイナ・クライシス重要文献』／**3**『原典中国現代史』／『新華月報』／『中国革命史檔案文献光盤庫』／**5**『解放軍報』／『紅旗』／**6**『中国共産党最新資料集』／**7**『原典中国現代史』第８巻（日中関係）／『日中関係基本資料集』／**8**『毛沢東語録』／「文化大革命」に関する邦文の資料集／**9**『建国以来重要文献選編』／『中国大躍進政策の展開』／**10**『新中国資料集成』／**12**『中華民国重要資料初編―対日抗戦時期』／『中華民国史檔案文献光盤庫』／『多媒体光盤・毛沢東』／**13**『中国文化』／『解放』／『中国共産党史資料集』／『毛沢東選集』と毛沢東の著作／**15**『中共中央文件選集』／『資料集成・中国共産党史』／**16**『革命文献』／**17**『孫中山全集』／**18**／『原典中国近代思想史』／**19**『中国近代史資料叢刊』／『ドキュメンタリー中国近代史』／**20**『孫文選集』

事項解説

1 鄧小平／**2** 胡耀邦／**3** 香港／**4**「人剥削人的制度」／憲法改正の内容／**5** 歴史決議／**6** 唯物史観の「公式」／**7** カイロ宣言（全文）／日中平和友好条約（抜）／**8**「文化大革命」の３段階／**9** 中国の社会主義化／全人民所有制と集団所有制／共産主義の２段階論／**10** 新華通信社／**11**「中華民族」の解放／**12** 蔣介石の挫折／**13** 中国革命史に関する通説／今日の毛沢東評価／**15**「瑶」と「猺」／コミンテルン／**16** 国民党と「五院政府」の関係／**17** 政治体制としての「訓政」システム／**18** その後の陳独秀／**20** 三民主義

参　考

5『辞海・歴史分冊』の「毛沢東」叙述／**12**「蔣介石」についての２つの言説／**13**『毛沢東選集』における改訂／**19** 版本の問題

参照文献

前文

天児慧ほか編『岩波現代中国事典』岩波書店1998　**4,10,17,20**
池田誠ほか『図説中国近現代史（新版）』法律文化社1993　**6,19**
今井駿ほか『中国現代史』山川出版社1984　**5**
上原一慶編『現代中国の変革』世界思想社1994　**11,13,14,15**
田畑光永『中国を知る』岩波ジュニア新書1990　**7**

西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』研文出版1991　**16**
姫田光義ほか『中国20世紀史』東京大学出版会1993　**8,9**
毛里和子『現代中国を読む』山川出版社1999　**1,2**
楊奎松『失去的機会？』広西師範大学出版社1992　**12**
六四中国近現代研究者有志連絡会編『中国一民主と自由の軌跡』青木書店1989　**18**
若林正丈ほか編『原典中国現代史・第7巻』岩波書店1995　**3**

語釈

愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典・増訂第二版』大修館書店1989　**1, 2, 18, 19, 20**
天児慧ほか編『岩波現代中国事典』岩波書店1998　**4, 7, 10, 15**
安藤正士ほか編『原典中国現代史・8日中関係』岩波書店1994　**7**
『漢語大詞典・光盤1.0版』商務印書館香港分公司1998　**13, 18**
京大東洋史辞典編纂会編『新編東洋史辞典』東京創元社1983　**20**
香坂順一編著『現代中国語辞典』光生館1982　**1**
辞海編輯委員会編『辞海・歴史分冊(中国現代史)』上海辞書出版社1984　**4,15**
『新華字典・1979年修訂重排本』商務印書館1983　**13,14,20**
西北師範学院中文系編『漢語成語詞典・修訂本』上海教育出版社1987　**18**
竹内実訳『毛沢東語録』角川文庫1971　**8**
第二檔案館編『中華民国史檔案文献光盤庫』1996　**16**
田中恭子『土地と革命』名古屋大学出版会1996　**5**
中華人民共和国経済大事記編選組編『中華人民共和国経済大事記』北京出版社1985　**6**
中国史学会編『中国近代史資料叢刊：辛亥革命・2』上海人民出版社1957　**20**
中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編『現代漢語詞典・修訂本』商務印書館1996　**13**
中山大学歴史系孫中山研究室ほか編『孫中山全集・5』中華書局1985　**16**
藤堂明保ほか編『最新中国情報辞典』小学館1985　**5,8**
唐亮「現代中国の政治権力闘争年表」『現代中国研究』第3号1998　**6**
北京大学法律系憲法教研室・資料室編『憲法資料選編・第2輯』北京大学出版社1982　**16**
毛里和子『現代中国を読む』山川出版社1999　**4**
諸橋轍次『大漢和辞典・修訂版』大修館書店1984-6　**15**
李谷城『中国大陸政治術語』中文大学出版社1992　**2**
※『角川世界史辞典』稿　**5,11**

訳文

安藤正士ほか編『原典中国現代史・8日中関係』岩波書店1994　**7**
石川忠雄『中国憲法史』慶応通信1952　**16**
伊地智善継ほか監修『孫文選集・3』社会思想社1989　**20**
太田勝洪ほか編『中国共産党最新資料集・上』勁草書房1985　**6**
『中国共産党の歴史についての決議』外文出版社1981　**5**
東方書店出版部編『中国プロレタリア大革命資料集成・1』東方書店1970　**8**
西順蔵編『原典中国近代思想史・4』岩波書店1977　**18**
日本国際問題研究所中国部会編『新中国資料集成・1』日本国際問題研究所1963　**12**
日本国際問題研究所中国部会編『新中国資料集成・2』日本国際問題研究所1964　**11**
日本国際問題研究所中国部会編『新中国資料集成・3』日本国際問題研究所1969　**10**
日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集・9』勁草書房1974　**14**
日本国際問題研究所中国部会編『中国共産党史資料集・10』勁草書房1974　**13**
日本国際問題研究所中国部会編『中国大躍進政策の展開・上』日本国際問題研究所1973　**9**

波多野乾一編『資料集成：中国共産党史・5』時事通信社1961　**15**
波多野乾一『中国国民党史』大東出版社1943　**17**
樋口陽一ほか編『解説・世界憲法集・第3版』三省堂1994　**4**
『北京週報』　**1,3**
矢吹晋編訳『チャイナ・クライシス重要文献』1989　**2**
横山英編訳『ドキュメンタリー中国近代史』亜紀書房1973　**19**

解説

『朝日新聞』1999.11.6　**5**
天児慧ほか編『岩波現代中国事典』岩波書店1998　**1,2,3,4,5,8,10,15,20**
安藤正士ほか編『原典中国現代史・8日中関係』岩波書店1994　**7**
池田誠ほか『図説中国近現代史（新版）』法律文化社1993　**8,9**
上原一慶編『現代中国の変革』世界思想社1994　**9,11,12,13**
梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社1995　**15**
岡部達味ほか編『原典中国現代史・2政治下』岩波書店1995　**5**
金子肇「上海資本家階級と国民党統治」『史学研究』第176号1987　**16**
京大東洋史辞典編纂会編『新編東洋史辞典』東京創元社1983　**3**
辞海編輯委員会編『辞海・歴史分冊（中国現代史）』上海辞書出版社1980　**5**
辞海編輯委員会編『辞海・歴史分冊（中国現代史）』上海辞書出版社1984　**5**
「人民日報」ホームページ（http://www.peopledaily.com.cn）　**13**
第二檔案館編『中華民国史檔案文献光盤庫』1996　**19**
「中華民国総統府」ホームページ（http://www.oop.gov.tw）　**12**
中共中央文献研究室編撰『多媒体光盤・毛沢東』中央文献出版社1998　**12**
西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』研文出版1991　**17**
野村浩一ほか編『講座現代中国・別巻2現代中国研究案内』岩波書店1990　**8**
マルクス（武田隆夫ほか訳）『経済学批判』岩波文庫1956　**6**
三菱総合研究所編『チャイナ・クライシス WHO'S WHO』蒼蒼社1989　**2**
『毛沢東選集・第2版』人民出版社1991　**13**
山田辰雄編『近代中国人名辞典』霞山会1995　**18**
山根幸夫編『中国史研究入門・下』山川出版社1983　**13**
廖蓋隆主編『中国共産党史大辞典・新民主主義革命時期』中共中央党校出版社1991　**13**
和田春樹『歴史としての社会主義』岩波新書1992　**9**

あとがき

本書は，本学2年次の専攻語科目「中国語」の教材として配布した資料を整理したものである。同時にそれは，第1年次の中国語学習を基盤とし，3〜4年次における中国地域研究とりわけ中国近現代政治史・現代中国政治研究を架橋するような授業とはどのようなものであるべきか，という問いに対するひとつの私案でもある。

授業は原則として1時限1課とした。受講者には胡士雲先生に吹き込んでいただいた課文のテープを配布し，それを繰り返し聞くこと，課文をピンインに直すこと，ピンインを漢字に直すことを求め，毎回，開始時に復習として「小テスト」(255頁)を実施した。

開講時に配布したのは課文とそのピンインおよび訳文からなる「試行版ver.3.0」で，授業の進行に並行して，前文と語釈，解説の各部分を補っていった。20の課文のうち7つが『人民日報』からのものであるのは，そのデータベースを活用したからであり，それ以外の課文の多くはスキャナーとOCR（清華OCRライト)を用いて処理した。また課文にはNiHao Win添付の「NG文鼎中楷」「NG文鼎中楷繁」を，ピンインはNiHao Winの「ピン音表示・出力」を，語釈は「日中・中日辞書引き System,Ver.2」をそれぞれ用いた*。

* 「NG文鼎中楷」「NG文鼎中楷繁」で作成した文書（MS-WORD2000を使用）で「日中・中日辞書引き System」を使用することができる。「中日/日中統合辞典（国際版)」(小学館 1998）はテキストからのジャンプ機能がなく，またコピー&ペーストの機能も限定されているため，本書の版下作成に用いなかった。一方，「日中・中日辞書引き System,Ver.2」について言えば，複数の発音を有する漢字の検索操作の面で改良の余地があるように感じられた。

NiHao Winの「ピン音表示・出力」は課文のピンイン表記を作成する上で非常に便利なツールであるが，少なからずの補正を要することも事実

である。実際に作業を始めると，分かち書きや大文字表記など簡単ではないことを痛感した*。補正作業に多くの時間を費やしたものの，依然として多くの問題点があると思われる。

*山崎直樹先生から「漢語拼音正詞法基本規則」（『普通話水平測試大綱・修訂本』吉林人民出版社1994年）の教示を受け，「一」と「不」の変調以外は基本的にこれに拠ることにした。また荒岡啓子氏からも貴重なアドバイスをいただいた。

前文，課文，語釈（「日中・中日辞書引き System 」以外の補足部分），訳文，解説の各部分に典拠を掲げた。これは研究を具体化するための参考資料の紹介を意図してのものである。

教えることは学ぶことだというが，授業をしつつ本書を編む過程で実に多くのことを学んだ。真摯な態度で取り組んでくれた受講生諸君に感謝したい。

田　中　　仁

2000年2月27日

著者紹介

田　中　仁（たなかひとし）

専　門：中国近代政治史

略　歴：1954年 奈良県に生まれる。

1984年 広島大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程後期単位取得退学。

現　　在 大阪外国語大学助教授（アジアⅠ講座）

著　作：「1930年代なかばの西安と中国共産党―中国政治における“地方実力派”の位置づけに関する一考察」（『現代中国研究』第5号、1999年）；「中国共産党の組織再編をめぐる一考察（1934-1938）―政党・軍隊と“国家”」（『アジア研究』第44巻第4号、1999年）；『王明著作目録』（汲古書院、1996年）；「中国革命の歴史的再検討」（上原一慶編『現代中国の変革―社会主義システムの形成と変容』世界思想社、1994年）；「従“一二九”到“八一三”時期的上海地下党」（張曉峰訳、『中共党史資料』第45輯、1993年）；「路線転換期における中国共産党の根拠地構想」（横山英・曽田三郎編『中国の近代化と政治的統合』溪水社、1992年）など。

世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ
中国語中級読本－20世紀の中国政治20講－

2000年３月31日発行

著　者　田　中　　仁

発行者　〒562-8558 箕面市粟生間谷東８丁目１番１号
大阪外国語大学
「世界を学ぶ　語学シリーズ」プロジェクト
（代表　橋本　勝）

印刷所　〒531-0072 大阪市北区豊崎７－７－７－101
㈱アイジイ　TEL 06-6371-0321

世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ

橋本　勝	『日本語・モンゴル語会話集』1994年
福原信義	『アラビア語会話入門』1994年
早稲田みか	『ハンガリー語の音韻と形態入門』1994年
	＊　＊　＊　＊　＊
S. N. Ikeda et al.	Português Formal e Informal 1995年
伊藤太吾	『ロマンス語比較会話』1995年
清水育男	『現代スウェーデン語発音入門』1995年
	＊　＊　＊　＊　＊
橋本　勝 E. プレブジャブ	『モンゴル文語入門』1996年
林田理恵 上原順一	『ロシア語中級教程』1996年
古川　裕	『ヒアリング・チャイナナウ』1996年
森村　書	『インドネシア語』1996年
	＊　＊　＊　＊　＊
A. オラボデ 小森淳子	『ヨルバ語入門』1997年
張　淑儀 上神忠彦	『広東語会話中級』1997年
上神忠彦 張　淑儀	『話して学ぶ広東語中級』1997年
	＊　＊　＊　＊　＊
伊藤太吾	『超特急ルーマニア語』1998年
高階美行	『現代標準アラビア語入門』1998年
	＊　＊　＊　＊　＊
A. オラボデ 小森淳子	『ヨルバ語入門－会話・読本』1999年
勝田　茂	『オスマン語入門』1999年
森　茂男	『ペルシア語中級文法』1999年
	＊　＊　＊　＊　＊
田中　仁	『中国語中級読本－20世紀の中国政治20講－』2000年
松村耕光	『ウルドゥー語基本文法』2000年